

1988年度

農業動向에 關한 年次報告書

寄贈

農林水産部
一九八九年
十二月
九日
寄贈

農林水産部

目 次

第 1 部 農業部門

第 1 編 1987年度 農業動向	1
第 1 章 國內外 經濟動向	3
第 1 節 海外經濟動向	3
第 2 節 國內經濟動向	9
第 2 章 農村經濟	15
第 1 節 農業構造	15
第 2 節 農家經濟	21
第 3 節 農村物價	32
第 4 節 農業投資	37
第 3 章 農畜產物 生產	39
第 1 節 食糧作物	39
第 2 節 園藝作物	46
第 3 節 特用作物과 蠶業	49
第 4 節 畜 產 物	51
第 4 章 農業生產基盤造成과 營農支援	55
第 1 節 農業生產基盤의 擴充	55
第 2 節 種子 및 生産資材의 供給	59
第 3 節 營農資金 支援	72

第5章 農畜產物 需給 및 流通改善	74
第1節 農畜產物 需給	74
第2節 農畜產物 價格安定	85
第3節 農水產物 流通改善	94
第4節 農林水產物 輸出入	99
第6章 農漁村專門人力 및 尖端技術 開發	103
第1節 農漁民後繼者 育成	103
第2節 尖端技術 開發	104
第3節 農業技術 開發 및 指導	105
第7章 農漁村所得源 擴充	114
第1節 複合營農事業	114
第2節 農工地區 造成	115
第3節 副業團地 造成과 觀光農業 開發	116
第4節 農漁村 所得源道路 建設	118
第8章 農漁村의 活性化를 위한 支援	119
第1節 農漁村綜合對策	119
第2節 農漁家 負債輕減對策	123
第2編 1988年度 農業施策	129
第1章 農業政策의 基本方向	131
第1節 基本目標	131
第2節 重點施策	132
第3節 投資規模	136
第2章 쌀自給의 持續과 밭作物의 擴大 生産	139
第1節 쌀自給의 持續	139

第 2 節	밭작물의 選別的 擴大 生産	145
第 3 節	特用作物の 生産支援	149
第 3 章	農林水産業의 構造改善	153
第 1 節	營農規模 擴大	153
第 2 節	農業生産基盤의 擴大 造成	154
第 3 節	農漁村地域綜合開發	159
第 4 節	農業機械化 促進	160
第 5 節	農村人力 및 農業技術開發	163
第 6 節	資源의 合理的 利用	166
第 4 章	農水産物 價格安定과 流通改善	169
第 1 節	果菜類 需給 및 價格安定	169
第 2 節	畜産物需給 및 價格安定	172
第 3 節	政府糧穀管理制度의 發展	174
第 4 節	農水産物의 流通改善	178
第 5 章	對外協力強化와 輸出促進	181
第 1 節	通商協力 強化	181
第 2 節	農林水産物의 輸出促進	183
第 3 節	技術協力 強化	184
第 6 章	食品加工産業의 育成	185
第 1 節	分野別 食品加工産業 育成	185
第 2 節	加工食品 標準化 本格 推進	189
第 3 節	韓國食品開發研究院의 機能 活性化	190
第 7 章	農漁家所得倍加와 農漁村經濟 活性化 綜合對策 推進	191
第 1 節	農漁家 所得倍加	191
第 2 節	農漁村經濟 活性化 綜合對策 推進	197

第 8 章 農業災害 및 公害防止	201
第 1 節 農業災害保險制度 開發	201
第 2 節 公害防止對策	202
第 9 章 民主農政의 具現과 21世紀 農政 特別作業 推進	204
第 1 節 民主農政 具現	204
第 2 節 21世紀 農政 特別作業推進	209

第 2 部 林業部門

第 1 編 1987年度 林業動向	211
第 1 章 林業의 現況	213
第 1 節 山林現況	213
第 2 節 林木生產	215
第 3 節 林業投資	217
第 2 章 山地資源化 10年 計劃 樹立	219
第 1 節 山林現況	219
第 2 節 計劃의 主要內容	219
第 3 章 山林資源 增殖의 促進	222
第 1 節 造林 및 育林	222
第 2 節 山林保護 強化	225
第 4 章 林業基盤의 擴大	229
第 1 節 林業經營의 合理化	229
第 2 節 林業技能 人力의 養成	232

第5章 流通構造改善 및 木材安定供給	234
第1節 木材需給安定	234
第2節 林產物流通構造의 合理化	235
第3節 山村所得源開發斗 林產物輸出擴大	236
第6章 山林의 公益機能增進	239
第1節 山林의 國土保全機能提高	239
第2節 山林休養空間擴充 및 景觀造成	241
第7章 林業試驗研究促進斗 技術普及	243
第1節 林業試驗研究促進	243
第2節 林業技術指導普及擴大	245
第2編 1988年度 林業施策	247
第1章 林業政策의 基本方向	249
第1節 基本目標斗 重點施策	249
第2節 林業投融资規模	250
第2章 山林資源造成의 促進	252
第1節 林業振興促進地域設定開發	252
第2節 造林斗 育林	253
第3節 山林保護의 徹底	256
第3章 林業經營基盤의 擴充	260
第1節 林業經營의 活性化	260
第2節 林業技術普及強化	262
第3節 山地資源化推進을 위한 制度改善	263

第4章 山林所得 開發 및 流通構造 改善	264
第1節 山林所得의 提高	264
第2節 林產物 流通構造改善 및 輸出增大	266
第5章 山林의 公益機能 增進	268
第1節 山林의 國土保全機能 提高	268
第2節 保健休養空間 및 自然學習場 擴大	269
第6章 實用的 林業技術의 開發	271
第1節 實用的 林業研究	271
第2節 生産性 提高를 위한 林業技術 開發	272
附 錄	273

圖 表 目 次

第 1 部 農 業 部 門

〈圖 1-1-1〉	世界의 經濟成長率 推移	3
〈圖 1-2-1〉	'87年 年齡階層別 人口構成比	16
〈圖 1-2-2〉	農家交易條件	33
〈圖 1-3-1〉	食糧作物 生産推移	39
〈圖 1-3-2〉	豆類生産量 推移	44
〈表 1-1-1〉	先進國의 失業率	4
〈表 1-1-2〉	消費者物價 上昇率	5
〈表 1-1-3〉	交易伸張率	6
〈表 1-1-4〉	구분別 經常收支	7
〈表 1-1-5〉	世界穀物 需給現況	8
〈表 1-1-6〉	國際穀物 價格動向	8
〈表 1-1-7〉	GNP 成長推移	9
〈表 1-1-8〉	農林漁業의 成長率	10
〈表 1-1-9〉	物價上昇率	11
〈表 1-1-10〉	就業者數와 失業率	12
〈表 1-1-11〉	輸出 및 輸入	13
〈表 1-1-12〉	財化形態別 輸入	13
〈表 1-1-13〉	經常收支	14
〈表 1-2-1〉	農家人口	15
〈表 1-2-2〉	農林漁業 就業者	16
〈表 1-2-3〉	農耕地面積	17
〈表 1-2-4〉	農耕地規模別 農家分布	18
〈表 1-2-5〉	農耕地利用狀況	18

〈表 1-2-6〉	經濟活動別 附加價值 比重	19
〈表 1-2-7〉	農林漁業部門의 附加價值比重	20
〈表 1-2-8〉	農家戶當 生產要素 投入量	20
〈表 1-2-9〉	農家戶當 作物別 營農時間	21
〈表 1-2-10〉	農業生產性 指標	21
〈表 1-2-11〉	農家所得의 構成	22
〈表 1-2-12〉	'87年 耕地規模別 農家所得	22
〈表 1-2-13〉	'87年 地帶別 農家所得	23
〈表 1-2-14〉	農家戶當 農業所得의 構成	24
〈表 1-2-15〉	'87年 耕地規模別 農業所得	24
〈表 1-2-16〉	'87年 地帶別 農業所得	25
〈表 1-2-17〉	農家戶當 農外所得의 構成	25
〈表 1-2-18〉	'87年 耕地規模別 農外所得	26
〈表 1-2-19〉	'87年 地帶別 農外所得	26
〈表 1-2-20〉	農家戶當 農家資産의 構成內譯	27
〈表 1-2-21〉	農家戶當 可處分所得 및 家計費	28
〈表 1-2-22〉	農家戶當 家計費支出 內譯	28
〈表 1-2-23〉	借入處別 農家負債	29
〈表 1-2-24〉	用途別 農家負債	30
〈表 1-2-25〉	'87年 耕地規模別 農家負債	30
〈表 1-2-26〉	負債規模別 農家分布	31
〈表 1-2-27〉	農家負債와 所得 및 資産	31
〈表 1-2-28〉	農家의 文化用品 保有現況	32
〈表 1-2-29〉	農家販賣價格 指數	35
〈表 1-2-30〉	農家購入價格 指數	36
〈表 1-2-31〉	農業勞動賃金	36
〈表 1-2-32〉	農林水産資金 支援	37
〈表 1-2-33〉	農業部門豫算	38

〈表 1-3-1〉	쌀 生産量	40
〈表 1-3-2〉	統一系 및 一般系 主要品種	41
〈表 1-3-3〉	'87年 灌溉施設別 10a當 收量	42
〈表 1-3-4〉	'87年 移秧時期別 10a當 收量	42
〈表 1-3-5〉	耕地整理別 10a當 收量	42
〈表 1-3-6〉	麥類生産量	43
〈表 1-3-7〉	薯類 生産量	45
〈表 1-3-8〉	雜穀 生産量	46
〈表 1-3-9〉	菜蔬 生産量	47
〈表 1-3-10〉	果實 生産量	48
〈表 1-3-11〉	花卉生産 및 輸出入 動向	48
〈表 1-3-12〉	特用作物 生産量	49
〈表 1-3-13〉	蠶業現況	50
〈表 1-3-14〉	家畜 飼育頭數와 戶數	51
〈表 1-3-15〉	畜產物 生産量	52
〈表 1-3-16〉	草地造成 實績	53
〈表 1-3-17〉	飼料作物 栽培實績	53
〈表 1-3-18〉	屠畜場 整備現況	54
〈表 1-4-1〉	農業用水開發 10個年計劃 推進實績	56
〈表 1-4-2〉	農地(畝)의 整備現況	57
〈表 1-4-3〉	'87年 農業生産基盤 造成事業 實績	58
〈表 1-4-4〉	'87年 主要 農作物種子 生産量	60
〈表 1-4-5〉	主要種子의 普及種 供給量	61
〈表 1-4-6〉	種子基金 運用實績	61
〈表 1-4-7〉	年度別 農機械 供給 및 融資支援	62
〈表 1-4-8〉	主要農機械 保有台數 및 資金支援額	63
〈表 1-4-9〉	機械化營農團 育成現況	64
〈表 1-4-10〉	農業機械 修理施設 設置現況	64

〈表 1-4-11〉	農業機械 技術訓練實績	65
〈表 1-4-12〉	年度別 農業機械化促進基金 造成現況	66
〈表 1-4-13〉	肥料 消費量	67
〈表 1-4-14〉	'87年 肥料取扱 形態別 供給實績	68
〈表 1-4-15〉	肥料計定赤字 現況	68
〈表 1-4-16〉	肥料 3要素 均衡施肥 現況	69
〈表 1-4-17〉	地帶別 作物別 專用複合肥料	69
〈表 1-4-18〉	虫 病蟲害 發生 및 防除狀況	70
〈表 1-4-19〉	管農資金 支援實績	73
〈表 1-5-1〉	1人當 年間 糧穀消費量	74
〈表 1-5-2〉	'87糧穀年度의 全體糧穀 需給實績	75
〈表 1-5-3〉	'87糧穀年度 政府糧穀 需給實績	76
〈表 1-5-4〉	'87年度 糧穀管理基金 運用實績	77
〈表 1-5-5〉	糧穀管理基金 赤字現況	77
〈表 1-5-6〉	畜產物 消費量	78
〈表 1-5-7〉	1人當 年間 畜產物 消費量	79
〈表 1-5-8〉	'87年 畜產物 需給實績	79
〈表 1-5-9〉	飼料 供給量	80
〈表 1-5-10〉	配合飼料 用途別 生産量	80
〈表 1-5-11〉	飼料原料 導入實績	81
〈表 1-5-12〉	菜蔬類 需給實績	82
〈表 1-5-13〉	果實類 需給實績	83
〈表 1-5-14〉	참깨·땅콩需給實績	83
〈表 1-5-15〉	1人 1日當 營養供給量	84
〈表 1-5-16〉	物價上昇率	85
〈表 1-5-17〉	農産食品 都賣物價 上昇率	86
〈表 1-5-18〉	農産食品 消費者物價 上昇率	86
〈表 1-5-19〉	糧穀收買量 및 收買價格	87

〈表 1-5-20〉	畜產物 價格動向	89
〈表 1-5-21〉	配合飼料 價格動向	89
〈表 1-5-22〉	菜蔬類 價格安定事業 實績	90
〈表 1-5-23〉	果實類 價格安定事業 實績	91
〈表 1-5-24〉	農水產物價格安定基金 運用實績	92
〈表 1-5-25〉	畜產基金 造成現況	93
〈表 1-5-26〉	畜振基金 運用內譯	94
〈表 1-5-27〉	產地協同出荷班 組織現況	95
〈表 1-5-28〉	農產物 規格出荷 및 包裝改善事業	96
〈表 1-5-29〉	規格出荷 先度金 支援	97
〈表 1-5-30〉	流通從事者 教育人員	98
〈表 1-5-31〉	KS規格管理 및 表示許可品目	99
〈表 1-5-32〉	KS規格管理 및 表示許可品目	100
〈表 1-5-33〉	農林水產物 輸出實績	102
〈表 1-6- 1〉	農漁民後繼者 育成基金造成 및 育成人員	103
〈表 1-6- 2〉	分野別 農漁民後繼者 育成現況	104
〈表 1-6- 3〉	'87年 主穀作物 新品種 開發現況	106
〈表 1-6- 4〉	'87年 所得作目 新品種 開發內容	107
〈表 1-6- 5〉	'87年 飼料作物 新品種 育成內容	107
〈表 1-6- 6〉	'87年 農機械 開發現況	108
〈表 1-6- 7〉	低飛散藥劑의 生産費 및 防除費用	108
〈表 1-6- 8〉	'87年 市 示範圃 設置數 및 收量	110
〈表 1-6- 9〉	'87年 所得作目 示範圃의 收量比較	111
〈表 1-7- 1〉	複合營農事業 推進實績	114
〈表 1-7- 2〉	農工地區 指定現況	116
〈表 1-7- 3〉	農漁村副業團地 育成現況	117
〈表 1-7- 4〉	觀光農業 開發事業 現況	117
〈表 1-7- 5〉	農漁村所得源道路 建設實績	118
〈表 1-8- 1〉	農漁村開發基金 運用現況	122

〈表 1-8- 2〉	私債代替資金 支援計劃	124
〈表 1-8- 3〉	私債代替資金 申請 及 配定	124
〈表 1-8- 4〉	私債代替資金 融資實績	124
〈表 1-8- 5〉	農林水產業者 信用保證基金 造成 及 運用	125
〈表 1-8- 6〉	中長期資金 低利代替支援	125
〈表 1-8- 7〉	農水產資金 延滯金利 引下內容	126
〈表 1-8- 8〉	'83~'84年 土入殖資金 負擔輕減 措置	127
〈表 1-8- 9〉	負擔輕減 效果推定	128
〈表 2-1- 1〉	'88年 農林水產資金 支援計劃	136
〈表 2-1- 2〉	農業部門 豫算規模	137
〈表 2-1- 3〉	農林水產部門 豫算比重	138
〈表 2-2- 1〉	쌀 自給度 及 1人當消費量	139
〈表 2-2- 2〉	쌀 生産計劃	140
〈表 2-2- 3〉	'88年 叫 種子 供給現況	140
〈表 2-2- 4〉	'88年 農協取扱 肥料 需給展望	143
〈表 2-2- 5〉	專用複合肥料現況	143
〈表 2-2- 6〉	豆類 生産計劃	147
〈表 2-2- 7〉	薯類 生産計劃	148
〈表 2-2- 8〉	雜穀 生産計劃	149
〈表 2-2- 9〉	油脂作物 生産計劃	150
〈表 2-2-10〉	蠶業振興 事業計劃	151
〈表 2-2-11〉	花卉生産基盤 擴充計劃	152
〈表 2-3- 1〉	排水改善事業 現況	157
〈表 2-3- 2〉	大單位農業 綜合開發事業	158
〈表 2-3- 3〉	農漁村地域 綜合開發事業計劃 樹立 推進計劃	159
〈表 2-3- 4〉	'88年 農機械 供給 計劃	160
〈表 2-3- 5〉	機械化營農團 育成計劃	161
〈表 2-3- 6〉	事後奉仕施設 設置計劃	162
〈表 2-3- 7〉	農漁民後繼者育成基金 造成 及 育成人員	164

〈表 2-3-8〉	農漁民後繼者育成基金 造成 內譯	164
〈表 2-3-9〉	草地造成 適地の 判定基準	166
〈表 2-3-10〉	飼料作物 栽培現況	167
〈表 2-4-1〉	菜蔬類 生産計劃	169
〈表 2-4-2〉	菜蔬類 價格安定事業計劃	170
〈表 2-4-3〉	果實類 生産計劃	171
〈表 2-4-4〉	果實類 價格安定事業計劃	172
〈表 2-4-5〉	牛乳 需給動向	174
〈表 2-4-6〉	'88糧穀年度 全體糧穀 需給計劃	175
〈表 2-6-1〉	果種別 加工實績	186
〈表 2-6-2〉	主要 肉加工品 生産動向	187
〈表 2-6-3〉	牛乳 處理 動向	187
〈表 2-6-4〉	食用油 消費動向	188
〈表 2-7-1〉	農工地區 造成現況	195
〈表 2-7-2〉	農漁村 副業團地 現況	196
〈表 2-7-3〉	觀光農業 開發事業 推進現況	196
〈表 2-7-4〉	營農漁資金 擴大計劃	198
〈表 2-7-5〉	農漁村 綜合對策の 負擔輕減效果	200
〈表 2-9-1〉	組合別 自立現況	205
〈表 2-9-2〉	輿論收斂 開催實績	208

第2部 林業部門

〈圖 1-1- 1〉	先進林業國의 ha當 林木蓄積	214
〈圖 1- 3- 1〉	山林病害蟲 發生推移	227
〈圖 1-5- 1〉	年度別 國產材 利用推移	235
〈圖 1-5- 2〉	林產物 輸出推移	237
〈圖 1-4- 1〉	年度別 國產材 利用推移	265
〈表 1-1- 1〉	所有別 山林面積 및 蓄積	213
〈表 1-1- 2〉	林相別 齡級別 山林面積	214
〈表 1-1- 3〉	國民總生産斗 林業生産	216
〈表 1-1- 4〉	林產物 生産推移	216
〈表 1-1- 5〉	林業部門 豫算	218
〈表 1-1- 6〉	林業融資 現況	218
〈表 1-3- 1〉	造林實績	223
〈表 1-3- 2〉	天然林 保育事業 實績	223
〈表 1-3- 3〉	育林事業 推進實績	224
〈表 1-3- 4〉	間伐促進團地 指定現況	224
〈表 1-3- 5〉	養苗 生産計劃	225
〈表 1-3- 6〉	原因別 산불 發生現況	226
〈表 1-3- 7〉	年度別 山林事故 發生現況	226
〈表 1-3- 8〉	年度別 山林病蟲害 防除實績	228
〈表 1-4- 1〉	林道施設實績	230
〈表 1-4- 2〉	私有林 協業體造成實績	231
〈表 1-4- 3〉	篤林家 現況	232
〈表 1-5- 1〉	木林 供給實績	234
〈表 1-5- 2〉	林產物 輸出實績	238
〈表 1-6- 1〉	砂防事業實績	239

〈表 1-6-2〉	砂防事業效果	240
〈表 1-6-3〉	年度別・樹種別 街路樹 植栽現況	241
〈表 1-7-1〉	林業 技術指導員 配置現況	245
〈表 2-1-1〉	山林部門 豫算比率	250
〈表 2-1-2〉	事業別 林業豫算	250
〈表 2-1-3〉	林業資金 支援計劃	251
〈表 2-2-1〉	林業振興 促進地域 指定現況	253
〈表 2-2-2〉	'88年度 春期 造林計劃 對實績	254
〈表 2-2-3〉	養苗 生產計劃	255
〈表 2-2-4〉	育林 事業計劃	256
〈表 2-2-5〉	氣象變化에 따른 산불 危險警報制	257
〈表 2-2-6〉	산불發生現況	258
〈表 2-2-7〉	山林病蟲害 防除計劃	258
〈表 2-2-8〉	野生鳥獸 棲息密度 推移	259
〈表 2-3-1〉	林道施設計劃	260
〈表 2-3-2〉	所有規模別 私有林野 現況	261
〈表 2-3-3〉	國有林 擴大計劃	262
〈表 2-3-4〉	林業 技術指導員 配置計劃	263
〈表 2-4-1〉	林材 需給計劃	266
〈表 2-4-2〉	林產物 輸出計劃	267
〈表 2-5-1〉	砂防事業計劃	268
〈表 2-5-2〉	山沙汰發生 豫報制	269

第1部 農業部門

第1編 1987年度 農業動向

여백

第1章 國內外經濟動向

第1節 海外經濟動向

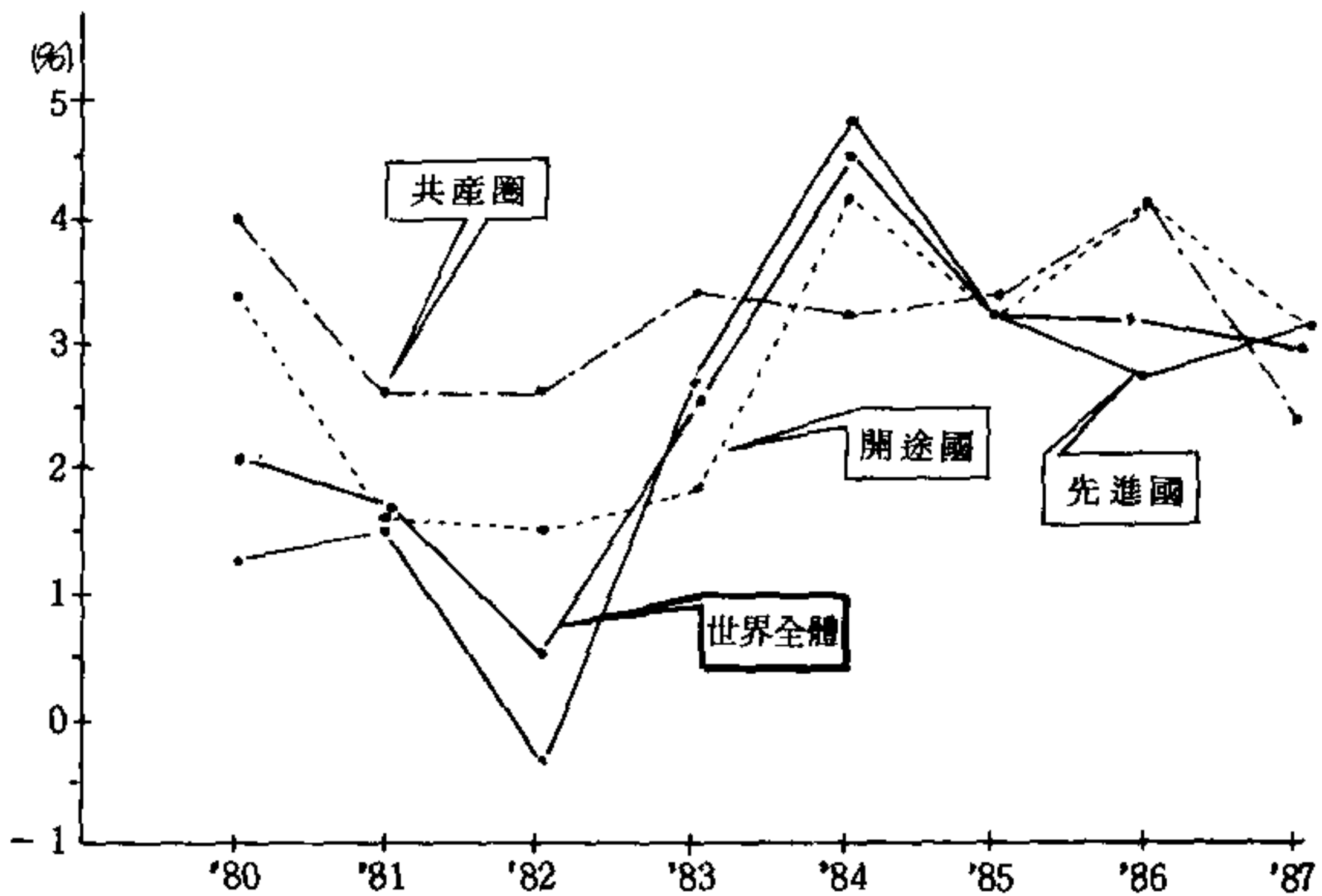
1. 經濟成長과 雇傭

'86年 이후 油價下落등에 따른 成長促進效果가 '87年 下半期부터 나타나기 시작하였으나 先進工業國들의 景氣回復이 지연되고, 일부 開發國의 景氣沈滯가 계속됨에 따라 '87年의 世界經濟成長率은 3.0%水準에 그친 것으로 나타났다.

先進國과 開發國은 모두 3.1% 정도의 成長을 보였으며, 이는 '86년에 比하

<圖 1-1-1>

世界的 經濟成長率 推移



資料: IMF

여先進國은 0.4%가 높은 수준이지만 開發國은 1.0% 程度가 낮은 수준이었다. 한편 소련과 東歐 共產圈은 '86年の 4.1%보다 훨씬 떨어지는 2.4%의 成長에 머물렀다.

世界經濟를 主導하고 있는 美國經濟는 年初의 景氣不振과 10月の 證市波動에도 불구하고 11月과 12月の 輸出擴大와 非農林漁業部門의 在庫增加에 힘입어 年平均 2.9%의 成長率을 나타냈다. 日本은 恩貨價値上昇에 따른 海外部門이 不振한 面도 있었으나 住宅建設이 活況을 보이는데다 公共投資 및 民間消費가 활발하여 그동안 不振했던 製造業部門의 生産 및 投資도 急速한 回復勢를 보여 4.2%의 높은 成長을 이룩할 수 있었다.

한편 開發國中에서 產油國은 石油價格의 不安定으로 인해 0.2%의 마이너스 成長을 나타냈으나 非產油國은 4.5%의 높은 成長을 보였으며 地域別로는 아시아地域이 6.6%, 아프리카地域 0.9%, 유럽 2.6%, 中東地域 - 1.0%의 成長率을 기록했다.

先進國의 雇傭事情은 지난해에 比하여 약간 改善되었으며, '86年の 失業率을 보면 8.0%에 머물고 있었는데 '87년에는 7.0%로 낮아졌다.

<表 1-1-1>

先進國의 失業率

(單位: %)

	'70~'79	'80	'85	'86	'87
全體	4.3	5.7	8.0	8.0	7.6
主要 7 個 國	4.4	5.5	7.4	7.4	7.0
美 國	6.2	7.2	7.2	7.0	6.2
카 나 다	6.7	7.4	10.5	9.6	8.9
日 本	1.7	2.0	2.6	2.8	2.8
프 랑 스	4.1	6.3	10.2	10.5	10.8
西 獨	2.4	3.3	8.2	7.9	7.9
이 태 리	6.5	7.6	10.3	11.2	11.7
英 國	4.0	5.3	11.3	11.4	10.4
7 個 國 以 外	3.4	6.7	11.6	11.3	11.0

資料: IMF

이중 先進7個國은 前年 失業率 7.4%에서 '87년에는 7.0%로 낮아졌고, 유럽諸國은 成長鈍化외에 實質賃金の 高水準 維持에 따른 勞動節約型 生産技術의 導入 擴大, 勞動市場의 硬直性 등으로 '86년의 失業率과 비슷한 수준에 머물렀다. 그러나 美國은 內需不振에도 불구하고 달러貨 弱勢에 의한 輸出 産業部門의 回復과 서비스部門의 就業增加에 크게 힘입어 '87년의 失業率은 6.2%로 낮아졌다.

2. 物 價

오랫동안 維持되어온 先進國의 物價安定勢가 지난해에는 原油 및 其他 原資材價格의 反騰으로 약간 上昇하는 현상을 보였으며 특히, 中南美國家를 비롯한 일부 開途國은 높은 인플레이션을 보이고 있으며 이러한 추세는 당분간 持續될 展望이다.

美國의 경우는 10月の 株價暴落 이후 景氣沈滯에 대한 警戒로 因하여 인플레이션 期待心理가 弱화되었지만 달러貨 弱勢에 의한 輸入物價 上昇, 雇傭事情 好轉에 따른 賃金 引上壓力 등이 物價上昇을 자극하였으며 西獨과 日本의 物價는 輸入物價의 下落效果가 內需擴大로 인한 物價上昇壓力을 일부 상쇄함으로써 비교적 安定된 物價水準을 維持하였다.

<表 1-1-2>

消費者物價 上昇率

(單位: %)

	'70~'79	'80	'85	'86	'87
先 進 國	7.9	11.8	4.1	2.3	3.0
主要 7 個 國	7.7	12.1	3.9	2.0	2.8
美 國	7.1	13.5	3.6	1.9	3.7
日 本	7.5	7.7	2.0	0.6	0.1
開 途 國	18.1	26.6	38.9	29.9	40.3
產 油 國	12.0	15.5	14.7	21.6	33.2
非 產 油 國	20.8	31.3	52.2	33.9	43.5

資料: IMF

3. 交易과 國際收支

'87年의 世界交易量은 '86年 對比 4.9%가 增加하였으며 輸出量에 있어서 先進國은 '86年에 비해 1.7%포인트가 높아진 4.3%가 增加하였으나 開途國은 '86年에 비해 2.3%포인트가 낮아진 7.3% 增加를 보였다.

또, 輸入量을 보면 先進國은 '87년에는 지난해에 비해 3.0%포인트가 줄어든 6.1% 增加에 그쳤고, 開途國은 '86년에 4.6%가 減少한바 있으나 '87년에는 2.8%가 增加하였으며 開途國중 非產油國은 輸入量 增加率이 7.3%에 이르렀으나 產油國은 오히려 줄어드는 현상을 보였다.

한편 '87년 先進國의 經常收支 赤字는 '86年の 193億달러보다 크게 惡化된 494億달러를 기록하였다. 美國은 貿易收支에서만 1,712億달러의 赤字를 나타냈고, 經常收支 赤字額은 1,607億달러에 달하고 있으나 日本은 '87年 經常收支 黑字가 '86年の 858億달러에서 867億달러로 늘어났다.

開途國은 아시아地域 國家들이 230億달러의 經常收支 黑字를 기록했음에도 불구하고 南美諸國, 아프리카, 中東등의 赤字로 인하여 44億달러의 黑字에 그쳤으며 소련과 東歐 共產圈의 國家들은 4億달러의 黑字를 보인 것으로 나타났다.

<表1 1-3>

交易伸張率(物量基準)

(單位: %)

		'70~'79	'80	'85	'86	'87
世界全體		6.2	1.2	2.9	4.6	4.9
輸出	先進國	6.6	3.9	4.6	2.6	4.3
	開途國	4.1	△4.1	0.8	9.6	7.3
	產油國	2.6	△13.3	△5.7	12.4	0.1
	非產油國	5.8	8.3	4.8	8.7	10.0
輸入	先進國	6.5	△1.6	4.6	9.0	6.1
	開途國	6.7	7.2	△1.1	△4.6	2.8
	產油國	13.7	13.1	△11.8	△20.5	△12.0
	非產油國	4.7	4.8	3.2	1.4	7.3

資料: IMF

<表 1-1-4>

그 룹 별 經 常 收 支

(單位：10億 달러)

	'80	'83	'85	'86	'87
先 進 國	△58.8	△18.5	△50.8	△19.3	△49.4
美 國	1.9	△46.3	△116.4	△141.4	△160.7
日 本	△10.7	20.8	49.2	85.8	86.7
開 途 國	30.6	△64.0	△24.3	△38.9	4.4
產 油 國	96.4	△19.6	3.0	△30.4	△1.0
非 產 油 國	△65.7	△44.4	△27.3	△8.5	5.4
共 產 圈	0.8	3.0	1.7	0.8	0.4

資料：IMF

4. 世界穀物需給 및 價格

'87/'88年度 世界穀物の 總生産量은 前年對比 5.3% 減少한 1,593.0百萬%으로 推定되고 있으며 이를 穀物別로 보면 米穀은 前年對比 4.4% 減少한 303.9百萬%, 小麥은 5.3% 減少한 502.3百萬%이며, 雜穀(옥수수, 보리, 귀리, 호밀, 수수 등)은 5.6% 減少한 786.9百萬%, 大豆는 前年度 對比 3.3% 增加한 101.3百萬%으로 推定되었다.

따라서 '87/'88年度の 生産量과 前年度の 移越量을 合한 穀物 總供給量은 前年對比 2.8% 減少한 2,053.1百萬%에 이를 것으로 推定되며, 이러한 世界 穀物 減産의 主要因은 그동안 過剩生産, 在庫累增으로 인한 農業不況을 解消키 위한 美國의 減産政策에 기인된 것으로 보인다.

穀物在庫를 줄이기 위한 主要 穀物輸出國들의 努力으로 世界總穀物 在庫量은 前年對比 14.7% 減少한 392.4百萬%으로 推定되고 있다.

한편 國際穀物價格은 '87年 上半期까지 10%內외의 下落勢를 보였으나, 下半期부터 生産量 및 在庫量이 減少함에 따라 上昇勢를 나타내 '88年 2月에는 前年對比 쌀은 37.6%, 小麥은 16.1%, 大豆는 15.5%, 옥수수는 17.6%의 急騰勢를 보였다.

<表 1-1-5>

世界穀物 需給現況

(單位：百萬噸)

		生産量	總供給量	交易量	消費量	在庫量
總 穀 物	1986/87	1,681.7	2,111.3	212.6	1,651.2	460.1
	1987/88	1,593.0	2,053.1	221.5	1,660.5	392.4
小 麥	1986/87	530.0	698.0	102.3	521.0	177.0
	1987/88	502.3	679.2	115.9	529.7	149.6
米 穀	1986/87	317.8	371.6	13.0	322.3	49.3
	1987/88	303.9	353.2	10.0	313.5	39.7
雜 穀	1986/87	833.9 (476.6)	1,041.7 (619.9)	97.3 (62.8)	807.8 (458.3)	233.6 (161.4)
	1987/88	786.9 (439.0)	1,020.7 (600.6)	95.6 (62.2)	817.4 (463.9)	203.4 (136.8)
大 豆	1986/87	98.1	121.3	28.5	101.5	20.2
	1987/88	101.3	121.5	29.7	104.2	16.9

註：總穀物은 小麥, 米穀(精米), 雜穀의 合計值이며, '87/'88年은 1988. 4月의 推定值임.
雜穀中 ()속은 옥수수임.

資料：USDA.

<表 1-1-6>

國際穀物 價格動向

		單 位	'80	'85	'86	'87	'88
쌀		\$/㎏	496.0	382.5	342.8	323.5	445.3
小 麥		\$/부셸	4.7	3.7	3.1	3.1	3.6
大 豆		\$/㎏	128.9	103.0	82.4	72.8	84.1
옥수수		\$/부셸	3.0	2.7	2.1	1.7	2.0

註：國際穀物價格은 美穀物市場의 年平均 價格이며, '88年 價格은 '88. 2月의 月平均價格임. (1M/T은 1,000이고, 밀 1M/T은 36.74부셸이며 옥수수는 39.37부셸임)

資料：IMF

第 2 節 國內 經濟動向

1. 經濟成長

우리나라經濟는 '86년에 이어 '87년에도 12%의 GNP成長을 이룩한 것으로 暫定推計되었으며 이러한 높은 成長을 가져오게 된것은 輸出 및 投資需要가 높은 增加勢를 지속하였고, 外債利子 支給이 減少한 데에 주로 기인한다.

'87년의 GNP規模는 經常價格으로 97兆 5,317億원(1,186億달러)이며, 이를 '80年 不變價格으로 환산하면 66兆3,196億원이었다. 이에 따라 1人當 GNP는 2,826달러(2,324千원)로서 '86년의 2,300달러(2,027千원)보다 526달러가 增加하였다.

生産活動別 成長을 보면, 製造業이 16.4%가 成長하는등 非農林漁業部門은 전반적으로 活況을 보였으나 農林漁業部門은 4.3%가 줄었다. 産業別로는 製造業을 중심으로 鑛工業分野가 '86년에 이어 '87년에도 15.7%가 成長함으로써 高度成長을 주도하였으며 建設 및 電氣·가스·水道事業分野도 民間建設과 産業生産活動의 好調로 電力需要가 增大됨에 따라 14.7의 成長을 이룩했다.

<표 1-1-7>

GNP 成長 推移

(單位: %)

	'75	'80	'85	'86	'87(P)
全體	6.8	△4.8	5.4	12.3	12.0
農 林 漁 業	4.2	△19.9	4.8	3.9	△4.3
非 農 林 漁 業	7.6	△1.4	5.5	13.8	14.6
鑛 工 業	12.3	△1.4	3.9	16.8	15.7
(製 造 業)	(12.0)	(△1.1)	(3.8)	(17.4)	(16.4)
建設 및 電氣· 가스·水道事業	11.1	1.3	8.2	9.7	14.7
서 비 스 業	7.6	2.8	7.5	11.8	12.0

註: '80年 不變價格 基準임.

資料: 韓國銀行.

또 서비스業分野중 金融, 保險, 不動產 및 서비스業은 金融業이 非通貨金融機關을 중심으로 金融去來가 擴大되고 證券市場의 好況이 지속됨에 따라 15.2%의 成長을 보였으며, 都小賣 및 飲食·宿泊業도 工產品과 輸出入 商品의 거래가 활발하고 飲食·宿泊業이 꾸준히 伸張됨에 따라 서비스業의 全般的 成長率은 12%에 달하였다.

한편 '87年 農林漁業部門의 成長率은 '86年の 3.9% 增加에서 '87년에는 '86年 對比 4.3%가 減少되었다. 이처럼 農林漁業部門이 減少된 이유는 이 部門의 70%이상을 차지하고 있는 栽培業의 生産額이 6.2%나 줄었기 때문이다. 農業分野중 畜產業은 돼지, 닭등의 飼育頭數의 增加로 前年對比 7.2% 成長하였으나 全般的으로는 水害로 인해 벼, 고추등의 生産量 減少로 4.6%가 減少하였으며 '86년에 12.6%의 높은 성장을 기록하였던 漁業分野도 김, 미역 등의 養殖이 '86년에 비해 16.6%나 줄어들어 遠洋漁獲의 신장에도 불구하고 全體的으로는 1.2%가 減少하였고, 또한 林業分野도 石材類生産 不振등으로 5.1%의 減少를 나타냈다.

<表 1-8> 農林漁業의 成長率 (單位: %)

	'75	'80	'85	'86	'87(P)
農 林 漁 業	4.2	△19.9	4.8	3.9	△4.3
農 業	5.3	△23.7	5.3	4.4	△4.6
栽培業	9.2	△25.5	3.4	4.1	△6.2
畜產業	△19.8	△5.8	23.8	6.5	7.2
農業서비스	6.4	△8.5	△1.1	7.5	△0.8
林 業	△3.4	17.0	△4.7	△17.5	△5.1
漁 業	△2.2	4.1	6.7	12.6	△1.2

註: '80年 不變價格 基準임.
資料: 韓國銀行

2. 物 價

'87年の 物價動向은 '86년에 比하여 都賣物價는 年平均 基準으로 0.5% 상

승에 그쳐 安定勢를 지속하였지만 消費者物價는 3.0%의 오름세를 나타내는 등 약간의 상승세를 나타냈다.

都賣物價가 0.5% 上昇에 그친 것은 一部 農産物과 非鐵金屬製品, 木材類 등이 많이 올랐음에도 불구하고, 國內 石油類價格과 産業用 電力料금이 큰 幅으로 引下되고 特別消費稅 引下와 一部 輸入原資材價格下落등에 기인하며 消費者物價는 菜蔬類, 鮮魚類, 果實類등 主要食料品費가 많이 오른데다 집費, 學校納入金 및 電鐵料金등 일부 서비스料金の 引上等으로 지난해 보다 多少 높은 3.0%의 上昇을 보였다.

輸出物價는 '86年 對比 年平均 基準으로 8.0%가 上昇하였는데 이는 대부분의 輸出商品이 元貨切上의 영향으로 全般的인 價格引上 壓力을 받았을 뿐만 아니라 輸入原資材 價格上昇에 기인하며, 또 弱勢通貨國들의 需要增大도 原因이 되었다.

輸入物價도 '86年の 下落勢에서 '87년에는 上昇勢로 反轉되어 年平均基準으로 10.9%의 오름세를 보였으며 이러한 輸入物價의 上昇原因은 國際原油價의 上昇으로 原油導入價格이 上昇하였고, 非鐵金屬과 原木등 主要 1次産品 및 石油化學製品이 主生産國들의 供給減少로 上昇하였으며, 皮革類, 農産物 및 纖維素材類가 海外需要增大로 인하여 오름세를 보였기 때문이다.

<表 1-1-9>

物 價 上 昇 率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87
都 賣 物 價	26.3	39.0	0.9	△1.5	0.5
消 費 者 物 價	25.2	28.7	2.5	2.8	3.0
輸 出 物 價	△1.1	4.6	△2.3	△0.4	8.3
輸 入 物 價	△4.0	27.5	△2.7	△6.7	10.9
農 家 販 賣 價 格	24.1	21.8	△0.6	0.3	4.9
農 家 購 入 價 格	23.7	24.7	△2.5	0.8	1.7
GNP디플레이터	24.6	25.3	4.1	2.7	3.7(P)

資料：經濟企劃院, 韓國銀行, 農協中央會

한편 '86년에 小幅으로 올랐던 農村物價는 '87년에 와서 農家販賣價格은 4.9%가 오르고, 農家購入價格도 1.7%가 上昇하는등 비교적 큰 幅으로 上昇하였다.

그리고 複合的 物價指數로 볼 수 있는 GNP디플레이터는 '86년의 2.7%보다 1.0%포인트가 높은 3.7%에 이른 것으로 暫定推計 되었다.

3. 雇 傭

'87년의 經濟活動人口는 '86年보다 4.7%가 增加한 16,873千명이었으며, 이 중 就業者는 지난해보다 5.5%가 늘어난 16,354千명 수준이었다. '87년의 雇傭事情은 3/4分期중 심각하였던 勞使紛糾에도 불구하고 景氣活況으로 勞動力의 供給보다 需要가 대폭 늘어났으며 특히 製造業分野에서 總就業者의 15.4%에 해당하는 59萬명이 늘어난데 힘입어 總就業者는 849千명이 增加하였으며 이로 인하여 失業者는 '86년에 비해 9萬여명이 줄어들었고 失業率도 3.1%로 낮아졌다.

한편 農林漁業部門의 就業者는 '86年보다 82千명이 적은 3,580千명으로 減少함에 따라 農林漁業部門의 就業者 比重도 '86년의 23.6%에서 21.9%로 낮아지게 되었다.

<表 1--1 10>

就業者數와 失業率

(單位：千名)

	'75	'80	'85	'86	'87
總 就 業 者	11,692	13,683	14,970	15,505	16,354
(農 林 漁 業)	(5,339)	(4,654)	(3,733)	(3,662)	(3,580)
(製 造 業)	(2,175)	(2,955)	(3,504)	(3,826)	(4,416)
失 業 率 (%)	4.1	5.2	4.0	3.8	3.1

資料：經濟企劃院

4. 交易과 國際收支

'87년의 總輸出額은 通關基準으로 47,281百萬달러로 '86년에 비해 36.2%가

增加하였으며 分期別로는 勞使紛糾가 많았던 3/4分期 輸出이 다소 低調하였던 것을 제외하면 年中 好況을 보였다.

輸出品目別로 보면, 機械, 電子製品을 중심으로 重化學工業製品 輸出이年間 38%가 增加하고, 輕工業製品 輸出도 36%정도 늘어나는등 모두 높은 增加勢를 나타냈으며, 地域別로는 全體 輸出의 약 39%를 점유하고 있는 美國市場에 대한 輸出增加率은 32%에 달하였고, 특히 日本과 EC地域의 輸出은 50%이상 늘어났다.

한편 '87年 總輸入額은 '86年보다 29.9%가 增加한 41,020百萬달러에 달함으로써 '86年の 輸入增加率 1.4%보다 크게 늘어났으며, 이를 品目別로 보면 全體 輸入의 50%이상을 차지하는 原資材 輸入이 31%정도의 增加를 보였고, 資本財 輸入도 29%가 늘어났다.

<表 1-1-11> 輸 出 및 輸 入 (單位: 百萬\$)

	'75	'80	'85	'86	'87	'87/'86(%)
輸 出 (A)	5,081	17,505	30,283	34,715	47,281	36.2
輸 入 (B)	7,274	22,292	31,136	31,584	41,020	29.9
(A - B)	△2,193	△4,787	△853	3,131	6,261	100.0

註: 通關基準 FOB 및 CIF價格임.
資料: 關稅廳

<表 1-1-12> 財 貨 形 態 別 輸 入 (單位: 百萬\$)

	'75	'80	'85	'86	'87
資 本 財	1,909	5,125	11,081	11,326	14,552
輸 出 用 原 資 材	1,452	3,799	6,824	8,220	11,193
內需用原料材 및 其他	2,642	7,735	7,642	8,665	11,545
原 油	1,271	5,633	5,589	3,373	3,730
計	7,274	22,292	31,136	31,584	41,020

註: 通關基準(1986年以後는 修理船舶 除外)
資料: 關稅廳

'87年の經常收支는 貿易收支의 大幅的인 黑字와 더불어 貿易外 收支도 '86年の 628百萬달러 赤字에서 977百萬달러의 黑字로 反轉되고, 移轉收支의 黑字도 12億달러에 달해 經常收支 黑字는 모두 9,854百萬달러에 이르게 되었다.

이같은 결과는 輸出의 지속적 好調로 貿易收支 黑字가 늘어나고, 貿易外 收支도 外債縮小에 따른 投資收益收支 赤字縮小와 같은 構造的 改善要因에 기인하는 바도 있었지만 '86아시안게임 및 '88올림픽과 관련하여 通信料收入 增加등으로 기타 서비스收支의 黑字幅이 이례적으로 확대되었으며 아울러 美달러貨의 弱勢에 따라 外國人 1人當 달러消費가 크게 늘어남으로써 旅行收支 黑字가 큰 폭으로 增加한데에 기인하는 바도 크다.

<表 1-1-13> 經 常 收 支 (單位: 百萬\$)

	'75	'80	'85	'86	'87
經 常 收 支	△1,887	△5,321	△887	4,617	9,854
貿易 收 支	△1,671	△4,384	△19	4,206	7,659
貿易外 收 支	△442	△1,386	△1,446	△628	977
移 轉 收 支	226	449	578	1,039	1,218

資料: 韓國銀行

第2章 農村經濟

第1節 農業構造

1. 農家人口

産業構造가 高度化되어감에 따라 農業에 종사하는 家口는 물론 人口도 減少하는 것은 일반적인 현상이라고 할 수 있다. '87年末 農家人口는 지난해 같은 기간보다 409千명이 줄어든 7,771千명으로서 總人口에서 차지하는 比率도 '86年の 19.7%에서 '87년에는 18.5%로 낮아지고 農家戶數도 '87年末에 1,871千戶로 '86年보다 35千戶가 줄어들었다.

한편, 年齡別 人口推移를 보면 靑壯年層의 減少現象이 현저하여 20~49세의 農家人口는 '86年보다 6.2%나 줄어든 반면 50세이상의 農家人口는 1.4%가 增加하는 현상을 나타내고 있으며 農家人口 가운데 女性人口의 比率도 '86年の 50.4%에서 '87년에는 50.7%로 높아졌다.

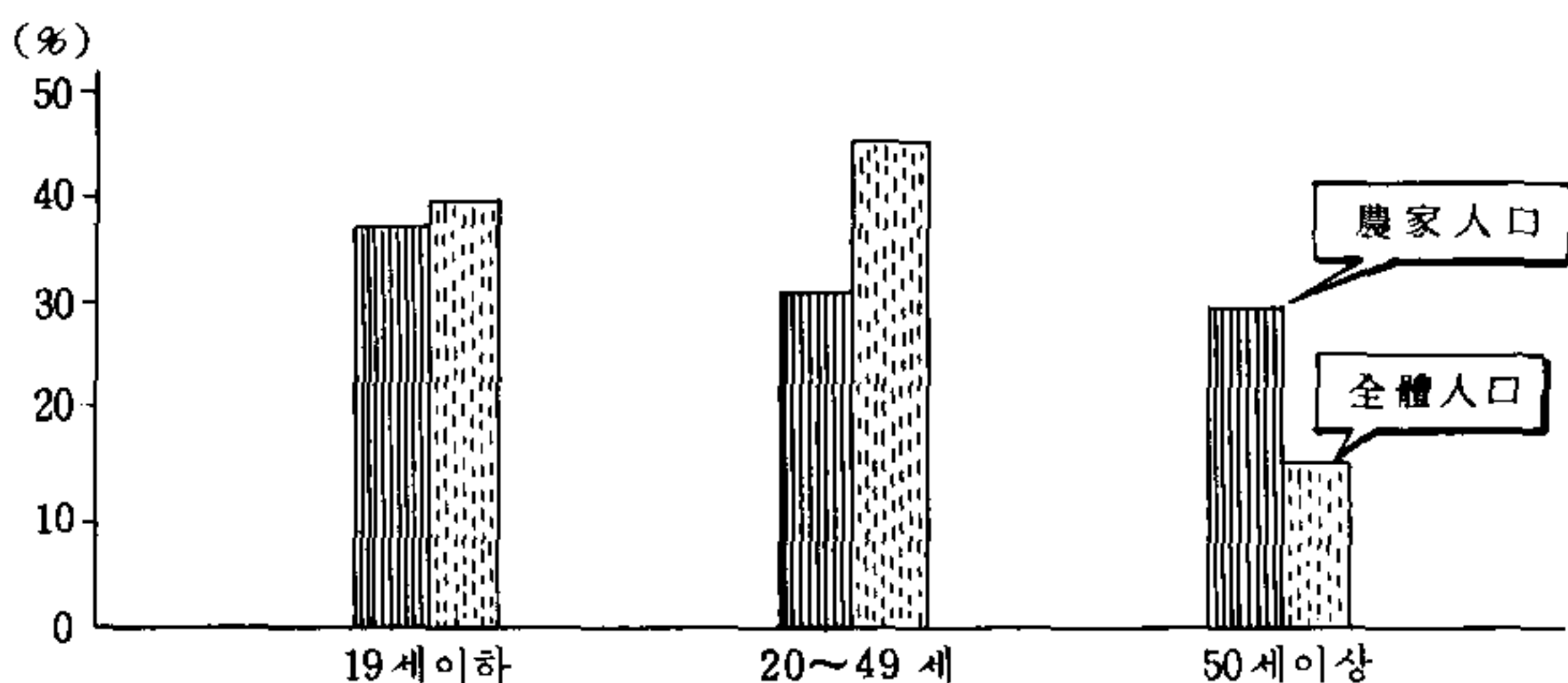
<表 1-2-1> 農 家 人 口

	單位	'75	'80	'86	'87	年間增減率(%)		
						'87/'86	'75~'87	
農 家 口	千戶	2,379	2,155	1,906	1,871	△1.8	△2.0	
農 家 人 口	千名	13,244	10,827	8,180	7,771	△5.0	△4.3	
(總人口中比重)	(%)	(37.5)	(29.4)	(19.7)	(18.5)	-	-	
(女性人口比重)	(%)	(49.8)	(50.0)	(50.4)	(50.7)	-	-	
戶當農家人口	名	5.57	5.02	4.29	4.15	△3.3	△2.4	
年 齡 別 農家人口	19세이하	千名	6,760	4,914	3,150	2,876	△8.7	△6.9
	20~49세	"	4,212	3,701	2,682	2,515	△6.2	△4.2
	50세이상	"	2,272	2,212	2,348	2,380	1.4	0.3

資料：農林水産部 農水産統計官室

人口의 年齡別 構成比率을 우리나라 全體人口와 農家人口를 비교해보면, 農家人口의 경우는 '87年末 기준으로 19세 이하가 37.0%, 20~49세가 32.4% 50세이상인 30.6%를 차지하고 있는데 比하여 우리나라 全體人口의 年齡別 構成比率은 각각 39.9%, 45.6%, 14.5%를 차지함으로써 全體人口에 比해 農家人口는 老齡人口比率이 월등이 높은 실정이다.

<圖 1-2-1> '87年 年齡階層別 人口構成比



우리나라 全體 就業者와 農林漁業就業者를 비교할때 農林漁業就業者數는 減少하고 있다. '87年の 總就業者는 '86年보다 849千名이 늘어났으나 農林漁業就業者는 82千名이 減少함으로써 그 構成比도 '86年の 23.6%에서 21.9%

<表 1-2-2> 農林漁業 就業者 (單位: 千名)

	'75	'80	'85	'86	'87
總 就 業 者(A)	11,692	13,683	14,970	15,505	16,354
農林漁業就業者(B)	5,339	4,654	3,733	3,662	3,580
(B/A, %)	(45.7)	(34.0)	(24.9)	(23.6)	(21.9)
50세이상(C)	1,423	1,499	1,488	1,537	1,628
(C/B, %)	(26.7)	(32.2)	(39.9)	(42.0)	(45.5)
女性 就 業 者(D)	2,253	2,039	1,619	1,621	1,607
(D/B, %)	(42.2)	(43.8)	(43.4)	(44.3)	(44.9)

資料: 經濟企劃院

로 낮아졌다. 또한 農林漁業就業者중 50세 以上 老齡層의 취업자는 '86年の 42.0%에서 '87년에는 45.5%로 增加하고 女性就業者 比重도 44.3%에서 44.9%로 늘어나는등 老齡化·婦女化 現象이 계속되고 있다.

2. 農耕地

'87年末의 耕地面積은 '86年보다 2千ha가 늘어난 2,143千ha이었으며 이중 밭은 지난해에 비하여 20千ha가 감소한 792千ha, 논은 22千ha가 늘어난 1,351千ha로 나타났다. 農地는 都市膨脹과 公共施設의 建設등이 늘어남에 따라 지난 10여년동안 年平均 약 9千ha씩 감소되어왔다. 그런데 '87년에 農耕地가 조금 증가된 것은 開墾地 및 干拓地 등을 포함, 農地의 全面的 再調査에 따라 標本調査地를 再選定한데에 기인하고 있다.

그러나 農家戶數의 減少에 따라 農家戶當 耕地面積은 '86年の 1.12ha에서 1.15ha로 增加하였다.

<表 1-2-3>

農 耕 地 面 積

(單位：千ha)

	'75	'80	'85	'86	'87
國 土 面 積	9,881	9,899	9,912	9,914	9,917
耕 地 面 積	2,240	2,196	2,144	2,141	2,143
논 面 積	1,277	1,307	1,325	1,329	1,351
밭 面 積	963	889	819	812	792
農家戶當面積(ha)	0.94	1.02	1.11	1.12	1.15

資料：農林水産部 農水産統計官室

우리나라農家の 97.9%를 차지하고 있는 耕種農家の 耕地規模別 農家分布를 보면 0.5ha미만의 農家が 27.9%, 0.5~1.0ha미만 農家が 34.6%로서 1.0ha미만 農家が 62.5%에 이르고 있는 반면 1.0ha이상 農家は 35.4%에 불과한 실정으로 이는 '75년에 1.0ha이상 農家が 32.2% 수준이었던것과 비교하면 우리農家の 耕地規模化가 크게 이루어지고 있지 않음을 보여주고 있다.

<表 1-2-4>

農耕地規模別 農家分布

(單位：千戶, (%))

	'75	'80	'85	'86	'87
耕種外農家	94 (4.0)	28 (1.3)	46 (2.4)	44 (2.3)	39 (2.1)
耕種農家	2,285 (96.0)	2,128 (98.7)	1,880 (97.6)	1,862 (97.7)	1,832 (97.9)
0.5ha미만	691 (29.0)	612 (28.4)	534 (27.7)	540 (28.3)	522 (27.9)
0.5~1.0	828 (34.8)	748 (34.7)	686 (35.6)	663 (34.8)	647 (34.6)
1.0~1.5	431 (18.1)	438 (20.4)	390 (20.3)	386 (20.3)	384 (20.5)
1.5~2.0	187 (7.9)	191 (8.8)	160 (8.3)	161 (8.4)	163 (8.7)
2.0~3.0	122 (4.7)	108 (5.0)	87 (4.5)	88 (4.6)	91 (4.9)
3.0ha이상	36 (1.5)	31 (1.4)	23 (1.2)	24 (1.3)	25 (1.3)
計	2,379(100.0)	2,155(100.0)	1,926(100.0)	1,906(100.0)	1,871(100.0)

資料：農林水産部 農水産統計官室

한편 '87年の 耕地利用面積은 2,598千ha로서 前年對比 27千ha가 증가하여 耕地利用率도 약간 높은 120.0%를 나타냈는데 內容別로는 食糧作物을 심은 農地가 많이 늘어난 반면 經濟作物 栽培地는 줄어들고, 특히 菜蔬 栽培地는 16.3%가 감소되었다.

<表 1-2-5>

農耕地利用狀況

(單位：千ha)

	'80	'82	'84	'85	'86	'87
耕地利用面積	2,765	2,678	2,707	2,592	2,571	2,598
食糧作物	1,982	1,907	1,917	1,780	1,707	1,775
(米 穀)	(1,233)	(1,188)	(1,231)	(1,237)	(1,236)	(1,262)
(麥 類)	(360)	(339)	(346)	(242)	(193)	(208)
(豆類·其他)	(389)	(380)	(340)	(301)	(278)	(305)
經濟作物	783	771	790	812	864	823
(菜 蔬)	(359)	(343)	(318)	(337)	(368)	(308)
(果 樹)	(99)	(101)	(107)	(109)	(112)	(114)
(其 他)	(325)	(327)	(365)	(366)	(384)	(401)
耕地面積	2,196	2,180	2,152	2,144	2,141	2,143
耕地利用率(%)	125.3	122.4	124.9	120.4	119.9	120.0
(논)	(188.8)	(115.8)	(119.7)	(114.9)	(113.0)	(112.9)
(밭)	(134.8)	(132.1)	(133.1)	(129.2)	(131.0)	(131.4)

資料：農林水産部 農水産統計官室

3. 農業部門 附加價值

'87年 農林漁業의 附加價值는 經常價格 基準으로 前年の 10兆 6,371億 원보다 6.8%가 增加한 11兆 3,655億 원으로 暫定推計되었으나 農林漁業과 非農林漁業部門과의 成長隔差가 '86年度의 8.4%에서 '87年度에는 16.3%로 확대됨에 따라 農林漁業이 國民總生産에서 차지하는 比重은 '86年の 12.7%에서 '87년에는 11.7%로 낮아졌으며 農林漁業중 農業의 比重은 '86年の 10.3%에서 '87년에는 9.5%로 낮아졌다.

<表 1-2-6>

經濟活動別 附加價值 比重

(單位: %)

	'75	'80	'85	'86	'87(暫定)
國民總生産 (經常, 10億 원)	10,065	36,672	72,850	83,976	97,532
農 林 漁 業 (農 業)	24.9 (21.8)	15.1 (12.7)	13.9 (11.6)	12.7 (10.3)	11.7 (9.5)
鑛 工 業	28.0	32.0	30.7	32.3	32.2
建設및電氣·가스· 水 道 事 業	6.1	10.7	11.7	11.3	11.7
서 비 스 業	42.6	45.6	47.3	47.0	46.8

資料: 農林水産部 農水産統計官室

農林漁業 附加價值에서 農業이 차지하는 比重은 '86年 81.4%에서 '87년에는 81.2%로 다소 낮아졌으며 農業中에서는 栽培業이 農林漁業 附加價值의 70.8%를 차지하였고, 林業과 漁業이 차지하는 比重은 각각 5.1%와 13.7%를 차지했다.

農林漁業 附加價值 比重의 구체적 變動內容을 보면, 農業中 栽培業은 '86年の 69.8%보다 1.0%가 늘어났으나 畜産業과 農業서비스業은 각각 0.8%, 0.1%가 줄어들고, 林業은 0.5%가 감소된 반면 漁業의 0.7%가 늘어났다.

<表 1-2-7>

農林漁業部門의 附加價値 比重

(經常價格基準)

	'75	'80	'83	'84	'85	'86	'87(暫定)
農 林 漁 業	100.0%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
農 業	87.5	84.4	81.3	83.1	81.4	81.4	81.2
栽 培 業	80.1	74.6	65.3	71.6	69.8	69.6	70.8
畜 産 業	6.2	8.1	14.0	9.7	9.7	9.7	8.5
서 비 스 業	1.1	1.7	2.0	1.8	1.9	1.9	1.8
林 業	5.1	6.3	7.7	6.1	5.6	5.6	5.1
漁 業	7.4	9.3	11.0	10.8	13.0	13.0	13.7

資料：韓國銀行

4. 農業生産性

'87년에 農家戶當 營農에 投入된 主要要素를 보면, 勞動時間은 農業機械化가 進展됨에 따라 '86年보다 123時間이 적은 1,777時間이었으며 상대적으로 農業生産活動에 投入된 農家戶當 資本額은 6,960千원으로 '86年對比 6.2%가 늘어났다.

<表 1-2-8>

農家戶當 生産要素 投入量

	單 位	'75	'80	'84	'85	'86	'87
營 農 時 間	時 間	1,530	1,654	1,898	1,921	1,900	1,777
營 農 資 本 金	千 圓	971	2,497	6,541	6,488	6,555	6,960
耕 地 面 積	10a	9.62	10.27	11.10	11.38	11.50	11.54

資料：農林水産部 農水産統計官室

作物別 營農時間은 機械化營農이 進전된 水稻作의 경우 '86年보다 18時間이 줄어든 반면 菜蔬類를 비롯한 經濟作物에 대한 勞動投下量은 '86年까지는 대체로 增加하는 추세를 보여오다가 '87년에는 減少한 것으로 나타났다.

'87年の 農業生産性を 보면 勞動生産性은 時間當 2,260원으로 前年보다 324원이 늘었고, 10a當 土地生産性은 前年보다 8.8% 增加한 348千원이었으며 資本生産性도 '86年에 비해 약간 증가하였다. 그리고 營農投下時間이 줄어들어 따라 勞動集約度는 감소하고 있으나 農業機械를 많이 保有함으로써 資本集約度는 증가한 것으로 나타났다.

<表1-2-9>

農家戶當 作物別 營農時間

(單位：時間)

	米 穀	麥 類	雜 穀	豆 類	薯 類	菜 蔬	其 他	計
'75	564	224	26	91	81	156	388	1,530
'80	596	101	19	77	48	286	526	1,654
'84	610	73	19	83	35	378	699	1,898
'85	617	60	20	70	36	419	699	1,921
'86	576	49	20	71	34	448	702	1,900
'87	558	50	19	79	27	389	655	1,777

資料：農林水產部 農水產統計官室

<表1-2-10>

農業生產性 指標

	單 位	'75	'80	'85	'86	'87
勞動生產性	원/시간	467	1,061	1,925	1,936	2,260
土地生產性	千원/10a	74	171	325	320	348
資本生產性	원/원	0.74	0.70	0.57	0.56	0.58
勞動集約度	시간/10a	159	161	169	165	154
資本集約度	千원/10a	101	243	570	570	603

註：勞動, 土地, 資本生產性是 農業所得을 基準으로 算出한 것임.

資料：農林水產部 農水產統計官室

第2節 農家經濟

1. 農家所得

'87年 戶當 農家所得은 6,535千원으로 '86年보다 9.0% 증가되었으며 이중 農業所得은 農產物價格이 전반적으로 상승하여 前年에 비해 9.2% 증가한 4,016千원이었고, 農外所得은 2,519千원으로 '86年 對比 8.7%가 늘어났으나 前年增加率 13.8%에는 미치지 못하였다. 이에 따라 農家所得 가운데서 農外所得이 차지하는 比率도 '86年보다 약간 낮아졌다.

<表 1-2-11>

農家所得의 構成

(單位: F원, %)

	'82	'84	'85	'86(A)	'87(B)	增減率 (B/A)
農家所得	4,465	5,549	5,736	5,995	6,535	9.0
農業所得	3,031	3,699	3,699	3,677	4,016	9.2
農外所得	1,434	1,850	2,037	2,318	2,519	8.7
農外所得比率	32.1	33.3	35.5	38.7	38.5	-

資料: 農林水産部 農水産統計官室

耕地規模別로 農家所得中 農業所得과 農外所得이 차지하는 比重을 보면 耕地規模가 클수록 農家所得中 農業所得이 차지하는 比重이 커지고 있으나 農外所得比重은 작아지고 있으며 耕地規模가 작을수록 農業所得보다는 農外所得의 比重이 크게 增加하고 있다. 2.0ha以上 耕地規模를 가진 農家は 農家所得中 農業所得이 80.8%, 農外所得이 19.2%로 農業所得이 큰 比重을 차지하고 있는 반면 0.5ha未滿 耕地規模를 가진 農家は 農家所得中 農業所得이 26.6%, 農外所得이 73.4%로 상대적으로 農外所得比重이 크게 높은 실정이다.

이러한 現象은 耕地規模가 클수록 農業에 주로 전념하고 있는데 반하여 耕地規模가 작은 農家は 所得源을 農業以外的 部門에 많이 依存하고 있기 때문이다.

<表 1-2-12>

'87年 耕地規模別 農家所得

(單位: 千원, %)

	全國平均	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
農家所得	6,535 (100.0)	4,410 (100.0)	5,651 (100.0)	6,650 (100.0)	7,833 (100.0)	9,600 (100.0)
農業所得	4,016 (61.5)	1,171 (26.6)	2,786 (49.3)	4,400 (66.2)	5,727 (73.1)	7,753 (80.8)
農外所得	2,519 (38.5)	3,239 (73.4)	2,865 (50.7)	2,250 (33.8)	2,106 (26.9)	1,847 (19.2)

資料: 農林水産部 農水産統計官室

地帶別로는 農外部門에 就業機會가 많은 都市近郊가 農業所得은 적으나 農外所得이 매우 높기 때문에 전체 所得水準은 상대적으로 높았으며 中間

및 山間地域의 경우 農外所得 比率은 각각 37.7%, 35.5%로 都市近郊의 59.6%에 비하여 훨씬 낮은 水準에 있다.

<表 1-2-13>

'87年 地帶別 農家所得

(單位：千원, %)

	全國平均	都市近郊	平 野	中 間	山 間
農 家 所 得	6,535 (100.0)	7,047 (100.0)	6,392 (100.0)	6,664 (100.0)	6,402 (100.0)
農 業 所 得	4,016 (61.5)	2,849 (40.4)	3,843 (60.1)	4,151 (62.3)	4,132 (64.5)
農 外 所 得	2,519 (38.5)	4,198 (59.6)	2,549 (39.9)	2,513 (37.7)	2,270 (35.5)

資料：農林水産部 農水産統計官室

가. 農業所得

'87年의 農業粗收入은 5,984千원으로 '86年보다 6.5%가 늘어났으나 農業經營費는 전반적인 農業資材費의 安定으로 前年對比 1.3%가 增加한 1,968千원으로 비교적 낮게 증가함에 따라 農業所得은 '86年對比 9.2% 증가한 4,016千원이 되었다.

農業粗收入 가운데 쌀, 보리등의 食糧作物收入은 前년에 비하여 151천원이 增加한 3,268千원으로 이는 全體 農業粗收入의 54.6%를 차지하고 있으며, 菜蔬, 特作, 果樹등 經濟作物收入은 前年보다 278千원이 增加한 1,699千원으로 農業粗收入中 比重은 28.4%를 차지하고 있다.

農業經營費는 農機械 保有臺數 增加로 修理費, 減價償却費가 크게 증가하였음에도 불구하고 雇傭勞動이 감소함에 따라 勞賃은 1.9%가 감소하였고, 農藥費와 養畜費등의 增加率도 크게 鈍化되어 全般的으로는 '86年對比 1.3% 增加에 그쳤다.

한편 農業所得을 耕地規模別로 보면 耕地規模가 커짐에 따라 農業所得도 증가하고 있다. 또 農業粗收入에서 農業所得이 차지하는 比率 즉 農業所得率은 全國平均이 67.1%이고, 그중 1.5~2.0ha 規模가 68.6%로 가장 높으며 0.5ha미만 規模는 59.6%로 가장 낮게 나타났다.

<表 1-2-14>

農家戶當 農業所得의 構成

(單位：千圓, %)

	'85	'86	'87	增 減 率	
				86/85	87/86
農 業 所 得	3,699	3,677	4,016	△0.6	9.2
農 業 粗 收 入	5,477	5,619	5,984	2.6	6.5
粟	2,628	2,827	2,922	7.6	3.4
其 他 穀 物	316	290	346	△8.2	19.3
菜 蔬	950	781	894	△17.8	14.5
特 作	225	290	349	28.9	20.3
果 樹	347	350	456	0.9	30.3
畜 產	932	991	945	6.3	△4.6
其 他	79	90	72	13.9	△20.0
農 業 經 營 費	1,778	1,942	1,968	9.2	1.3
肥 料	192	209	193	8.9	△7.7
農 藥	124	136	140	9.7	2.9
農 機 具	158	176	197	11.4	11.9
養 畜	364	404	414	11.0	2.5
勞 賃	207	213	209	2.9	△1.9
貨 借 料 以 水 利 費	396	451	450	13.9	△0.2
搗 精 料	71	77	79	8.5	2.6
其 他	266	276	286	3.8	3.6

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-15>

'87年 耕地規模別 農業所得

(單位：千圓, %)

	全國平均	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
農 業 所 得	4,016	1,171	2,786	4,400	5,727	7,753
(農業所得率)	(67.1)	(59.6)	(66.8)	(67.5)	(68.6)	(66.8)
農 業 粗 收 入	5,984	1,964	4,170	6,515	8,352	11,606
農 業 經 營 費	1,968	793	1,384	2,115	2,625	3,853

資料：農林水産部 農水産統計官室

地帶別 農業所得은 中間地帶 農家가 4,151千圓으로 가장 많고, 都市近郊 農家가 2,849千圓으로 가장 적었으며 農業所得率은 山間農家가 68.7%, 中間農家는 67.0%로 높게 나타난 반면 都市近郊 農家가 59.0%였는데, 山間農家와 中間農家가 높은 이유는 都市近郊에 비해 所得源이 農業에 集中되어있기 때문이다.

<表 1-2-16>

'87年 地帶別 農業所得

(單位：千圓, %)

	全國平均	都市近郊	平 野	中 間	山 間
農 業 所 得	4,016	2,849	3,843	4,151	4,132
(農業所得率)	(67.1)	(59.0)	(66.4)	(67.0)	(68.7)
農 業 粗 收 入	5,984	4,826	5,786	6,198	6,014
農 業 經 營 費	1,968	1,977	1,943	2,047	1,882

資料：農林水産部 農水産統計官室

나. 農外所得

'87年の 農外所得은 2,519千圓으로 前年보다 8.7% 증가에 그쳐 農外所得 增加率이 前年에 비하여 약간 鈍化되었으며, 農家所得에 대한 農外所得의 比重은 '86年과 비슷한 수준인 38.5%로 나타났다.

<表 1-2-17>

農家戶當 農外所得의 構成

(單位：千圓)

	'82	'83	'84	'85	'86	'87
農 外 所 得	1,434	1,797	1,850	2,037	2,318	2,519
兼 業 所 得	71	183	192	214	274	281
兼 業 收 入	249	379	422	565	531	581
兼 業 支 出	178	196	230	351	257	300
事 業 以 外 所 得	706	730	763	846	935	1,033
事 業 以 外 收 入	706	889	979	1,068	1,172	1,280
勞 賃 · 給 料	524	670	717	791	854	958
賃 貸 料 · 配 當 利 子	97	130	155	182	221	235
其 他	85	89	107	95	97	87
事 業 以 外 支 出	-	159	216	222	237	247
借 入 金 利 子	-	155	211	218	231	238
其 他	-	4	5	4	6	9
移 轉 收 入	657	884	895	977	1,109	1,205
送 金 補 助	181	220	248	270	305	299
被 贈 補 助	415	657	636	695	786	896
其 他	61	7	11	12	18	10

資料：農林水産部 農水産統計官室

이중 兼業所得은 281千원으로 兼業收入에 비해 兼業支出이 크게 증가하여 兼業所得 增加率은 前年の 28.0%에서 2.6%로 낮아졌으나 給料등 事業以外所得은 10.5%가 증가한 1,033千원이었다.

農外所得은 被贈補助, 送金補助등 移轉收入이 47.8%를 차지하고 있으며, 事業以外所得이 41.0%, 兼業所得이 11.2%순으로 構成되어 있다.

耕地規模別로 農外所得의 크기를 보면, 0.5ha미만의 農家が 全國平均 農外所得의 1.3배 수준인 3,239千원으로 이들 農家は 勞賃, 給料등의 收入이 많기 때문에 農業以外所得이 높은 것으로 나타났으나 耕地規模가 큰 農家일수록 農外所得이 적어져 2.0ha이상 農家の 경우, 農外所得은 1,847千원으로 0.5ha미만 農家の 57% 수준에 지나지 않았다.

<表 1-2-18>

'87年 耕地規模別 農外所得

(單位: 千원)

	全國平均	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.0~2.0	2.0ha이상
農外所得	2,519	3,239	2,865	2,251	2,106	1,847
兼業所得	281	447	310	261	120	157
事業以外所得	1,033	1,706	1,317	760	742	457
移轉收入	1,205	1,086	1,238	1,230	1,244	1,233

資料: 農林水産部 農水産統計官室

地帶別로 본 農外所得은 都市近郊 農家が 山間地帶 農家보다 거의 2倍程度가 높은 實情인데 이는 都市近郊 農家の 就業機會가 다른 地帶의 農家に 비하여 월등히 많기 때문이다.

<表 1-2-19>

'87年 地帶別 農外所得

(單位: 千원)

	全國平均	都市近郊	平野	中間	山間
農外所得	2,519	4,198	2,549	2,513	2,270
兼業所得	281	629	339	258	217
事業以外所得	1,033	2,397	1,055	986	889
移轉收入	1,205	1,172	1,155	1,269	1,164

資料: 農林水産部 農水産統計官室

2. 農家資産

'87年の農家戸當平均資産은 33,091千원으로서 '86년에 비하여 10.1%가 증가하였다. 이를 内容別로 보면 固定資産이 28,049千원, 流動資産이 2,234千원, 流通資産이 2,808千원으로 固定資産이 總資産의 84.8%를 차지하였다.

前年對比 資産別 細部增加率을 보면, 固定資産중 土地, 建物の 評價額이 높아져 土地資産과 建物資産이 각각 8.7%, 8.1% 증가하였고, 流動資産중 在庫農産物資産은 穀物과 青果物등의 價格上昇에 힘입어 22.1%나 증가하였다. 또 流通資産은 預·貯金이 '86年보다 49.4%가 늘어남에 따라 지난해보다 27.4%나 증가하였다. 이에 따라 農家資産 가운데 流通資産의 比重도 '86年の 7.3%에서 '87년에는 8.5%로 높아지게 되었다.

<表 1-2-20>

農家戸當 農家資産의 構成內譯

(單位: 千원, %)

		'84	'85	'86(A)	'87(B)	增減率 (B/A)
農 家 資 産		26,894	28,378	30,043	33,091	10.1
固 定 資 産	土 地	17,357	18,995	20,476	22,251	8.7
	建 物	3,283	3,459	3,544	3,831	8.1
	農 機 具	590	620	665	657	△1.2
	大 動 物	1,931	1,490	1,033	1,022	△1.1
	大 植 物	242	246	267	288	7.9
	計	23,403	24,810	25,985	28,049	7.9
流 動 資 産	小 動 物	22	40	52	62	19.2
	在 庫 農 産 物	1,648	1,721	1,761	2,150	22.1
	在 庫 生 産 資 材	42	45	41	22	△46.3
	計	1,712	1,806	1,854	2,234	20.5
流 通 資 産	現 金	229	190	212	238	12.3
	預 · 貯 金	558	681	943	1,409	49.4
	貸 付 金	401	415	465	478	2.8
	契	244	215	245	265	8.2
	其 他	347	261	339	418	23.3
	計	1,779	1,782	2,204	2,808	27.4

資料: 農林水産部 農水産統計官室

3. 家計費

'87年の農家所得 6,535千원 가운데서 租稅公課金を 控除한 可處分所得은 '86年보다 9.1%가 늘어난 6,490千원이었으며 可處分所得중 家計費는 5,201千원으로 家計費를 제외한 農家の 經濟剩餘는 前年보다 34.7%나 늘어난 1,219千원인 것으로 나타났다.

家計費 5,201千원은 前年對比 4.1%가 증가한 水準인데 內容別 支出을 보면 住居費, 被服費, 冠婚喪祭費 및 保健醫療費 등의 家計雜費가 크게 증가한 반면 飲食物費와 光熱費는 '86年에 比하여 增加率이 鈍化되었다. 한편 家計費중 飲食物費의 比重이 낮아짐에 따라 恩賜係數는 '86年の 27.4%에서 '87년에는 26.9%로 낮아졌다.

<表 1-2-21> 農家戶當 可處分所得 및 家計費 (單位: 千원, %)

	'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
農家所得	2,693	5,736	5,995	6,535	9.0
可處分所得	2,579	5,690	5,950	6,490	9.1
家計費	2,138	4,691	4,995	5,201	4.1
經濟剩餘	405	962	905	1,219	34.7
平均消費性向	82.9	82.4	83.9	80.1	-

資料: 農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-22> 農家戶當 家計費支出 內譯 (單位: 千원, %)

	'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
家計費	2,138	4,691	4,995	5,201	4.1
飲食物費	788	1,333	1,371	1,401	2.2
住居費	144	359	387	435	12.4
被服費	130	190	189	214	13.2
光熱費	101	192	199	203	2.0
教育費	200	609	643	644	0.2
家計雜費	775	2,008	2,206	2,304	4.4

資料: 農林水産部 農水産統計官室

4. 農家負債

'87年の農家戸當負債는 2,390千원으로 前年對比 9.0%가 늘어났으며, 이를 借入處別로 보면 農協등 金融機關 負債가 1,876千원으로 全體 負債의 78.5%를 차지하고 있으며, 個人으로부터의 借入은 21.5%를 차지하고 있다.

農家負債의 用途別 內容은 土地, 建物, 家畜, 農機械, 營農費등 生産活動과 관련된 負債가 1,446千원에 해당되어 全體의 60.5%를 점유하고, 教育費와 家計雜費등의 家計性負債가 532千원으로 22.3%를 차지하고 있으며, 또 債務償還을 위한 負債는 412千원으로 全體 負債의 17.2%를 차지하고 있다.

耕地規模에 따른 負債保有의 정도를 보면, 耕地規模 2.0ha까지의 農家에 있어서는 耕地規模가 클수록 農地買入등 固定資産에 投入한 負債가 증가하고 있지만, 2.0ha를 넘어서면 固定資産 投資보다는 營農費 및 家計費에 사용된 負債가 많은 것으로 나타났다.

<表 1-2-23> 借入處別 農家負債 (單位: 千원)

		'82	'83	'84	'85	'86	'87
農家負債		830	1,285	1,784	2,024	2,192	2,390
(增加率, %)		(89.9)	(54.8)	(38.8)	(13.5)	(8.3)	(9.0)
金融機關		554	864	1,226	1,440	1,550	1,876
(農協)		(524)	(823)	(1,147)	(1,337)	(1,436)	(1,718)
個人		276	421	558	584	642	514
借入比重 (%)	金融機關	66.7	67.2	68.7	71.1	70.7	78.5
	個人	33.3	32.8	31.3	28.9	29.3	21.5

資料: 農林水産部 農水産統計官室

全體 農家の 戸當 平均負債는 2,390千원이지만 農家中에는 負債가 없는 경우도 있고, 1千萬원 이상의 負債를 가진 農家도 있다. 負債가 없는 農家は 全國 農家の 20.8%이며, 1千萬원 이상의 農家は 2.9%를 차지하고 있다.

이는, '86년에 비해 '87년에는 負債없는 農家の 比率이 줄어들었으며, 200萬원 이상의 農家は 36.9%에서 38.6%로 늘어났다.

<表 1-2-24>

用途別 農家負債

(單位：千圓)

		'82	'83	'84	'85	'86	'87
生產性負債	生產施設投資	378	661	940	977	1,001	1,003
	土地・建物	143	238	369	419	471	493
	家畜	122	215	311	290	260	234
	農機械	113	208	260	268	270	276
	短期營農費	131	139	200	329	356	443
	小計	509	800	1,140	1,306	1,357	1,446
	(增加率, %)	(111.2)	(57.2)	(42.5)	(14.6)	(3.9)	(6.6)
家計性負債	教育費	48	70	78	97	103	98
	生活費	64	159	316	290	335	339
	冠婚喪祭	151	133	61	89	99	95
	小計	263	362	455	476	537	532
	(增加率, %)	(60.4)	(37.6)	(25.7)	(4.6)	(12.8)	(△0.9)
債務償還用		58	123	189	242	298	412
(增加率, %)		(81.3)	(112.1)	(53.7)	(28.0)	(23.1)	(38.3)
比重 (%)	生產性負債	61.3	62.2	63.9	64.5	61.9	60.5
	家計性負債	31.7	28.2	25.5	23.5	24.5	22.3
	債務償還	7.0	9.6	10.6	12.0	13.6	17.2

註：生活費중에는 文化用品 購入費가 포함됨.

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-25>

'87年 耕地規模別 農家負債

(單位：千圓)

		平均	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
用途別	固定資產	1,003	508	814	961	1,397	1,740
	營農費	443	350	374	520	348	725
	家計費	532	362	516	637	435	703
	債務償還	412	245	457	449	351	538
負債		2,390	1,465	2,161	2,567	2,531	3,706
借入處別	金融機關	1,876	1,168	1,710	2,030	1,995	2,815
	(構成比, %)	(78.5)	(79.7)	(79.1)	(79.1)	(78.8)	(76.0)
	個人	514	297	451	537	536	891

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-26>

負債規模別 農家分布

(單位：%)

	'85		'86		'87	
	分 布	累積分布	分 布	累積分布	分 布	累積分布
負債없는 農家	20.8	20.8	21.9	21.9	20.8	20.8
100萬원미만	28.6	49.4	25.1	47.0	24.4	45.2
100~200	16.8	66.2	16.1	63.1	16.2	61.4
200~300	11.5	77.7	11.6	74.7	10.5	71.9
300~500	11.2	88.9	12.4	87.1	14.5	86.4
500~800	7.3	96.2	7.9	95.0	8.2	94.6
800~1,000	1.7	97.9	2.6	97.6	2.5	97.1
1,000萬원이상	2.1	100.0	2.4	100.0	2.9	100.0

資料：農林水産部 農水産統計官室

農家負債를 農家所得 및 農家資産과 比較해 보면, 農家所得中 農家負債는 36.6%이며 農家資産中 農家負債는 지난해와 비슷한 7.2%수준이나 流通資産과 對比한 農家負債는 지난해의 99.5%에서 85.1%로 크게 낮아졌다.

<表 1-2-27>

農家負債와 所得 및 資産

(單位：%)

	'80	'81	'82	'85	'86	'87
負債/農家所得	12.6	11.8	18.6	35.3	36.6	36.6
負債/家計剩餘	83.5	54.4	85.7	210.4	242.2	196.1
負債/農家資産	2.5	2.6	4.4	7.1	7.3	7.2
負債/流通資産	54.1	62.2	93.8	114.9	99.5	85.1

資料：農林水産部 農水産統計官室

5. 農家文化用品

農村生活水準의 向上과 함께 農家가 保有한 文化用品도 늘어나고 있으며 칼라T.V는 '86年보다 30%가 늘어나 100戶當 51台를 保有한 것으로 나타나고 있으며, 電話普及率도 100戶當 75台 수준으로 擴充되었다.

아울러 生活便益欲求가 커짐에 따라 冷蔵庫와 洗濯機의 購入이 크게 늘어나 '87年末 현재 冷蔵庫는 100戶當 80台, 洗濯機는 100戶當 13台를 保有하게 되었다.

<表 1-2 28>

農家の 文化用品 保有現況

(單位: 台/100戶)

	'82	'83	'84	'85	'86	'87
T·V (黑白)	95.9	96.9	95.1	91.5	85.3	78.9
T·V (칼라)	4.4	12.2	20.3	28.5	38.9	50.6
電 蓄	18.1	14.7	15.2	16.6	18.2	21.2
錄 音 器	51.1	62.6	70.3	76.9	83.7	87.2
冷 藏 庫	21.7	33.1	44.0	57.7	69.6	79.9
扇 風 機	90.9	97.9	103.2	109.0	113.4	117.0
洗 濯 機	1.5	3.2	4.3	6.5	10.0	13.1
카 메 라	4.9	9.2	9.4	9.8	11.3	12.6
電 話	22.4	35.8	41.9	51.3	61.9	74.9

資料: 農林水産部 農水産統計官室

第3節 農村物價

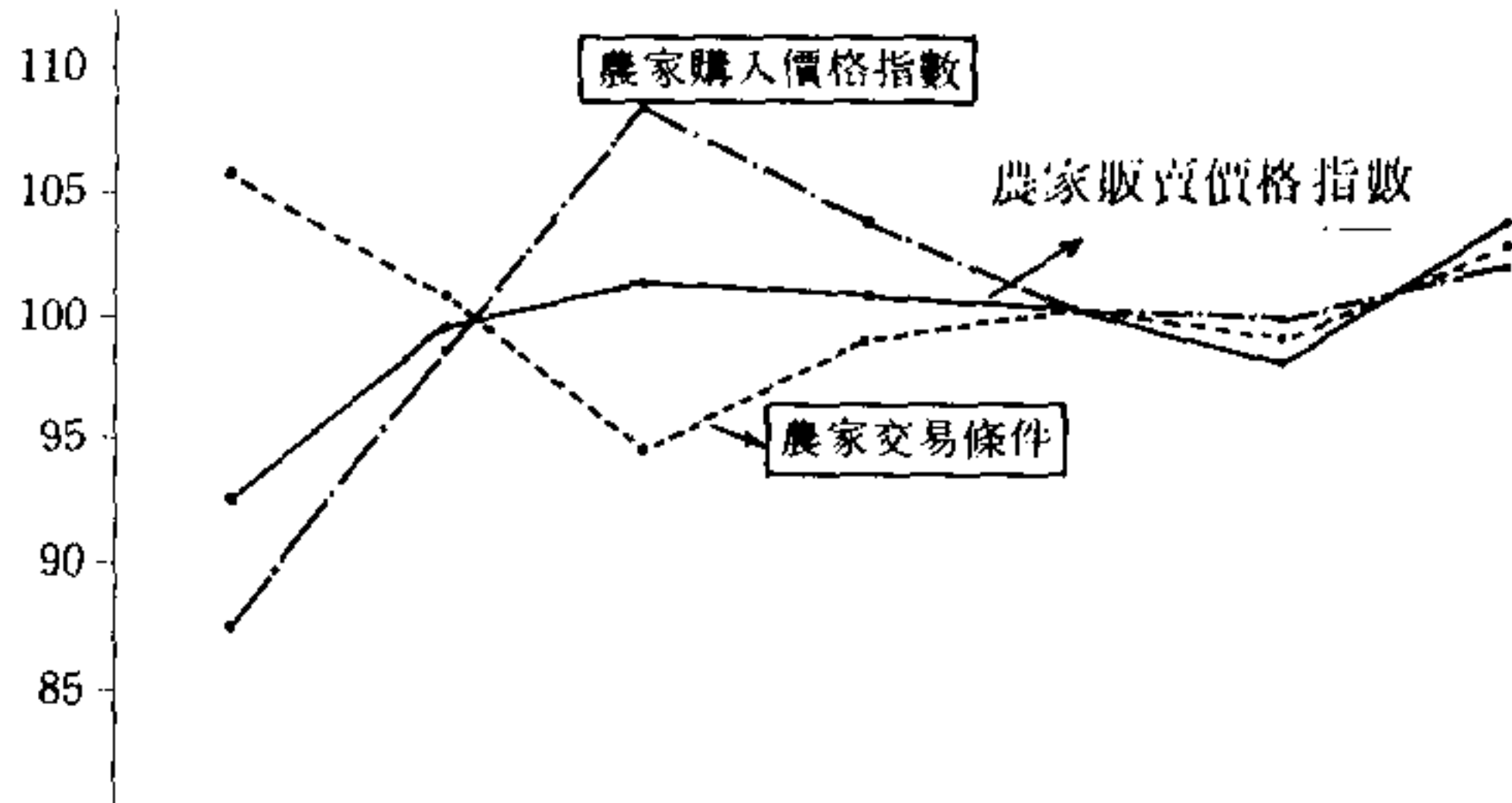
'87年中 農村物價는 農家販賣價格이 4.9%, 農家購入價格이 1.7% 上昇하여 最近 4~5年과 비교해 볼 때 비교적 높은 오름세를 보였다.

'87年の 農家販賣價格은 年平均으로 前年보다 4.9% 上昇하였는데, 이 중 穀物은 豆類 및 薯類價格의 強勢로 4.6%가 올랐고, 青果物은 7~8월의 集中 暴雨로 인한 일부 菜蔬價格의 暴騰과 사과, 배, 밀감등 果實類價格의 強勢로 13.0% 올랐다. 반면 畜産物은 韓牛, 韓牛송아지價格등이 오랜 내림세를 벗어나 회복세를 보였음에도 불구하고 乳牛, 乳牛송아지, 돼지등이 크게 내려 전체적으로 3.87%가 下落하였다.

그리고 農家購入價格은 年平均으로 前年보다 1.7%가 上昇하였는데, 이 중

<圖 1-2-2>

農家交易條件 ('85=100)



	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87
農家販賣價格指數	92.8	99.2	101.5	100.7	100.0	97.8	102.6
農家購入價格指數	87.8	98.8	107.0	102.5	100.0	99.4	101.1
農家交易條件	105.7	100.4	94.9	98.2	100.0	98.4	101.5

資料：農協中央會

家計用品과 農村賃料金이 각각 2.3%, 4.4%가 올랐고, 農業用品은 農機具, 家畜 등의 價格이 올랐음에도 불구하고 肥料, 農藥 등의 價格引下에 힘입어 0.1% 상승에 머물러 '87年中 農家交易條件은 '85年基準 101.5로 前年の 98.4보다 好轉되었다.

1. 農家販賣價格

가. 穀物

'87年の 穀物價格은 '86년에 비하여 年平均으로 4.6%가 上昇하였으며 穀物중 薯類는 고구마, 감자의 生産量 減少에 따른 供給不足으로 前년에 비해 29.0%가 올라 穀物중 가장 큰 오름세를 보였다. 또 米穀은 年平均으로 3.9% 상승하였는데, 이중 一般米가 40kg 기준 年平均 37,333원으로 3.2%, 新品種쌀은 31,234원으로 4.9% 올랐다.

한편 녹두는 22.3%, 콩은 13.4%가 오른 豆類는 前年에 比하여 9.4% 上昇하였고, 麥類는 0.4%가 上昇하였다.

나. 青 果 物

菜蔬, 果實등 青果物價格은 지난해에 비해 13.0%가 上昇한 높은 오름세를 보였다.

主要菜蔬의 '87年중 年平均價格을 보면, 배추가 3.75kg 당 500원으로 前年 對比 63.9% 上昇하였고, 무우가 3.75kg 당 455원으로 53.2%, 고추가 600g 당 2,359원으로 20.5%가 上昇하였다. 반면에 마늘은 접당 2,124원으로 前年보다 34.3% 下落하였고, 양파도 20kg 당 2,390원으로 42.2%가 내렸다.

한편 果實類중 사과(홍옥, 국광, 부사)는 15kg 상자당 年平均 9,030원으로 前年에 비해 18.5%가 上昇하였고, 배는 8,951원, 감귤이 8,325원으로 각각 12.1%, 10.4%가 올랐다.

다. 畜 產 物

'87年の 畜產物價格은 '83年 上半期 이후 繼續되어온 내림세가 크게 鈍化되어 前年對比 3.3% 下落에 그쳤다. 이는 돼지, 乳牛, 乳牛송아지價格이 크게 떨어졌음에도不拘하고 소값이 오랜 내림세를 벗어나 오름세로 돌아섰기 때문이다.

'87年중 소값은 前年보다 크게 올랐는데, 큰소는 2.6%, 송아지는 20.1%가 上昇하였다. 큰소의 경우 300kg 짜리 암소가 年平均價格으로 628 F원, 400kg 짜리 숫소가 979 F원이었으며, 4~6個月 지난 송아지의 境遇 암송아지는 279 F원, 숫송아지는 426 F원이었다.

한편 닭은 '86년에 이어 '87年에도 下落하여 生體 1kg 당 價格이 年平均 820원으로 前年에 比하여 7.7% 떨어진 價格으로 去來되었으며, 鷄卵은 12.3% 下落하였다.

라. 其他 農產物

特用作物, 누에고치 및 副產物등 其他農產物價格은 '87년에는 前年對比 14.0

%가 上昇하였는데, 이중 特用作物은 참깨가 22.3%, 들깨는 24.1%로 價格이 크게 올라 全體的으로 15.9%가 上昇하였다.

그리고, 누에고치價格은 收買價格이 春蠶 2.0%, 秋蠶 5.0%가 引上됨에 따라 3.3%가 상승하였으며, 芻草은 前年보다 3.1%가 하락하였다.

<表 1-2-29> 農家販賣價格指數 ('85=100)

	'83	'84	'85	'86(A)	'87(B)	騰落率(B/A)
全體	101.5	100.7	100.0	97.8	102.6	4.9
穀物	89.9	92.4	100.0	108.2	113.2	4.6
(米穀)	(89.6)	(92.0)	(100.0)	(107.7)	(111.9)	(3.9)
青果物	72.9	95.5	100.0	85.9	97.1	13.0
畜產物	142.1	120.0	100.0	91.4	88.4	△3.3
(家畜)	(145.9)	(121.7)	(100.0)	(90.3)	(87.0)	(△3.7)
其他	93.8	93.7	100.0	111.0	126.5	14.0

資料：農協中央會

2. 農家購入價格

가. 家計用品

家計用品價格은 '87年중 年平均으로 前年보다 2.3%가 상승하였으며 이를 類別로 보면 雜費는 教育費가 4.6%, 保健衛生費가 3.5%로 오르는등 전체적으로는 3.2%가 올랐고, 食料品은 海藻魚類가 9.6%, 嗜好品이 9.9%로 크게 올라 전체적으로 1.9%가 상승하였다.

이밖에 被服費, 住居費, 家計光熱費 등은 각각 1.9%, 0.1%, 0.6%가 상승하였다.

나. 農業用品

'87年중 農業用品은 種子, 農機具, 家畜등의 價格이 올랐으나 肥料, 農藥등 營農資材와 營農光熱費, 飼料등의 價格이 내려 전체적으로 0.1% 상승에 머물렀다.

특히 肥料類는 유안(△3.5%), 요소(△4.7%)의 價格引下로 1.6%가 하락하였고, 營農光熱費도 휘발유(△20.6%), 輕油(△10.0%), 石油(△4.3%)등의 價格引下로 7.5%가 내렸다.

한편 家畜類는 송아지, 韓牛價格이 回復勢를 보여 前年보다 4.4%가 상승하였고, 農機具도 콤바인, 바인더등 일부 農機械價格의 引上으로 2.0%가 올랐다.

<表1 2-30> 農家購入價格指數 ('85·100)

	'83	'84	'85	'86(A)	'87(B)	騰落率(B/A)
全體	107.0	102.5	100.0	99.4	101.1	1.7
家計用品	95.6	97.3	100.0	102.4	104.8	2.3
農業用品	128.9	112.7	100.0	94.5	94.6	0.1
(家畜)	183.7	135.9	100.0	88.7	92.6	4.4
農村賃料金	91.2	94.9	100.0	103.5	108.1	4.4

資料：農協中央會

다. 農村賃料金

'87年중 農村賃料金은 年平均으로 4.4%가 상승하였으며 이중 農業勞動賃金이 5.0% 올랐는데 給食物評價額을 포함하여 男子成人이 日當平均勞賃으로 10,568원, 女子成人이 7,699원이었다.

또 목수, 미장이등의 其他 賃金과 精白賃, 農機具賃借料등 農業用料金은 각각 4.3%, 3.8%가 상승하였다.

<表1 2-31> 農業勞動賃金 (單位：원)

		'82	'83	'84	'85	'86	'87
男 子	現金支給額	5,784	6,104	6,515	7,082	7,441	7,620
	給食物評價額	2,379	2,552	2,619	2,613	2,701	2,948
	計	8,163	8,656	9,134	9,695	10,142	10,568
女 子	現金支給額	4,214	4,396	4,471	4,780	5,020	5,345
	給食物評價額	1,997	2,142	2,172	2,160	2,234	2,354
	計	6,211	6,538	6,643	6,940	7,254	7,699

資料：農協中央會

第4節 農業投資

1. 農林水產資金 支援

'87년에 農林水產部門에 支援된 總資金規模는 '86年보다 27.7%가 증가된 7兆 4,843億원에 달하였다. 이중 耕地整理, 排水改善, 農業機械化등 投融資에 2兆 2,181億원을 支援하였고, 營農 및 營漁資金, 農水產物 出荷調節資金 등 融資期間 3年 이내의 短期性 資金으로 2兆 4,108億원을 지원하였으며, 또한 糧穀, 金, 鹽, 담배, 누에고치 등의 收買資金으로 2兆 8,555億원을 支援하였다.

<表 1-2-32>

農林水產資金 支援

(單位: 億원)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小 計	中長期	短 期	小 計	糧 穀	其 他
'86	58,592	9,119	23,127	8,153	14,974	26,346	10,957	15,389
'87	74,826	9,947	36,324	12,216	24,108	28,555	11,577	16,978
增加率(%)	27.7	9.0	57.0	49.8	61.0	8.4	5.7	10.3

資料: 農林水產部 企劃管理室

支援된 資金은 農林水產部 所管은 물론 農林水產業과 關聯되는 中央部處, 地方自治團體, 政府投資機關, 그리고 農協, 畜協, 水協등에서 지원된 것까지 포함된 것이다.

'87년에는 私債代替資金 支援등에 의한 融資資金이 크게 증가하였으며 이 中長期性 資金은 '86년에 비하여 49.8%, 短期性 資金은 61%나 擴大 支援되었다.

2. 農業豫算

'87年 農業部門 豫算規模는 一般會計와 財政投融資 特別會計를 합하여 모두 1兆 1,233億원이었다. 이중 事業費 豫算은 前年보다 38.4%가 많은 8,024億원으로 '87年 國家全體 豫算增加率 14.9%를 上廻하는 수준이었다.

'87年の主要豫算事業を 보면, 農業部門 豫算중 가장 큰 比重을 차지하고 있는 耕地整理, 排水改善, 農業用水開發등 生産基盤造成事業에 3,770億원이 策定되어 '86年 對比 9%가 증액되었다. 또 流通改善分野에 있어서도 前年보다 8.9%가 증가한 319億원이 지원되었고, 農村所得源 擴充을 위한 豫算도 '86年보다 1.3倍가 늘어난 493億원으로 확대 지원되었다. 그리고 畜産部門 豫算도 소入殖農家에 대한 지원확대로 '86年の 43億원에서 115億원으로 크게 늘어났다.

<表 1-2-33>

農業部門 豫算

(單位: 億圓)

	'86			'87		
	一 般	財 特	計	一 般	財 特	計
計	8,174	1,563	9,737	9,204	2,029	11,233
I. 事業費	4,236	1,563	5,799	5,995	2,029	8,024
1. 食糧增産	111	-	111	80	-	80
2. 農業機械化	63	200	263	81	-	81
3. 農業用水開發	1,132	292	1,424	1,265	2,754	1,539
4. 生産基盤擴充	954	32	986	1,108	48	1,156
5. 大單位農業開發	808	-	808	793	-	793
6. 防潮堤築造	240	-	240	273	9	282
7. 流通改善	293	-	293	269	50	319
8. 農特事業	25	-	25	25	-	25
9. 畜産事業	43	-	43	115	-	115
10. 農業開發	358	950	1,308	323	1,492	1,815
11. 農村所得源開發	136	77	213	338	155	493
12. 農漁村地域綜合開發	73	12	85	132	-	132
II. 經常事業費	126	-	126	125	-	125
III. 基本的經費	311	-	311	334	-	334
IV. 綜合財政收支赤字改善財源	3,500	-	3,500	2,750	-	2,750

資料: 農林水産部 企劃管理室

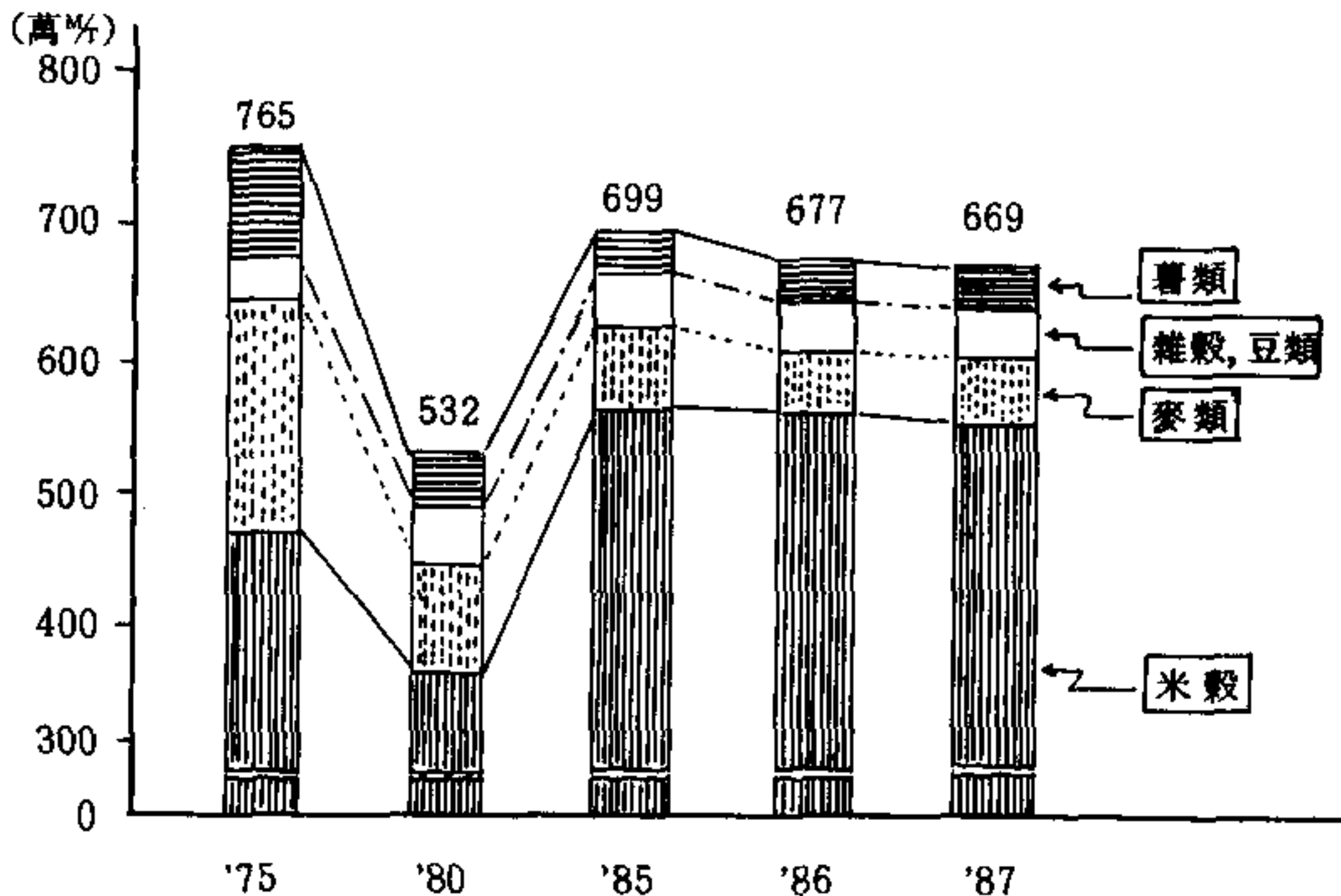
第3章 農畜產物 生産

第1節 食糧作物

'87年度에는 7月中旬에서 8月末 사이에 颱風과 集中豪雨로 인하여 한창 成長하고 있던 벼가 浸水되거나 쓰러졌으며, 또 農耕地가 流失·埋沒되기도 하였다. 7月 15日 颱風 “셀마”에 의하여 165千ha, 7月 21日 中部地方의 集中豪雨로 115千ha, 7月 26日 京仁地方의 豪雨時 19千ha, 8月 2日 集中豪雨로 6千ha, 8月 15日 5千ha, 8月 20日 17千ha, 8月 28日 23千ha가 피해를 입었으며, 또한 8月 30日 颱風 “다이너”로 인하여 130千ha의 田畝이 被害를 입었다. 이같은 被害를 類型別로 보면 浸冠水 面積이 265千ha, 流失·埋沒이 24千ha, 海溢, 其他가 202千ha이었다.

[圖 1-3-1]

食糧作物 生産推移



資料：農林水産部 農水産統計官室

그렇지만 5月中 充分한 降雨量으로 모내기가 順調롭게 진척되어 벼 栽培面積이 前年보다 26千ha가 增加한 1,259千ha에 達했고 9月 1日 이후 10月初까지의 登熟期間동안 日照量이 많았고, 氣溫도 알맞아 各種 災害가 발생하였음에도 不拘하고 쌀生産량은 當初 目標量보다 많은 38,145千石을 생산하여 食糧作物 總生産량은 6,688千% (46,982千石)에 이르렀다.

이를 主要 穀種別로 보면, 쌀은 5,493千% (38,145千石)을 생산하였고, 麥類는 栽培面積의 增加로 지난해 보다 14%가 많은 521千% (3,779千石)을 생산하였으며, 豆類와 雜穀類도 각각 212千%와 149千%을 생산하였다.

1. 쌀

'87年の 쌀 生産량은 目標量 5,472千%보다 21千%이 많은 5,493千% (38,145千石)이었다.

栽培面積은 1,262千ha로서 前年の 1,236千ha보다 26千ha가 增加하였으나 10a當 收量은 一般系 品種이 前年보다 18kg이 減少하였고, 統一系 品種도 15kg이 減少하여 全體的으로는 19kg이 적은 435kg에 그쳤다.

<表 1-3-1> 쌀 生産 量

		面 積	10a 當 收 量	生 産 量	
				重 量	容 量
'75		1,218千ha	386kg	4,669千%	32,424千石
'80		1,233	289	3,550	24,655
'85		1,237	456	5,626	39,071
'86		1,236	454	5,607	38,936
'87		1,262	435	5,493	38,145
水 稻	小 計	1,259	436	5,487	38,100
	一 般 系	1,013	431	4,359	30,270
	統 一 系	246	457	1,128	7,830
陸	稻	3	208	7	45

資料：農林水産部 農水産統計官室

그러나 良質의 一般系 品種의 쌀 生産量은 30,270千石으로 크게 增加하였고 統一系쌀은 '86年보다 12%가 減少된 7,830千石을 生産하였으며, 밭벼는 45千石을 生産하였다.

'87年の 全體 水稻栽培面積 가운데 統一系 品種은 前年の 22.0에서 19.5%로 減少한 반면 一般系 品種은 77.7%에서 80.2%로 증가하였다.

〈表 1-3-2〉 統一系 및 一般系 主要品種別 栽培面積 (單位: 千ha, %) (單位: 千ha, %)

	'87			'86		
	主要品種	栽培面積	比率	主要品種	栽培面積	比率
一般系	計	1,012.4	80.2	計	960.4	77.7
	秋 晴	271.1	21.5	秋 晴	290.0	23.4
	東 津	216.7	17.2	東 津	226.8	18.4
	蟾 津	110.6	8.8	蟾 津	92.9	7.5
	洛 東	64.7	5.1	洛 東	57.9	4.7
	大 蒼	32.2	2.5	大 蒼	24.8	2.0
	其 他	317.1	25.1	其 他	268.0	21.7
統一系	計	246.7	19.5	計	272.3	22.0
	三 剛	135.2	10.7	三 剛	143.7	11.6
	南 豐	29.9	2.4	南 豐	43.1	3.5
	七 星	25.7	2.0	七 星	11.5	0.9
	新 光	7.4	0.6	白 羊	6.8	0.6
	漢 江 淸 水	5.5	0.4	新 光	6.4	0.5
	其 他	43.0	3.4	其 他	60.8	4.9
陸稻	農 林 糯 1 號	3.2	0.3	農 林 糯 1 號	3.2	0.3
合 計	1,262.3	100.0	合 計	1,235.9	100.0	

資料: 農林水産部 農水産統計官室

쌀의 單位面積當 收量은 品種에 따라서 차이가 많이 나지만 移秧時期, 水利施設, 耕地整理등 營農與件에 따라서도 收量差異가 크게 나타남에 따라 水利施設이 양호한 農地改良組合畝에서는 10a當 446kg이 生産된 반면 天水畝

에서는 396kg이 생산되었으며, 水利不安全畝에서는 그 중간水準인 417kg이 생산되었다.

또한 移秧時期에 따라서도 收量差異가 많이 나는데 5月 以前까지 모내기를 끝낸 논에서는 10a當 444kg이 생산되었으나 7月 以後에 모를 심은 논에서는 350kg이 생산됨으로써 늦게 심은 논은 일찍 심은 논에 비하여 生産量이 79%수준에 불과하였다. 또 移秧方法에 따라서는 機械로 移秧한 논의 쌀收量은 452kg이었고, 손으로 移秧한 논의 쌀收量은 425kg으로서 機械移秧畝에서 27kg이增收된 것으로 나타났으며 이를 品種別로 살펴보면, 統一系列의 경우 機械移秧畝에서 483kg, 손移秧畝에서 441kg이 생산되었고, 一般系에서

〈表 1-3-3〉 '87年 灌溉施設別 10a當 收量 (單位: %, kg)

		農 組 畝	水利安全畝	水利不安全畝	天 水 畝
構 成 比		38.9	46.8	12.2	2.1
收 量	平 均	446	432	417	396
	統 一 系	467	454	434	413
	一 般 系	440	428	414	393

資料: 農林水産部 農水産統計官室

〈表 1-3-4〉 '87年 移秧時期別 10a當 收量

	5 月 以 前	6. 1 ~ 15	6. 16 ~ 30	7 月 以 後
收 量 (kg)	444	427	407	350
植 付 率 (%)	59.5	25.5	14.2	0.8

資料: 農林水産部 農水産統計官室

〈表 1-3-5〉 耕地整理別 10a當收量 (單位: kg)

	平 均		統 一		一 般	
	整 理	未 整 理	整 理	未 整 理	整 理	未 整 理
'86	464	446	482	464	458	442
'87	444	430	466	450	437	426

資料: 農林水産部 農水産統計官室

는 각각 445kg과 421kg이 생산되었다.

耕地整理畝에서는 栽培管理가 容易함에 따라 10a當 444kg이 생산되는데 반해 耕地整理를 하지 않은 논에서는 430kg이 생산되었다.

2. 田作物

가. 麥 類

겨울철 노는 땅과 노는 人力을 生産化하고, 酒精 및 加工需要 增加에 따른 原料供給을 원활히 하기 위하여 '87년에 처음으로 보리生産體制를 契約栽培로 轉換하여 收買價格 및 收買物量을 豫示하였다. 이 결과 '87년에 總 208 Fha에서 521千t을 생산함으로써 지금까지 감소추세에 있던 麥類生産量이 增加하게 되었다.

특히 大稈麥은 收買價格 事前豫示 및 契約栽培에 따른 增産意慾 鼓吹로 栽培面積이 14%가 增加되고 適期·精密播種 및 越冬中 氣象與件의 好調와 肥培管理를 철저히 함으로써 10a當 收量은 8%나 增收되었다. 그러나 登熟期의 集中豪雨로 말미암아 倒伏이 많아 登熟이 不良하여 品質이 低下되고 栽培面積 增加에 比하여 生産量 增大는 상대적으로 적었다.

<表 1-3-6>

麥 類 生 産 量

(單位: 千ha, 千t)

		'75	'80	'85	'86	'87
計 (胡麥包含)	面 積	761	360	242	193	208
	生 産 量	1,806	906	584	459	521
大 麥	面 積	322	110	64	52	57
	生 産 量	699	267	162	112	135
稈 麥	面 積	386	186	101	88	103
	生 産 量	995	457	225	203	252
麥 酒 麥	面 積	3	34	73	50	45
	生 産 量	6	87	184	137	129
小 麥	面 積	44	28	3	2	1
	生 産 量	97	92	11	5	4

資料: 農林水産部 農水産統計官室

또, 收買時에 一部 契約農家의 農協收買 忌避로 말미암아 收買物量이 契約目標에는 미달되었지만 '86年보다는 55%가 增加되었다.

麥酒보리는 '85年의 過剩生産에 다른 超過在庫가 累增되어 '86年부터 收買物量을 基準으로 契約栽培를 실시하였으며 또 契約農家의 出荷全量을 收買하였지만 收買量은 110千%에 지나지 않아 상대적으로 在庫量이 減少되었다.

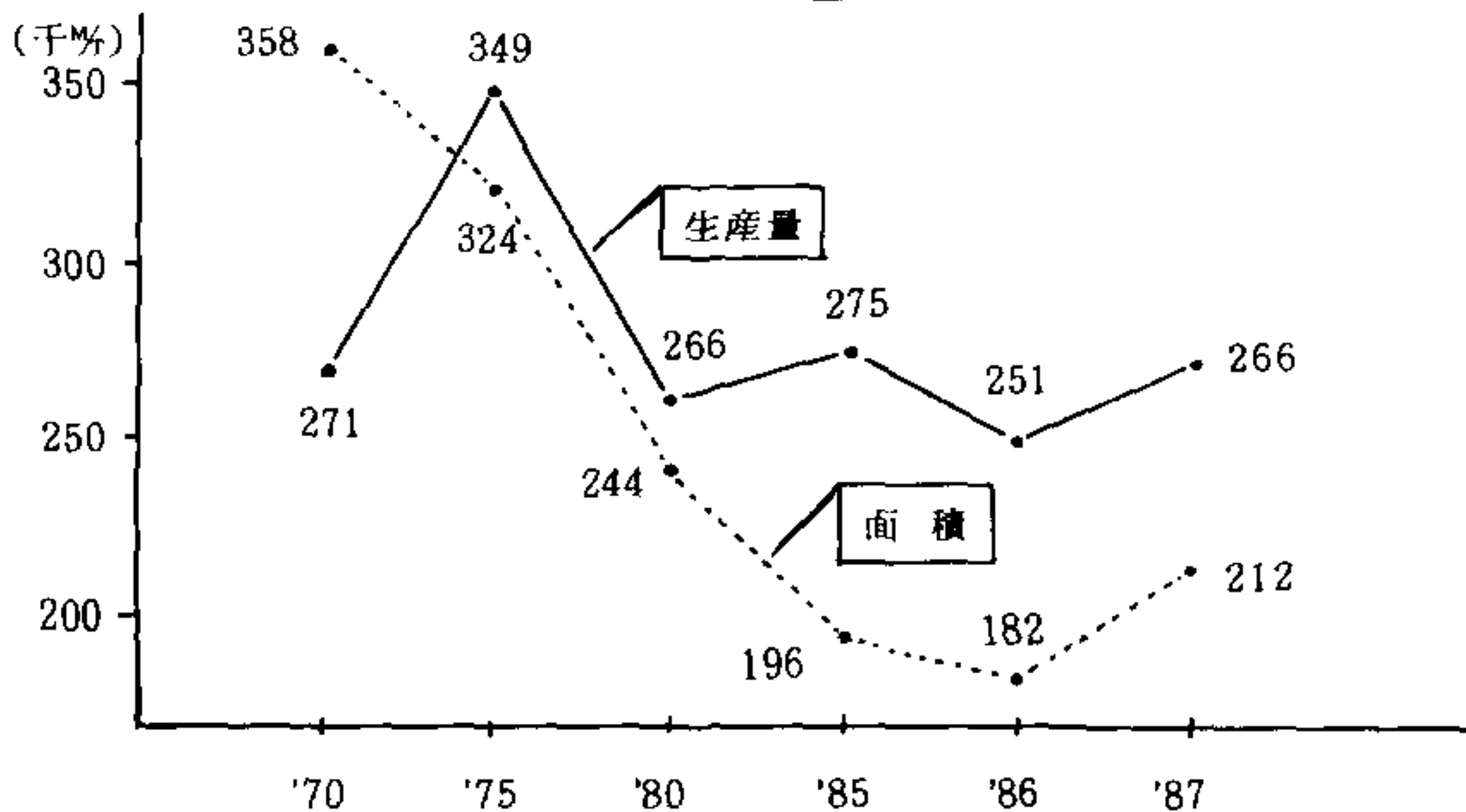
나. 豆 類

豆類 生産量은 70年代 중반 이후 매년 줄어들어 '86년에는 251千%에 그쳤으나 '87년에는 前年對比 6% 增産된 266千%이 생산되었다. 이처럼 '87년에 豆類 生産量이 增加된 原因은 豆類의 主宗을 이루는 콩의 栽培面積이 20千ha나 늘어남에 따라 生産量도 前年보다 2% 증가된 203千%으로 늘어났기 때문이다.

콩은 增産可能性이 큰 作物로서 適正水準의 自給率을 維持하기 위하여 '83年 부터 增産施策을 推進하고 있다. '87年에도 農協으로 하여금 增産團地를 51.5千ha로 擴大 造成케 하고, 優良種子供給과 複合肥料 支援 등으로 增産을 誘導하였던 것이다.

<圖 1-3-2>

豆類 生産量 推移



資料：農林水産部 農水産統計官室

한편, 최근 加工需要가 크게 늘어나고 있는 팥, 綠豆도 增産을 기하기 위해 콩과 함께 示範圃地 800ha (팥 500ha, 綠豆 300ha)를 造成하고, 收買價格豫示制를 실시하는 한편 優良種子와 複合肥料를 支援하였다.

이에 따라 팥의 栽培面積은 '86年보다 20%가 많은 32.2千ha로 增加함으로써 生産量은 前年보다 15% 많은 35.1千%에 이르렀다. 綠豆도 栽培面積이 '86年보다 6% 增加하였고, 生産量은 平年보다 약간 늘어난 7.1千%이었다

다. 薯 類

감자, 고구마 등 薯類는 單純食用消費의 減退로 需要가 줄어들음에 따라 栽培面積이 每年 減少趨勢에 있다.

'87年 감자生産은 그동안 擴大 普及해 온 優良種薯에 힘입어 10a當 收量이 2,071kg에 이르렀으나 栽培面積이 줄어들어 生産量은 450千%에 머물렀다.

그리고 감자需要 擴大를 위하여 最近 需要가 急激히 증가되고 있는 튀김감자의 需要全量을 '86년에 이어 '87年에도 國産으로 供給하였다. 아울러 튀김용 감자의 自給基盤을 擴充할 目的으로 이미 獎勵品種으로 指定된 加工用 감자品種인 長圓(Russet Burbank)의 政府普及種子 生産體系를 確立하고 감자의 年中供給을 위한 周年 生産體系를 確立해 나가고 있다.

한편, 고구마는 競合作物보다 所得이 떨어짐에 따라 栽培面積이 減少하게 되어 '87年 生産量은 前年の 79%에 해당하는 543千%에 불과하였다.

<表 1-3-7>

薯 類 生 産 量

(單位：千ha, 千%)

		'70	'75	'80	'85	'86	'87
計	面 積	180	147	92	58	58	47
	生 産 量	2,741	2,614	1,549	1,362	1,250	993
감 자	面 積	53	52	37	31	28	22
	生 産 量	605	661	446	575	566	450
고구마	面 積	127	95	55	34	28	25
	生 産 量	2,136	1,953	1,103	787	684	543

註：生薯基準임.

資料：農林水産部 農水産統計官室

라. 雜 穀

'87年の 雜穀 栽培面積은 '86년에 비해 약간 늘어난 46千ha 수준이었으나 氣象與件이 不利했음에도 불구하고 生産量은 '86年보다 14%가 많은 149千%이었다.

옥수수는 栽培面積이 지난해에 비해 2千ha가 늘어남에 따라 生産量도 前年보다 14千%이 增加되었으며, 조와 메밀 등 其他 雜穀도 栽培面積 增加로 前年보다 4千%이 늘어난 22千%이 生産되었다.

<表 1-3-8> 雜 穀 生 産 量 (單位: 千ha, 千%)

		'70	'75	'80	'85	'86	'87
計	面 積	123	73	53	40	41	46
	生 産 量	124	92	170	147	131	149
옥 수 수	面 積	47	32	35	26	24	26
	生 産 量	68	54	154	132	113	127
其 他	面 積	76	43	18	14	17	20
	生 産 量	56	38	16	15	18	22

資料: 農林水産部 農水産統計官室

第2節 園藝作物

1. 菜 蔬

'87年の 菜蔬類는 栽培面積의 增加와 氣象好調로 인하여 豊作을 이루었으나 多少 過剩生産되었던 지난해에 비해서는 15%가 減産되었다.

主要 品目別 生産量을 보면, 物量面에 있어서 큰 比重을 차지하고 있는 무우, 배추가 前年보다 각각 10%와 29%가 減産되었는데 이것은 김장무우, 김장배추 播種期인 8月 中下旬의 颱風 등 氣象災害로 인하여 栽培面積이 무우 5%, 배추 30%가 줄어들음에 따라 生産量도 前年對比 각각 10%와 30%

減少하였기 때문이다.

한편, 양념類중 고추는 前年の 過剩生産으로 말미암아 價格이 낮게 形成된데 영향을 받아 栽培面積이 감소하였고, 또 7~8월에 氣象條件이 不利하여 生産量은 '86年보다 30% 減少하였다. 마늘과 양파는 面積增加와 함께 4~5月の 球肥大期에 氣象好調로 單位面積當 收量이 각각 6%와 15% 增加되어 生産量은 마늘 8%, 양파 39%가 늘어났다.

<表 1-3-9>

菜 蔬 生 產 量

(單位：千ha, 千%)

	'75		'80		'85		'86		'87	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
計	243	4,630	369	7,478	356	7,543	389	8,496	325	7,224
무	36	1,370	49	1,973	38	1,587	38	1,705	35	1,537
배	39	1,263	48	3,040	41	2,790	48	3,409	37	2,434
고추	99	128	133	125	118	165	129	198	89	138
마늘	14	103	37	253	39	256	48	370	49	401
양파	4	95	8	275	11	440	10	379	12	525
기타	51	671	94	1,812	110	2,305	116	2,435	103	2,189

資料：農林水産部 農水産統計官室

2. 果 實

'87年の 果實生産은 두 차례의 颱風에도 불구하고 平年作 水準을 넘어서는 1,622千%이 生産되었으며 이중 사과와 감귤은 '86年보다 각각 10%와 30%가 増産되었으나, 배, 복숭아, 포도는 '86年보다 약간 減産되었다.

'87年에도 果實의 品質向上과 商品性 提高를 위하여 農漁村地域開發基金 1,288百萬원을 지원하여 사과, 배, 감귤을 중심으로 既存 在來品種 700ha를 優良品種으로 更新하였으며, 사과, 배의 경우 集團栽培團地 2個所에 153百萬원을 지원하여 選果場, 選果機 등 農家共同利用 施設을 설치하였다.

한편 果實의 長期需要增加에 安定的으로 대처하기 위하여 2,867百萬원의 農漁村地域開發基金을 지원하여 山地開發 및 低位生産 農地에 1,420ha의 新

規果園을 造成함으로써 果實의 生産基盤을 擴充하였다.

<表 1-3-10>

果 實 生 產 量

(單位：千ha, 千%)

	'75		'80		'85		'86		'87	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
計	74.1	543.1	99.1	833.1	108.7	1,463.8	112.8	1,475.2	116.3	1,621.7
사 과	30.9	279.6	46.1	410.0	37.7	532.6	36.4	537.7	39.0	588.7
배	9.3	49.4	9.2	59.6	9.0	128.1	9.0	135.1	8.1	126.2
부 송 아	9.1	61.0	10.4	88.7	13.1	131.5	14.5	138.7	14.0	137.7
포 도	7.4	49.9	7.6	56.8	16.2	149.9	17.0	165.5	16.8	158.2
감 굴	9.3	67.4	12.2	161.4	15.7	370.5	16.8	339.5	18.2	441.0
其 他	8.1	35.8	13.6	56.6	17.0	151.2	19.1	158.7	20.2	169.9

資料：農林水産部 農産物流通局

3. 花 卉

花卉産業은 持續的인 需要增大를 바탕으로 빠른 速度로 成長하고 있으며 花卉産業育成施策의 一環으로 推進된 施設現代化, 先進技術普及 및 優良種 苗의 生産普及으로 花卉類 生産性이 提高되었다. 花卉栽培面積은 '87年 에는 '88年보다 1% 增加에 不過했지만 生産額은 11%나 增加한 977億원으 로 늘어났으며 花卉類 輸出도 크게 伸張되어 '87年 輸出額은 '86年보다 37%가 많은 4,959千\$에 달해 '82年以後 계속 되어온 輸入超過現象이 해소되었다.

<表 1-3-11>

花卉生産 및 輸出入 動向

	單位	'75	'80	'85	'86	'87
栽 培 面 積	ha	1,070	1,280	2,249	2,381	2,410
農 家 數	戶	2,446	2,733	5,365	6,105	6,737
生 産 額	百萬원	6,716	21,351	74,599	88,156	97,699
1 人 當 消 費 額	원	190	531	1,823	2,122	2,320
輸 出 額	千 \$	1,219	2,836	2,620	3,614	4,959
輸 入 額	千 \$	354	1,123	3,697	3,681	4,498

資料：農林水産部 農産物流通局

第3節 特用作物과 蠶業

1. 特用作物

需要가 增加하고 있는 참깨와 땅콩은 價格豫示制와 收買를 통한 價格支持 그리고 優良品種 및 비닐 被覆栽培法 普及 등으로 增産을 誘導하고 있다.

참깨의 경우 '87年 栽培面積은 '86年보다 6.7%가 증가한 94.3千ha로 늘어났으나 生産量은 開花期 및 收穫期の 豪雨 被害 등으로 인하여 지난해보다 10.2%가 減少한 43.3千% 生産에 그쳤다. 반면 땅콩은 增産施策에 힘입어 栽培面積 및 單位面積當 收量이 增加하여 '86年보다 10千%이 늘어난 32.2千%을 生産하였다.

한편, '70年代 後半부터 生産量이 減少趨勢를 보였던 油菜는 국내 油脂作物의 活用을 위한 農家出荷全量收買, 新品種供給 등의 增産施策에 힘입어 '87년에는 '86年과 같은 水準인 7.8千%을 生産하였다. 또한 麥酒用 호프는 氣象災害로 인하여 生産量이 600%에서 500%으로 줄었으며, 洋松茸는 栽培面積이 다소 줄어들었으나 生産量은 지난해보다 17.8%가 늘어난 13.9千%을 生産하였다.

<表 1-3-12>

特用作物 生産量

(單位: 千ha, 千%)

		'75	'80	'85	'86	'87
참깨	面積	52.2	48.7	73.4	88.4	94.3
	生産量	25.1	7.1	40.8	48.2	43.3
땅콩	面積	9.1	12.0	11.6	13.3	21.9
	生産量	7.6	9.2	16.3	20.2	32.2
油菜	面積	26.8	14.7	4.1	3.9	4.6
	生産量	34.7	26.5	6.2	6.6	7.8
호프	面積	0.1	0.4	0.5	0.4	0.4
	生産量	0.05	0.3	0.7	0.6	0.5
洋松茸	面積(千坪)	624	535	272	210	201
	生産量	25.1	25.6	17.3	11.8	13.9

資料: 農林水産部 農水産統計官室

2. 蠶 業

蠶業振興을 위하여 '87년에는 蠶業 生産基盤擴充과 生産性向上에 力點을 두고 國庫 16億원과 蠶業 振興基金 40億원을 投資하여 養蠶適地에 뽕나무 29百萬 그루를 심어 密植뽕밭 1,660ha를 集團造成하는 한편 養蠶主產地 마을 2,000個所를 育成하였고, 애누에 共同蠶室 160棟을 건축하였으며 省力養蠶 推進을 위한 各種機資材도 支援하였다.

그러나 '87년 누에고치 生産量은 農村勞動力 不足 등으로 인한 農民들의 飼育忌避로 '86年보다 1,525%이 적은 7,203%에 그쳤다.

生絲類 輸出을 보면, 輸出市場 多邊化와 附加價値가 높은 生絲加工製品의 輸出增大施策으로 美國, 캐나다 등 美洲地域과 사우디, 리비아 등 中東地域에 絹織物 및 絹衣類 加工製品 輸出이 크게 늘어 '87년의 輸出額은 '86年の 308百萬\$ 보다 많은 430百萬\$에 달하였다.

〈表 1 3 13〉 蠶 業 現 況

	單 位	'70	'75	'80	'85	'86	'87
養 蠶 農 家	千 戶	493	481	272	91	75	60
뽕 밭 面 積	千 ha	85.0	90.9	36.6	20.4	20.0	17.2
누에고치生産	千 %	21.4	36.1	20.0	9.0	8.7	7.2
生 絲 生 産	千 俵	50.4	91.0	54.6	27.1	25.8	25.1
生絲額輸出	千 俵 (百萬\$)	45.7 (75.0)	89.4 (240.0)	47.5 (244.0)	59.4 (256.0)	73.5 (308.0)	89.1 (430.0)

資料：農林水産部 農産局

한편, 蠶絲類 民間輸出入業者들의 輸出入 利潤의 一部를 積立하여 조성된 蠶業振興基金으로 그간 蠶絲業에 再支援되어 왔으나 '87년에는 養蠶農家를 상대로 蠶繭價格외에 生産獎勵金 22億원을 支給하는 등 對農民事業費가 大 幅 늘어남에 따라 基金造成만으로는 이를 充當할 수 없게 됨에 따라 '88年 에는 政府豫算에서 20億원을 支援키로 하였으며, 이 支援額은 今後 蠶繭收 買時 生産獎勵金으로 支給되도록 할 計劃이다.

第4節 畜產物

1. 家畜飼育

가. 소

'87年末의 소 飼育頭數는 2,386千頭로서 '86年末의 2,807千頭보다 15% 減少하였다. 이중 韓(肉)牛의 飼育頭數는 1,923千頭로서 前年보다 18.9%가 줄었으며, 飼育戶數도 991千戶에서 854千戶로 減少하였다. 이처럼 飼育頭數가 줄게 된것은 '84年 이후 계속 下落趨勢에 있는 소값을 安定시키기 위하여 政府에서는 소를 收價·備蓄하였는가 하면, 農家의 飼育意慾 減退와 함께 암소 屠畜比率이 46%를 上廻하여 송아지生産이 줄어들었기 때문이다.

한편 젖소 飼育頭數는 '86年末의 437千頭에서 '87년에는 463千頭로 5.9% 늘어났으나 '87年の 增加率은 '86年の 12.1%에 비하여 크게 鈍化된 수준이다.

나. 돼지와 닭

'87年末 돼지의 飼育戶數는 303千戶로서 '86年の 262千戶에 비하여 15.6%가 增加하였고 飼育頭數도 27.9% 늘어난 4,281千頭に 달하였으며, 닭은 '87年末의 飼育戶數가 269千戶로서 '86年の 282千戶에 비하여 4.6%가 減少한 반면 飼育首數는 59,324千首로 '86년에 비하여 5.8%가 늘어났다.

<表 1-3-14>

家畜 飼育頭數와 戶數

(單位: 千頭, 千戶)

			'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
飼育頭數	소	計	1,541	2,943	2,807	2,386	△15.0 %
		韓(肉)牛	1,361	2,533	2,370	1,923	△18.9
		젖소	180	390	437	463	6.0
	돼지		1,784	2,853	3,347	4,281	27.9
	닭		40,130	51,081	56,095	59,324	5.8
飼育戶數	소	計	967	1,092	1,034	892	△13.7
		韓(肉)牛	949	1,048	991	854	△13.8
		젖소	9	44	43	38	△11.6
	돼지		503	251	262	303	15.6
	닭		692	303	282	269	△4.6

資料: 農林水産部 農水産統計官室

2. 畜産物 生産

가. 肉 類

'86년에는 產地 肉값이 下落된 状態에 있었기 때문에 소의 屠畜頭數가 크게 늘어났었지만 '87년에는 肉값이 점차 安定勢로 돌아섰기 때문에 屠畜頭數가 크게 늘어나지 않았다. 이에 따라 '87년의 總肉類生産量이 '86年보다 10.2% 増加한 662.9 千톤이었음에도 불구하고 쇠고기 生産量은 149.2 千톤으로서 前年보다 1.3%가 減少하게 된 것이다.

한편 돼지고기 生産量은 飼育頭數의 増加에 따라 '87년에는 373 千톤을 생산하여 '86年の 321.3 千톤에 비하여 16.1%가 증가하였고, 닭고기도 8.7%가 늘어난 141 千톤이 생산되었다.

나. 牛乳와 鷄卵

牛乳 生産量은 젖소의 飼育頭數 増加와 함께 酪農技術이 크게 發展됨으로써 頭當 牛乳生産量이 계속 늘어남으로 '86年の 14.8% 増加에 이어 '87年에도 '86年 對比 22.4%가 増加하였다.

한편 鷄卵은 前年보다 9.0%가 늘어난 362 千톤이 생산되었다.

<表 1 3 - 15>

畜 産 物 生 産 量

(單位：千噸)

		'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
肉 類	計	419.0	588.2	601.8	662.9	10.2 %
	쇠고기	93.3	116.8	151.2	149.2	△1.3
	돼지고기	235.2	345.2	321.2	373.0	16.1
	닭고기	90.5	126.2	129.4	140.7	8.7
牛	乳	452.3	1,005.8	1,154.5	1,413.1	22.4
鷄	卵	250.0	296.5	331.6	361.5	9.0

資料：農林水産部 畜産局

3. 粗飼料 生産

畜産物の 消費가 増加됨에 따라 家畜飼育頭數가 늘어나고 이에 따라 飼料

消費도 增加되고 있으나 國內에서 調達이 可能한 飼料原料는 限定되어 있기 때문에 飼料原料 輸入이 增加되고 있다.

따라서 國內飼料資源의 開發을 통한 飼料自給度를 높여 건전한 畜産基盤을 構築하기 위하여 粗飼料 增産을 積極的으로 誘導해 나가고 있으며 특히 草食家畜의 飼料 給與率을 높이기 위하여 山地草地를 積極적으로 開發하고 青刈 및 畚裏作 飼料作物의 栽培擴大를 적극 督勵하는 한편 草地造成 許可節次 改善을 위한 關聯法令 改正과 技術指導등 각종 行政的 支援을 強化해 나가고 있다.

'87년에는 新規로 3,223ha의 草地를 造成하여 '87年末의 草地 管理面積은 87,573ha로 늘어났으나 牧草生産은 오히려 '86年보다 11.1%가 줄어든 666千%에 不過하였다. '87년에 新規로 造成된 草地를 造成方法別로 區分해 보면 耕耘草地 1,299ha, 不耕耘草地 2,459ha, 林間草地 88ha이며 事業別로 分類하면 一般草地 2,785ha, 畜協示範草地 277ha, 自力草地 211ha이다.

<表 1-3-16>

草 地 造 成 實 績

	單 位	'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
新 規 造 成	ha	3,125	5,111	3,871	3,223	△16.7 %
管 理 面 積	"	48,350	80,732	84,567	87,573	3.6
牧 草 生 產 量	千 %	363	649	749	666	△11.1

資料：農林水産部 畜産局

<表 1-3-17>

飼 料 作 物 栽 培 實 績

(單位：千ha, 千%)

		'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
畚 裏 作	面 積	38	86	100	109	9.0 %
飼 料 作 物	生 產 量	203	734	803	989	23.2
青 刈	面 積	14	69	104	124	19.2
飼 料 作 物	生 產 量	215	1,085	1,666	2,019	21.2
計	面 積	52	155	204	233	14.2
	生 產 量	418	1,819	2,469	3,008	21.8

資料：農林水産部 畜産局

한편 '87년의 飼料作物 栽培面積은 '86年보다 29千ha가 늘어난 233千ha였으며, 飼料作物 生産量은 3,008千噸으로 '86年보다 21.8%가 늘어났다.

4. 畜産物衛生과 家畜防疫

不正畜産物の 流通을 防止하고 肉類의 衛生的인 處理와 供給을 위하여 '81年부터 零細屠畜場의 統廢合 整備事業을 계속하여 施設을 近代化시켜 왔다. 이에 따라 '87년의 全國 屠畜場은 基準年인 '81年에 비하여 168個가 줄어들었으나 特級屠畜場은 19個所가 增設되어 畜産物을 衛生的으로 處理하여 供給하는데 기여하였다.

表 1 3 18 >

屠畜場 整備現況

(單位: 個所)

	'77	'79	'81	'83	'87
計	515	401	351	208	183
特 級	47	47	47	54	66
1 級	148	148	147	147	99
2 級	320	206	157	7	18

資料: 農林水産部 畜産局

또한 家畜防疫을 위하여 '87년에 소, 돼지등 5,490千頭에 豫防注射를 接種하고, 485千頭에 檢診을 실시하였으며, 家畜傳染病 早期發見을 위한 家畜血清檢査를 擴大하고 絞乳乳房炎 防除事業을 실시하는 한편 '88서울올림픽에 對比하여 國內 馬匹에 대한 傳染病 檢診도 強化하였으며, 動物 및 畜産物의 輸出入 物量增加와 輸入地域의 多邊化에 따른 口蹄疫등 海外 惡性傳染病의 國內流入을 방지하기 위하여 外來性 家畜傳染病 防疫訓練을 UNDP와 공동으로 實施하였다.

第 4 章 農業生産基盤 造成과 營農支援

第 1 節 農業生産基盤의 擴充

農業生産基盤整備는 安全營農의 實現과 高能率의 農業生産構造를 確立함으로써 農業의 生産性 向上을 위한 가장 基本的인 課題가 되고 있다. 그러나 아직도 氣象災害로 인한 農作物 被害가 빈번히 發生되고 있으며 營農能率面에서도 營農機械化등을 통해 效率的인 營農作業이 이루어지기에는 未洽한 狀態에 있어 生産基盤에 대한 지속적인 整備가 크게 要請되고 있다.

'87年에도 農業部門 豫算의 47%를 農業生産基盤造成事業에 投入하여 農業用水開發, 耕地整理, 排水改善事業을 보다 擴大하여 推進하였다.

1. 農業用水 開發

農業用水開發事業은 '81年度에 마련된 農業用水開發 10個年計劃에 의거 推進해오고 있다. '87년에 實施된 農業用水開發事業을 보면, 中規模用水開發에 있어서 對象地區 總 93個 地區 57,778ha중 9개 地區 5,829ha를 우선 竣工하고, 新規로 21個 地區 11,589ha에 事業을 착수했으며, 63個의 繼續地區 40,360ha에 대해서는 16個 地區 11,258ha를 竣工前에도 計劃蒙利面積의 일부에 給水가 가능하도록 하였다.

小規模 農業用水開發事業은 116個 地區 3,600ha에 대한 事業을 추진하여 그중 43個 地區 1,182ha를 竣工하였으며, 既存 水利施設중 물이 不足한 173個 地區 14,550ha에는 農地改良組合 또는 市長, 郡守 主管下에 시행하는 貯水池 嵩上工事 등의 補強開發事業을 실시하여 84個 地區 3,163ha를 完工하고 老朽 水利施設 360個所에 대해서도 改補修를 실시하였다.

한편 旱害가 極甚한 지역으로서 地表水開發이 不適合한 지역에 대해서는 恒久施設인 大型管井 347孔, 旱魃對備用 小型管井 17,594孔 및 移動式 揚水施設 99個所를 開發하여 10,372ha에 農業用水 供給이 가능하도록 하였다. 아울러 5,143ha(田作地帶포함)의 水脈調査를 完了하여 水利地質圖를 增補하였다.

<表 1-4 1>

農業用水開發 10個年計劃 推進實績

(單位：千ha)

	10 個 年 開 發 計 劃	'82~'87 (6 個 年)		'88 ~ '91 計 劃
		實 績	%	
計	555	225.4	41	329.6
新規開發(大·中·小規模)	355	94.5	27	260.5
補強開發(地表, 地下水)	60	21.6	36	38.4
旱魃對備(管井, 簡易施設)	140	109.3	78	30.7
水 脈 調 査	(114)	(47)	(97)	(67)

資料：農林水産部 農漁村開發局

2. 耕地整理와 排水改善

耕地整理事業은 '60年代 이후 産業化에 따른 農村人口의 지속적인 減少로 인하여 農繁期 農村勞動力의 不足에 대처하기위한 營農의 機械化를 위해 그 必要性이 크게 增大되고 있다.

'87年の 耕地整理事業은 '87年 6月 以前에 完了한 봄마무리가 20,807ha로 서 適期移秧에 지장이 없도록 하였으며, 봄마무리 面積보다 約 4千ha가 많은 가을着手 地區 25,176ha에 대해서도 工程計劃에 따라 '87年 12月末 현재 計劃의 40%를 달성하였다.

이같은 耕地整理事業의 擴大施行에 힘입어 '87年末 현재 對象面積 706千ha 중 488千ha가 完了되어 耕地整理率은 69%에 이르고 있다.

耕水改善事業은 集中豪雨로 인하여 農耕地의 浸水, 流失 등이 자주 發生되는 우리의 與件下에서 安全營農과 農地汎用化를 위해서 필요한 事業으로 降雨를 直接排水하는 排水場과 自然排水를 위한 承水路, 排水路 등이 있는데

排水場施設은 설치후 維持管理를 위한 費用 등이 每年 所要되며 自然排水가 不可能한 地域에 설치되고 있다.

排水改善事業은 全國의 排水改善 對象面積 127千ha에 거주하는 農民들의 勞動力 節減과 單位面積當 生産力 增加는 물론 地域間 生活平準化를 위하여 실시되고 있다. '87년에는 91個 地區 23,450ha에 이 事業을 施行하여 19個 地區 6,047ha를 完工함으로써 排水改善率이 35%(45千ha)에 이르렀다.

<表 1-4-2> 農地(畝)의 整備現況 (單位: 千ha)

	'75	'80	'84	'85	'86	'87
畝面積	1,277	1,307	1,320	1,325	1,329	1,331
水利畝(累計)	790	893	935	949	965	979
水利畝率(%)	(62)	(68)	(71)	(72)	(73)	(74)
耕地整理(累計)	277	359	431	447	467	488
耕地整理率(%)	(39)	(62)	(61)	(63)	(65)	(69)
排水改善(累計)	8	20	31	33	39	45
排水改善率(%)	(6)	(16)	(25)	(26)	(31)	(35)

資料: 農林水産部 農漁村開發局

3. 大單位農業綜合開發과 農地擴大

大單位的 特定地域을 對象으로 農業用水開發, 耕地整理, 排水改善, 干拓開畝 등을 綜合적으로 실시하는 大單位農業綜合開發事業은 그동안 洛東江, 南江地區 등 9個 地區를 完工하고 榮山江(Ⅱ), 插橋川 등 7個 地區에 工事를 推進중에 있으며 '87년에는 793億원을 投資하여 이들 지역에 防潮堤, 揚排水場, 耕地整理 등을 施行하여 '87年末까지 總工程의 60%를 끝마쳤다.

한편 産業化 및 都市化로 인한 農地減少에 대처하고, 食糧의 安定的 供給基盤을 擴充하기 위한 農地開發事業은 未完工 干拓地 1,590ha의 마무리事業과 西南海岸 6個 地區 5,910ha에 대한 干拓事業을 施行하고 있으며, 특히 建國 이후 最大規模인 새만금 干拓事業 42千ha에 대한 妥當性調査를 實行 중에 있다.

<表 1-4-3>

'87年農業基盤造成事業實績

(單位：百万円)

	'87 實 績									
	施 行		竣 工		事 業 費					自 擔
	地區數	面積	地區數	面積	計	國庫	地方費	財特	外資	
< 農業用水開發 >		93,647 ^{ha}		27,559	150,968	105,009	9,250	27,226		9,483
1. 大・中規模農業用水開發	93	57,778	9	5,829	83,232	58,568		24,664		
2. 小規模農業用水開發		4,396		1,978	17,569	12,307	3,810			1,452
○ 地 表 水	116	3,600	43	1,182	11,579	8,109	2,333			1,137
○ 地 下 水	284 ^孔	796	284 ^孔	796	5,990	4,198	1,477			315
3. 旱魃對備用水開發		10,063		10,063	8,128	6,534	160			1,434
○ 小 型 管 井	17,594 ^孔	8,797	17,594 ^孔	8,797	6,281	5,004				1,277
○ 移 動 式 揚 水 施 設	99	1,266	99	1,266	1,547	1,230	160			157
○ 送 水 立 本		200 ^{km}		200 ^{km}	300	300				
4. 補 強 開 發		14,859		3,472	15,371	10,726	3,018			1,627
○ 地 表 水	173	14,550	84	3,163	13,664	9,534	2,596			1,534
○ 地 下 水	63 ^孔	309	63 ^孔	309	1,707	1,192	422			93
5. 在 來 水 汲 取	165	3,359	165	3,359	8,425	5,882	1,459			1,085
6. 地 下 水 堪 探	5	383	2	120	1,435	1,220		215		
7. 水 壓 調 査		5,143		5,143	1,775	1,775				
8. 團 營 主 產 團 地 用 水 開 發	3,411 ^孔	2,809	3,411 ^孔	2,809	2,354	1,646	524			184
9. 濟 州 道 地 下 水 開 發	10 ^孔		10 ^孔		558	279	279			
10. 農 組 水 利 施 設 改 補 修	360		303		12,041	5,993		2,347		3,701
11. 水 質 污 染 調 査	143 ^{地點}		143 ^{地點}		80	80				
生 產 基 盤 擴 充	703	69,433	242	26,854	173,475	114,449	26,749	5,737		26,450
1. 耕 地 整 理	587	45,983	209	20,807	136,245	83,165	26,540			26,450
2. 排 水 改 善	91	23,450	19	6,047	32,421	27,604		4,817		
3. 國 家 管 理 防 潮 堤 改 補 修	25		14		4,809	3,680	209	920		
< 大 單 位 農 業 綜 合 開 發 >	7	37,664		2,878	74,149	74,149				
○ 榮 山 江 (Ⅱ)		8,014		709	11,800	11,800				
○ 論 山		3,562			8,100	8,100				
○ 播 橋 川		16,912			14,500	14,500				
○ 美 湖 川		4,018		2,169	8,500	8,500				
○ 大 湖		5,158			8,322	8,322				
○ 錦 江 (Ⅰ)					21,500	21,500				
○ 榮 山 江 (Ⅲ-Ⅰ)					1,427	1,427				
合 計		199,173		57,331	398,592	293,807	35,999	32,963		36,023

資料：農林水産部 農漁村開發局

第 2 節 種子 및 生産資材의 供給

1. 種 子

'87년에 供給한 優良種子是 벼, 옥수수, 콩, 감자 등 夏季作物 9個 品目과 보리, 밀, 호밀 등 冬季作物 6個 品目이었다. 이중 政府保證種子(普及種)를 供給한 作物은 벼, 보리, 옥수수 등 4個 品目이고, 콩, 팥, 녹두, 참깨, 땅콩 등 其他作物은 國家에서 原種까지만 生産하고 農家에 공급한 普及種은 道知事 및 農協 責任下에 採種圃 또는 指導機關이 示範圃를 設置生産하여 원하는 農家끼리 서로 自律交換하도록 하였다.

'87년의 普及種 供給에 의한 作物別 種子 更新率は 벼 12%, 보리 6%, 감자 22%, 옥수수 45% 水準으로서 특히 種子の 退化가 심한 감자, 옥수수의 更新率을 높였다. 벼種子 供給은 農家 嗜好度 및 消費者의 選好度 등을 감안하여 米質이 좋은 一般系 品種을 '86년의 68%에서 '87년에는 86%로 供給比率를 높였다. 보리는 契約栽培에 따라 面積擴大가 豫想되어 當初의 生産目標量 1,271%보다 30%가 많은 1,646%을 收買하여 供給하는 등 보리種子 需要增加에 대처하였다. 옥수수의 경우에는 畜産農家の 自給飼料 擴大를 기하기 위하여 需要가 增加하고 있는 交雜種 “水原 19號”를 擴大生産하고, 忠北 堤川에 年間 1,500%生産處理規模의 精選工場을 '87年末에 竣工稼動하는 등 옥수수種子の 完全自給體系을 확립하였다.

감자는 88올림픽 개최에 따른 加工감자製品의 需要擴大에 對備하여 加工用 品種인 러세트 버뱅크 및 세포디 등을 導入하여 試驗播種을 하였다. 러세트 버뱅크는 “長圓”으로 命名하고 이를 '87年獎勵品種으로 指定하여 原原種 3.6%을 생산함으로써 加工用 감자의 國內生産 體系를 확립하였다. 콩, 팥, 녹두, 참깨 등도 優良種子の 生産을 擴大하여 自律交換하도록 함으로써 收量이 적게 나는 在來種을 新品種으로 代替하였다.

<表 1-4-4>

'87年 主要 農作物種子 生産量

(單位：%)

		原 原 種	原 種	普 及 種
計		115.6	1,182.1	22,059
夏 季 作 物		108.1	1,059.2	19,447
	벼	1.2	111.9	8,406
	옥수수	0.3	12.5	821
	감자	90.0	792.6	7,026
	콩	5.6	89.6	(1,860)
	팥	0.6	10.5	(198)
	녹두	0.2	4.2	(176)
	고구마	9.4	26.3	(635)
	참깨	0.1	4.7	(222)
	땅콩	0.7	6.9	(103)
冬 季 作 物		7.5	122.9	2,612
	길보리	1.4	35.8	615
	쌀보리	2.5	44.2	1,031
	맥주보리	3.6	42.9	(966)

註：()內는 自律交換 採種圃産임.

資料：農林水産部 農産局

또 優良種자의 供給을 원활히 하기 위하여 農家の 嗜好度 및 栽培意向 등을 事前에 調査하여 이를 바탕으로 道單位의 地域種子協議會에서 決定한 地域別 獎勵品種의 普及種 生産圃場을 指定하여 種子를 生産하고 各種檢査에 합격한 優良種子에 한하여 國立種子供給所에서 精選, 消毒, 包裝 후 農家の 自律的인 申請에 의하여 農協系統組合을 통하여 이를 공급하였다.

특히 벼의 優良種子 供給에 있어서는 耐災害 安全多收의 良質品種을 地帶別, 主作別, 部落別로 推薦揭示하고 營農教育時 品種의 特性教育을 실시하고 아울러 農民들이 직접 벼의 生育狀況을 관찰하여 營農條件에 알맞는 優良品種을 選擇할 수 있도록 品種比較 展示圖를 邑面當 3個씩 모두 4,185個所를

설치 함으로써 適地適品種 按配에 의한 安全生産을 도모하였다.

한편 優良種子の 원활한 需給 및 管理의 適正을 기하기 위하여 主要農作物種子法에 의거, 種子基金을 設置 運用하고 있다.

<表 1-4-5>

主要種子の 普及種 供給量

(單位: %)

	'83	'84	'85	'86	'87
벼	8,167	4,838	6,969	6,088	7,324
보리	761	1,323	1,347	1,308	1,560
옥수수	334	349	615	577	620
감자	4,887	4,489	5,075	6,248	7,553

資料: 農林水産部 農産局

種子基金의 造成은 '75년부터 '81년까지 政府出捐金 2,707百萬元과 優良種子の 販賣代金 및 一般會計 轉入金 등을 財源으로 하고 있다.

<表 1-4-6>

種子基金 運用 實績

(單位: 百萬元)

	'83	'84	'85	'86	'87	
收入 (調達)	販賣收入	8,152	6,001	8,282	8,500	10,379
	副産物販賣收入	126	43	56	52	98
	雜收入	173	196	252	364	384
	他會計轉入金	1,405	1,061	1,376	979	854
	前年度移越金	306	331	376	561	127
	基金預託	5,000	3,770	5,636	5,140	6,400
計	15,162	11,402	15,978	15,596	18,242	
支出 (運用)	種子買入金	5,396	4,749	5,890	6,628	7,990
	生産補償金	365	423	473	729	856
	操作用費	360	177	276	319	475
	代行手数料	218	151	230	235	386
	貯藏品費	184	161	191	214	301
	償還金	2,460	1,033	1,058	1,350	2,148
	種子消毒費	145	117	259	194	236
	預託金回收	5,696	4,210	7,040	5,800	5,620
	廣告費	7	5			
次年移越	331	376	561	127	230	

資料: 農林水産部 農産局

'87년까지의 造成額은 9,276百萬원이며 '87年の 基金運用 內容은 벼, 보리, 감자, 옥수수 등의 種子 買入費 7,990百萬원을 비롯하여 生産補助金, 輸送操作費 등으로 사용함으로써 總運用規模는 18,242百萬원이었다.

2. 農 機 械

가. 農機械 供給

勞動節約的 營農基盤을 造成하여 農村 勞動力 不足에 대처하고 營農의 效率化를 기하기 위해 需要가 큰 移秧과 收穫作業의 機械化에 보다 力點을 두고 있다.

'87년에는 耕耘機 54千臺, 收穫機 13千臺, 트랙터 5千臺, 管理機 7千臺 등 總 107千臺의 農機械를 供給하였다. 이를 위해 農業機械化資金 1,735億원을 지원하고, 機械化營農團에 대한 供給機種에 134億원을 補助 支援하였다.

'87年末 현재 農家에서 保有하고 있는 農機械는 2,110千臺로서 '86年末의 1,985千臺에 비하면 6%가 增加하였다. 移秧機의 경우 '80년에 農家 100戶當 0.5臺 水準에서 이제는 100戶當 4.1臺 水準을 保有하게 되었으며, 콤바인,

<表 1 4 7>

年度別 農機械 供給 및 融資支援

(單位: 臺, 百萬원)

	'70	'75	'80	'86	'87
耕 耘 機	3,581	27,970	61,237	60,692	53,981
트랙터		200	562	4,243	4,912
移秧機			9,033	17,573	17,858
콤바인			4,204	6,374	7,374
乾燥機			790	5,074	5,871
管理機			217	712	1,434
其他	31,913	35,835	41,624	12,914	8,286
計	35,494	64,005	117,667	107,582	106,930
資金支援	2,859	15,490	88,215	177,845	186,971
融資	1,429	14,967	86,905	166,232	173,525
補助	1,430	523	1,310	11,613	13,446

資料: 農林水産部 農業政策局

바인더 등 收穫機는 100戶當 0.7臺에서 3.1臺로 늘어났다.

또한 農機械 利用增加에 따른 農民負擔을 輕減하기 위해 農業機械用 油類에 대한 特別消費稅와 附加稅를 免除하였으며 이로 인하여 總 148億원의 負擔輕減 效果를 가져왔다.

<表 1-4-8> 主要 農機械 保有台數 및 資金支援額 (單位: 千臺, 億원)

	'70	'75	'80	'86	'87
計	152.7	418.8	1,069.3	1,984.6	2,110.6
耕 耘 機	11.9	85.7	289.8	683.6	711.4
트랙터	0.1	0.6	2.7	16.2	19.9
移 秧 機	-	0.02	11.1	59.6	76.1
收 穫 機	-	0.1	14.9	48.4	58.7
管 理 機	-	-	-	-	6.5
防 除 機	45	137.7	331.9	586.4	628.3
揚 水 機	54.1	66	193.9	287.3	295.1
脫 穀 機	41	127.1	219.9	294.3	302.6
乾 燥 機	-	0.7	1.6	6.2	8.9
播 種 機	0.6	0.9	3.5	2.6	3.1
融 資 支 援 額	14	150	869	1,662	1,735

資料: 農林水産部 農業政策局

나. 機械化營農團 育成

農機械의 利用度를 높이고 購入費를 輕減시킴으로써 耕地面積이 적은 우리 營農與件下에서 機械化를 促進하기 위해 '81년부터 育成하기 시작한 機械化營農團은 '87年에도 小規模 1,154個所, 大規模 2,022個所를 新規로 組織하여 '87년까지 機械化營農團은 모두 9,061個所가 組織되었다.

機械化營農團에 대한 '87年の 支援內容은 補助 40%, 融資 50%로 모두 310億원을 지원하여 트랙터 737臺, 移秧機 3,234臺, 콤바인 1,966臺, 바인더 1,045臺, 乾燥機 995臺, 刈倒型刈取機 304臺, 其他 358臺 등 總 8,639臺의 農機械

를 供給하였다.

〈表 1-4-9〉 機械化營農團 育成現況 (單位：個所)

	'81~'84	'85	'86	'87			累 計
				計	大規模	小規模	
機械化營農團	3,685	1,100	1,100	3,176	2,022	1,154	9,061

資料：農林水産部 農業政策局

다. 農業機械 事後奉仕

農機械利用增加에 따른 農民의 불편을 最少化하기 위해 '87年度에 農機械 修理施設중 邑面單位의 修理店 14個所를 추가로 設置함으로써 이제 全國에 는 모두 2,425個所의 修理店이 設置 運營되고 있으며, 이는 邑面當 약 2個所 로 늘어나게 되었고, 郡單位 代理店도 75個所를 新設하여 總 729個所에 이 르게 되었다.

또한 農民의 部品購入이 용이하도록 部品確保資金 19億원을 修理店과 代 理店에 融資해 주고, 특히 輸入品中 '87년에 國産化된 部品 634種에 대해서 는 그 價格을 44.5%引下함으로써 總部品價格의 4%가 引下되는 結果를 가 져와 農民의 修理費負擔이 줄어들게 되었다.

한편 農機械 修理奉仕의 철저한 履行을 위하여 3月을 農機械 一齊點檢整 備의 달로 定하고 4月, 6月, 8月을 全國巡廻修理奉仕의 달로 定하여 行政機 關, 指導機關, 農協, 生産業體 및 代理店이 合同으로 巡廻修理奉仕와 技術指導

〈表 1-4-10〉 農業機械 修理施設 設置現況 (單位：個所)

	'80	'85	'86	'87
道綜合整備施設	-	24	28	26
道·部品센터	-	34	34	25
市·郡代理店	508	640	654	729
邑·面修理店	966	2,363	2,411	2,425

資料：農林水産部 農業政策局

를 實施하였다.

라. 農業機械 技術訓練

農業機械利用을 極大化하고 農業機械普及增加에 따른 安全事故防止를 위해 農業機械에 대한 지식과 運轉操作 및 作業技術 등을 農民들에게 習得시키기 위하여 '87年에도 74.6千名에 대한 農業機械의 運轉操作, 作業技術 등에 대한 教育을 實施하였으며 이로써 '87年까지의 教育人員은 모두 1,624千名에 달하게 되었다. 또 效率的인 訓練이 되도록 하기 위해 '86年에 이어 今年에도 9.3億원의 補助金을 支援하여 技術訓練用으로 트랙터 50台, 콤바인 50台를 全國 農業機械訓練機關에 供給하였다.

<表 1-4-11>

農業機械 技術訓練 實績

(單位：千名)

	'80까지	'85	'86	'87	累 計
計	578.6	181.6	187.0	74.6	1,642.3
專 門 技 術 人 力	9.8	1.6	2.3	2.1	22.4
靑 少 年, 技 能 士	16.4	2.4	2.3	2.1	33.3
婦 女 子	51.0	10.2	10.5	10.2	125.1
實 需 要 者	501.4	167.4	171.9	60.2	1,461.5

資料：農林水產部 農業政策局

마. 農業機械化 促進基金

農業機械化 促進基金은 農業機械化事業 推進에 必要한 財源을 確保, 支援함으로써 農業機械의 效率的인 普及과 利用으로 農業生産性向上과 農村近代化를 期하기 爲해 '80年부터 設置, 運營하고 있으며, 政府出捐金, 外國으로부터 借入金, 個人 및 團體의 出捐金 및 基金運用收益金을 財源으로 造成되고 있다. 그러나 '80年부터 '83年까지는 每年 政府出捐金에 依據 基金規模가 擴大되었으나, '84年부터는 政府出捐이 中斷되어 一部 利子收益만이 基金造成 財源이 되고 있으며, '87年末 現在 基金造成額 累計는 政府出捐金 930億원,

基金運用 利子收入 343億 원, 借款資金運營收益金 10億 원等 總 1,283億 원이다.

<表 1-4-12> 年度別 農業機械化促進基金 造成現況 (單位: 億 원)

	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	計
計	203	260	319	251	55	62	70	63	1,283
政府出捐	200	250	280	200	—	—	—	—	930
利子收入	3	10	36	48	54	61	69	62	343
借款資金運營收益金		—	3	3	1	1	1	1	10

資料: 農林水産部 農業政策局

基金의 運用은 農協을 통해 農機械購入資金, 또는 部品確保資金, 融資財源으로 支援되고 있으며, '87年末基準 基金支援總額은 2,156億 원에 이르고 있다.

그러나 基金造成額이 적어 '87農業機械化 事業資金 支援所要額의 82%인 1,811億 원을 國民投資基金, 借款資金, 農協資金等を 調達하여 運營하였으며, '87年度의 基金調達은 基金回收資金 248億 원, 基金運用利子收入 132億 원(借款資金 運用收益金 58百萬元 包含)等 總 380億 원으로 年末回收利子收入額 30億 원을 除外하고 350億 원을 支援하였다.

3. 肥料

가. 肥料供給制度

그간 外國合作肥料會社와의 賣買契約에 依據 이들 會社에서 生産되는 肥料를 引受하여 農家에 供給하여 왔으나 '87年末로 引受義務가 終了됨에 따라 '88年 1月부터 肥料販賣를 自律化함과 아울러 값싼 肥料를 農民에게 供給할 수 있도록 이의 改善策을 마련하였다. 肥料事業을 지금까지의 農協委託事業에서 農協과 民間으로 二元化하여 供給토록 함과 동시에 肥料生産業

의 許可制限 解除, 肥料의 輸入開放, 關稅率 下向調整, 肥料生産會社의 民營化 등의 措置를 취하였다.

나. 肥料需給

'87年の 肥料 消費量은 成分量 基準으로 906千^ㄱ이며, ha當 消費量은 349 kg으로 나타났다. 이를 肥質別로 보면, 窒素質이 451千^ㄱ, 磷酸質이 212千^ㄱ, 加里質이 243千^ㄱ으로 아직 窒素質 選好傾向이 계속되고 있어 이의 施用을 줄이고, 磷酸質과 加里質施用을 권장하여 均衡施肥가 되도록 지도하고 있다.

單·複肥 消費趨勢를 보면 複合肥料를 重點적으로 開發普及하여 單肥는 '70年에 비하여 減少한 반면 複合肥料는 현저히 늘어나 均衡施肥 및 施用勞力 節減에 크게 기여할 수 있게 되었다.

〈表 1-4-13〉 肥料 消費 量 (單位: 成分千%)

		'70	'75	'80	'85	'86	'87
3 要 素 別	窒 素 質	356	481	448	414	445	451
	磷 酸 質	124	238	196	186	213	212
	加 里 質	88	167	183	207	235	243
	計	568	886	827	807	893	906
單	肥	347	590	308	260	274	278
複	肥	221	296	519	547	619	628
ha 當 消費 量(kg)		161	282	285	311	347	349

資料: 農林水産部 農産局

肥料取扱形態別 供給狀況을 보면, 政府引受肥種은 尿素를 비롯한 單肥와 食糧作物위주의 專用複合肥料이었으며, 市販肥料는 果樹, 園藝 등 經濟作物 위주의 複合肥料이었다. '87年の 政府引受肥種은 農協을 通하여 839千^ㄱ을 供給하여 全體供給量의 93%를 차지하였으며, 市販은 67千^ㄱ으로서 全體 供給量의 7%를 占有했다.

<表 1-4-14>

'87年 肥料取扱 形能別 供給実績

(單位：成分千%)

	計	政府引受肥料	市販肥料
計	906(100%)	839(92)	67(8)
窒素質	451	428	23
磷酸質	212	192	20
加里質	243	219	24

資料：農林水産部 農産局

다. 肥料價格

肥料費는全體 營農費의 9.8%水準을 차지하고 있는 實情으로 農民들의 肥料費 負擔을 덜어주기 위하여 販賣價格의 87%水準으로 農家에 肥料를 供給해 오고있다. '87년에는 肥料의 對農民 販賣價格을 3.2% 引下하여 農民負擔 約108億원을 節減시켰고, 磷酸質 및 加里質 單肥와 기타 複肥는 '86年 價格으로 供給함으로써 肥料의 二重價格制에 의한 農民負擔 輕減額(肥料計定 負擔)은 모두 496億원에 달하였다.

이같은 二重價格制 實施에 따른 肥料計定亦字는 每年 늘어나고 있으나 '84年과 85年을 제외하고는 補填이 이루어지지 못함에 따라 '87年末 현재 亦字 累增額 1兆 249億원으로 '86年보다 14.9% 增加되었다. 특히 '87년에는 引受 價格引下에도 불구하고 所要資金을 借入함으로써 利子負擔이 增加하여 肥料 計定の 亦字는 지금까지 當年赤字로는 가장 많은 1,328億원을 기록하였다.

<表 1 4-15>

肥料計定亦字 現況

(單位：億원)

	'75	'80	'83	'84	'85	'86	'87
當年	700	1,257	977	975	1,063	1,203	1,328
補填	-	-	-	600	462	-	-
累計	1,000	2,972	6,642	7,117	7,718	8,921	10,249

資料：農林水産部 農産局

라. 均衡施肥와 肥料供給

'87年の 肥料 3要素 施肥比率은 窒素質 50%, 磷酸質 23%, 加里質 27%로서 施肥技術 指導 및 作物別 專用複肥 開發施用으로 標準施肥基準(40:29:31)에 상당히 接近하고 있으나 아직도 窒素質을 偏重施用하고 있는 實情으로 均衡施肥를 위하여 地帶別, 作物別로 適正한 複合肥料를 施用토록 積極 啓導하였다.

<表 1-4-16>

肥料 3要素 均衡施肥 現況

(單位: %)

	標準施肥	'70	'75	'80	'85	'86	'87
窒 素 質	40	63	54	54	51	50	50
磷 酸 質	29	22	27	24	23	24	23
加 里 質	31	15	19	22	26	26	27
計	100	100	100	100	100	100	100

資料: 農林水産部 農産局

<表 1-4-17>

地帶別 作物別 專用複合肥料

벼					보 리	豆 類	참 개
1毛作用	2毛作	못 자리	冷害地帶	이삭거름			
17-21-17	21-17-17	18-18-18	15-20-15	18-0-8	10-22-14	8-14-12	16-8-18

資料: 農林水産部 農産局

4. 農 藥

가. 病蟲害 發生 및 防除

'87年の 벼病蟲害 發生狀況은 生育初期에 氣溫差가 크고, 夜間氣溫이 낮아 있 稻熱病 發生은 적었다. 그러나 7月 中旬부터 8月 中旬까지 稻熱病 發生 適溫(20~25C°)期間이 길었고, 늦장마로 인하여 이삭稻熱病 發生에 유리한 상황이었으며, 2次에 걸친 颱風(셀마, 다이너)의 영향과 7~8月중 6次에 걸친 集中豪雨로 흰잎마름病 發生에 매우 유리한 氣象條件이었다.

벼멸구는 初飛來 時期가 '86年보다 12~14日 빨랐을 뿐만 아니라 飛來 回數도 8月 上旬까지 8次에 이르렀으며, 그 量도 '60年代 이후 가장 많았다. 二化螟도 콤바인 收穫 등으로 인한 越冬 棲息處 提供 및 1化期 成虫의 發生 最盛期가 不規則하여 防除適期 判斷이 어려웠으며, 早生種의 擴大와 坪當 株數 增加, 그리고 窒素過肥化 傾向 등으로 病害虫 發生에 유리한 상황이었다.

이같이 여러면에서 病害虫 發生條件이 유리했음에도 불구하고 早期 精密豫察과 適期防除의 철저한 履行으로 病害虫 發生面積은 1,651 Fha에 그쳐 지난해 보다 4%가 줄었으며, 특히 흰잎마름病 發生面積은 前年の 39% 수준인 43.4 Fha에 불과하였다.

'87年の 病虫害 防除을 위한 구체적 事業內容을 보면, 먼저 防除基盤造成 事業으로 病虫害 發生常習地를 중심으로 한 越冬期の 客土, 深耕, 珪酸質 施用과 耐病性 品種의 擴大普及으로 病虫害 防除의 根本對策을 마련하였고, 病虫害 傳染源의 初期 撲滅을 위한 논·밭두렁 불태우기와 種子消毒을 철저히 실시하여 病虫害 傳染源의 擴散을 事前에 防止하였다.

이와 아울러 全國 151個 基本豫察所를 중심으로 早期 精密豫察을 실시하여 이 결과를 迅速히 有關機關과 農家에 通報함으로써 適期防除을 하도록 하였다. 또 各道에 2個所씩 病虫害防除綜合示範園를 設置하여 農民의 防除

〈表 1-4-18〉 벼 病虫害 發生 및 防除狀況 (單位: Fha, %, 回)

	'75	'80	'85	'86	'87	
植 付 面 積 (A)	1,198	1,220	1,219	1,233	1,259	
發 生	延 發 生 面 積 (B)	5,389	2,321	1,791	1,716	1,651
	病 害	1,751	1,511	891	752	699
	蟲 害	3,638	810	900	964	952
	發 生 率 (B/A)	450	190	147	139	131
防 除	延 防 除 面 積	7,978	10,037	11,635	11,345	14,757
	病 害	2,729	5,260	5,733	5,753	7,480
	蟲 害	5,249	4,777	5,902	5,592	7,277
	防 除 回 數	6.6	8.2	9.5	9.2	11.7

資料: 農林水産部 農産局

意慾 및 認識을 높였다. 한편 病蟲害 發生 最盛期(7. 20~8. 20)에는 緊急防除令을 發動하고 一齊共同防除를 推進함으로써 큰 效果를 거두었다.

이밖에도 大單位地域에 發生하는 病害虫의 擴散을 事前에 防止하기 위해 總 1,618百萬원의 國庫를 지원하여 航空防除 112千ha, 共同防除 810千ha를 適期에 실시함으로써 防除效果를 높였다.

나. 農藥供給

農藥供給을 원활히 하기 위하여 '87年の 水稻用 農藥所要量 18.1千%中 52%에 해당하는 9.4千%을 農協에서 確保, 供給하는 한편 突發 病害虫發生에 대비하여 農藥原劑 3千%을 별도로 備蓄하였다.

'87년에 水稻用 農藥의 總確保量은 11,337%이었으며, 이중 70%에 해당하는 7,943%을 供給하여 農藥需給에 차질이 없도록 하였다.

또한 農民들의 便宜를 도모하고 適期防除를 위하여 里洞에 있는 農藥分散 販賣所와 마을單位 營農會를 통해서도 農藥을 供給하였고, 農民의 負擔을 줄이기 위하여 共同防除用 農藥은 12月 15日까지 無利子外上供給케 함에 따라 모두 1,390百萬원의 利子負擔이 줄어든 결과를 가져왔다.

다. 農藥管理

'87年末 현재 告示된 農藥의 品目數는 386個로서 이중 水稻用은 殺菌劑 43個, 殺虫劑 49個 등 모두 92個이며, 園藝用이 209個, 除草劑가 67個, 其他가 18個이다.

'87년에 새로 開發된 農藥은 殺菌劑 18個, 殺虫劑 22個, 除草劑 8個 品目으로서 모두 48個 品目이며 既存 53個 品目에 대해서도 64個의 適用病虫害名을 추가로 告示하였다. 이외에 既告示된 12個 品目에 대해서도 農藥名 變更, 藥效保證期間 變更등의 필요한 措置를 취하였다.

또한 農藥의 品質管理를 위해 市中에 流通되는 1,512點의 農藥을 拔取하여 理化學的檢査를 실시한 결과 成分未達로 不合格한 14個 品目에 대해 警告 및 1年間 製造禁止 措置를 하였으며, 市·道別 不良農藥團束도 年中實施

하였으며 農藥의 安全使用을 위하여 安全使用基準品目を 추가로 設定함으로써 '87년까지 모두 191個品目に 이 基準을 設定하였다.

이와 함께 農藥販賣商, 防除團長, 營農會長 등 50千名을 대상으로 農藥使用 指針書 등 11種의 弘報物을 製作配布하였다. 특히 有機磷系 農藥解毒劑 “팜” 731千錠을 無償으로 供給하고, 防除服 73千着 등 安全使用裝備도 공급하였다.

라. 農藥管理基金

農藥管理基金은 農藥의 品目告示를 위한 農藥의 藥效, 藥害, 毒性 및 殘留性에 관한 試驗을 실시하는데 所要되는 費用과 告示된 品目の 安全使用을 弘報하기 위한 費用 및 基金管理費用에 充當하기 위하여 農藥管理法에 依據, 設置 運營되고 있다.

農藥製造業者 및 輸入業者의 農藥品目別 販賣額의 一部를 積立하여 造成하고 있으며 '87年末 現在 1,720百萬원을 積立하였다. 그리고 基金運用은 農藥의 品目告示를 위한 試驗費用, 農藥의 安全使用·取扱 및 管理에 관한 試驗과 教育 및 弘報費用, 基金의 管理費用 등으로 使用되었다.

'87年の 試驗事業으로는 藥效 및 藥害試驗 93項目을 비롯하여 85個 藥種에 대한 毒性試驗과 2個 藥種을 대상으로 殘留性 試驗을 實施하였다.

第 3 節 營農資金 支援

農家の 營農費 支援을 위해 每年 지원되고 있는 營農資金은 年利 8%의 低利 短期生産資金으로 營農期에 農家の 資金事情을 완화시키는데 크게 기여하여 왔다. '87년에는 營農資金支援規模를 前年보다 1,681億원이 늘어난 1兆 904億원을 지원하였으며, 그중 87%에 해당하는 9,508億원은 現金으로 融資하였고, 나머지 1,396億원은 肥料, 農藥 등 農資材를 外上으로 支援한 것이었다.

이에 따라 總農業經營費 對比 營農資金支援額은 '86年の 21%에서 '87년에는 25.8%를 높아졌고, 戶當平均 支援額도 24.5%가 많은 508千원으로 늘어났다.

營農資金의 擴大供給을 위하여 '87년에 政府財政資金에서 '86年보다 1千億원이 늘어난 2千億원을 支援하였고, 韓國銀行借入金도 447億원이 늘어난 3,076億원을 지원함으로써 財源의 調達金利가 높은 農協資金과 相互金融資金의 比重을 상대적으로 낮추었다.

한편 營農資金의 年末 一時償還으로 인한 農產物價格 下落防止와 農家 償還負擔을 완화하기 위해 '87年末까지 償還해야 할 融資金중 1,584億원을 '88年 2月末까지 그 償還을 延期시켰다. 특히 '87年の 颱風 셀마와 集中豪雨 등으로 인하여 50% 이상의 農作物 被害를 당한 農家 99千戶에 지원된 808億원에 대해서는 償還期間을 2年間 延長하고 이에 따른 利子負擔額 126億원은 財政에서 지원토록 하였다.

<表 1-4-19>

營農資金 支援實績

(單位: 億원)

	'75	'80	'84	'85	'86	'87
現金	186	3,348	5,468	6,891	7,779	9,508
外上資材	208	964	1,222	1,511	1,507	1,396
(肥料·農藥)	(-)	(886)	(1,176)	(1,185)	(1,114)	(999)
計	394	4,312	6,690	8,402	9,286	10,904

資料: 農林水産部 農業政策局

第5章 農畜產物 需給 및 流通改善

第1節 農畜產物 需給

1. 糧穀需給

가. 全體糧穀 需給

지난 10年間 1人當 糧穀消費量의 變化推移를 보면 每年 조금씩 減少되어 왔으며 이러한 消費量 減少의 決定的인 要因은 쌀과 보리쌀의 消費가 크게 減少된 데 있다.

'87年の 國民 1人當 糧穀 消費量은 '86年 보다 3.3kg이 減少한 175.7kg으로 推計되었다. 主要穀種別로는 쌀이 '86年の 127.7kg에서 '87년에는 126.2kg으로, 보리쌀은 '86年の 3.6kg에서 '87년에는 2.7kg으로 줄어들었다.

<表 1-5-1>

1人當 年間 糧穀消費量

(單位: kg)

	全體	쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	其他	自給率(%)	飼料用除外
'75	207.3	123.6	36.3	29.5	2.4	6.4	9.1	73.0	79.1
'80	195.5	132.7	13.9	29.4	3.1	8.0	8.4	56.0	69.6
'85	181.7	128.1	4.6	32.1	3.1	9.3	4.8	48.4	71.6
'86	179.0	127.7	3.6	31.5	2.8	8.9	4.5	44.5	68.1
'87	175.7	126.2	2.7	31.5	3.0	7.9	4.4	41.3	66.7

資料: 農林水産部 糧政局

最近 3個年の 全體糧穀 需給動向을 보면, 供給量에 있어서는 生産量과 前年 移越量이 비슷한 수준이지만 導入量이 增加하고 있으며 이것은 주로 飼料用 穀物이 增加하고 있기 때문이며 需要量의 경우에도 食用은 6,800 F.M.T 수준에 머물고 있으나 飼料穀物의 使用量은 每年 增加趨勢에 있다.

따라서 '87年度の全體糧穀自給度は飼料穀物の需要増加로 인하여前年度보다 낮은 41.3%로 떨어졌으나 主穀인 쌀과 보리쌀은 自給水準을 계속 유지하고 있다.

한편 最近 3個年の 쌀消費動向을 보면 1人當年間消費量은 減少하고 있으나 人口가 增加하고 있기 때문에 全體消費量은 減少하지 않고 約 5,300千% 수준에 머물고 있는 실정이다.

'87 糧穀年度の全體糧穀供給量은 前年度에서 移越된 2,158千%과 生産量 6,813千% 및 導入量 10,213千% 등 모두 19,184千%으로 前年度보다 1,604千%이 늘어났다. 또한 全體需要量은 16,499千%으로 이중 食用으로 6,806千%, 飼料用으로 6,286千%이 사용되었으며 나머지 3,407千%은 加工用, 種子用, 減耗 등이었다. 이에 따라 次年度 移越量은 쌀 1,239千%을 비롯하여 總 2,685千%이었는데, 이것은 前年度보다 527千%이 增加한 수준이다.

<表 1-5-2> '87糧穀年度の全體糧穀需給 實績(暫定) (單位:千%)

		쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	薯類	기타	計
供給	移越	1,249	165	401	278	27	-	38	2,158
	生産	5,607	516	4	113	199	302	72	6,813
	導入	-	-	4,224	4,792	1,131	-	66	10,213
	計	6,856	681	4,629	5,183	1,357	302	176	19,184
需要	食糧	5,307	114	1,044	55	101	126	59	6,806
	飼料	-	50	1,975	3,279	864	34	84	6,286
	其他	310	367	1,013	1,287	260	142	28	3,407
	計	5,617	531	4,032	4,621	1,225	302	171	16,499
次年移越		1,239	150	597	562	132	0	5	2,685

資料: 農林水産部 糧政局

나. 政府管理糧穀 需給

'87糧穀年度の政府管理糧穀供給量은 移越在庫 1,340千%과 收買量 1,015千% 등 總 2,355千%으로서 前年度の 2,878千%보다 18% 減少되었으며 需要量은

前年度の 1,538千ㄱ보다 25%가 減少된 1,159千ㄱ이었다. 이를 穀種別로 보면 쌀은 前年の 1,269千ㄱ에서 '87년에는 1,039千ㄱ으로 230千ㄱ이 줄었으며, 보리의 경우 이전에는 政府에서 收買하던 것을 農協에서 收買하여 이를 酒精用으로 직접 實需要者에게 供給토록 보리收買制度를 變更함에 따라 政府管理 보리는 前年の 263千ㄱ에서 120千ㄱ 크게 줄어들었다. 이에 따라 年度末 政府管理糧穀의 在庫量은 쌀 1,101千ㄱ, 보리쌀 95千ㄱ 등 總 1,196千ㄱ으로서 이것은 '86年度보다 144千ㄱ이 減少된 수준이다.

<表 1-5 3> '87糧穀年度 政府糧穀 需給實績(暫定) (單位：千ㄱ)

		쌀	보 리	合 計
供 給	移 越	1,249	91	1,340
	收 買	891	124	1,015
	計	2,140	215	2,355
需 要	軍 官 需	199	42	241
	穀 價 調 節 用	655	63	718
	貸 與 · 交 換 · 就 勞	88		88
	災 害 救 護	64	-	64
	種 子 · 其 他	33	15	48
	計	1,039	120	1,159
次 年 移 越		1,101	95	1,196

資料：農林水産部 糧政局

다. 糧穀管理基金의 運用

糧穀收買 및 政府糧穀의 保管管理를 위해 運用되고 있는 政府糧穀管理基金은 '87년에 그 運用規模가 1兆 8,780億원이었으며, 이 중 47%에 해당하는 8,747億원이 糧穀收買 등 直接事業費로 사용되고 나머지 1兆 33億원은 糧穀證券償還과 操作費 등에 사용되었다.

基金 運用額중 糧穀販賣 등에 의한 自體 調達額은 전체의 43%에 해당하는 8,030億원이었고 나머지 57%에 해당하는 1兆 750億원은 糧穀證券發行

으로 8,000億원 그리고 一般會計 轉入金 2,750億원으로 充當되었다.

<表 1-5-4> '87年度 糧穀管理基金 運用實績 (單位：億원)

調 達		所 要	
項 目	金 額	項 目	金 額
基金收入	8,030	糧穀收買	8,747
糧穀證券發行	8,000	糧穀證券償還	7,439
財政補填	2,750	操作費, 其他	2,594
計	18,780	計	18,780

資料：農林水産部 糧政局

한편 '87年末 糧穀管理基金 赤字累增額은 3兆 404億원으로 이를 發生原因別로 보면, 糧穀販賣價格差와 操作費 등 糧穀販賣로 인한 赤字가 全體赤字의 40%에 해당하는 1兆 2,147億원이며, 나머지는 不足資金의 外部借入에 따른 利子 등이다. 穀種別로는 쌀이 2兆 1,906億원으로 全體赤字의 72%를 차지하며 보리쌀이 7,639億원으로 25%에 해당된다.

그러나 備蓄費用 및 販賣價格差 등에 따른 糧穀管理基金의 構造的 赤字를 改善하기 위하여 '87年에도 一般會計에서 2,750億원이 轉入充當됨으로써 지금까지 모두 1兆 4,054億원이 一般會計에서 補填되었다. 이 결과 '87年末의 基金赤字는 1兆 6,350億원에 머물고 있다.

<表 1-5-5> 糧穀管理基金 赤字現況 (單位：億원)

	쌀	보리쌀	其他雜穀	價格補助	小 計	財政補填	計
'70~'80	△ 5,584	△ 3,015	160	△ 1,280	△ 9,719	-	△ 9,719
'81	△ 218	△ 1,268	45	-	△ 1,441	-	△ 1,441
'82	△ 179	△ 1,157	31	-	△ 1,305	-	△ 1,305
'83	△ 2,599	△ 851	80	-	△ 3,370	-	△ 3,370
'84	△ 3,576	△ 528	45	-	△ 4,059	3,304	△ 755
'85	△ 2,994	△ 490	34	-	△ 3,450	4,500	1,050
'86	△ 3,596	△ 160	26	-	△ 3,730	3,500	△ 230
'87	△ 3,160	△ 170	-	-	△ 3,330	2,750	△ 580
計	△ 21,906	△ 7,639	421	△ 1,280	△ 30,404	14,054	△ 16,350

資料：農林水産部 糧政局

2. 畜産物 및 飼料需給

가. 畜産物 需給

'87年の肉類消費량은 '86年보다 11.4% 정도 증가한 665.7 千톤이었다. 그중 쇠고기 소비량은 지난해보다 2.7%가 증가한 152 千톤이고, 돼지고기 소비량은 16.4%가 많은 373 千톤이었으며, 닭고기 소비량은 140.7 千톤으로 前年보다 8.7%가 늘어났다. 한편 우유는 1,424.8 千톤이 소비되어 지난해보다 22.6%가 높은 소비증가율을 나타냈으며, 鷄卵 소비량은 361.5 千톤으로서 9%가 증가하였다.

<表 1-5-6>

畜産物 消費量

(單位: 千噸)

		'80	'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率(B/A)
	計	432.7	592.8	597.7	665.7	11.4
肉類	쇠고기	100.0	120.3	147.9	151.9	2.7
	돼지고기	241.8	346.3	320.4	373.1	16.4
	닭고기	90.9	126.2	129.4	140.7	8.7
牛	乳	411.8	990.5	1,162.4	1,424.8	22.6
鷄	卵	249.9	296.5	331.6	361.5	9.0
(百 萬 個)		(4,543)	(5,390)	(6,029)	(6,573)	(9.0)

資料: 農林水産部 畜産局

이같은 畜産物 消費량을 國民 1人當 消費량으로 환산해 보면, '87年の 總肉類 消費량은 지난해보다 9% 늘어난 15.7kg이었다. 그중 쇠고기 소비량은 지난해와 거의 같은 수준인 3.6kg에 머물렀고, 돼지고기는 14.3%가 늘어난 8.8kg으로 나타났으며, 닭고기는 6.5%가 늘어났다.

그리고 鷄卵과 牛乳는 각각 7.5%와 21.9%가 늘어났는데, 牛乳는 國民 1人當 33.9kg을 소비하였고, 鷄卵은 8.6kg(156個)을 소비한 것으로 나타났다.

한편 '87年の 畜産物 總供給량은 2,419 千톤이었는데, 이중 2,376.4 千톤을 소비하고 超過量 42.6 千톤은 次年度로 移越되었으며 移越量중 쇠고기가 5.7 千톤, 돼지고기는 0.9 千톤이었고, 牛乳는 前年보다 12.6 千톤줄어든 36 千톤이 移越된 것으로 나타났다.

<表 1-5-7>

1人當年間畜產物消費量

(單位: kg)

		'80	'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率 (B/A)
計		11.3	14.4	14.4	15.7	9.0 %
肉類	쇠고기	2.6	2.9	3.6	3.6	-
	돼지고기	6.3	8.4	7.7	8.8	14.3
	닭고기	2.4	3.1	3.1	3.3	6.5
牛	乳	10.8	23.3	27.8	33.9	21.9
鷄	卵	6.5 (118 個)	7.2 (131)	8.0 (145)	8.6 (156)	7.5 (7.6)

資料: 農林水産部 畜産局

<表 1-5-8>

'87年畜產物需給實績

(單位: 千噸)

	供 給			消 費	次 年 移 越	
	移 越	生 産	小 計			
計	57.0	2,362.0	2,419.0	2,376.4	42.6	
肉類	8.4	662.9	671.3	664.7	6.6	
쇠고기	8.4	149.2	157.6	151.9	5.7	
돼지고기	-	373.0	373.0	372.1	0.9	
닭고기	-	140.7	140.7	140.7	-	
牛	乳	62.1	1,413.1	1,475.2	1,424.8	50.4
鷄	卵	-	361.5	361.5	361.5	-

註: 輸出物量은 除外됨.
資料: 農林水産部 畜産局

나. 飼料需給

'87年 養畜用 飼料의 總供給量은 '86年보다 10.9%가 增加한 15,873千噸 수 준이었으며 이中 配合飼料는 前年보다 17.5%가 늘어났고, 改良牧草도 14.2%가 增加되었다.

그런데 지난 10餘年間을 보면 濃厚飼料 供給量은 크게 늘어나고 있는데

비해 粗飼料 供給量은 이에 훨씬 못미치고 있다.

<表 1-5-9>

飼料供給量

(單位:千%)

	'75	'80	'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率(B/A)
合 計	5,021	7,559	13,234	14,319	15,873	10.9 %
濃厚飼料	1,451	3,994	7,306	8,489	9,808	15.5
配合飼料	901	3,462	6,451	7,675	9,018	17.5
農家自給飼料	550	532	855	814	790	△ 2.9
粗 飼 料	3,570	3,565	5,928	5,830	6,065	4.0
改良牧草	404	781	1,974	2,574	2,939	14.2
山野草, 벼짚等	3,166	2,784	3,954	3,256	3,126	△ 4.0

資料: 農林水産部 畜産局

한편 配合飼料의 用途別 生産量은 酪農用과 肥育牛用이 前年보다 각각 16.1%와 3.1%가 增加하였고, 養鷄用도 11.1%가 늘어났으며 특히 養豚用은 養豚景氣의 好況에 힘입어 36.5%나 늘어났다.

<表 1-5-10>

配合飼料用途別生産量

(單位:千%)

	'75	'80	'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率(B/A)
合 計	901	3,462	6,451	7,675	9,018	17.5 %
養 鷄 用	569	1,872	2,310	2,639	2,933	11.1
養 豚 用	136	769	1,924	2,178	2,953	35.6
酪 農 用	151	514	994	1,209	1,404	16.1
肥 肉 牛 用	33	306	1,209	1,624	1,674	3.1
其 他	12	1	14	25	54	116.0

資料: 農林水産部 畜産局

이와같이 配合飼料 生産이 크게 늘어난 것은 家畜 특히 돼지 飼育頭數의 增加와 飼育形態의 企業化, 配合飼料 價格의 引下 등으로 인하여 配合飼

料의 需要가 늘어나고, 畜産物의 早期出荷를 목적으로 한 大量給與 등 配合飼料 使用量이 늘어났기 때문이다.

配合飼料 生産量이 增加함에 따라 '87年 配合飼料 製造에 필요한 原料導入量은 '86年の 4,643千%보다 29.5%가 많은 6,014千%에 달하였으며, 이에 소요된 金額은 558百萬弗이었다.

<表 1-5-11> 飼料原料 導入 實績 (單位:千%, 百萬\$)

		'75	'80	'85	'86 (A)	'87 (B)	增減率(B/A)
計	數 量	406	1,888	4,128	4,643	6,014	29.5 %
	金 額	61	303	509	464	558	20.3
穀 類	數 量	406	1,881	3,984	4,416	5,677	28.6
	金 額	61	301	484	430	494	14.9
糠 粃 類	數 量	-	-	-	100	45	△55.0
	金 額	-	-	-	8	3	△62.5
植 物 性 粕 類	數 量	-	6	133	116	264	127.6
	金 額	-	1	20	22	51	131.8
動 物 性 蛋 白 質	數 量	-	-	5	7	14	100.0
	金 額	-	-	1	2	6	200.0
其 他	數 量	-	1	6	4	14	250.0
	金 額	-	1	4	2	4	100.0

資料: 農林水産部 畜産局

3. 園藝 및 特用作物 需給

가. 菜 蔬

'87년에는 무우, 배추, 고추 등 대부분 菜蔬類의 栽培面積이 줄고, 7~8月의 계속된 集中豪雨와 颱風 등 氣象與件의 惡化로 인하여 江邊 또는 낮은 地帶에서 栽培하던 菜蔬類가 큰 피해를 입었다. 그러나 신속한 被害復舊와 病蟲害 防除 및 生育促進을 위한 肥培管理指導를 강화하고, 被害가 심한 곳

에는 代播를 實施하는 등 적극적인 對策을 推進한 결과 過剩生産되었던 지난해에 비하여 生産量이 15% 減少되었으나 비교적 需給이 安定되었던 해로 볼 수 있으며 國民 1人當 消費量(純食基準)은 109.9kg으로 추정되고 있다.

특히 生産過剩이 우려되던 마늘과 양파에 대해서는 풋마늘 및 早生種 出荷促求 등 效率的인 出荷調節事業, 弘報를 통한 消費擴大, 政府收買 備蓄事業 등을 實施하여 收穫期와 端境期에 需給安定을 기하였다.

貯藏性이 약한 부우, 배추 등은 時期別, 地帶別 分散播種과 收穫期 出荷調節 事業擴大로 分散出荷를 유도하고 김장菜蔬는 11月末부터 12月初의 갑작스런 寒波로 中北部 一部地域에서 凍害와 降雪로 產地出荷가 不振함에 따라 農協을 통한 產地買取事業과 販賣事業을 實施하는 등 菜蔬類의 需給安定을 도모하였다.

<表 1-5-12> 菜蔬類 需給 実績 (單位: 千%)

		'80	'85	'86	'87
需 要	計	7,481.7	7,554.8	8,497.9	7,224.8
	內 需	7,462.5	7,545.4	8,482.3	7,205.7
	輸 出	24.6	9.4	15.6	19.1
供 給	計	7,487.1	7,554.8	8,497.9	7,224.8
	生 産	7,481.0	7,542.7	8,496.4	7,224.1
	輸 入	6.1	12.1	1.5	0.7
1 人 當 消 費 量 (kg)		120.6	98.6	114.6	109.9

資料: 農林水産部 農産物流通局

나. 果 實

果實은 消費量이 增加趨勢에 있고, 輸出도 약간씩 늘고 있다. '87年 國內 果實需要는 지난해 보다 143千%이 增加되어 1人當 果實 消費量은 '86年の 35.2kg보다 8%가 增加한 38kg으로 나타났다.

사과, 배를 중심으로 한 果實輸出量도 크게 伸張되어 '87年の 輸出量은 '86년에 비하여 21%가 늘어난 21千%에 이르렀다.

<表 1-5-13>

果實類 需給實績

(單位：千%)

		'80	'84	'85	'86	'87
供給	生産	833.1	1,228.7	1,463.8	1,475.2	1,621.7
需要	内需	830.6	1,226.0	1,454.8	1,457.9	1,600.7
	輸出	2.5	2.7	9.0	17.3	21.0
1人當消費量(kg)		21.8	30.2	34.5	35.2	38.0

註：1人當消費量은 粗食基準임.

資料：農林水産部 農産物流通局

다. 特用作物

참깨 生産量은 開花期 및 收穫期에 氣象이 좋지 않아서 收量이 줄었기 때문에 '86年 生産量 48.2千%보다 다소 減少된 43.3千%에 불과하였다. 그러나 生産量이 줄어든 반면 需要量이 늘어남에 따라 '87年の 참깨 輸入量은 11.1千%이었고, 總供給量은 生産量 43.3千%과 移越量 4.5千%을 합하여 前年보다 다소 늘어난 58.9千%이었다.

땅콩은 栽培面積이 增加하고, 收量도 늘어남에 따라 '86年보다 10.8千%이 많은 32.2千%을 생산함에 따라 自給이 가능하게 되었다.

<表 1-5-14>

참깨·땅콩 需給實績

(單位：千%)

		참깨			땅콩		
		'85	'86	'87	'85	'86	'87
需要	計	46.4	56.5	55.8	21.0	22.5	33.3
	當年消費	46.1	52.0	54.8	20.0	21.4	23.3
	次年移越	0.3	4.5	1.0	1.0	1.1	10.0
供給	計	46.4	56.5	55.8	21.0	22.5	33.3
	前年移越	3.6	0.3	4.5	0.7	1.0	1.1
	生産	40.8	48.2	43.3	16.3	20.2	32.2
	輸入	2.0	8.0	8.0	4.0	1.3	-

資料：農林水産部 農産局

4. 營養供給

'86年 國民 1人當 1日 熱量供給量은 2,746Kcal로서 前年에 비해 59Kcal가 증가되어 '83년부터 계속 增加趨勢를 보이고 있다. '86年の 경우 熱量供給源은 65.7% (1,804Kcal)가 穀類이었고, 油脂類가 8.4%(230Kcal), 雪糖類가 5.0% (137Kcal)이었다. 한편 全體 供給에너지의 營養素別 構成比는 糖質 71.0%, 脂肪質 13.0%, 蛋白質 16.0%이었다.

한편 蛋白質 供給量은 89.4 g 으로 前年보다 2.8 g 이 증가하였는데, 그중 植物性 蛋白質은 58.6 g, 動物性 蛋白質은 30.9 g 으로서 植物性 蛋白質과 動物性 蛋白質의 供給比率는 65.5 : 34.5이었다. 蛋白質외의 營養供給量은 脂肪質 53.6 g, 칼슘(Ca) 462mg, 鐵(Fe) 27.5mg이 供給되었는데, 鐵은 '85년에 비하여 供給量이 줄어든 반면 脂肪質과 칼슘은 늘어났으며 또 維生素類중 維生素 A, B₁, B₂, 나이아신, C 등의 供給量이 모두 증가한 것으로 나타났다.

<表 1-5-15>

1人 1日當 營養供給量

	熱 量 (Kcal)	蛋白質 (g)	脂肪質 (g)	無 機 質		비 타 민				
				Ca(mg)	Fe(mg)	A (IU)	B ₁ (mg)	B ₂ (mg)	나이아신(mg)	C (mg)
75	2,390	71.1	27.4	495	15.5	2,779	1.50	0.82	23.5	74
80	2,485	73.6	36.6	511	12.6	3,037	1.92	1.03	234	125
81	2,531	76.9	39.2	609	14.3	3,185	1.53	1.20	118	20.0
82	2,588	78.3	44.0	606	14.9	3,560	1.60	1.24	121	21.4
83	2,622	86.6	47.1	427	27.5	3,156	1.68	1.21	112	18.5
84	2,636	85.6	49.2	421	27.4	2,886	1.64	1.16	102	18.2
85	2,687	86.6	51.8	413	30.5	3,046	1.70	1.16	180	96
86	2,746	89.4	53.6	462	27.5	3,529	1.75	1.31	19.4	112

資料：韓國農村經濟研究院

第 2 節 農畜產物 價格 安定

1. 農畜產物 價格動向

'87年의 物價를 年末基準으로 보면 '86年보다 都賣物價는 2.7% 上昇하였고, 消費者物價는 6.1% 上昇하였다. 그중 食料品은 都賣物價가 7.0%, 消費者物價는 11.6% 올랐으며, 食料品 以外는 都賣物價와 消費者物價가 각각 1.4% 와 3.0%가 上昇하였다.

이같이 農産食品의 都賣物價가 높은 上昇率을 보인 것은 쌀收買價格 引上의 影響으로 市中 쌀값이 上昇勢를 보인 데다 7~8月의 水害로 菜蔬類 및 양념類 價格이 큰 幅으로 上昇하였고, 12月初의 갑작스런 寒波로 김장무우와 김장배추 價格이 上昇하였기 때문이다.

〈表 1-5-16〉 物 價 上 昇 率 (單位: %)

		'75	'80	'85	'86	'87
都賣物價	全體	19.6 (26.5)	42.2 (39.0)	0.5 (0.9)	△2.6 (△1.5)	2.7 (0.5)
	食料品	25.5 (36.1)	44.7 (27.8)	2.3 (3.8)	△4.8 (0.0)	7.0 (△1.3)
	食料品以外	16.7 (21.6)	41.4 (44.5)	△0.1 (△0.1)	△1.9 (△1.9)	1.4 (1.0)
消費者物價	全體	26.4 (25.3)	32.2 (28.7)	3.1 (2.5)	1.4 (2.8)	6.1 (3.0)
	食料品	31.5 (31.8)	40.7 (26.5)	3.3 (3.7)	△1.2 (2.4)	11.6 (3.0)
	食料品以外	21.3 (18.5)	26.4 (30.6)	2.6 (1.5)	3.1 (3.0)	3.0 (3.0)

註: 年末基準 上昇率임. ()內는 年平均 基準.
資料: 經濟企劃院, 韓國銀行

食料品중 農産食品의 都賣物價는 '86年末에 비해 16.8%가 上昇하였으며 이를 品目別로 보면 穀物이 6.6%, 薯類 86.1%, 果實 18.0%, 菜蔬 125.9%, 特用作物 12.6%, 藥用作物이 35.0% 上昇한 반면 肉類가 5.0%, 乳卵이 9.6%, 其他 畜產物이 3.4% 下落하였다.

消費者物價에 있어서는 食料品이 菜蔬, 果實 및 調味料類 品目이 비교적 높은 價格으로 上昇하면서 前年末보다 11.6%의 上昇率을 보였으며 이를 品

日別로 보면, 飼育頭數가 增加한 돼지고기, 닭고기 등의 物量增加로 肉類價格이 下落했으나 穀物, 菜蔬 및 其他 農產物은 水害와 氣象與件의 惡化로 전반적인 上昇을 나타냈다.

<表 1-5-17>

農產食品 都賣物價 上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87
農 產 食 品	26.9 (41.0)	47.1 (24.4)	0.9 (5.7)	△12.9 (△ 3.1)	16.8 (△ 2.6)
穀 物	22.2 (46.2)	47.8 (22.5)	7.1 (3.8)	3.9 (6.1)	6.6 (4.5)
薯 類	17.3 (29.3)	51.6 (58.3)	△6.1 (10.0)	△17.6 (△14.6)	86.1 (9.1)
果 實	77.1 (67.6)	3.8 (22.8)	△3.3 (53.1)	2.0 (△21.8)	18.0 (29.9)
菜 蔬	8.8 (46.1)	51.0 (11.7)	△0.2 (12.0)	△57.6 (△12.9)	125.9 (△31.6)
特 用	18.9 (22.6)	30.2 (40.4)	16.0 (8.8)	6.4 (8.4)	12.6 (12.0)
藥 用	23.1 (21.0)	46.2 (36.9)	△1.5 (2.9)	△26.5 (△ 7.2)	35.0 (△ 2.4)
肉 類	39.8 (22.4)	58.7 (24.7)	△5.4 (△ 2.0)	△16.4 (△ 3.4)	△5.0 (△10.9)
乳 卵	15.2 (28.2)	48.3 (27.7)	△6.2 (△ 2.9)	0.5 (△ 5.1)	△9.6 (△ 3.8)
其 他 畜 產	49.9 (30.7)	0.0 (0.0)	△8.7 (△10.9)	1.8 (△ 1.4)	△3.4 (0.2)

註：年末基準 上昇率임. ()內는 年平均 基準.

資料：韓國銀行

<表 1-5-18>

農產食品 消費者物價 上昇率

(單位：%)

	'80	'85	'86	'87
食 料 品	40.6 (26.7)	3.3 (3.7)	△1.2 (2.4)	11.6 (3.0)
穀 類	40.3 (23.2)	4.5 (4.1)	4.1 (5.6)	6.8 (3.3)
肉 類	56.3 (27.6)	△5.6 (△1.6)	△5.7 (△3.0)	△8.8 (△5.9)
乳 卵	31.6 (22.3)	△2.0 (△0.6)	1.2 (△0.3)	△3.1 (0.2)
菜蔬·海藻	49.3 (56.1)	10.0 (△4.3)	△17.7 (0.9)	64.9 (9.1)
果 實	13.0 (17.4)	△5.6 (13.0)	5.4 (△3.8)	20.5 (19.6)
油脂·調味料	61.3 (8.4)	1.1 (18.5)	△20.4 (△8.9)	19.9 (△7.6)

註：年末基準 上昇率임. ()內는 年平均

資料：經濟企劃院

2. 農畜產物 價格安定

가. 穀 類

'87年産 쌀의 農家出荷 全量에 대하여 收買를 實施하여 '87年 生産量의 14.3%에 해당하는 788千%을 收買하였다. 收買價格은 前年보다 14%가 높은 2等品 基準 80kg 가마當 73,140원으로 引上하여 '82年 이래 引上幅이 가장 높았다. 쌀收買價格 引上和 함께 쌀값安定을 위하여 政府米 352千%을 彈力的으로 放出함으로써 '87年 쌀都賣價格은 80kg 가마當 72,905원 수준으로 形成되어 지난해의 70,664원보다 3.2% 上昇에 그칠 수 있었다.

한편 보리는 '87年産부터 適正生産을 유도하기 위하여 종전에 政府에서 收買하던 것을 收買價格 事前豫示에 의한 農協 主管의 契約栽培로 轉換함에 따라 '86年 9월에 '87年産 보리의 收買價格을 前年보다 5% 引上된 2等品 基準 76.5kg 가마當 (稞麥基準) 41,020원으로 豫示하였고, 契約栽培物量을 358.8千%으로 계획 하였다. 그러나 '87年産 收買量은 計劃物量의 72.2%에 해당되는 259千%에 머물렀지만 '86年産 收買量 167千%보다는 92千%이 增加하였다. 한편 '88年産 보리쌀 收買價格은 '87年産보다 10% 引上된 2等品 基準 76.5kg 가마當 45,120원으로 豫示하고, 栽培希望農家와 契約栽培를 통하여 372.6千%을 收買키로 하였다.

<表 1-5-19>

糧穀收買量 및 收買價格

(單位：千%, 元)

		'75	'80	'85	'86	'87
쌀	生産量	4,668	3,500	5,626	5,607	5,493
	收買量	789	545	1,090	891	788
	(收買率, %)	(16.9)	(15.4)	(19.4)	(15.9)	(14.3)
	收買價格(2等基準 80kg)	19,500	45,750	60,530	64,160	73,140
	(引上率, %)	(23.7)	(25.0)	(5.0)	(6.0)	(14.0)
보리	生産量	1,694	724	387	316	388
	收買量	520	413	237	167	259
	(收買率, %)	(30.7)	(57.1)	(61.2)	(52.8)	(66.8)
	收買價格(2等基準 80kg)	11,100	26,400	36,360	39,070	41,020
쌀	(引上率, %)	(22.1)	(20.0)	(5.5)	(7.5)	(5.0)

資料：農林水産部 糧政局

쌀, 보리 이외의 穀物중 콩의 收買價格은 前年보다 10% 높은 1等品 基準 40kg 가마當 39,640원으로 引上함과 아울러 出荷獎勵金 3,332원을 支給함으로써 實質的으로 13%引上하였으며, 옥수수는 前年보다 14% 引上한 1等品 基準 40kg 가마當 14,200원에 收買하였다. 또한 팥과 綠豆도 前年보다 10% 引上한 1等品 基準 40kg 가마當 각각 63,800원과 83,920원으로 農協을 통하여 農家出荷 全量을 買入하였다. 이같은 收買事業의 결과 收穫期에 있어서의 價格下落 防止와 栽培農家の 所得増大를 기할 수 있었다.

나. 畜産物 및 配合飼料

'84年 이후 계속하여 下落勢를 보이고 있던 소값은 '87年 上半期까지 回復勢로 돌아서 '87年 5月에는 400kg 숫소 基準으로 1,097千원까지 上昇하였다. 그러나 돼지고기 價格의 弱勢에 의한 消費代替 등에 영향을 받아 年末까지 弱勢를 보임으로써 400kg 숫소 基準으로 年平均 1,014千원 수준으로 形成되었다.

이같이 소값이 비교적 安定勢를 유지함에 따라 '87年 4月 15日에는 3餘年 동안 實施해오던 소收買를 中斷하였으며, 養畜農家の 自律的인 出荷 및 入殖調節을 유도 해 나가기 위하여 全國의 畜協 및 家畜市場등 427個所에 '87年 6月 1日부터 家畜出荷相談室을 설치하고 養畜農民에게 產地價格과 都賣價格 그리고 飼育 및 出荷意向과 展望등에 대한 各種 流通情報를 제공토록 하였다.

한편 돼지價格은 '84年 이후 돼지價格이 비교적 높게 形成됨에 따라 '86年 下半期부터는 母豚頭數가 急増하여 '87年에 90kg 成豚 基準으로 年平均 110千원 水準이었다. 그러나 이같은 推移로는 '88年에도 價格이 계속 低調할 것으로 예상됨에 따라 畜産觀測과 弘報를 強化하여 養畜農民이 自律的으로 生産調節을 하도록 유도하였으며 돼지増殖을 抑制하기 위하여 養畜農家에 대한 教育強化, 養豚業 登錄·許可業體의 超過飼育母豚 減縮, 豚肉輸出 擴大 등의 各種 價格安定施策을 적극적으로 推進하였다.

畜産物 生産費에서 가장 큰 比重을 차지하고 있는 配合飼料價格은 '87年 末 25kg 1包當 3,959원으로 지난해의 4,198원보다 5.7% 下落하였으며 이는 '84年 이후 配合飼料 製造에 필요한 主原料인 飼料穀物價格이 내렸고, 과거

옥수수에만 依存하던 輸入飼料穀物을 이보다 값이 싼 수수, 밀, 호밀 등으로 多樣化했으며, 또한 製造業體의 技術開發과 原價節減을 위한 經營合理化 努力을 계속해 온데 기인하였다.

<表 1-5-20> 畜 産 物 價 格 動 向

	單 位	'86	'87			增減率 (B/A)	
		平均 (A)	6 月	12 月	平均 (B)		
産地價格	韓牛(♂)	千원 / 400kg	995	1,067	1,015	1,014	1.9%
	成 豚	千원 / 90kg	141	125	88	110	△ 22.0
	肉 鷄	원 / kg	877	873	725	797	△ 9.1
	鷄 卵	원 / 10個	428	371	359	392	△ 8.4
都賣價格	쇠 고 기	원 / kg	3,875	4,178	3,974	3,918	1.1
	돼지고기	"	2,436	3,089	1,592	1,886	△ 22.6
	닭 고 기	"	1,476	1,425	1,196	1,311	△ 11.2
	鷄 卵	원 / 10個	452	389	392	415	△ 8.2
消費者價格	쇠 고 기	원 / 500g	3,117	3,394	3,208	3,198	2.6
	돼지고기	"	1,919	1,840	1,289	1,616	△ 15.8
	닭 고 기	원 / kg	1,613	1,678	1,405	1,532	△ 5.0
	鷄 卵	원 / 10個	511	479	489	492	△ 3.7

資料：農林水産部 畜産局

<表 1-5-21> 配 合 飼 料 價 格 動 向 (單位：원/25kg)

	'85年末	'86年末 (A)	'87年末 (B)	增減率(B/A)
平 均	4,528	4,198	3,959	△ 5.7%
産 卵 初 期	4,558	4,171	3,828	△ 8.2
肉 鷄 前 期	6,163	5,731	5,349	△ 6.7
育 成 豚	4,949	4,581	4,339	△ 5.3
肥 育 豚 後 期	4,726	4,282	3,978	△ 7.1
搾 乳 1 號	4,267	3,960	3,681	△ 7.0
搾 乳 3 號	4,457	4,133	3,844	△ 7.0
큰 소 肥 育 1	4,204	3,852	3,581	△ 7.0
큰 소 肥 育 2	3,833	3,571	3,313	△ 7.2

資料：農林水産部 畜産局

다. 園藝作物

菜蔬類 價格을 安定시키기 위하여 마늘, 양파 등 양념類에 대해서는 盛出 荷期 以前에 下限價格을 발표하였으며, 農家販賣價格 支持와 端境期 價格安 定을 위해 農水產物價格安定基金 132億원을 投入하여 政府의 收買·備蓄事業 으로 8,888%의 物量을 收買하여 이를 價格動向에 따라 放出하였고 民間收 買備蓄과 出荷調節事業 등에도 235億원을 지원하여 收穫期 價格安定을 도모 였다.

또한 무우, 배추 등은 出荷調節資金을 集中 支援하여 收穫期 洪水出荷로 인한 價格下落 防止에 노력하였으며 특히, 12月初 寒波 및 降雪로 產地出荷 가 不振하여 價格이 急騰함에 따라 農安基金 553百萬원을 들여 1,940%의 物量을 買取하여 消費地 都賣市場에 直出荷하는 등 價格安定對策을 적극적 으로 推進하였다.

<表 1 5 22>

菜蔬類 價格安定事業 實績

(單位：%)

	事業名	'80	'85	'86	'87
고 추	政府備蓄	2,049	-	8,000	2,057
	計	9,357	21,288	36,483	32,721
마 늘	政府備蓄	106	-	8,466	6,360
	民間收買	1,597	16,563	18,517	11,557
	出荷調節	7,654	4,725	9,500	14,804
	計	39,699	92,764	73,723	66,272
양 파	政府備蓄	81	-	-	471
	民間收買	39,618	74,723	54,723	43,915
	出荷調節	-	18,041	19,000	21,886
	計	178,349	191,345	272,161	284,886
무 우 배 추	出荷調節	178,349	191,345	272,161	282,946
	買取事業	-	-	-	1,940

資料：農林水產部 農產物流通局

果實類에 대해서는 收穫期の 洪水出荷를 抑制하고 端境期 價格安定을 위해 栽培農家를 대상으로 果實貯藏庫 設置에 1,638百萬元, 民間收買貯藏事業에 3,237百萬元를 支援하고 사과, 복숭아, 포도, 감귤 등 果實의 加工·備蓄事業을 위해 9,153百萬元를 지원하였다. 이외에도 사과, 배, 감귤은 27.6千%에 대한 出荷調節事業을 實施하기 위해 8,808百萬元를 지원하는 등 모두 212億원의 農安基金을 果實類 價格安定을 위한 事業에 支援함으로써 큰 效果를 거두었다.

<表 1-5-23>

果實類 價格安定事業 實績

(單位: %)

	事業別	'80	'84	'85	'86	'87
	計	14,497	30,897	32,877	39,417	41,032
사과·배	民間收買	14,497	14,524	17,877	19,661	20,543
	出荷調節	—	16,373	15,000	19,756	20,489
복숭아	民間收買	10,100	3,853	3,751	8,613	10,053
포도	民間收買	5,437	4,535	8,099	5,919	10,900
	計	23,798	24,203	75,659	48,710	85,442
감귤	民間收買	23,798	18,506	65,659	41,458	78,310
	出荷調節	—	5,697	10,000	7,252	7,132

資料: 農林水産部 農產物流通局

라. 農水産物價格安定基金의 運用

農水産物價格安定基金(農安基金)은 「農水産物流通 및 價格安定에 관한 法律」에 의해 설치되었다. 이 基金의 設置目的은 農水産物(米穀類 제외)의 원활한 需給과 價格安定을 도모함은 물론 流通近代化를 促進하여 生産者와 消費者의 利益을 보호하는데 있다.

農安基金은 '87년까지 3,801億원을 造成하였고, '87年の 運用額은 3,497億 원으로 運用內譯은 備蓄事業에 513億 원, 融資金과 事業助成費로 각각 2,892億 원과 92億 원을 사용하였다.

備蓄事業은 農産物 備蓄에 364億 원, 水産物 備蓄에 149億 원을 사용하고,

融資金 2,892億원은 마늘, 양파, 사과, 배,麥酒보리, 유채등의 農産物과 活鮮魚등 水産物の 收買에 795億원, 輸出促進에 206億원, 出荷調節에 401億원, 出荷促進에 325億원을 지원하였다. 또 國內生産이 不足한 참깨, 땅콩의 生産 獎勵金으로 180億원을 融資하였고, 畜産物과 活鮮魚의 價格調節에 170億원을 지원한 것을 비롯하여 流通改善事業에 815億원을 지원하였다.

<表 1 5-24>

農水産物價格安定基金 運用實績

(單位: 億원)

	'75	'80	'85	'86(A)	'87(B)	增減率(B/A)
計	214	1,215	2,933	3,016	3,497	15.9%
1. 備蓄事業	20	383	262	472	513	8.7
(農産物)	(18)	(361)	(196)	(424)	(364)	(△14.2)
(水産物)	(2)	(22)	(66)	(48)	(149)	(210.4)
2. 融資支援	193	751	2,596	2,465	2,892	17.3
(生産獎勵)	()	()	(159)	(166)	(180)	(8.4)
(收買支援)	(95)	(532)	(641)	(712)	(795)	(11.7)
(輸出促進)	(98)	(5)	(111)	(155)	(206)	(32.9)
(出荷調節)	()	(104)	(235)	(352)	(401)	(13.9)
(出荷促進)	()	(110)	(338)	(298)	(325)	(9.1)
(價格調節)	()	()	(585)	(284)	(170)	(△40.1)
(流通改善)	()	()	(527)	(498)	(815)	(63.7)
3. 事業助成	1	81	75	79	92	16.5

資料: 農林水産部 農産物流通局

마. 畜産振興基金의 運用

畜産振興基金은 畜産物の 需給調節과 價格安定, 家畜의 改良·増殖 및 生産基盤造成과 流通構造 改善 등 畜産振興事業의 원활한 支援과 이를 통한 養畜農家の 所得増大를 目的으로 畜産法에 의거해서 設置·運營되고 있다.

畜産振興基金은 政府補助金, 輸入畜産物 販賣收益納入金 등을 主要財源으로 하여 造成되고 있으나 國內 小값下落으로 인한 소 및 쇠고기 輸入中斷, 農漁家負債 輕減對策에 의한 小入殖資金 利子免除 등 新規造成財源의 縮小로 인해 借入金을 제외한 '87年의 新規造成額은 116億원 정도이었다. 그리고 小값安定對策 推進에 따른 小收買資金을 확보하기 위하여 '85년부터 借入한 農水産物價格安定基金 580億원중 480億원의 償還殘額이 아직 남아 있다.

<表 1-5-25> 畜 振 基 金 造 成 現 況 (單位:百萬元)

	'86 年末 殘額 (A)	'87年 實 績			'87 年 末 殘 額
		造 成 (B)	使 用 (C)	純增(D=B-C)	
政府補助金	1,000				1,000
畜産物販賣 附加金	28,895				28,895
飼料原料 輸入價格 差額納入金	43,899		666	△ 666	43,233
韓國馬事會 納入金	1,200	1,000		1,000	2,200
輸入畜産物 販賣收益 納入金	133,782	10	57,136	△ 57,126	76,656
輸入家畜 國內價格 差額 納入金	19,731				19,731
出 捐 金	677	82		82	759
基金運營收益金	109,643	10,572	3,285	7,287	116,930
小 計	338,827	11,644	61,087	△ 49,423	289,404
借 入 金	53,000	5,000 △10,000		△ 5,000	48,000
合 計	391,827	6,664	61,087	△ 54,423	337,404

資料: 畜協中央會

한편 '87年 畜産振興基金의 總運營規模는 1,630億 7,100萬원으로서 畜産物과 飼料등의 需給調節資金으로 659億 6,500萬원, 畜産物 流通改善과 牧野造成 등 融資金으로 43億 9,500萬원, 收買牛缺損補填과 家畜改良, 畜産物 流通, 牧野造成 등 補助金과 基金事業費 등으로 610億 8,700萬원을 지원하였다.

<表 1-5-26>

畜振基金運用内訳

(單位：百萬圓)

項 目	'86年末 殘額	'87 年 實 績		'87年末 殘額
		執 行	回 收 及 使 用	
1. 需給調節資金	75,326	65,965	80,874	60,417
(畜産物)	71,626	62,293	76,434	57,485
(系統出荷先給金)	1,700	1,672	2,400	932
(飼料)	2,000	2,000	2,000	2,000
2. 融 資 金	280,905	4,395	59,436	225,864
(畜産物流通)	7,019	1,892	3,667	5,244
(收野造成)	19,056	2,399	1,465	19,990
(家畜増殖)	181,932	104	23,518	158,518
(酪農振興)	25,072		5,649	19,423
(其他事業支援)	47,826		25,137	22,689
3. 固 定 資 産	25,074	2,996	2,443	25,627
4. 補 助 金	-	47,761	47,761	
5. 基 金 事 業 費	-	13,326	13,326	
小 計	381,305	134,443	203,840	311,908
6. 次 年 度 移 越	13,654	29,149	13,654	29,149
7. 負 債 (充當金等)	△ 3,132	△ 521		△ 3,653
合 計	391,827	163,071	217,494	337,404

資料：畜協中央會

第 3 節 農水産物 流通改善

1. 産地流通

農産物生産 및 出荷의 規模化를 기하고 出荷된 生産物의 市場交渉力을 提高시키기 위하여 組織된 協同出荷班은 流通資金의 擴大支援 등을 통해 組織의 内實化를 도모함으로써 '87년에는 1,478個의 單位組合에서 모두 271千 戸에 이르는 農家가 協同出荷班에 參與하게 되었다.

이와함께 協同出荷班을 통한 共同出荷와 直去來를 유도하기 위하여 年利 5%의 協同出荷班 育成資金을 '86年 340億圓에서 435億圓으로 늘려 지원하였으며 '87年の 共同出荷物量은 2,344千噸에 이르렀고 大都市 消費處와의 直去來量은 549千噸에 달하였다.

또한 産地의 流通施設改善을 위하여 '87年에도 單位農協의 産地 集荷場, 簡易貯藏庫 및 輸送車輛의 擴充 등에 國庫 23億圓을 지원하여 集荷場 20個所, 簡易貯藏庫 20個所, 輸送車輛 244台를 더 確保토록 支援함에 따라 '87年

未 現在 集荷場 155個所, 簡易貯藏庫 97個所, 輸送車輛 1,819台를 保有하게 되었다.

한편 收穫期の 一時出荷로 인한 價格下落을 防止하기 위하여 單位農協으로 하여금 盛出荷期에 收買하여 端境期에 販賣할 수 있도록 販賣事業資金도 35億원을 지원하였다.

<表 1-5-27>

產地協同出荷班組織現況

(單位:個)

		'84	'85	'86	'87
協同出荷班數		7,700	10,126	10,346	11,708
計		24	24	24	25
對 象 品 目 數	菜蔬類	7	7	7	8
	調味菜蔬類	4	4	4	4
	果菜類	6	6	6	6
	果實類	5	5	5	5
	特作類	2	2	2	2
流通資金支援(億원)		291	320	340	435

資料: 農林水産部 農産物流通局

2. 都賣市場

農水産物流通의 中樞的 役割을 담당하고 있는 都賣市場을 擴充하기 위하여 圈域別로 12個 主要都市에 全額 公共投資로 公營都賣市場 建設을 推進하는 한편 이미 建設된 都賣市場이 制度市場으로 定着할 수 있도록 都賣市場 運營改善을 계속해 오고 있다.

지난 '85年 6月 開場된 서울 可樂洞 都賣市場은 去來物量이 점점 늘어나 서울 流通量의 50% 정도를 取扱하고 있으며, 이와함께 公正去來가 이루어지도록 함으로써 全國 中心市場으로서의 役割을 수행해 나가고 있다. 그러나 既存商圈의 一時移轉에 따라 나타난 施設 및 運營上의 未洽한 점을 改善하기 위해 綜合改善方案의 일환으로 直販市場 建設, 都小賣機能 分離등 市場活性化 措置를 취하였다.

또한 '87年 11월에 開場된 大田 都賣市場은 中部圈의 農水產物流通 改善에 크게 기여하고 있다. 그리고 大邱와 淸州 都賣市場은 '88년에 開場할 계획이다.

한편 公營都賣市場의 建設과 함께 새로운 制度市場에 맞도록 運營制度를 補完하기 위하여 農水產物流通 및 價格安定에 關한 法律의 施行令을 改正하여 競賣士 資格試驗制度를 導入함으로써 公正去來의 早期定着과 制度市場의 活性化가 이루어지도록 하였다.

3. 去來單位 統一 및 規格化

流通能率을 向上시키고, 農家販賣價格을 높여주는 동시에 公正去來秩序를 실현하기 위하여 農水產物去來 單位의 統一 및 規格化 事業이 推進되어 왔다.

'84년에 農·水·畜協, 農漁民, 消費者, 流通從事者 등으로 構成된 協議會를 통하여 品目別 去來實態와 輸送에 따른 容易性 등을 고려하여 實用性이 높은 標準去來單位를 設定한 이후 지금까지 農產物 32個 品目, 水產物 10個 品目, 畜產物 4個 品目 등 모두 46個 品目に 대하여 標準去來單位를 設定하였다.

또한 農水產物의 規格出荷를 促進하기 위해 '87년에는 包裝資材費의 30%에 해당하는 896百萬원을 國庫로 補助하여 주는 한편 規格出荷를 條件으로 出荷約定額의 60% 범위내에서 年利 3%의 規格出荷 先渡金 2,913百萬원을 農安基金에서 支援하였다.

<表 1 5 -28> 農產物 規格出荷 및 包裝改善事業

	'84	'85	'86	'87
品 目	복숭아, 딸기, 오이, 참외	토마토追加	호박追加	포도追加
事業量 (F%)	8	30	84	155
對象組合 (個)	43	55	158	308
支援額 (百萬원)	36	220	521	896

資料：農林水產部 農產物流通局

<表 1-5-29>

規格出荷 先渡金支援

	'84	'85	'86	'87
品 目	풋고추, 양파, 포도, 마늘, 감자, 가지, 당근, 밤	풋고추, 양파, 포도, 마늘, 감자, 건고추	'85와 同	풋고추, 양파, 마늘, 감자, 양배추, 건고추
事業量 (千M/千)	9	6	14	16
對象組合 (個)	52	87	161	130
支援額 (億원)	10	17	23	29

資料：農林水産部 農産物流通局

4. 流通情報 및 流通教育

生産者인 農民은 가장 유리한 價格으로 販賣하고 消費者 또한 가장 유리한 價格으로 購買하도록 하기 위해서는 迅速正確한 流通情報の 蒐集 및 分散이 필요하다. 이를 위하여 農林水産部는 그동안 機關別로 실시하여온 流通정보를 體系化하여 農·水·畜協 및 農水産物流通公社와 함께 流通정보의 蒐集 및 分散體系를 構築하여 運營중에 있다.

農水産物 流通정보는 全國 主要産地 및 消費地에 配置된 調査要員들이 主要農水産物 92個 品目에 대한 價格 및 流通量 등을 調査하여 市·道統計出張所의 電算터미널을 利用하여 그 情報를 農林水産部 中央電算室에서 취합하고, 中央電算室은 入手된 資料를 整理·分析한후 農林水産部 統計電算網 및 農·水·畜協등 系統機關을 통하여 當일로 實需要者에게 전파하고 있다.

또한 수시로 流通정보 需要者の 便益을 도모코자 서울, 釜山, 大邱, 仁川 등 主要都市에 電話를 통한 自動應答裝置를 設置·運營하는 한편 TV, 라디오 등 각종 매스콤을 통하여 價格 및 流通物量에 관한 情報를 제공하고 있다.

한편 流通專門人力의 業務能力 向上과 商道義 抑揚등 流通人으로서의 使命感 鼓吹 및 資質向上을 위하여 '85年 8月 農水産物流通公社에 農水産物流通教育院을 開設하고 '87年末까지 모두 1,554百萬元을 支援하여 그간 流通

従事者 8,440名에게 流通專門教育을 體系的으로 實施하여 왔다.

<表 1-5-30>

流通従事者 教育人員

	'85	'86	'87	累 計
教育人員(名)	5,410	1,512	1,518	8,440
支援額(百萬圓)	436	580	538	1,554

資料：農林水産部 農産物流通局

5. 農水畜産物 加工食品 標準化

農水畜産物 加工食品의 品質向上과 品質保證을 위한 食品標準規格化(Korean Standards)事業은 '86年初까지 工業振興廳에서 國家標準化 事業의 일환으로 推進해 왔으나 加工食品이 多樣해지고 需要가 增加함에 따라 이를 擴大發展시켜 나가기 위해 標準化業務를 農林水産部에서 管掌하게 되었다.

'86년에는 農水畜産物 加工食品標準化에 관한 運營要綱을 制定하고 學界, 業界, 消費者團體 및 食品研究機關 등의 專門家로 構成된 審議會를 設置하는 등 加工食品標準化(KS)業務의 基盤을 構築하였으며 아울러 市販牛乳등 14個 品目에 대한 新規規格을 制定하고 밀가루, 소시지 등 35個 品目の 既存規格을 改正確認하고 소시지, 프레스햄 등 8個品目を KS對象品目으로 指定하는 등 KS制度의 效率的인 運營을 도모하였다.

이러한 바탕 위해서 '87年에도 버터, 아이스크림 등 4個 品目에 대하여 新規規格을 制定하고, 마요네즈, 잼, 미강유 등 21個 品目の 既存規格을 改正確認하는 한편 마아가린, 마요네즈, 딸기잼, 미강유, 버터, 아이스크림, 돼지고기통조림등 9個 品目を KS 表示許可 對象品目으로 指定하였다. 그리고 '86年과 '87年에 指定한 17個 品目中 關聯業體로부터 KS마크 表示許可 申請이 있는 品目에 대해서 所定の 工場審査와 成分分析을 거쳐 소시지, 꿀과실음료, 양조간장, 마요네즈, 딸기잼 등 7個 品目 15個 工場에 대하여 KS 마크를 使用할 수 있도록 許可하였다.

<表 1-5-31>

KS規格管理 및 表示許可 品目

	品目名	許可工場數	許可業體名
工 振 聽	콩 기 림	4	제일제당, 삼양유지, 동방(인천, 진해)
農林水産部	소 시 지	4	제일제당, 롯데햄, 진주햄, 한국냉장
"	프 레 스 햄	1	제일제당
"	귤과실음료	3	롯데칠성(오프, 양산), 해태음료
"	양 조 간 장	3	삼양식품, 오복식품, 삼화식품
"	마 요 네 즈	2	오뚜기식품, 한국크노르
"	딸 기 잼	1	샤 니
"	아이스크림	1	삼양식품
"	미 강 유	1	신양현미유
計	(8 個)	19 個	

資料：農林水産部 農産物流通局

第 4 節 農林水産物 輸出入

1. 農林水産物 輸出

農林水産物の 輸出은 '85년까지 全般的으로 減少趨勢에 있었으나 政府의 각종 輸出 支援施策과 恩高 現象에 따른 對日市場 擴大 및 商業營農에 따른 輸出物量 增加로 최근 2年間 높은 伸張勢를 보였다. '87년에는 2,512百萬달러를 輸出하여 '86년의 1,925百萬달러에 비해 30.5%가 增加하였으며, 全體 商品輸出額 47,281百萬달러의 5.3%를 차지하였다.

主要 品目別 輸出動向을 보면 農畜産物은 돼지고기등 畜産物의 對日輸出 擴大와 自由中國등 東南亞國家들과의 連繫貿易 擴大를 통한 사과, 배 등 果實類의 輸出이 크게 增加하였으며, 林産物은 木材 및 木製品의 꾸준한 輸出 增加와 石材, 버섯, 밤등 山林副産物의 輸出擴大로 '85년이후 계속하여 增加하고 있다. 또 水産物도 活鮮魚, 冷凍魚類, 水産통조림 등의 輸出擴大로

前年對比 25%가 增加한 1,731百萬달러로 全體 農林水產物 輸出의 68.9%를 차지하였다.

〈表 1 5 32〉

農林水產物 輸出 實績

(單位：百萬\$)

	'75	'80	'85	'86	'87	前年對比 增減率(%)
總 輸 出	5,081	17,505	30,283	34,714	47,281	36.2
農林水產物	931	1,725	1,398	1,925	2,512	30.5
農畜產物	209	225	164	208	320	53.8
畜產物	36	26	25	23	38	65.2
果實類	3	15	6	12	25	108.3
菜蔬類	5	24	13	12	17	41.7
農產 農具	22	33	21	24	34	41.7
調製食料品	11	18	39	53	65	22.6
生絲類	121	65	20	31	28	△ 9.7
其 他	11	44	40	53	114	115.1
林 產 物	293	629	264	333	461	38.4
木 材 類	256	472	78	97	129	33.0
石 材 類	12	58	84	122	166	36.1
버섯, 밤 등	13	64	86	101	152	50.5
水 產 物	429	871	970	1,384	1,731	25.1
水 產 物	399	759	891	1,282	1,620	26.4
漁 網 類	30	112	79	102	111	8.8

資料：農林水產部 農業政策局, 商工部

地域別 輸出動向을 보면, 農林水產物 全體의 對日輸出은 '86年의 68.6%에서 '87년에는 64.3%로 다소 줄었으며, 對美輸出은 14.2%를 차지하여 '86年의 12.6%에 비해 다소 增加되었다. 그러나 日本과 美國에의 農林水產物 輸出依存度는 여전히 80%내외의 높은 偏重現象을 보이고 있는 실정이다.

'87년에 農林水產物 輸出이 이처럼 增加될 수 있었던 것은 對外經濟與件

의 有利性을 活用한 輸出業界의 積極적인 活動과 함께 政府의 各種 支援施策이 調和를 이룬 결과이다. 특히 '87년에는 輸出附帶費用 輕減을 위한 지속적인 輸出節次 改善과 原料蒐集 및 施設資金의 支援, 輸出有望品目の 開發擴大, 農林水産物에 대한 品質改善과 經營合理化 등을 통해 水産物, 果實類, 畜産物 등 技術集約적인 分野를 중심으로 輸出産業化를 기할 수 있는 계기를 마련하였다.

2. 農林水産物 輸入

'87년의 農林水産物 輸入額은 3,012百萬달러로 前年보다 18.1%가 增加하였다. 品目別 動向을 보면, 農畜産物은 家畜飼育頭數의 增加 및 飼育規模의 擴大로 인해 飼料用 穀物 및 기타 飼料의 輸入이 增加하였고, 食品 消費構造의 變化 등에 기인한 食用穀物の 輸出增加와 참깨등 價格安定을 위한 備蓄用 農産物の 導入이 增大되었다. 林産物은 816百萬달러를 輸入하여 前年對比 32.9%가 增加하였는데, 이는 木材와 合板의 輸出을 위한 原木등 輸出用 原資材의 輸入이 많았기 때문이다. 그리고 水産物 輸入도 前년에 비하여 크게 增加하였는데 이것은 대부분 外貨獲得用 原料로서 輸入된 것이다.

農林水産物の 輸入은 國內 生産基盤과 國民食糧의 安定的 供給 등을 고려하여 國內自給이 可能な 品目は 輸入을 최대한 抑制하고, 構造的으로 自給이 困難한 品目は 必要한 量만을 適期에 導入하며 輸入制限品目과 自由化 品目別로 類型別 輸入管理對策을 推進하고 있다.

특히 農畜産物の 輸入增加는 農家所得源의 減少와 함께 國民食糧의 對外依存度を 높이므로써 가능한한 輸入을 制限하거나 또는 國內生産品으로 大替도록 함으로써 國內 農水産資源 活用度を 높여 나가고 있다.

<表 1 5 33>

農林水產物輸入實績

(單位：百萬\$)

	'75	'80	'85	'86	'87	前年對比 增減率(%)
總 輸 入	7,274	22,293	31,136	31,584	41,019	29.9
農 林 水 產 物	1,302	3,180	2,522	2,551	3,012	18.1
農 畜 產 物	1,022	2,236	1,814	1,819	1,998	9.8
糧 穀 類	689	1,073	912	823	854	3.8
肉 類	12	23	21	12	16	33.3
油 脂 作 物 類	17	208	249	259	289	11.6
動植物性油脂	53	125	153	129	145	12.4
산 動 物 類	1	10	9	7	7	△ 1.3
茶 · 香 辛 料	8	37	60	89	75	△15.7
糖 類	207	534	161	187	205	9.6
煙 草	9	78	10	14	10	△ 28.6
其 他	26	148	239	299	397	32.8
水 產 物	9	34	79	108	198	83.3
林 產 物	271	910	629	624	816	30.8

註：CCCN 1~24類 及 林產物

資料：關稅廳

第6章 農漁村專門人力 및 尖端技術 開發

第1節 農漁民後繼者 育成

'70年代를 前後한 産業化過程에서 農漁村人力の 急激한 減少와 老齡化·婦
女化 現象은 農漁業의 生産性を 鈍化시키고 農漁村社會 開發을 沈滯시키는
要因이 되었다.

이에따라 '80年 11月 5日 農漁民後繼者 育成基金法을 制定하고, 寄附財産
396億원을 基礎로 後繼者育成基金을 設置, '81년부터 農漁村에 定着해서 營
農, 營漁에 종사할 意慾이 있는 靑少年을 農漁民後繼者로 選定하여 필요한
事業資金을 支援하게 되었다.

한편 '87년까지 基金造成額은 2,417億원에 이르렀고, 農漁民後繼者에게 지
원된 資金은 '87年の 703億원을 포함하여 2,811億원에 달하게 되었다.

〈表 1-6-1〉 農漁民後繼者 育成基金 造成 및 育成人員 (年末基準)

	計	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87
基金造成(累計)	億 원	515	665	1,477	1,742	1,893	2,162	2,417
育 成 人 員	名	1,945	1,998	2,001	5,000	10,000	10,000	8,500
資 金 支 援	億 원	86	130	139	350	701	702	703

資料：農林水産部 農業政策局

農漁民後繼者 育成事業은 1次的으로 '87년까지 農漁村의 마을當 1명 育成
計劃을 完了하여 '87年末 현재 39,444명의 農漁民後繼者들이 營農·營漁事業
에 종사하면서 자기마을의 發展을 위하여 열심히 일하고 있다.

이들의 事業分布를 보면, 全體 39,444명중 農業分野가 35,697명으로 90.5%

이고, 水産分野는 3,747명으로 9.5%이다. 이를 年齡別로 보면 26~30세 이하가 44.4%로 가장 많고 25세 이하가 34%, 31세 이상이 21.6%를 차지하고 있다.

〈表 1·6·2〉 分野別 農漁民後繼者 育成現況

	計	一般農業	果 樹	特 作	畜 産	水 産
人 員	39,444 名	23,150	515	972	11,060	3,747
構 成 比	100.0 %	58.7	1.3	2.5	28.0	9.5

資料：農林水産部 農業政策局

아울러 後繼者로 選定되면 營農·營漁事業을 推進하는데 있어서 基本이 되는 技術教育과 農漁村 靑少年의 役割을 위한 精神教育을 실시하고 있으며, 또한 割값을 받고 生産物을 販賣할 수 있도록 流通情報誌도 提供하며 販賣 斡旋해주는 등 成功的으로 定着할 수 있도록 적극 뒷받침하고 있다.

第 2 節 尖端技術 開發

農産物의 生産性을 높이고 生産費를 節減하여 國際競爭力을 향상시키며 國內 農業生産技術의 限界性을 극복하기 위해서는 遺傳工學技法을 이용한 尖端農業技術의 開發普及이 絶실히 要求되고 있는 실정이다.

이를 위하여 遺傳工學의 農業利用을 중심으로 實用化研究와 基礎研究를 併行하여 추진하였으며 實用化研究 分野에서는 꽃가루培養技法을 이용하여 벼의 品種育成年限을 短縮시켰음은 물론 一般벼로서 벼멸구와 稻熱病에 強 한 最初 品種인 “花清벼”를 開發 普及하였고, 보리와 밀 및 부우와 배추의 交雜에 의한 新作物도 開發하였다. 또 꽃피는 마늘을 利用한 交雜種 마늘의 育성과 油菜 超多收 1代雜種 完全 雄性不稔 系統을 開發하였고, 감자, 마늘, 선인장, 寒蘭 등 營養繁殖作物의 無病種苗를 大量生産할 수 있는 組織培養 技法과 느타리버섯 栽培農民의 呼吸器 疾病을 줄일 수 있는 新種 無孢子느

타리버섯을 細胞融合技法으로 개발하였다. 또 細胞融合技法을 이용하여 가축질병의 迅速診斷液 10種을 개발하여 實用化함으로써 家畜疾病의 防疫에 크게 기여할 수 있게 되었다.

基礎研究 分野에 있어서는 葯培養時 植物體 獲得率 向上, 高所得作物의 人工種子 生産技術, 遺傳子 分離 및 運搬體 利用技術과 有用 遺傳子 轉換技術 確立에 중점을 두고 연구를 추진하였다. 한편 遺傳資源 保存施設, 無菌動物 研究室 등 特殊實驗室 6個를 新設 및 補完하였고, 161명의 研究員을 海外研修시켰으며 最新 研究機資材 245種 1,729臺를 確保하는 등 尖端技術 開發을 위한 研究基盤造成에도 괄목 할 만한 성과를 거두었다. 아울러 遺傳資源도 90千點을 國內外에서 蒐集하여 保管 活用중에 있다.

第3節 農業技術 開發 및 指導

1. 農事試驗研究

가. 主穀增產技術 開發

主穀의 持續的 自給을 위하여 優良新品種 開發에 注力한 결과 稻熱病과 白葉枯病에 강한 耐冷多收性 벼品種인 “이리 373호”와 鹽害에 강한 干拓地用 “남양3호”, 바이러스病에 강한 “영덕 5호” 등 一般系벼 6品種을 開發하였고 벼 機械移秧 安全栽培 技術을 確立하여, 機械移秧面積 擴大에 기여함으로써 農村勞動力 不足 解消에 크게 이바지하였다.

또, 보리에 있어서는 耐寒性이며 良質인 찰보리 “수원 236호”와 이삭이 긴 쌀보리 “이리 11호” 및 良質의 麥酒보리 “두산 29호”를 開發하였다.

나. 所得作物 開發

農家所得을 향상시키고 自立營農農家를 확대시켜 나가기 위하여 各地域에 알맞는 高所得 作物開發과 技術改善研究에 注力한 결과 나물콩용인 “밀양 21호”와 고구마 “수원 119호”등을 育成하였다. 特用作物에 있어서는도 2毛作에

<表 1-6-3>

'87年 主穀作物 新品種 開發現況

	品 種 名	主 要 特 性	收 量 性	適 應 地 域
벼	수원313호	良質, 耐晩植, 稻熱病中, 耐冷性強	kg/10a 483	嶺湖南 所得作物 後作, 極晩植
	수원346호	良質, 稻熱病 및 白葉枯病中, 耐冷性強	507	中部 및 內陸平野地
	이리373호	稻熱病 및 白葉枯病強, 縞葉枯病中	468	全南北, 慶南平野地
	이리374호	白葉枯病 및 冷害強, 倒伏強	476	忠南, 全南北平野地
	남양 3호	良質, 鹽害 및 倒伏強, 準短杆	492	中部西海岸 干拓地 및 平野地
	영덕 5호	稻熱病中, 바이러스病 強	509	東南部海岸地帶
麥 類	수원236호	耐寒, 찰쌀보리	344	忠南, 全南北, 慶南
	이리 11호	長穗型, 耐災害強, 쌀보리	366	全南北, 慶南
	두산 29호	良質, 倒伏強, 맥주보리	428	全南, 慶南 南部 및 濟州道

資料：農村振興廳

알맞는 참깨 “수원87호”, 들깨 “수원 25호”등을 選拔하였다. 菜蔬類는 加工用감자 “세풍”, 봄부우 “고청대형”, 버섯 “만가닥 1호”등 6品種을 育成하였고, 果樹는 여름배 “수진조생”, 복숭아 “월봉조생”등 6品種을 開發하였다.

한편 사과用 着色봉지와 배用 防蟲봉지를 開發하여 輸出用 果實의 品質向上을 기하도록 하여 國際競爭力을 높일 수 있도록 하였다.

다. 畜産技術開發

家畜能力 改良에 있어서는 소의 경우 18個月 體重이 550kg인 韓牛 6頭를 選拔하고, 大量增殖技術인 受精卵移植技術도 크게 향상시켰으며, 돼지成長 호르몬 利用技術과 닭 合成아미노산 添加 飼養技術등을 확립하였으며 畜産疾病 豫防을 위해 乳房炎 포도상구균 豫防藥 등 4種을 開發하고, 닭 뉴켓슬病에 대한 豫防藥 接種技術의 改善, 狂犬病 豫防藥 檢定法의 改良 등으로 家畜疾病 發生을 줄이는데 크게 기여하였다.

또한 飼料作物은 黑條萎縮病에 강하고 後期까지 綠體가 많은 옥수수

<表 1-6-4>

'87年 所得作目 新品種 開發內容

	品 種 名	主 要 特 性
田作物	밀 양 21호	小粒, 나물콩, 耐病性強, 189kg/10a, 全南, 濟州地域適應
	수원 133호	倒伏強한 中粒性 일반콩, 245kg/10a, 中南部 2毛作地帶 適應
	수원 119호	生食用고구마, 塊根肉色朱黃, 全國適應(제주제외)
果 樹	수진조생	良質여름배, 大果, 선황갈색.
	월봉조생	極早生복숭아, 大果, 糖度높음, 生食用.
	월출대추	生果 및 乾果兼用 대추, 大果, 高糖度, 烈果낮음.
	대안단감	과일 아주 크고 外觀美麗
	정방네블오렌지	良質 晚柑, 高糖度, 低酸味, 출하기 3月下旬까지 가능.
	남해 1호	해거리적은 柚子, 加工嗜好性 좋음.
菜 蔬	세봉감자	加工用감자, 장타원형, 早生種, 南部地方畚前作用.
	고청대형봄무우	대형봄무우, 兩親同時開花, 바람들이와 무름병 強.
	강동토마토	하우스栽培用토마토, 有限伸育, TMV 및 시들음병 強.
	황옥애론	무넛트애론, 저장성양호한 春作用.
特 用 作 物	수원 87호	2毛작용 참깨, 다삭, 64kg/10a, 中南部地域 適應
	수원 25호	앞과 種實兼用 들깨, 70kg/10a, 全國 適應
	카리토리	과일이 큰 수세미, 商品率 높음, 5,300개/10a
	울릉종	약초 일천궁 生根·乾根 많음, 199kg/10a, 南部地方 適應
버섯	만가닥 1호	初發茸 日數적고 수량 많음, 26kg/평
	목이 1호	初發茸 日數적고 수량 많음, 32kg/평

資料：農村振興廳

“수원 99호”, 超多收性인 眞珠조 “수원 1호”, 早熟多收性인 호밀 “호밀 4호” 와 分蘖力이 강한 오차드그라스 “합성 7호”를 育成하였을 뿐만 아니라 논의 效率的利用을 기할 수 있도록 飼料作物 作付體系도 確立하였다.

<表 1-6-5>

'87年 飼料作物 新品種 育成內容

	品 種 名	主 要 特 性
옥수수	수원 99호	黑條萎縮病, 胡麻葉枯病 強, 後期綠體 많음, 6,600kg/10a
진주조	수원 1호	分蘖力, 再生力 強(3회刈取可能), 15,000kg/10a
호밀	호밀 4호	早熟, 低溫生育性, 瘠薄地適應 強, 3,300kg/10a
오차드그라스	합성 7호	分蘖力 많고 競爭力 강한 放牧型, 夏枯抵抗性 強, 5,500kg/10a

資料：農村振興廳

라. 優良農業資材 開發

'87년에는 보리收量을 높일 수 있는 麥類細條播機와 勞力 및 經費가 節減되는 耕耘機用 2軸 로타리, 과실의 規格화와 選別機械化를 기할 수 있는 選別機 등 5種을 開發하였고, 芟草절단기의 部品規格化로 農機械 利用效率를 제고시켰다.

<表 1-6-6> '87年 農機械 開發現況

	開 發 機 種
새로운 農機械開發(5種)	麥類細條播機, 경운기용 2축로타리, 채소, 원예용분무기, 糞尿撒布機, 과일 선별기
芟草절단기 部品規格化(KS)	回轉날(길이등 6규격), 回轉날부착프레임(부착면 길이등 6규격), 固定날(고정볼트구멍간격등 6규격)

資料：農村振興廳

農藥研究에 있어서도 病害蟲 同時防除用 混合劑와 벼멸구 防除用 低飛散粉劑를 開發하였으며, 農藥安全使用 基準을 追加로 設定하고, 農藥撒布用 安全마스크를 개발하여 農藥被害를 輕減시킬 수 있게 하였다.

<表1-6-7> 低飛散藥劑의 生産費 및 防除費用

	低飛散性粉劑	微 粒 劑	粉 劑
生 産 費 (원/10a)	938	1,176	821
比 率 (%)	114	143	100
防 除 價 (%)	96	94	94

資料：農村振興廳

마. 國際農業技術 協力

美國, 日本 등 10個國, 國際米作研究所 등 9個 國際研究所, 그리고 世界食糧農業機構 등 7個 國際機構와 尖端技術 共同研究를 실시하였으며, 잠비아, 수단, 아이티 등 34個 開發途上國에서 초청된 126명에게 米穀生産, 農機械

農村指導 등 7個 分野에 대한 우리의 先進農業技術教育도 실시하였다. 아울러 파키스탄, 가나, 파라과이 등 14個 國家에 24명의 農業專門家を 파견하여 해당국가의 農業開發普及事業을 지원토록 하였으며, 美國 農務省, 대만中央研究院 및 아스팍 食糧肥料技術센터와 共同으로 3回의 國際學術會議를 개최하였다.

바. 農業產學協同

農村振興機關과 農科系學校, 農業團體 및 營農人間에 協同으로 農業技術開發과 普及을 促進하기 위해 設置한 農業產學協同基金은 86年の 10億원 수준에서 '87년에 46億원 수준으로 增額하고, 그 收益金으로 尖端技術開發을 중심으로 하는 用役研究와 情報交流 促進을 위한 學術活動 그리고 새 農業技術의 實習 및 教育 등을 지원한 결과 大學教授 152名을 兼任研究·指導官으로 任命하고 大學教授와의 共同研究를 280個 課題로 확대하였다.

새 農業技術開發促進을 위한 用役研究에 있어서는 遺傳工學 分野의 基礎研究를 主軸으로 48個의 研究課題를 수행하였으며 農業技術情報 交流를 촉진하기 위한 學術活動에 있어서는 農業科學學會를 通하여 심포지움을 개최함으로써 農業을 통한 國家發展方向 摸索과 國土의 效率的 利用方案을 강구토록 하였으며 農業關聯 24個 學會에 對한 支援으로 學術活動 振作에 크게 기여하였다.

그리고 새로운 農業技術普及을 위한 實習 및 教育支援事業에 있어서는 全國 101個 農科系 高校에 所得作目 示範園를 설치하여 實技實習機會를 부여하고, 新技術을 신속하게 普及할 수 있게 하였으며 이외에도 새마을營農技術者中央會를 通하여 76個 市郡 5,043명의 營農技術者에게 實技教育을 실시하고, 全國大學 4-H 研究會 指導教授 研鑽會를 개최하여 大學 4-H研究會의 健全한 育成을 도모하였다.

2. 營農技術 指導

가. 主穀增產 技術指導

'87年 쌀 生産目標인 3,800萬石 達成을 위하여 모든 地域에서 安全多收穫이 실천되도록 全國을 112個 地帶로 구분하고, 마을別로 2~3個所씩 地域獎勵品種을 推薦하여 각자의 논性質에 알맞는 品種을 農民 스스로 選擇해서 栽培하도록 지도하였다. 아울러 '88年 優良品種을 適地에 普及하기 위하여 全國 邑面當 2個所씩 總 4,185個所의 品種比較 示範圃와 安全多收穫 示範圃 600個所, 農土培養示範圃 139個所, 機械모내기 育苗示範圃地 139個 등을 설치하여 科學營農이 現地圃場에서 실천되도록 함과 동시에 농사철에 現場實習教育場으로 活用되도록 하였다. 또한 全國 151個所의 基本豫察所를 운영하여 病蟲害 精密豫察과 適期 同時防除로 病害蟲 被害가 최소화되도록 하였다.

〈表 1 6 8〉 '87年 벼 示範圃 設置數 및 收量

	個 所	收 量 (kg/10a)		現地評價教育	
		示 範	隣近對比	回 數	人 員
벼品種比較 示範圃	4,185個所	-	-	12,850回	617千名
벼 安全多收穫 示範圃	600	546kg	125%	1,841	123
農土培養示範圃	139	524	113	278	23
機械모내기 育苗示範圃地	139	495	103	384	25

資料：農村振興廳

나. 所得作目增產 技術指導

밭작物 自給達成을 위하여 多收穫 및 品種比較示範圃 2,674個所와 經濟作物 安全生産을 위한 施設菜蔬 등 園藝作物 示範圃 883個所 및 果樹 示範圃 175個所, 버섯, 藥草 등 特用作物 示範圃 65個所, 그리고 花卉 示範圃 60個所, 密植비닐덮기 뽕밭造成 등 省力養蠶 示範圃 496個所를 作目別 主産圃地 中心地域에 集中設置하여 새品種 새技術 現場教育場으로 活用토록하고 示範圃産 優良種子는 農民들이 自律的으로 交換하여 擴大栽培하도록 하였다.

畜産技術指導에 있어서는 家畜의 生産性 向上과 所得增大에 直結되는 養畜技術 普及을 위하여 417個 마을에 韓牛繁殖, 肥育牛, 젓소 등 飼育段階別 標準飼養技術 指導와 家畜疾病의 迅速한 豫察 및 情報發表 등 事前對策指導로 被害를 극소화시켰다. 또 밭飼料作物 示範圃 1,452個所, 논뒷그루 飼料作物 示範圃 3,162個所와 山地草地利用 示範圃 60個所를 主産地域에 集中設置하여 良質粗飼料 生産利用 技術普及을 위한 現場教育場으로 活用함으로써 濃厚飼料 節減 등 經營改善에 크게 기여토록 하였다.

〈表 1-6-9〉 '87年 所得作目 示範圃의 收量比較 (單位: kg/10a)

	콩	참깨	땅콩	고추	마늘	감자	뽕多 收穫	논뒷그루사료작물		꽃베기 옥수수	山地 草地
								호맥	이탈리안 라이그라스		
示範圃	286	94	244	266	1,000	2,258	3,204	4,128	7,688	8,063	4,330
隣 近	205	67	192	194	806	1,805	2,535	3,437	6,446	7,202	3,900
對比(%)	140	144	127	137	124	125	126	120	119	112	111

資料: 農村振興廳

다. 農村靑少年 및 農民後繼者 指導

農村靑少年 育成을 위하여 農村靑少年運動(4-H)이 本格화된지 40돌을 맞는 '87年은 國家的으로 農村靑少年의 育성과 保護에 특히 관심이 高潮되었던 한 해로 第32回 새마을靑少年 競進大會를 全北에서 開催하였으며 民間團體의 農村靑少年 後援活動도 擴大되어 그동안의 靑少年運動에 대한 研究모임과 세미나 및 出版活動도 크게 促進되었다. 특히 새마을靑少年後援會의 주관으로 편찬한 새마을靑少年運動(4-H)40年史는 靑少年運動에 관한 그동안의 歷史를 未來指向的으로 再照明함으로써 우리나라 靑少年의 方向設定에 크게 도움이 되는 중요한 資料가 될 것이다.

한편 '86년부터 勸獎하여온 靑少年讀書室運營運動은 社會各界의 호응을 얻어 '87년에는 全國的으로 크게 擴散되었으며 靑少年會報도 市郡單位로 每月 發刊하여 모든 會員에게 配付하였고, 會員個人 및 靑少年團體別로 권장

된 靑少年 課題는 營農課題를 포함하여 敎養, 趣味, 健全娛樂, 奉仕活動에 관한 약95萬件的 과제를 履修토록 하였다.

또 農民後繼者 指導에 있어서는 '87년에 새로 選拔된 農民後繼者 6,284명에게 支援作目別로 細分化된 學級班을 編成하여 合宿敎育을 실시하여 보다 확고한 농어촌 定着意志, 作目別 必須知識과 技術, 그리고 기초적인 農場經營技法을 習得시킨 후 農場經營을 시작하도록 하였으며 이들 가운데 이미 營農에 종사하고 있는 後繼者에 대해서는 道單位의 補修敎育, 市郡單位의 巡廻敎育과 現地訪問指導등을 통하여 敎育 및 情報支援을 強化함으로써 모든 後繼者들이 早期 營農定着에 성공할 수 있도록 지도하였다.

라. 農村女性の 役割擴大와 農家生活 向上

'86년부터 地域을 바꾸어 3個年 事業으로 邑面當 1個所씩 育成해온 生活改善綜合示範마을에 衣食住와 家庭管理 改善에 관한 技術을 重點指導하고 여기에서 나타난 效果를 마을當 1명씩 위촉된 生活改善 實踐要員으로 하여금 모든 마을의 모든 農家に 波及시키도록 敎育 및 情報支援을 강화하는 한편 農村의 젊은 女性 41萬여명을 대상으로 農村女性 生活科學技術 特別敎育을 실시하여 農家生活向上에 필요한 知識과 技術을 터득시켜 農村生活에 대한 自負心과 올바른 生活態度를 형성하도록 指導하였다.

특히, 農民健康 增進을 위한 營養食品의 生産과 利用, 食品調理加工, 均衡食攝取에 관하여 새로 개발된 方法과 知識을 重點적으로 敎育하였고, 어린이 共同給食을 실시하는 兒童 營養示範마을을 종전 55個所에서 66個所로 확대하고 아울러 6,600個所의 山間奧地마을에는 食生活敎育車 12台를 기동배치하였으며, 副業改良 示範農家 7,391戶를 選定하여 農漁村地域開發基金 17億원을 融資支援토록 하였다.

마. 農民專門敎育 指導強化

'87年 1月 8日~2日 28日(2個月)까지 全國 마을單位로 겨울營農敎育을 실시하였으며 이를 분야별로 보면 食糧作目班에 1,137千명, 所得作目班에 12,214千

名 生活改善班에 197千명 등 모두 2,555千명의 農民이 참여하였으며 豐年農事와 農家所得 向上에 크게 도움이 된 것으로 評價되었다.

또한 作目別 營農技術教育은 中央單位 및 市郡單位別로 總 138千명을 實施하므로써 農民들의 作目別 營農知識과 技術向上에 기여하였으며 한편 中央 및 道單位로 專門技能人力 2千명에 對한 농기계整備 및 修理技術教育을 實施하였고, 市郡單位로 實需要者 및 婦女子 684千명에 對한 農機械 安全使用 技術教育을 實施하므로써 農機械의 效率的인 活用提高는 勿論 交通 事故 豫防을 도모하였다.

바. 農業經營改善指導와 農業技術 弘報

農業經營改善指導事業의 重點方向은 優秀한 農業經營 指導士의 確保와 農業經營 能力向上을 위한 農民教育 強化, 그리고 農家 및 地域單位 經營複合化 유도와 農產物 賤값받기 實踐指導 등에 두고 農業經營의 實質的 指導에 주력하여 農民 73千명에게 農業經營改善教育을 실시하였고, 새로운 農業經營教材 6種 24千部를 發刊·配付하여 農業與件 變化에 對應한 農民의 經營能力 向上과 經營改善 實踐指導에 힘썼다.

또한 適期農作業 豫告와 새技術의 신속한 전달을 위하여 TV와 라디오의 農家放送, 뉴스, 字幕 등을 重點活用하여 農民들이 適期精密營農을 할 수 있도록 弘報하였고 農民들의 視聽覺 教育과 技術指導를 위해 定期刊行物 등 單行本 教材 1,173千部, 當面 營農리후렛 42종 488萬枚, 슬라이드 영화 등 視聽覺 教材 27編을 製作하여 一線指導機關에서 活用토록 함과 아울러 中央 農業科學館 見學者 30千명을 대상으로 우리나라의 發展된 農業技術을 널리 소개함으로써 先進科學營農에 대한 확신을 심어주었다.

第7章 農漁村所得源 擴充

第1節 複合營農事業

'83년에 시작된 複合營農 示範事業은 '86년에 終了되었고, '87년부터는 지금까지의 經驗을 토대로 하여 農民의 希望을 받아 本事業으로 추진되고 있다. 複合營農事業은 農業經營에 있어서 部門別 補完機能 強化와 作付體系의 改善, 그리고 土地와 勞動力 등 農業生産要素의 效率的 活用을 통하여 農業所得源을 擴充하고, 農家販賣價格을 提高시켜 農業所得의 增大效果를 기하는 데 목적이 있으며 本事業의 첫해인 '87년에는 266個 團地를 新規로 造成함으로써 지금까지 모두 1,732個 團地가 造成되었고, 參與農家數도 11萬戶에 이르렀다.

<表 1-7-1>

複合營農事業 推進實績

	單位	示 範 事 業				本 事 業
		'83	'84	'85	'86	'87
團 地 數	個 所	225	300	401	540	266
마을 數	마 을	900	1,200	1,586	2,054	1,415
參與 農 家 數	戶	16,276	20,500	27,870	33,678	16,615
經濟 作物	ha	7,118	15,956	28,507	42,690	18,689
畜 產 入 殖	頭 · 首	25,000	47,786	44,876	72,723	50,599
資 金 支 援	百 萬 圓	28,367	53,258	58,741	54,049	28,335
	中 長 期 資 金	16,592	32,594	34,606	20,428	11,600
	短 期 農 事 資 金	5,275	11,664	22,825	31,621	12,591
	流 通 資 金	4,500	9,000	1,310	2,000	2,144

資料：農林水産部 農業政策局

또한 '87년에는 複合營農團地에 200棟의 共同育苗場을 設置함으로써 參與

農家가 協業農業을 통해 經營費를 節減하는 한편 優良苗를 생산하여 生産性을 높이고 있다. 특히 '87년에는 複合營農事業의 支援對象作目を 참깨, 콩, 땅콩 등을 輸入代替品目으로, 사과, 배, 花卉 등을 輸出有望品目으로, 대추, 자두, 더덕, 도라지 등을 地域特化品目으로 定하였고, 過剩生産의 우려가 없고 所得増大가 가능한 品目으로서 農家에서 희망하는 것 중에서 道知事가 選定한 品目を 중심으로 支援하였다. 그러나 소는 價格波動으로 인하여 '86년에 이어 '87년에도 入殖對象에서 제외하고 그 대신 養蜂, 畜養소, 오골계, 진도개 등으로 이를 代替하였다.

'87년까지 複合營農을 推進한 결과 참깨, 땅콩 등 所得作目 中心으로 參與農家の 栽培技術이 向上되었으며, 生産農産物의 共同出荷 및 等級化 등을 촉진하여 商業營農의 基盤이 점차 定着되어 가고 있는 것으로 나타났다.

第2節 農工地區 造成

農漁家所得을 持續적으로 増大시키기 위해서는 農漁村所得源의 擴充과 함께 農漁業外所得의 増大가 필요하다. 특히 戶當 耕地面積이 1ha이하의 零細農이 全體農家の 66%를 차지하는 零細小農 體制로서는 農業의 生産性 制約이 불가피한 實情이다.

이같은 農漁家所得 増大의 限界克服과 農漁村問題 解決 그리고 農業構造 調整을 促進하기 위해서도 農漁村의 새로운 所得源開發政策이 요청되고 있다. 이를 위해 農漁村工業 開發을 통한 農外就業所得 増大政策으로 農工地區事業이 본격적으로 추진되고 있는 것이다.

이 事業은 '83년에 制定된 農漁村所得源開發促進法을 근거로 農漁村地域에 小規模 工團을 造成해서 就業機會를 擴大하여 農漁家の 安定된 所得増大를 기하려는 데 목적이 있다.

'84년부터 '87年末까지 진척된 農工地區 造成狀況을 보면, 總 77個 地區가 農工地區로 指定되었고, 744業體가 入住 契約하여 敷地工事が 完了된 27個

地區에 81個 業體가 工場을 竣工하여 稼動중에 있다.

'87년에는 各地域을 均衡的으로 開發해 나간다는 方針 아래 落後 農漁村에 해당되는 市·郡에 대해서는 農工地區 開發制限面積을 10萬坪에서 20萬坪으로 擴大하고, 農工地區 造成費의 國庫 負擔率을 높여(一般指定: 20→50%, 特別指定: 45→70%) 地方財政 負擔이 經減되도록 하였으며 아울러 入住 企業體에 대한 融資支援額도 3億원을 늘리어 7億원까지 지원하여 入住가 促進되도록 하였다.

〈表 1 7-2〉

農工地區 指定現況

(單位: 個所)

		計	京畿	江原	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南
'85	一般	7	-	1	1	1	1	1	1	1
'86	一般	16	-	2	3	3	2	3	2	1
	特別	8	-	-	2	3	-	-	1	2
	計	24	-	2	5	6	2	3	3	3
'87	一般	17	1	2	3	3	4	2	2	-
	特別	29	-	-	9	9	-	2	4	5
	計	46	1	2	12	12	4	4	6	5
合計	一般	40	1	5	7	7	7	6	5	2
	特別	37	-	-	11	12	-	2	5	7
	計	77	1	5	18	19	7	8	10	9

資料: 農林水産部 農業政策局

第 3 節 副業團地造成과 觀光農業開發

1. 農漁村 副業團地 造成

農漁村의 賦存資源과 遊休勞動力을 活用하여 農外所得을 增大시키기 위한 副業團地造成事業은 '87年에도 90億원의 資金을 지원하여 105個를 新規로 指定함으로써 副業團地數는 모두 660個에 이르게 되었다.

이와 함께 農漁家 副業製品의 輸出促進을 위하여 農協中央會와 (株)高麗

貿易사이에 農漁家 副業製品 輸出促進을 위한 事務協助約定을 체결하였으며 이 約定에서 農協은 農漁家 副業團地의 育成과 技術 및 經營指導를 擔當하고, (株) 高麗貿易은 製品의 輸出市場 開拓과 輸出斡旋 및 輸出代行業務를 수행토록 함으로써 業務特性에 맞는 專門的 支援 體制를 확립하여 內實있는 事業을 추진하고있다.

〈表 1-7-3〉 農漁村 副業團地 育成現況 (單位：個所, 億원)

	'68 ~ '83	'84	'85	'86	'87
新 規 指 定	1,169	156	131	104	105
運 營 團 地	815	435	505	609	660
資 金 支 援	223	73	66	67	90

資料：農林水産部 農業政策局

2. 觀光農業 開發

都市民의 觀光 및 餘暇活動을 農漁村으로 유치하여 農漁家의 所得增大를 기하는 한편 農漁村의 새로운 서비스産業을 育成하기 위하여 '84년부터 自然 및 觀光資源이 풍부하여 外部 來訪客이 많은 곳, 地域特產品의 知名度가 높아 販促이 可能한 곳, 交通이 편리하여 주변여건의 活用으로도 觀光客 誘致가 쉬운 곳 등을 觀光農業 地區로 選定하여 附帶 및 便益施設(휴게소, 直

〈表 1-7-4〉 觀光農業 開發事業 現況

	單 位	'84	'85	'86	'87	計
地 區 數	個 所	12	13	16	11	52
農 園 規 模	ha	35.3	33.5	38.2	27.9	134.9
參 與 農 家	戶	107	176	195	114	592
總 事 業 費	百 萬 圓	569	865	873	1,482	3,789
融 資 支 援	"	314	465	432	591	1,802

資料：農林水産部 農業政策局

販場, 民泊施設)등에 施設資金을 融資支援해 주고 있으며, '87년에는 11個地區를 新規로 選定하고, 總事業費 1,482百萬元중 591百萬元을 支援하였다.

第4節 農漁村 所得源道路 建設

産業社會의 進展과 더불어 農漁村 住民의 生活領域이 擴大되어 감에 따라 農漁村 道路開發에 대한 需要도 많아지고 있으며 특히, 商業營農의 擴大에 따라 都市의 商品市場과 연결되는 道路開發을 필요로 하고 있고, 또한 農漁村 生活環境의 開發은 물론 農漁業構造의 變化에 따라 農漁村地域 發展의 先導部門으로서 農漁村道路 開發의 重要性이 높아지고 있다.

이러한 農漁村의 與件變化에 따라 農漁村地域에 有機的인 道路網을 開設하거나 또는 擴張 또는 鋪裝함으로써 地域農業 및 農外所得源 開發基盤을 強化하여 農漁家의 所得向上 및 農漁村 生活環境의 改善을 도모하고자 지난 '85년부터 農漁村 所得源道路 建設事業을 推進하고 있다.

農漁村道路 建設은 農業生産活動과 農產物流通에 利用되는 것을 주목적으로 하여 中心都市와 背後마을 등을 効果적으로 연계시켜 나가는 것까지 포함되며, '87년까지 建設한 所得源道路 開發狀況을 보면, 總事業費 370億원을 投入하여 239個 路線에 561km를 건설하였고, '88년에는 155億원을 들여 103個 路線 210km를 建設할 계획이다.

<表 1 -7 -5>

農漁村所得源道路 建設實績

	'85	'86	'87	計
路 線 數(個)	38	89	112	239
事 業 量(km)	104	212	245	561
事 業 費(億원)	136	109	125	370

資料：農林水産部 農業政策局

第8章 農漁村의 活性化를 위한 支援

第1節 農漁村綜合對策

國民經濟의 成長과 더불어 農漁村과 農水産部門도 과거에 비하면 많은 發展을 이룩하였으나 産業間·都農間 發展隔差의 深化로 所得이나 生活與件面에서 都農間 均衡發展 問題가 크게 대두되고 있다.

이같이 深化되고 있는 産業間, 都農間의 發展隔差를 解消하기 위하여 '86年 3月 5日 農漁村綜合對策을 樹立, 이를 推進中에 있다.

1. 農漁民 負擔輕減

農漁村 近代化를 위한 轉換期的 과정에서 나타나고 있는 農漁村의 經濟的 어려움을 克服하고 開放化 進展등 農漁業與件 變化에 對處하여 農漁村經濟 體質을 強化하기 위하여 金利引下, 稅制支援등 農漁民 負擔輕減을 위한 여러가지 施策을 추진하고 있다.

農漁家의 金融負擔을 완화시켜 나가기 위해 營農漁資金, 農漁村住宅改良 등 農漁村資金의 金利를 一률적으로 8%로 引下하였으며, 農家의 負擔이 되어왔던 水利施設의 改補修事業도 國庫補助로 지원토록 조치하였다.

稅制支援에 있어서도 農地 등을 所有한 사람이 그 直系尊屬 또는 형제자매중 自耕農民에게 農地, 草地, 山林地를 讓渡 혹은 贈與할 때 納付하는 讓渡所得稅와 贈與稅를 一정한 범위내에서 免除토록 하였고, 自耕農民이 營農을 目的으로 農地 등을 取得할 때는 取得稅 50%를 減免措置토록 하였다. 또한 農家經營費 節減을 위하여 農機械用 油類에 대한 特別消費稅 및 附加價值稅를 免除하였으며, 國內 農産物 需要開發을 위하여 乳製品과 天然果汁

飲料에 대한 特別消費稅도 免除하였다.

低所得 農漁家에 대한 支援範圍를 넓히기 위하여 農漁村 低所得의 基準을 都市와 같은 水準으로 上向調整함으로써 受惠對象을 늘리고, 이들에게 轉職 技能訓練, 生計費 補助, 子女學費 支援 등을 통하여 自立基盤을 마련토록 하였다. 또한 面地域 이하 出身 實業系高校生을 대상으로 獎學金을 支給하여 農漁家の 教育費 負擔을 輕減시켰다.

水產災害發生時 漁民의 被害復舊에 따른 負擔을 輕減하기 위하여 水產增 養殖被害復舊의 경우, 國庫補助率을 높이고 被害算定基準도 現實化하였다. 또한 魚類 蓄養을 위한 內水面 賃借料도 ha當 10萬원 이내로 낮췄으며, 水 協과 漁村契가 運營하는 製氷, 冷凍 등 漁業用 施設의 電氣料도 農事用으로 적용토록 하여 40% 정도의 電氣料 引下效果를 가져왔다. 아울러 漁業用 免 稅油類 供給時限도 '91년까지 延長함으로써 漁民負擔이 輕減되도록 하였다.

2. 農漁家 所得源 擴充

農家所得의 大宗을 이루고 있는 쌀은 最近에 消費가 줄어들고 있어 쌀의 需要開發을 통한 農業所得의 持續的 增大를 기하기 위하여 各級 學校, 料食 業所 등에 대한 混粉食獎勵施策을 완화하는 한편 軍·官需 給食의 쌀混用比 率을 점차 높여 쌀消費를 확대해 나가고 있다.

增産餘力이 있는 農水產物에 있어서는 海外輸出을 늘리기 위해서 사과 배 등 42個 品目에 대한 輸出推薦制度를 廢止하여 輸出先의 安定的 確保를 기 하고, 果實類 輸出과 熱帶果實 輸入과의 連繫貿易을 추진하여 輸出擴大를 통한 所得向上을 도모해 가고 있다.

農產物 需要變化에 부응한 農地의 效率的 利用을 위하여 耕地整理畝 이외 에는 多年生作物 栽培許容基準을 완화시켰으며, 開發農地의 農業目的內 用 途變更時 이의 承認權限을 道知事로부터 市長·郡守에게 再委任하여 節次를 간소화시켰다.

한편 農漁家の 所得安定과 直結되는 農水產物 需給 및 價格安定을 기하기

위해 農水産統計를 體系的으로 改善하여 流通豫告制 및 農業觀測制를 더욱 內實있게 운영하는 한편 農漁民의 自律的 出荷調節能力을 提高시키고, 아울러 마늘·양파·고추 등 價格騰落이 심한 品目에 대해서는 價格安定帶制를 導入하여 價格振幅을 줄이는데 주력하였다.

沿近海 水産資源을 效率的으로 利用하여 漁家所得向上과 水産食糧의 安定的 供給基盤을 구축하기 위하여 고급종묘의 生産放流와 人工어초시설을 擴大하는 등 漁業生産基盤을 확충하는 한편 公有水面埋立法, 海岸汚染防止法 및 環境保全法을 改正하여 海洋汚染, 埋立, 干拓에 따른 被害補償基準을 設定함으로써 沿岸漁場保全 및 水産資源保護制度를 改善하였다.

農漁業所得은 農水産物의 豊凶 및 價格變化 그리고 生産性 提高의 限界 등 構造的인 不安要因을 안고 있어 農漁家 所得의 劃期的 増大는 어렵기 때문에 農工地區 등 農漁村工業化를 통한 農外所得増大基盤을 적극적으로 造成해 나가고 있다. 農工地域에 入住하는 業體에 대해서는 行政節次의 簡素化 및 各種 稅制惠澤과 함께 入住與件에 따라 追加支援制度를 마련하여 金融支援幅을 擴大함으로써 地域間 均衡發展이 이룩될 수 있도록 하였다. 아울러 서울에 農漁村工業誘致事務所를 設置, 各道別로 전담요원을 배치하여 地域實情에 맞는 工場誘致, 副業斡旋, 觀光案内 등을 담당하도록 하였다. 또 農漁村에 入住하는企業의 技能人力確保를 위하여 各道 農民教育院의 職務訓練機能을 韓國職業訓練管理工團으로 移管하여 職業訓練의 專門性 確保와 함께 農工地區 所要職種 및 地域必要職種에 대한 訓練機能을 補強함으로써 農漁村 住民의 實質的인 就業能力을 向上시켜 나가고 있다. 아울러 農漁村地域開發基金法을 制定하여 '88년까지 5千億원을 造成, 農水産業의 構造改善과 農漁村開發을 위한 農地購入, 農工地區 造成 및 農漁村 福祉施設 擴充에 集中支援하고 있다.

3. 農漁村 生活環境改善事業

農漁家の 所得水準과 生活水準이 높아짐에 따라 農漁村生活環境의 質的 向

上에 대한 欲求가 크게 增大되고 있다.

특히 都市化의 進展과 함께 社會福祉施設이 大都市 중심으로 편중되어 있기 때문에 農漁民이 상대적으로 落後感을 느끼고 있을 뿐만 아니라 醫療費와 教育費에 대한 負擔도 상대적으로 증가하고 있다. 따라서 農漁村에서의 生活이 都市에 못지 않는 生活이 될 수 있도록 農漁村地域에 社會間接資本을 본격적으로 擴充하고, 教育, 醫療, 交通 등 農漁村의 生活便益施設을 광범위하게 開發해 나가고 있다.

4. 農漁村地域開發基金

農漁村地域開發基金은 '86년에 制定된 農漁村地域開發基金法에 의해 設置되었다. 이 基金은 農漁村地域의 均衡開發을 위하여 農漁村所得源開發과 工業育成, 農林水産業의 構造調整 등을 效率的으로 추진하기 위한 必要資金을 調達하는데 그 목적이 있다.

<表 1-8-1>

農漁村地域開發基金 運用現況

(單位：億圓)

		'87 實績	'88 計劃	備 考
造 成	政 府 出 捐	1,250	1,250	
	債 券 發 行	1,250	1,150	
	運 用 收 益 等	151	100	
合 計		2,651	2,500	
運 用	農 地 購 入 支 援	1,150	1,150	
	農 工 地 區 造 成	86	45	
	農 漁 村 福 祉 化 施 設	205	212	· 支援條件
	農 漁 村 醫 療 基 盤 擴 充	194	219	· 年 利：5~10%
	農 林 水 產 業 構 造 調 整 等	865	707	· 融 資 期 間：3~20%
	漁 船 代 替 및 水 產 增 養 殖	76	101	
	農 漁 村 觀 光 地 開 發	75	75	

資料：農林水産部 農業政策局

'87年の 基金造成額は 2,651億 원이며, '92년까지 農地購入資金으로 1兆 원, 農工地區 및 農林水産業 構造調整 등의 事業에 1兆 원 등 모두 2兆 원을 造成 하여 支援할 計劃이다.

第2節 農漁家 負債輕減對策

政府는 상대적으로 어려움을 겪고 있는 農漁民의 負擔을 輕減시키고, 所得源을 擴充하며, 生活環境을 改善하는 등 農漁村綜合對策을 施行하여 왔다. 그러나 이 施策들의 效果가 나타나기까지는 상당한 期間이 소요되는 것이고, 當面한 農漁家의 負債償還 負擔을 덜어주고 負債增加를 억제하기 위한 對策의 必要性이 높아짐에 따라 '87年 3月 16日 農漁家負債輕減對策을 樹立, 實施하게 된 것이다.

이 施策의 主要內容은 當面한 負債輕減對策과 負債增加抑制對策으로 되어 있다. 負債輕減對策은 1兆 원의 資金을 供給하여 高利私債를 低利公金融으로 代替시켜 주는 私債代替資金 支援을 비롯하여 7個 事項에 대한 金融支援措 置로 構成되어 있다.

1. 私債代替資金 支援

農漁村經濟에 큰 負擔이 되고 있는 高利의 私債負擔을 輕減시키기 위해 1兆 원의 公金融을 特別支援키로 하고, 이중 低利資金(年利: 8%) 5千億 원은 耕地規模 1ha이하에 準하는 農漁家에 대하여 戶當 100萬 원 限度內에서 支援하고, 特別相互金融(當初金利: 14.5%) 5千億 원은 기타 農漁家에 대하여 戶當 200萬 원 限度內(低利資金 포함)에서 지원키로 하였으며 特別相互金融의 金利는 '87年 12月 9日 農漁村經濟活性化 綜合對策에서 10%로 引下調整하였다.

私債代替資金 融資時 擔保力이 미약한 零細農漁民에게는 현재 運營하고 있는 農林水產業者 信用保證規程을 改正하여 信用保證要件을 完화시키고,

<表 1-8-2>

私債代替資金 支援計劃

	低 利 資 金	特 別 相 互 金 融
支 援 規 模	5,000億원	5,000億원
支 援 條 件	年利 8%(2年据置 3年償還)	10%(2年償還)
戶 當 支 援 限 度	100萬원	200萬원(低利資金 포함)

資料：農林水産部 農業政策局

私債保證基金 500億원을 新規造成함으로써 總規模 7,500億원에 대한 信用保證附貸出이 가능하도록 하였다.

한편 1兆원의 私債代替資金 財源중 低利資金 5千億원은 韓銀特融 2,500億원과 農·水·畜協資金 2,500億원으로 造成하고 特別相互金融資金 5,000億원은 農·水·畜協의 相互金融을 이용하였다.

私債代替資金의 支援을 申請한 農漁家は 695千戶에 달하였고, 融資實績은 低利資金이 4,881億원이었으며 特別相互金融資金이 2,992億원으로 모두 7,873億원에 이르렀다.

<表 1-8-3>

私債代替資金 申請 및 配定

(單位：千戶, 億원)

	申請農漁家數	申 請 額	配 定 額	審 查 確 定 額
低 利 資 金	596	5,908	5,000	5,000
特 別 相 互 金 融	446	4,505	5,000	4,528
計	1,042 (695)	10,413	10,000	9,528

註：()는 重複을 제외한 農漁家數
資料：農林水産部 農業政策局

<表 1-8-4>

私債代替資金 融資實績

(單位：億원, %)

低 利 資 金			特 別 相 互 金 融			計		
配 定 額	融 資 實 績	比 率	配 定 額	融 資 實 績	比 率	配 定 額	融 資 實 績	比 率
5,000	4,881	98	5,000	2,992	60	10,000	7,873	79

資料：農林水産部 農業政策局

<表 1-8-5>

農林水產業者 信用保證基金 造成 및 運用

(單位：億圓)

	'86 末 造成	造成		'88 計劃	備 考	
		純 增	累 計			
保 證 基 金	政 府 出 捐	11	500	511	50	('87造成(私債代替用)). ○農協立替出捐：450億圓 ○政府出捐：50 計：500
	農水產團體出捐	2	—	2	—	
	金融機關出捐	115	—	115	—	
	基金運用收益	174	30	204	42	
	計	302	530	832	92	
保 證 限 度	4,530	7,950	12,480			

資料：農林水產部 農政政策局

2. 中長期低利資金 支援

零細農漁家の負擔輕減을 위하여 中長期政策資金 負債를 長期低利資金으로 代替支援하였다. 支援對象者는 耕地所有規模 0.5ha이하 또는 이에 準하는 農家로서 '87年 3月 16日 현재 中長期政策資金을 借入한 農家이다.

支援條件은 既存金利 5~12%를 3%로 引下하고, 남은 償還期間이 10年 미만인 資金은 모두 3年据置 7年償還으로 延期하였다. 支援實績은 支援對象 329件중 293件이었고, 支援金額은 3,784億圓에 달하였다.

<表1-8-6>

中長期資金 低利代替支援

(單位：千件, 億圓)

	支 援 對 象 (A)		支 援 實 績 (B)		支 援 率 (B/A)	
	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額
農 協	319	3,940	285	3,689	89.3 %	93.6
水 協	3	40	2	34	66.7	85.0
畜 協	7	67	6	61	85.7	91.0
計	329	4,047	293	3,784	89.1	93.5

資料：農林水產部 農業政策局

3. 金利引下

'86年 3월에 발표한 農漁村綜合對策에서 營農漁資金, 農村住宅改良資金, '83~'84年 小入殖資金등의 金利를 10%에서 8%로 引下한 바 있으나 '87年 3月에는 그때 제외된 農水産政策資金(最終 確定額: 11,197億 원)의 金利를 종전의 10~20%에서 8%로 引下함으로써 모든 農水産資金이 8%이하의 金利를 유지하게 되었다.

한편 相互金融과 營農漁資金 및 農村住宅資金 등의 延滯金利도 종전의 17~20%에서 15~18%로 2%포인트 引下하여 延滯에 의한 農漁民負擔도 輕減시켰다.

<表 1-8-7>

農水産資金 延滯金利 引下內容

(單位: %)

	現 行	調 整	備 考
營 農 資 金	17.0	15.0	2%포인트 引下 市中銀行 延滯金利: 19%
營 漁 資 金	17.0	15.0	
農 村 住 宅 資 金	19.0	17.0	
零 細 農 自 立	19.0	17.0	
相 互 金 融	20.0	18.0	

資料: 農林水産部 農業政策局

4. 小入殖資金 利子 代支給

小畝波動에 따른 被害農家の 負擔을 減어주기 위해 '83~'84年 小入殖資金의 利子를 '89年 이후로 그 償還을 延期하였던 '86年 3月の 農漁村綜合對策의 措置事項을 더욱 強化하여 利子全額을 畜産振興基金에서 代支給토록 함으로써 農家の 利子負擔을 減어 주었다.

<表 1-8-8>

'83~'84年 企入殖資金 負擔輕減 措置

(單位：億圓)

		計	'87	'88	'89	'90	'91	'92 이후
元金回收計劃('87.4.30現在)		2,395	83	306	818	812	309	67
利子 代支給	畜振基金利子免除	513	43	72	147	135	108	8
	其他資金利子代支給	448	68	88	116	94	68	14
	計	961	111	160	263	229	176	22

資料：農林水産部 農業政策局

5. 農地購入資金 支援과 大學寄宿舍 擴充

農村에 定着意志가 있고, 營農規模를 擴大하려고 해도 資本餘力이 없는 零細 小農에게 農地購入資金을 지원하기 위하여 金利 5%, 2年据置 18年償還 條件의 農地購入資金을 每年 2,000億圓 規模로 지원할 計劃이다.

한편 大學生 子女를 둔 農漁村 學父母의 教育費 負擔을 減어주기 위한 措置로서 每年 400億圓 規模의 資金을 지원하여 年次的으로 寄宿舍 施設을 擴充할 計劃이다. '87年 현재 大學校의 寄宿舍 收容人員은 34千名인데 '91년까지 110千名으로 늘려 寄宿舍 收容比率를 13%에서 40%로 높이려는 것이다.

6. 推 進 效 果

이같은 여러 가지의 農漁家負債輕減對策을 推進함에 따라 우선 農漁村의 短期支給能力을 提高시켜 短期負債의 償還負擔을 크게 減어 주었다. 또한 私債代替資金 支援에 따른 利子負擔輕減과 中長期政策資金의 金利引下 및 企入殖農家에 대한 利子免除 등으로 年間 약 2,471億圓의 農漁家 負擔輕減 效果를 가져올 것으로 전망된다.

아울러 負債輕減對策으로 인한 金利引下와 各種 資金의 償還猶豫는 農漁家의 資金收支를 改善하여 私債金利 引下를 유도할 것으로 전망되는 등 間接的 效果도 기대되고 있다.

<表 1-8-9>

負擔輕減效果推定

(單位：億圓)

	'87	'88	'89
私債代替資金	1,295	1,295	1,295
零細農漁家中長期資金低利代替支援	147	184	184
農水產關聯資金金利引下	243	310	310
'83~'84 入殖資金利子代支給	141	156	210
延滞金利引下 及 寄宿舍擴充	101	165	236
農地購入資金	190	380	570
計	2,117	2,490	2,805

資料：農林水產部 農業政策局

第2編 1988年度 農業施策

여백

第1章 農業政策의 基本方向

第1節 基本目標

우리 經濟는 지난 25年間 5次에 걸친 經濟開發計劃의 成功的 推進에 힘입어 刮目할 만한 成長을 이룩하였으며 特히, '80年代에 들어와서 그동안의 經濟成長過程에서 나타난 인플레이션, 國際收支赤字等 우리 經濟의 脆弱性を 成功的으로 克服하였다. 그러나 工業化 爲主의 高度成長 過程에서 農漁家人口는 빠른 速度로 줄어들고 營農形態도 自給自足的 經營形態에서 商業農 形態로 變貌되는 등 農林水産業은 여러가지 構造的 變化를 가져왔다.

對內的으로는 우리 經濟의 産業化·都市化가 進行되는 가운데 農林水産部門은 他部門에 비해 成長速度가 늦어짐에 따라 産業間 成長隔差가 深化되고 國民經濟의 成長에 비해 相對的으로 農產物需要 増大의 限界성과 需給不安要因이 充分히 克服되지 못함에 따라 農業所得 伸張이 鈍化되고 農林水産業 內部的으로는 農業機械化를 中心으로 한 資本集約化의 빠른 進行으로 農漁家負債가 増加되는 등 農漁村經濟가 어려움을 겪고 있다.

또한 對外的으로는 先進國間 貿易不均衡이 深化되고 우리 經濟의 對外黑字 擴大와 國際交易市場에서 차지하는 比重이 커짐에 따라 農產物을 비롯한 많은 部分에서 國內市場 開放壓力이 그 어느때보다 加重되고 있으며, 앞으로도 이러한 現象은 繼續될 展望이다. 따라서 向後 農政의 課題는 都·農間, 産業間 均衡開發을 통하여 農漁民들이 都市民이나 他産業에 從事하는 사람 못지 않은 生活水準을 營爲하도록 하는 것과 開放化 進展에 對處하여 農林水産業이 가지고 있는 國民扶養의 役割을 보다 效率的으로 遂行할 수 있도록 하는 것이라 할 것이다.

이에 따라 '88年度 農政의 基本方向은 빠른 速度로 變化하고 있는 農林水

産業과 農漁村의 對內外 與件變化에 效率的으로 對處하여 2000年代의 福祉 農漁村建設을 爲한 確固한 基盤을 構築하는 한해가 되도록 多角的인 施策을 講究해 나갈 計劃이다.

이를 爲해

첫째, 食品消費構造 變化에 副應하여 國民食糧을 安定的이고 效率的으로 供給할 수 있도록 作付體制를 構築해 나가고,

둘째, 都·農間 開發隔差 解消를 爲해 農漁民의 所得增大와 農漁村 生活 與件을 改善해 나가며,

셋째, 急速度로 進行되고 있는 開放化의 進展에 根本的으로 對處하여 우리 農業의 競爭力을 提高할 수 있도록 農林水産業의 構造改善 施策을 本格的으로 推進하고

넷째, 限定된 國內賦存資源의 效率的 利用을 圖謀하기 爲하여 農林水産資源의 合理的인 保全과 利用體系를 定立하며,

다섯째, 健實한 農漁民團體를 積極 育成해 나가는 것이다. 앞으로 農政은 農林水産業, 農漁村, 農漁民을 包括하는 綜合農政으로 推進하여 이를 積極的으로 뒷받침해 나갈 것이다.

第2節 重點 施策

1. 豐年農事로 主穀의 安定的 供給

그동안 多收穫品種의 開發 普及等 各種 增産施策에 힘입어 쌀을 비롯하여 農畜産物의 劃期的인 增産을 이룩하였으나, 食品消費構造의 變化와 食品消費人口의 增加로 食糧自給率은 每年 낮아지고 있다. 限定된 耕地面積을 가지고 있는 우리의 農業與件下에서 國民이 必要로 하는 모든 食糧을 自給하는 것은 不可能하다고 할 수 있다.

그러나, 最近에 資源내셔널리즘의 擡頭와 국제곡물시장이 불안한 상황에 비추어 볼 때 食糧은 經濟性的의 原理를 넘어 國民의 生存과 直結되는 問題로서 主穀을 中心으로 한 適正水準의 食糧自給率은 반드시 지켜져야 할 農政의 課題인 것이다. 따라서, 主穀은 自給水準을 繼續 維持해 나가면서 國民의 一般米 選好傾向에 부응하여 一般系 中心의 優良品種 普及을 擴大해 나가며 需要增大가 豫想되는 品目은 國內資源 活用側面에서 選擇적으로 增産을 誘導해 나갈 計劃이다.

특히, 보리는 食用消費가 줄어들고 있으나 最近에 酒精, 飼料 등 加工食品으로의 需要가 늘어나고 있음을 勘案하여 契約栽培等을 통해 持續적으로 增産을 誘導해 나가고 이와 아울러 콩, 팥, 녹두等 國內供給이 不足한 밭작물은 多收穫品種을 積極 開發普及하고 收買豫示制等을 통해 國內增産을 圖謀하여 食品消費構造의 變化에 副應한 適正 食糧自給率 維持를 爲해 努力해 나갈 것이다.

2. 農林水産業의 構造改善

最近에 擡頭되고 있는 開放化 進展에 根本적으로 對處하기 위해서는 高能率의 農業生産體制로의 轉換을 통한 農業生産性을 向上시켜 나가는 것이 필수적인 과제가 되고 있다.

이를 爲해 全體農家의 63%가 1ha未滿인 現在의 零細小農 構造下에서는 劃期的인 生産性 增大가 어렵기 때문에 積極적으로 營農規模의 擴大를 꾀해 나가고 農業生産性 向上이 先決課題로 擡頭되고 있는 農業生産基盤 投資를 持續적으로 實施하여 安全하고 便利한 營農基盤을 構築해 나갈 것이다. 또 農業機械化를 效率적으로 推進하기 爲하여 機械化營農團을 擴大 育成하고 특히, 移秧機, 收穫機等 勞動力 代替效果가 큰 機種을 重點 供給함으로써 農外就業 餘力を 創出하고 農村勞動力 不足 및 老齡化·婦女化에 對處해 나갈 것이다.

3. 農畜產物 流通改善과 價格安定

商業的營農이 進展됨에 따라 流通物量이 急激히 增大하고 있으며, 農產物은 氣象與件에 따른 豐凶의 隔差가 甚하고, 季節性·非貯藏性으로 因하여 需給에 隘路가 있음을 勘案하여 農產物의 需給安定을 爲한 基盤을 擴充해 나갈 것이다. 農產物은 과잉 生産된 以後에는 需給의 調節이 어려울 뿐 아니라, 收買·備蓄 등으로 因한 經濟的 負擔이 따라야 하기 때문에 事後的으로 需給을 調節하기 보다는 事前的으로 調節해 나가는것이 보다 效率的이라 할 것이다.

따라서, 需要에 알맞는 適正生産을 誘導하기 爲하여 農業觀測과 流通情報의 蒐集, 分散體系를 內實化하여 生産者團體 中心의 生産調節 基盤을 擴充하고 事後的으로는 出荷調節과 收買, 備蓄制度를 彈力的으로 運營하고 양념類等을 中心으로 한 價格安定帶制度를 效率的으로 運營해 나갈 것이다.

또한 農水產物 流通基盤의 近代化를 爲하여 서울 可樂洞都賣市場을 中心으로 한 圈域別 都賣市場 建設을 推進하고 收買·備蓄 事業을 爲한 農水產物 價格安定基金도 擴大해 나가며 特히, 今年度에는 쇠고기 輸入이 再開됨에 따라 이로 因해 農家에 被害가 發生하지 않도록 소값安定帶制 運營等 徹底한 補完對策을 마련하여 推進해 나갈 것이다.

4. 農漁村所得源의 擴充과 資源의 合理的 利用

農產物 消費는 國民經濟成長에 比해 相對的으로 伸張勢가 鈍化됨에 따라 農家の 農業所得基盤이 擴大되지 못하고 있고 特히, 農業所得에서 큰 比重을 차지하고 있는 쌀의 消費가 줄어들고 쇠고기를 비롯한 여타 農產物에 대하여 輸入開放 要求가 增大되고 있는等 農業所得源 基盤이 弱화되고 있다. 또한 過去와는 달리 一部 穀物을 除外하고는 많은 農產物이 自給水準에 到達함으로써 增産에 의한 所得增大가 相當히 制約되고 있다. 따라서 所得增大에 따라 需要가 擴大될 수 있는 成長農產物을 中心으로 하여 地域特性에

따라 收益作目を 體系的으로 普及하고 또한 國內生産 農産物의 需要基盤擴大를 爲해 果實 花卉等を 中心으로 海外市場을 積極 開發해 나갈 것이다.

아울러, 農林水産物의 需要開發과 附加價値 提高를 爲해 加工産業을 育成해 나가고 生産者團體의 加工産業 參與를 擴大함으로써 農産物의 附加價値 提高를 통한 利益이 最大限 生産者에게 還元될 수 있도록 할 計劃이다.

그러나 長期的으로 農業은 國民經濟成長에 따라 相對的으로 伸張勢가 鈍化될 展望이므로 農漁村 工業化를 通하여 農外所得源을 積極的으로 擴充하고, 農漁村住民의 就業機會를 擴大할 수 있도록 職業訓練等 人力開發政策을 並行해 나가는 한편, 農漁村 副業團地나 觀光農業 開發事業도 內實化를 期해 나갈 것이다.

5. 民主農政의 具現과 支援體制 強化

社會全般에 걸친 民主化趨勢에 맞추어 農漁民團體의 民主化를 積極 推進해 나갈 것이다. 이를 爲해 우선 組合長任免에關한臨時措置法에 의거 任命制로 되어 있는 農·水·畜協의 組合長 및 中央會長의 選任制度를 選出制로 改善하고, 이와 아울러 權限의 下部移讓을 통한 自律經營體制를 確立해 나갈 것이다. 또한 農政推進에 農漁民의 參與機會를 擴大하고 지금까지의 農漁民 指導方式을 官 主導에 依한 增産爲主의 技術指導 方式에서 經營 中心의 指導方式으로 轉換해 나갈 것이다.

또한 農漁民 負擔輕減을 통한 農漁村經濟의 活性化를 圖謀하기 爲한 多角的인 方案을 講究해 나갈 것이다. 이를 爲해 營農漁資金 供給規模를 大幅 擴大하고 金利引下, 稅制支援等の 方案을 積極 講究해 나가고 商業農으로의 轉換趨勢에 맞추어 農漁民에게 必要한 各種 營農情報를 迅速, 正確하게 傳達하기 爲하여 農水産統計機能도 強化해 나갈 것이다.

第3節 投資規模

1. 農林水產資金 支援

'88年度에 農漁村과 農林水產部門에 直接 投資되거나 融資 支援되는 總資金 支援規模는 6兆 7,471億 원으로 農林水產部를 비롯하여 內務部, 建設部, 商工部等 農漁村關聯部處에서 一般會計, 地方費, 借款 및 各種基金等 多様な 財源으로 支援되고 있다. 그 중 農業生産基盤造成, 農業開發等 直接投資로 1兆 878億 원을 投資할 豫定이고 中·長期資金 7,861億 원과 營農漁資金 支援等 短期性資金으로 2兆 2,946億 원을 支援할 計劃이며, 政府의 糧穀收買와 農·水·畜協을 통한 收買支援等에 2兆 5,687億 원을 支援할 計劃이다. 特히, 今年에는 지난해의 1兆 원 支援規模의 農漁家負債輕減對策等에 이어 石油事業 基金에서 2,000億 원을 農漁村開發에 投資할 計劃이다.

<表 2-1-1>

'88年 農林水產資金 支援計劃

(單位: 億 원)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小 計	中·長期	短 期	小 計	糧 穀	其 他
'87	74,826	9,947	36,324	12,216	24,108	28,555	11,577	16,978
'88	67,471	10,978	30,807	7,861	22,946	25,686	12,809	12,877

註: '87년에는 農漁家 負債輕減對策 支援(1兆 원)등이 包含되었으나 '88년에는 除外되었음

資料: 農林水產部 企劃管理室

2. 農業部門 豫算

'88年度 農業部門 豫算은 지난해보다 20.6%가 늘어난 總 10兆 230億 원이며 이중 事業費 豫算은 9,634億 원으로 全體豫算의 74%를 차지하고 있으며 이는 지난해 事業費豫算 8,204億 원보다 約 17.4%가 늘어난 規模이다.

<表 2-1-2>

農業部門 豫算規模

(單位：億圓)

	'87			'88		
	一般	財特	計	一般	財特	計
1. 事業費	5,995	2,029	8,024	5,712	3,922	9,634
○ 食糧増産	81	-	81	75	4	79
○ 農業機械化	81	-	81	115	250	365
○ 農業用水開發	1,265	275	1,540	1,307	286	1,592
○ 農業生産基盤擴充	1,108	48	1,156	1,355	65	1,420
○ 大單位農業綜合開發	793	-	793	1,035	-	1,035
○ 防潮堤構築	273	9	282	205	13	219
○ 農水產物流通改善	269	50	319	70	150	220
○ 農特事業	25	-	25	25	20	45
○ 畜産事業	115	-	115	80	-	80
○ 農業開發	323	1,492	1,815	933	1,574	2,507
○ 農村所得源開發	338	155	493	499	310	809
○ 農漁村地域綜合開發	1,324	-	1,324	12	1,250	1,262
2. 經常事業費	125	-	125	211	-	211
3. 基本的經費	334	-	334	385	-	385
(小計)	(6,454)	(2,029)	(8,483)	(5,923)	(3,922)	(9,845)
4. 統合財政收支赤字改善財源	2,750	-	2,750	-	2,790	2,790
合計	9,204	2,029	11,233	6,308	6,712	13,020

資料：農林水産部 企劃管理室

'88年度 農林水産部豫算을 事業別로 살펴보면 農業用水開發, 耕地整理, 排水改善等 管農基盤의 整備를 爲한 農業基盤 造成事業에 農林水産部 事業豫算의 44%水準인 4,267億圓이 投入될 計劃이며, 이 外에도 食糧増産에 79億圓, 農業機械化에 365億圓, 流通改善 220億圓, 農業開發 2,506億圓, 農工地區 造成 等 農村所得源 開發事業에 809億圓을 投資할 計劃이다.

한편, '88年度 經濟開發 豫算의 規模는 3兆 6,819億圓으로 지난해에 비해 10.2%가 늘어난데 비해 '88年度 農林水産部門 豫算은 1兆 2,403億圓으로

經濟開發豫算 增加率보다 높은 18.6%가 增額되었다.

<表 2-1-3>

農林水產部門 豫算比重

(單位：億圓)

	'87	%	'88	%	增 △ 減	%
國家全體豫算	166,359		191,145		24,786	14.9
經濟開發豫算	33,440	100	36,819	100	3,379	10.1
農林水產部門	10,461	31.8	12,403	33.7	1,942	18.6
農林水產部	8,483	27.8	10,230	25.4	1,747	20.6

資料：農林水產部 企劃管理室

第2章 쌀 自給의 持續과 밭 作物의 擴大生産

第1節 쌀 自給의 持續

1. 쌀 自給의 必要性

쌀은 國民의 主食이라는 重要性外에도 農家所得에 있어서 차지하는 比重이 높을뿐 아니라, 몬순氣候地帶에 속하는 우리나라에 있어서 가장 適合한 作物이라 할 수 있다. '77年以後 多收系 中心의 植付構造에서 '81年以後 一般米 中心의 作付構造로 轉換되고 있음에도 '81年以後 7年連續 豐年農事를 이룩 함으로써 쌀의 自給基盤이 定着되고 있다.

그러나 最近 數年間 每年 3,800萬石 以上을 生産하여 왔으나, '85年에만 當年 生産分으로 需要를 充足 하였을 뿐 그外에는 既存의 在庫로 充當하여 왔고 앞으로 1人當 쌀 消費量은 減少 된다고 하더라도 人口가 繼續 增加하고 있는 점을 勘案할 때, 不意의 氣象災害를 對備하거나 安保的 次元에서도 쌀自給을 爲한 努力은 繼續되어야 할 것이다.

<表 2-2-1>

쌀 自給度 및 1人當消費量

	'83	'84	'85	'86	'87 (暫定)
쌀 自 給 度	97.6 %	97.5	103.3	96.9	99.8
1 人 當 消 費 量	129.5 kg	130.1	128.1	127.7	126.2

資料：農林水産部 糧政局

2. 쌀 生産計劃

今年에도 國內 쌀 自給에 必要한 3,800萬石 以上을 生産目標로 하여 優良

品種普及, 適期營農實踐, 氣象災害의 豫防, 農土培養, 肥料 및 農藥의 使用等에 對한 營農指導를 強化해 나갈 것이다. 特히, 最近에는 國民의 쌀 消費嗜好가 良質米 中心으로 變化하고 있음에 따라 米質이 優秀한 一般米 中心으로 生産을 擴大해 나갈 計劃이다.

〈表 2-2-2〉 쌀 生 産 計 劃 (單位: 千石, 千ha)

	'85	'86	'87	'88 (計 劃)
生 産 量	39,071	38,936	38,145	38,000
植 付 面 積	1,237	1,236	1,262	1,215

資料: 農林水産部 農産局

3. 벼 品 種 選 擇 의 自 律 化

國民의 쌀 消費嗜好가 良質米 選好趨勢에 있고 品種開發과 栽培技術 向上으로 一般系와 統一系 品種의 段收 差異가 크게 나타나지 않을뿐 아니라, 七星, 龍珠, 龍門벼等 새로운 統一系 品種의 米質이 改善되고 있다.

따라서 政府는 栽培地域 特性에 맞는 品種을 農民이 選擇하는데 도움을 주기 위하여 겨울營農教育등을 活用하여 品種 特性等에 對한 教育을 實施하고 全國에 2,906個所의 品種比較 展示圖와 600個所의 多收穫 示範圖를 設置하여 農民들이 生育狀況을 直接比較 觀察할 수 있도록 하고 있으며 農村마을當 2~3個所씩 揭示板을 利用하여 地域에 가장 알맞는 品種을 推薦 揭示하는 등 農民이 自律的으로 벼 品種을 選擇토록 하고 있다.

'88年度의 벼 種子 供給도 一般米 選好 傾向과 品種選擇 自律化로 統一系

〈表 2-2-3〉 '88年 벼 種 子 供 給 現 況 (單位: %)

計	普 及 種	增 殖 圃 産	糧 特 收 買	自 律 交 換	自 家 確 保
60,750	7,588	486	411	24,598	27,667

資料: 農林水産部 農産局

와 一般系 供給 比率이 13 : 87로서 '87年度 一般系 供給比率인 86%보다 약간 늘어났다.

4. 氣象災害 事前豫防 強化

우리農業은 立地與件上 大陸性冷害, 海洋性冷害, 霜害, 風害, 旱魃, 洪水 等 많은 氣象災害를 겪어오고 있다. 따라서 氣象異變에 積極 對備하여 被害를 最少化하고 安全營農을 實現하기 爲해 災害類型別 行動要領을 마련, 例規化하여 有關機關에 示達하는 한편, 各級機關이 運營하는 災害對策狀況室의 機能을 補強하여 不意의 災害에 따른 對應策을 마련하고 있다.

또한 昨年과 같은 不意의 風水害에 對備하여 장마기 以前에 水利施設物 點檢과 風水害 常習地 10千個所, 65千ha를 카드화하여 重點 管理하고 또한 人力과 裝備動員 計劃을 마련하여 農作物 浸冠水時 즉시 排水作業과 應急復舊를 할 수 있도록 하는 한편, 氣象特報 發令時 農民에 對한 非常傳達 體制를 確立하고, 有關機關別 災害對策 狀況室의 有機的인 運營으로 氣象災害에 迅速 對處토록 措置하였다.

그리고 冷害가 豫想되는 地域과 災害常習地에 對해서는 早熟 耐冷性, 耐災害性品種의 擴大 普及과 客土 및 土壤改良劑를 優先 支援 供給하고, 農土 培養 事業을 強化하여 營農準備를 完了하였으며 모내기를 앞당겨 實施하여 冷害 및 氣象災害에 對處토록 하고, 特히 冷害憂慮 地域에서는 機械移秧을 抑制하고 水溫上昇 施設의 擴大등 논 管理에 徹底를 期하도록 措置하여 氣象災害의 事前豫防에 走力함으로서 農事指導에 萬全을 期하였다.

5. 農土培養

多收性 品種의 普及擴大 및 多收種 栽培등 集約農法에 依한 農業生産性 提高를 爲해서는 健全한 地力이 뒷받침 되어야 하기 때문에 土壤의 養分供給 能力 增大와 生育沮害 要因을 除去하여, 土壤成分의 活性化로 農產物의 收量

성에 提高하고, 品質向上 및 耐災害性を 強化해 나가기 爲해서는 地力增進을 爲한 農土培養事業이 절실히 要請되고 있다.

따라서 精密土壤 檢定을 實施하여 그 結果에 따른 綜合的인 處方書를 作成 農土培養 및 改良을 實施토록 하고 있으며, 客土 48千ha, 벧짚갈고 깊이 갈이 767千ha를 上半期中 完了하였고, 또한 石炭 250千 $\%$, 珪酸質 330千 $\%$ 等土壤改良劑를 供給하여 理化學性 改良과 地力蓄積을 持續的으로 圖謀해 나갈 計劃이다.

또한 年中 有機物 生産體制를 確立키 爲해 農家別로 自律生産 目標를 設定 推進토록 하고 有機物 生産 重點期間을 設定하여 指導를 強化하고 低位 生産地를 中心으로 綜合改良을 推進토록 積極的인 技術指導와 行政的 支援을 擴大해 나갈 것이다.

6. 肥料供給과 施肥方法의 改善

가. 肥料의 自由販賣制 實施

'87년까지는 政府가 肥料會社와의 賣買契約에 依하여 肥料를 引受하여 農協을 通하여 農家に 供給하여 왔으나 肥料産業의 競爭體制 導入으로 질 좋고 보다 값싼 肥料를 農家に 供給하기 爲하여 '88.1月부터 肥料의 販賣를 農協과 民間의 自由販賣制로 轉換하고 農協의 政府 委囑事業을 農協 自體事業으로 轉換하였다.

肥料販賣 自律化의 主要內容은 肥料生産業의 許可制限을 解除하여 누구나 肥料生産業을 할 수 있도록 하고 肥料의 輸入을 開放하여 國內 肥料價格이 비쌀때는 값싼 肥料를 外國에서 輸入 使用 할 수 있도록 하는 것이다. 또한 肥料의 主 原料인 암모니아의 關稅率을 10%에서 2%의 割當 關稅率을 適用 引下하였으며, 肥料會社 民營化의 첫 段階로 嶺南化學(株)을 民營化하였다.

한편, '88. 1.1부터 肥料 使用量의 大宗을 이루고 있는 尿素 및 水稻用 複合肥料의 對農民 販賣價格을 平均 7.2% 引下함으로써 農家に 230億원의 營農費 負擔을 輕減하였고, 이번 措置로 價格引上 要因이 發生하고 있는 磷酸,

加重質 單肥 및 其他 複肥價格을 '87年 價格으로 据置토록 함으로써 166億 원을 輕減하여 總 396億 원의 農民負擔을 輕減하는 效果를 가져왔다.

나. 肥料 供給과 均衡施肥

今年度는 肥料販賣制度 轉換의 첫해인 點을 勘案하여 農協으로 하여금 從 前의 政府引受 肥種을 各 肥料會社別 生産能力에 따라 購買토록 하여 새 制度의 定着時까지 肥料需給에 蹉跌이 發生되지 않도록 할 計劃이다.

今年度 農協을 통한 肥料 供給計劃은 2,259千噸으로서 이중 1,715千噸은 年內 供給하고 544千噸은 來年度 需給安定을 위하여 年末在庫로 維持할 計劃이다.

<表 2-2-4> '88年 農協取扱肥料 需給展望

	確		保		供 給	在 庫
	前年移越	購 買	計			
計	716 千噸	1,543	2,259		1,715	544
單 肥	224	607	831		658	173
複 肥	492	936	1,428		1,057	371

資料：農林水産部 農産局

또, 營農에 不便이 없도록 肥料 盛需期에는 公休日 無休販賣와 全體 販賣 量의 35%까지 外上으로 肥料購買가 可能하도록 하였다.

아울러 아직까지 尿素肥料에 偏重된 肥料使用을 肥料3要素의 均衡施肥로 誘導하기 위해 作物과 地帶에 알맞는 複合肥料를 使用토록 對農民 指導를

<表 2-2-5> 專用複合肥料 現況

肥 種	비					보 리	콩
	못자리用	1毛作用	2毛作用	冷害用	이삭거름		
	18-18-18	17-21-17	21-17-17	15-20-15	18-0-18	10-22-14	8-14-12

資料：農林水産部 農産局

積極 展開하여 均衡施肥를 定着시켜 나갈 것이다.

施肥方法 改善을 통한 肥料의 使用效率를 增大시키기 爲하여 砂質畝, 濕畝 등을 除外한 全面積에 全層施肥 指導를 強化하고 耕地整理地區, 野山開墾地, 干拓地 等 特殊地域에 對하여는 土壤의 條件, 栽培作目 등을 勘案한 施肥基準을 마련하여 指導해 나갈 計劃이다.

7. 病蟲害 防除와 農藥安全 使用指導

가. 病蟲害 防除

米穀 安定生産의 要諦가 되는 病蟲害 防除를 全 栽培面積에 對하여 病害防除 5회, 蟲害防除 4회등 總 9회를 實施 할 計劃이며, 全國에 151個의 豫察所와 3,000個의 觀察圃를 開設하여 이로부터 얻어진 病蟲害 豫察情報를 各種 매스콤을 통하여 迅速히 通報하여 病蟲害 防除에 早期 對應해 나갈 것이다.

또한 病蟲害 發生을 根源的으로 抑制하기 爲하여 地力增進을 圖謀하고 適地 適品種 및 耐病蟲性 品種의 栽培를 誘導해 나갈 것이다. 特히, 病蟲害의 初期防除 對策으로 病害蟲의 傳染源 除去를 爲해 約 9萬ha 程度의 논과 밭 두렁 불태우기, 種子에서 越冬하는 病害蟲의 死滅을 爲해 約 6萬% 水準의 種子消毒을 實施하였고, 出入耕作者, 勞動力 不足農家 等 防除 脆弱農家の 논과 每年 病蟲害가 되풀이되는 病害蟲發生 常習地는 農家別로 카드化하여 特別管理하고 病蟲害 事前 豫防을 爲하여 粒劑農藥을 撒布토록 하였다.

위와같이 初期 防除對策을 徹底히 推進하는 한편, 早期 適期에 防除를 推進하기 위해 全國에 16個所의 綜合防除 示範圃를 設置하여 農民의 防除教育 長으로 活用토록 하였으며, 全國에 部落 單位로 33.3千個의 病蟲害 共同防除 團을 組織하여 病蟲害 防除를 共同으로 迅速하게 推進하여 防除效率를 提高토록 하였다. 또 農民의 負擔을 輕減시키기 爲하여 共同防除에 所要되는 防除費用의 一部를 支援해 나갈 計劃으로 있으며 올해는 150億원을 支援할 計劃이다.

'88년 病蟲害 防除 推進過程에서 나타난 特記할 事項은 우리나라에 없었

던 벼 물바구미가 慶南 河東郡 고전면 범아리 율동마을에서 最初로 發見되었다는 점이다. 發生分布 狀況은 最初 發見地인 慶南 河東郡을 비롯하여 仁川市 南區, 京畿 始興, 金浦, 全南 光陽 및 慶南 南海 蔚山, 蔚州등 주로 船舶出入이 빈번한 港口 및 隣接地域이다. 벼 물바구미의 擴散防止를 爲하여 7月11日 發生地 및 隣接地域에 대한 緊急防除令을 내리고 幼蟲이 發生한 논에는 카보粒劑, 周邊筆地 논에 대하여는 칼탐粒劑를 撒布하고 成蟲 發生地 및 豫防이 必要한 防除地域에 대하여는 리바이짓드 油劑를 撒布하여 防除하였다. 來年度 發生에 對備한 防除對策으로 '88年 發生地域은 못자리때부터 效果가 높은 防除藥劑인 카보粒劑를 全面積에 撒布토록 하고 發生地로 부터 擴散 可能性이 있는 반경 100km地域 以內的 모든 논에는 칼탐粒劑나 리바이짓드 유제로 事前 防除하여 被害를 極小化해 나갈 計劃이다.

나. 農藥 安全使用

農藥 使用增加에 따른 被害防止를 爲해 對農民 特別教育등을 通해 農藥 安全使用 指導를 大的으로 實施하고 있으며, 農作物의 農藥 殘留防止와 農藥 撒布時 農藥中毒事故 防止를 爲해 287個의 對象品目中 277品目에 對하여 農藥安全使用 基準을 設定 告示하였으며 나머지 10個 品目に 對하여도 빠른 時日안에 告示할 計劃이다. 特히 農藥 使用 盛需期인 每年 7月 10日부터 8月31日까지를 農藥 安全使用 重點 指導期間을 정하여 農藥 中毒 被害防止 및 不良農藥의 流通 根絶을 推進하고 있다. 한편 國際적으로 有害 判明된 農藥의 國內 試驗 및 告示를 禁止하고 있으며, 農民들의 農藥 撒布中 中毒 事故를 防止하기 爲하여 安全使用 資材인 防除服을 '87年 58千着에서 '88年 92千着으로 擴大 供給하고 解毒劑 80萬錠, 改良마스크 150萬個를 供給토록 하였다. 이와 아울러 持續的인 農藥安全使用 指導를 위해 農藥安全使用 指針書 7萬部, 農藥 混用 可否表 1萬部, 農藥과 消費者 15千部, 農藥安全使用 비디오테이프 250個를 製作 配付하였다.

第2節 발 作物의 選別的 擴大 生産

발 作物中 麥類, 粟類, 豆類 및 雜穀等 食糧作物은 增産餘力이 있으나 다른 經濟作物에 비해 農家所得이 낮아 栽培面積과 生産量이 漸次 줄어들고 있는 반면 참깨, 땅콩等 油脂作物과 特用作物은 栽培面積과 生産量이 다소 增加하는 趨勢에 있다.

需要側面에서 보면 보리, 고구마는 食用以外에 酒精原料로, 감자는 라면용 變性澱粉, 찹, 후레이크等 加工用으로 使用이 擴大되고 있으며, 콩은 가장 經濟的인 蛋白質 供給食品이라 할 수 있다.

따라서 발 作物의 增産을 통하여 輸入代替效果와 農家所得增大를 위해서 國內供給이 不足한 品目を 中心으로 農家所得增大에 寄與할 수 있는 品目を 契約栽培 擴大, 收買價格 豫示, 農家生産 全量收買, 生産資金支援等 作目特別性を 勸案한 增産施策을 推進해 나갈 것이다.

1. 作目別 生産計劃

가. 보 리

보리는 食用으로서 消費가 國民經濟의 成長과 함께 빠른 速度로 줄어들고 畝作과는 달리 機械化가 이루어지지 못함에 따라 生産이 急激히 줄어들었다.

그러나 最近 보리 加工需要의 開發이 促進되고 健康食品으로서 認識이 새로와 지면서 보리需要가 점차 다시 늘어나는 趨勢에 있다. 따라서 '87년부터 播種期前에 收買價格을 豫示하는 契約栽培로 轉換한 바 있으며 今年度は 보리收買 豫示價格을 지난해에 비해 10% 引上한 精穀 1等品 76.5kg/가마當 47,690원으로 豫示하고, 別途로 農家の 營農費負擔을 덜어주기 위하여 겨울 營農資金으로 100億원을 融資支援하고 種子, 肥料等 300億원 水準의 播種資材를 農家希望에 따라 外上으로 供給토록 하였다.

또한 農家の 보리增産 意慾을 북돋우기 위하여 多收穫 農家を 비롯하여 集團栽培團地 및 大面積 栽培農家等에 대한 施賞을 擴大하고 있다.

麥酒보리는 '85年 以後 累增되어온 超過 在庫量 32千%을 食用으로 轉換하고 今年度에는 44.9千ha에서 179.5千%을 生産하였으며 收買는 지난해에 비해 27%가 增加한 139.8千%을 收買하였다.

현재로서는 보리를 代替할만한 뚜렷한 冬季作物이 開發되지 못한 實情에 있고 앞으로도 加工需要를 中心으로한 持續的인 需要增大가 豫想됨에 따라 國內賦存資源 活用과 農家所得 增大次元에서 契約栽培를 통한 安定的 增産을 持續的으로 推進해 나갈 것이다.

나. 豆 類

豆類의 需要는 加工用 및 飼料用으로의 用途가 늘어남에 따라 每年 增加하고 있으나, '70年代 中盤以後 國內生産은 줄어들어 상당한 量을 輸入에 依存하고 있어 生産을 獎勵하여 自給率을 提高시키는데 力點을 두어 自給基盤을 構築해 나갈 計劃이다.

콩은 '87年보다 60千%이 늘어난 264千%을 生産할 計劃이다. 이를 위해 優良 多收性 新品種 開發研究를 強化하고 50千ha의 增産團地를 造成하여 이들 增産團地에 대해 種子, 肥料等의 支援을 '87年の 44億원에서 今年에는 51億원으로 擴大해 나갈 것이다. 또한 播種期前인 5월에 收買價格을 前年對比 10%引上하여 豫示하였으며 農家 出荷希望全量을 收買할 計劃이다.

<表 2-2-6>

豆 類 生 產 計 劃

(單位：千%)

	'85	'86	'87	'88 計劃	'88 / '87
計	263.7	236.0	245.7	309.4	126 %
콩	233.9	198.5	203.5	263.5	129
팥	24.2	30.5	35.1	37.9	108
綠 豆	5.6	7.0	7.1	8.0	113

資料：農林水産部 農産局

팥, 녹두는今年度生産目標를前年보다各各8%, 13%增加한37.9千%, 8千%으로定하고, 示範團地를팥은800ha, 녹두는500ha로擴大造成하고 이들團地에도種子와肥料를콩生産團地와同一한水準으로支援하고農家出荷希望全量을收買할計劃이다.

다. 薯 類

감자는昨年보다144千%이늘어난594千%이늘어난594千%(精穀: 119千%)을生産할計劃이다.

감자의加工消費가아직은外國(日本: 59%, 美國: 50%)에比해極히낮은3%水準에不過하나國民食生活水準向上에따라加工需要가점차늘어나고있어用途別로適合한加工用감자品種을開發普及해나갈것이며 養鰻飼料用 및 라면用 감자變性澱粉에 대한國產使用義務化도繼續하여推進해나갈것이다. 특히今年7月1일부터冷凍감자輸入開放에따른國內栽培農家保護를위해國內生産冷凍감자는農水産物價格安定基金을活用하여全量收買함으로써農家所得이安定的으로確保될수있도록해나갈것이다.

고구마는海岸地域을中心으로地域特化作目으로育成하여昨年보다202千%이늘어난744千%(精穀: 231千%)을生産할計劃이며, 農家が希望하는全量을收買하여酒精用으로供給할計劃이다.

<表 2-2-7>

薯類生産計劃

(單位: 生薯千%)

	'85	'86	'86	'87 計劃	'88 / '87
計	1,362	1,250	993	1,338	135 %
감 자	575	566	450	594	132
고 구 마	787	684	543	744	137

資料: 農林水産部 農産局

라. 雜 穀

옥수수는江原, 忠北地方의準山間地域의所得作目으로育成하여, 栽培面

積을 最大한 確保하고 段收 增大를 爲한 一代 雜種 種子 使用을 積極 勸獎 하여 生産性を 높여 나가는 한편 農家 出荷全量을 收買하는등 販路保障을 通해 所得增大를 圖謀해 나가는 한편 또한 수수, 조, 메밀等 其他 雜穀에 對해서는 適正生産을 誘導할 計劃이다.

<表 2-2-8>

雜 穀 生 産 計 劃

(單位：千%)

	'85	'86	'87	'88 計 劃	'88 / '87
計	146.6	131.4	149.2	160.7	108 %
옥수수	131.8	113.3	127.4	142.0	111
조	4.6	3.3	2.6	3.0	115
수수	1.6	1.8	2.3	2.2	96
메밀	7.3	11.2	11.6	10.2	88
其他	1.3	1.8	5.3	3.3	62

資料：農林水産部 農産局

第 3 節 特用作物の 生産支援

1. 油脂作物

참깨는 '87年 生産量 43.3千%보다 37% 増加한 59.3千%을 今年에 生産하여 自給度を 81% 水準으로 提高시킬 計劃이며, 땅콩은 33.4千%을 生産할 計劃이다.

이를 위해 收買價格을 참깨는 昨年보다 9% 引上한 195.2千원(1等品 40kg), 땅콩은 昨年價格인 42.1千원(1等品, 피콩 30kg)으로 豫示하였으며, 增産誘導를 위해 참깨 184.5億원, 땅콩 60億원 등 總 244.5億원의 生産資金을 年利 5%로 融資支援하는등 積極적인 지원시책을 추진해 나갈 것이다.

한편 油菜는 한라油菜등 優良 新品種의 普及으로 今年에도 9.0千%을 生産

할 計劃이며, 이를 위해 收買價格을 昨年의 493원(1等, kg)에서 542원으로 9.9% 引上하였다.

〈表 2-2-9〉 油脂作物 生産計劃 (單位: 千%)

	'86	'87 (A)	'88計劃(B)	B / A
참깨	48.2	43.3	59.3	137.0 %
땅콩	20.2	32.2	33.4	103.7
유채	7.8	7.8	9.0	115.4

資料: 農林水産部 農産局

2. 양송이, 호프

양송이는 13.3千%을 生産할 計劃이며, 이를 爲해 生産獎勵金, 栽培舍, 改補修資金, 種菌生産資金등 31億원을 支援할 것이다. 또한 250千^c/T(標準箱子)를 加工하여 全量輸出하는 등 農家の 所得作目으로 開發해 나갈 計劃이다.

호프는 麥酒의 消費嗜好에 알맞는 良質을 生産하기 위하여 優良 新品種 開發事業을 積極 推進함과 同時에 自給度 提高를 위해 努力할 것이다.

3. 蠶 業

國內 누에고치 生産量은 每年 減少趨勢에 있고 '87年度에는 生絲 自給度가 30% 水準에 不過하여 總 生絲 需要量의 70%以上을 輸入에 依存하고 있는 實情이다.

그러나 最近에 들어 世界 生絲輸出市場의 90%以上을 占有하고 있는 中共의 生絲 直輸出物量이 점차 줄어들고 國際生絲價格이 大幅 上昇함에 따라 相對的으로 國內 蠶業의 競爭力이 높아지는 등 對外的인 蠶業振興 與件이 改善됨에 따라 蠶業生産基盤 擴充과 蠶業經營 改善을 통한 生産성향상과 生絲需給安定에 重點을 둔 진흥시책을 積極 推進해 나갈 것이다.

이를위해 '87년에는 養蠶適地에 46百萬株의 뽕나무를 심어 2,760ha의 密植 뽕밭을 造成하고 戶當 뽕밭面積을 '87年末 30a에서 50a以上으로 擴大하여 養蠶經營의 規模化 基盤을 構築하는 한편, 뽕밭規模가 3ha以上되는 마을 單位로 養蠶 主產地 2,000個所를 選定 集中支援해 나갈 것이다.

아울러 이러한 增産施策을 效果的으로 뒷받침 하고 蠶業農家 所得增大를 爲하여 繭 누에고치 價格을 지난해에 비해 15%를 引上하고 生絲類 輸出增大를 위한 經營合理化와 生絲의 生産原價 節減을 통해 國際競爭力을 높이는 한편, 輸出市場의 多邊化를 積極 推進해 나갈 것이다.

<表 2-2-10> 蠶業振興 事業計劃

	單位	'87 實績	'88 計劃
〈 生 產 基 盤 〉			
○ 뽕 밭 造 成	千 株 (ha)	28,708 (1,660)	46,000 (2,760)
○ 養蠶主產地마을育成	個 所	1,949	2,000 (新規 51)
○ 密植뽕밭비닐被覆	ha	2,550	2,000
〈 生 産 〉			
○ 누 에 고 치	%	7,203	7,500
○ 生 絲	千 俵	25.1	25.3

資料：農林水産部 農産局

4. 花 卉

經濟成長과 國民生活 水準이 높아짐에 따라 增加하고 있는 國內 꽃 需要를 充當하고 輸出戰略作目으로 積極 開發하여 農漁村所得源을 擴充하기 위하여 지난 '83년부터 花卉産業을 積極 育成 해 오고 있다.

今年에도 꽃의 安定生産基盤을 擴充하기 爲하여 總 1,720百萬원을 投入하여 꽃 主產地에 現代화된 施設을 갖춘 示範園地를 造成하고 先進 栽培技術을 集中 指導해 나가고 老朽 栽培施設의 現代化등 花卉栽培의 省力化를 圖謀해 나갈 計劃이다.

<表 2-2-11>

花卉生產基盤 擴充計劃

	事業費	支援額
計		1,720 百萬원
꽃 示 範 團 地 造 成	20 ha	630
施 設 現 代 化	38	931
農 機 械 供 給 (온풍난방기)	50 台	105
優 良 種 苗 生 產 施 設	110 坪	43
種 苗 入 殖	3,000 坪	11

資料：農林水産部 農産物流通局

아울러 꽃 流通構造를 改善하여 流通能率을 向上시키고 公正去來體制를 早期에 定着시켜 나가기 위하여 今年中 開場을 目標로 서울에 大規模 法定 都賣市場建設을 推進하고 있으며 꽃 輸出擴大를 爲해 輸出戰略品目을 集中 開發하고 輸出資金도 支援해 나갈 것이다.

第3章 農林水産業의 構造改善

第1節 營農規模 擴大

1. 農地賃貸借管理法 施行

農村地域에서 現實的으로 이루어지고 있는 農地賃貸借 關係를 合法化하여 賃貸人에게는 所有權을 保護해주고, 賃借人에게는 3年以上 計劃 營農保障등 賃借權을 保障해줌으로써 農業의 生産性を 提高시키기 위하여 農地賃貸借管理法을 '86. 12. 31日 制定 公布한바 있다.

이와 아울러 地域住民에 의한 自律的인 農地管理 體制를 確立해 나갈 수 있도록 全國 1,513個의 市·區, 邑·面에서 備置 管理하고 있는 各 農家別 農地原簿등 農地 基本臺帳도 再整備해 나갈 計劃이다.

2. 農地購入資金의 支援

營農意慾은 있으나 經濟力이 없어 農地를 購入하지 못하는 農民에게 長期 低利의 農地購入資金을 支援해 주어 營農規模의 擴大를 誘導함으로써 이들을 精銳化된 自立安定農家로 育成해 나갈 計劃이다. 이에 따라 지난해에 이어 今年에도 農漁村地域開發基金등에서 2,000億원을 確保하여 年利 5%, 2年 据置 18年 償還條件으로 支援할 것이며, 支援對象者는 現在 1.5ha未滿의 農地를 가지고 있는 農民中 營農意慾과 農漁村 定着意志가 강한 農民을 優先 選拔토록 하고, 특히 非農民이 가지고 있는 農地를 購入하려는 農民에게 優先 支援하여 耕者有田을 實現해 나갈 것이며, 支援時期는 實際로 農地去來가 活潑하게 이루어지는 벼 收穫期 以後에 支援할 計劃이다.

3. 農地關聯稅制 改善

非農民이 所有하고 있는 農地의 流動性을 促進하고, 自耕農民의 農地取得時 稅負擔을 덜어주어 自耕農民의 營農規模가 擴大될 수 있도록 關係部處와 協議하여 農地關聯 稅制를 改善해 나갈 計劃이다. 즉, 農地의 細分化 防止를 爲하여 1子女 相續時 9 F坪까지 相續稅를 免除해 주고, 農地의 流動性을 促進하기 爲하여 讓渡所得稅를 改善하여 非課稅 對象의 自耕 義務期間을 短縮함과 아울러, 不在地主가 農地를 自耕農民에게 讓渡하는 경우에도 稅負擔을 輕減해 주도록 하며, 또한 自耕農民이 農地取得時 負擔하는 取得稅와 登錄稅도 免除해 주도록 關聯稅法을 改正해 나갈 것이다. 이와 아울러 投機性 不在地主가 所有하고 있는 農地에 對하여 財產稅를 重課하는 方案도 檢討해 나갈 計劃이다.

第2節 農業生產基盤의 擴大 造成

지금까지 農業生產基盤 造成事業은 每年 3 F億원에 達하는 投資로 많은 成果를 이룩하였으나 日本이 60年代初에 完備한 것에 比하면 아직은 基礎段階에 不過한 脆弱한 水準이다. 또한 잦은 氣象災害와 營農機械化를 위한 農耕地 整備의 必要性이 擡頭될 뿐만 아니라 安定營農 基盤擴充과 農地의 效率的 利用을 爲해서 耕地整理, 排水改善등 農業生產基盤 整備를 強化해 나가야 할 것이다.

1. 耕地整理事業의 擴大

機械化 營農의 基盤이 되는 耕地整理事業은 總 對象面積 706 Fha中 '87年 末까지 488 Fha를 開發 完了함으로써 耕地整理率은 69%로 提高되었으나

農村 勞動力의 持續的인 減少에 따른 日손不足 現象의 深化와 農機械의 普及擴大와 함께 '88. 1. 1부터 農民의 自負擔率을 20%에서 10%로 輕減 措置함에 따라 可及的 便한 農業을 바라는 大多數 農民들의 事業施行 欲求是 繼續 크게 增大되고 있는 實情임을 勘案하여 平野地帶인 傾斜度 1/50以下, 1團地 規模 10ha以上の 現 地區 選定要件을 傾斜度 1/15以下, 1團地 2ha以上으로 緩和 整理코자 하며, 이와 함께 用·排水 兼用 또는 農路幅의 狹小등으로 機械化 營農에 많은 支障이 되고 있는 '60年代 以前 施行 耕地整理 區域에 對한 再耕地整理의 實施도 時急한 實情이므로 이를 全般的으로 再檢討하여 現 對象面積 706千ha를 擴大 調整해 나갈 것이다.

今年度 耕地整理事業은 '87年 가을에 着手한 28千ha를 이미 마무리하였고今年 가을에 29千ha를 新規로 着手할 計劃이다. 特히 山間 溪谷畚 地帶는 不利한 開發與件上 過多한 事業費가 所要될 것이므로 이들 地域에 對하여는 原地形을 保存하는 方向에서 機械化 營農이 可能하도록 客土를 包含한 논두렁 바로잡기 및 합배미를 兼한 簡易 耕地整理事業 方式을 採擇함으로써 農民의 自負擔을 最少化하여 推進해 나갈 計劃이다.

아울러 '86年, '87년에 이어 '88年에도 밭 耕地整理事業은 100ha程度의 示範事業을 追加 實施하여 이에 對한 評價分析을 거쳐 擴大 施行해 나갈 計劃이다.

2. 安定營農基盤의 持續的 擴充

가. 農業用水開發事業

灌溉面積이 50ha以上인 地域을 開發對象으로 推進하고 있는 中規模 農業用水開發事業은 '88年에 貯水池 67地區, 揚水場 18個 地區를 對象으로 事業을 推進하여 14個 地區 12,176ha를 竣工할 計劃이며, 灌溉面積 50ha未滿인 地區에 對해 推進하고 있는 小規模 農業用水開發 및 地表水開發은 '88年에 138地區 3,846ha를 施行하여 38地區 1,024ha를 竣工하도록 할 計劃이고, 小規模 地下水開發은 226孔을 開發하여 637ha를 施行할 計劃이다.

한편 既存水利畚中 地域與件 變化등으로 因한 물 不足地域에 補充水源을 開發하기 爲하여 地表水 補強開發事業으로 175地區 13,686ha를 施行하고 地下水 補強開發로서 大型管井 및 放射狀을 開發하여 年內에 38地區 222ha를 施行할 계획이다.

또한 恒久的 水利施設 開發이 適合하지 않은 旱魃 尤甚地域의 用水開發을 爲해 小型管井 15,100孔과 河川水를 利用하여 旱魃時 揚水機를 附着하여 給水하는 移動式 揚水施設 171地區를 開發하는 한편 管井, 揚水裝備들에 對해서도 營農期 以前인 4月末까지 点檢 整備를 完了함으로서 營農期 農業用水 供給에 蹉跌이 없도록 하였다. 이와함께 水利施設 改補修事業을 持續적으로 擴大 實施하여 老朽化된 施設을 補強해 나갈 計劃이며, 今年에 農地改良組合이 管理하고 있는 施設中 老朽된 320個所를 改補修할 計劃이다.

나. 排水改善事業

排水改善事業은 '70年代初부터 始作하였으나 그당시에는 大部分의 河川이 未改修된 狀態로서 農耕地 浸水는 當然한 結果였고, 每年 反復되는 旱魃로 因하여 排水改善事業보다는 用水開發에 重點을 둔 狀況이었다.

그後 國民所得의 向上과 每年 繼續되는 集中豪雨로 因하여 莫大한 營農投資를 하여 收穫을 눈앞에 두고도 단 한번의 洪水에 의한 浸水被害로 1年間의 努力이 水泡로 돌아가게 되어 排水改善事業은 相對적으로 低所得層인 浸水地帶 住民의 宿願事業이 되었고, 특히 '87年度의 西部 忠南地域을 위시한 全國的인 大洪水로 엄청난 人命 및 財產上 被害가 發生함으로서 排水改善事業의 擴大 實施가 더욱 절실하게 되었다.

現 排水改善 對象面積은 127千ha로써 '75년까지 10千ha, '80년까지 20千ha, '85년까지 33千ha가 開發되었으나 大部分의 開發地域이 過去 排水計劃 基準인 48~72時間 浸水許容으로 設置되어 있어 現 排水計劃 基準인 24時間 以內 浸水排除 施設로의 補強이 必要하여 이를 年次的으로 推進 補強할 計劃이다.

또한 '89以後 殘餘開發 對象面積인 77千ha에 對하여는 6次5個年 計劃期間

中('88~'92)에는 每年 9千ha씩 開發하고, '93以後에도 每年 10千ha씩 開發하여 2000年代 以前까지 開發을 完了함으로써 排水改善事業에 따른 耕地利用率 提高, 營農機械化 促進으로 인한 勞動力 節減, 單位生産量 增加에 의한 所得增大效果외에 同地域의 地價 上昇效果까지 期하므로서 農家の 絶對 資産價値를 높히는것은 물론 農民이 安心하고 營農에 臨할 수 있도록 推進할 것이다.

<表 2-3-1>

排水改善事業現況

(單位: 千ha)

對象面積	'75까지	'80까지	'85까지	'86實績	'87實績	'88計劃	'89以後
127,000	9,884 (8%)	20,318 (16%)	33,222 (26%)	5,031	6,047	6,000	76,700 (60%)

資料: 農林水産部 農漁層開發局

3. 大單位農業 綜合開發事業

河川水系를 中心으로 一定地域을 圈域化하여 農業用水와 耕地整理, 排水改善, 干拓開畝등의 事業을 綜合적으로 施行하여 開發效果를 極大化시키기 爲한 大單位農業 開發事業은 '87年까지 錦江, 平澤, 慶州, 界火島, 榮山江(Ⅰ), 昌寧, 臨津, 洛東江 및 南江地區등 9個地區 88千ha를 完工하였고, 榮山江(Ⅱ) 段階 事業등 7個 地區는 繼續 推進中에 있다.

'88년에는 7個 繼續地區 89千ha에 對하여 事業費 766億원을 投入, 工事を 推進하여 綜合工程을 60%에서 66%까지 높힐 計劃이다.

地區別로 보면 '77년에 着工한 美湖川 地區에 對하여 完工計劃으로 推進中에 있으며, 榮山江(Ⅱ)段階와 論山, 插橋川, 大湖地區의 平野部 工事 및 錦江 河口등 築造工事, 榮山江(Ⅲ-Ⅰ)段階 防潮堤 築造工事を 繼續 推進할 計劃이다.

또한 施行豫定地區인 美湖川(Ⅱ)段階 및 錦江(Ⅱ)段階 事業에 10億원을 投入, 早期着工을 爲하여 主水源工 施設에 對한 調查設計를 實施할 計劃이다.

<表 2-3-2>

大單位農業 綜合開發事業(繼續地區)

(單位：百萬圓)

	開發面積 (ha)	事業期間	總事業費				累計進度(%)	
				'87까지	'88計劃	'89以後	'87까지	'88
榮山江(Ⅱ)	20,700	'78~'91	242,738	163,988	13,370	65,480	68	73
論 山	10,800	'78~'89	89,536	74,947	12,685	1,904	84	98
插 橋 川	24,700	'75~'90	195,227	169,159	15,837	10,231	87	95
美 湖 川	12,665	'77~'88	104,357	94,965	9,392		91	100
錦 江	-	'83~'89	92,700	72,490	7,362	12,848	78	86
大 湖	7,700	'80~'91	147,000	84,086	9,083	53,831	57	63
榮山江(Ⅲ)	12,200	'85~'94	243,000	3,927	8,942	230,131	2	6
計	88,765		1,114,558	663,562	78,571	374,425	60	66

資料：農林水産部 農漁村開發局

4. 農地保全 및 擴大

國民食糧의 供給基盤인 農地는 産業化 都市化現象이 深化됨에 따라 매년 減少하고 있다. 이에따라 食糧自給에 必要한 農耕地의 確保를 위하여 開發이 可能한 野山과 干瀉地를 農耕地로 開發해왔으나 既存 農耕地가 住宅, 工場敷地 및 各種施設 敷地로 轉用되고 있는 반면 이를 대체할만한 농지의 확대가 이루어지지않아 農耕地 面積은 每年 約 9千ha씩 減少되고 있으며 아울러 營農條件이 不利한 農地의 休耕化 現象이 나타나고 있다.

따라서 農地를 보다 效率的으로 運營하기 위하여 優良·集團化된 絶對農地의 他目的 轉用을 抑制하고 또한 工場, 居住用地는 可及的 林野등 非農地를 活用토록 誘導하는 한편, 山間谷間畚등은 草地, 特作등으로 전환하는등 地帶에 맞는 作付體系를 發展시켜 나갈 計劃으로 있다.

또한 農地擴大를 위해 埋立與件이 좋은 西南海岸 干瀉地 400千ha를 中心으로 開發할 計劃으로 '88년에는 西南海岸 및 榮山江(Ⅲ-1)地區등 35千ha의 干拓事業을 施行中에 있다.

第3節 農漁村地域綜合開發

郡單位 定住生活圈을 대상으로 中心都市와 周邊背後地인 農漁村을 하나의 統合된 生活圈으로 開發하고 있는 農漁村地域 綜合開發事業은 開發 模型定立과 推進方式의 定立을 爲해 지난 '85년부터 '87년까지 3個年間 3個郡(忠南 公州, 全南 康津, 慶北 青松郡)을 對象으로한 示範事業에 總 326億원을 投入하여 生産施設, 農業基盤造成, 流通施設, 所得源道路 開發事業등을 推進하였다.

한편 地方化時代에 對備하면서 當該地域의 特性和 地域住民의 開發 需要를 反映한 長期開發計劃을 樹立하여 地域住民들에게 比견을 提示하고 나아가 地方自治團體長이 補助金 申請主義에 立脚한 國庫補助金 申請을 圓滑하게 할 수 있도록 하기 위하여 第6次經濟社會開發5個年計劃期間('88~'92)中 全國 138個郡에 대한 開發計劃樹立을 完了할 豫定으로 '87년까지 16個郡에 대한 開發計劃 樹立을 完了하였고, '88年度에는 24個郡을 對象으로 開發計劃을 樹立하고 있다.

<表 2-3-3>

農漁村地域 綜合開發計劃 樹立 推進計劃

(單位：郡)

	全 國	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91
計 劃 樹 立	138	3	5	8	24	24	32	42

資料：農林水産部 農漁村開發局

앞으로 農漁村地域 綜合開發은 地方化時代에 副應하여 對象地域의 特性에 맞는 效果的인 開發計劃이 될 수 있도록 計劃樹立 參與者에 대한 教育을 強化하고 計劃樹立 技法도 開發해 나갈 計劃이다.

아울러 示範地域의 事業推進結果를 토대로 地域에 投資되는 事業間의 相互連繫性을 地域開發計劃을 통하여 높혀나감으로써 效率的인 地域開發을 圖謀해 나갈 것이다.

第 4 節 農業機械化 促進

1. 農業機械供給

지금까지는 水稻作 爲主로 機械化事業이 推進되어 耕耘·整地作業의 機械化率은 70%以上으로 提高되었으나 많은 勞動力을 必要로 하는 移秧과 收穫作業의 機械化率은 40%에 未達하는 低調한 水準으로 機械化率이 거의 100%인 日本, 臺灣에 비하여 相當히 낮은 水準이다.

'92년까지 農業機械化率을 80%로提高하기 위해 前年度에 비해 6千台가 많은 113千台를 融資支援·供給할 計劃이며, 그동안 普及이 普編化된 耕耘機, 防除機, 脫穀機等은 代替需要水準을 供給하고 勞動力 代替效果가 큰 秋秧, 收穫機와 田作 機械化를 위한 管理機等の 主要機種에 대해서는 供給을 擴大해 나갈 것이다.

<表 2 3 - 4>

'88 年 農 機 械 供 給 計 劃

(單位：千臺)

	'87末保有	'88 供給計劃	融 資 條 件			
			融 資 率	償 還 條 件		金 利
耕 耘 機	711	55.0	65 %	1年据置 6年均分償還		年 8%
트랙터	20	6.5	80	"	7年 "	"
移秧機	76	23.0	90	"	5年 "	"
바인더	38	9.0	90	"	5年 "	"
콤바인	20	6.5	90	"	6年 "	"
乾燥機	9	1.5	90	"	6年 "	"
管理機	7	9.5	90	"	6年 "	"
其 他	1,230	2.0	70~90	"	4~6年 "	"
計	2,111	113.0				

資料：農林水産部 農業政策局

2. 機械化營農團 擴大 育成

'81년부터 始作된 機械化營農團은 昨年까지 9,061個所가 造成되어 農機械 利用度를 높이고 農機械購入에 따른 負擔을 輕勸시켜 營農機械化의 先導的 役割을 擔當해 오고 있다.

今年에는 機械化營農團을 前年の 3,176個所보다 800餘個所가 늘어난 4,000 個所를 造成하되 작년처럼 大規模營農團과 小規模營農團으로 二元化하여 育成해 나갈 計劃이며, 機械化營農團에 대한 補助率을 종전의 40%에서 50%로 높여 농민의 부담을 경감시킬것이다.

大規模 機械化營農團은 平野地 및 耕地整理된 地域을 對象으로 하여 機械化가 落後된 地域을 中心으로 10戶以上 農家와 10ha以上 耕地規模로 造成하여 農村勞動力 代替 效果가 큰 移秧機, 콤바인, 乾燥機等 勸獎機種을 中心으로 支援하여 水稻作의 一貫 機械化가 이루어지도록 할 計劃이다.

또한 小規模營農團은 相對的으로 支援惠澤에서 除外되었던 中山間地를 中心으로 移秧機를 重点 供給함으로써 耕地整理가 되지않은 地域에도 機械化가 可能하도록 할 計劃이다.

<表 2-3-5>

機械化營農團 育成計劃

(單位：個所)

	目 標	'87까지	'88
計	40,000	9,061	4,066
大 規 模	22,000	7,907	2,057
小 規 模	18,000	1,154	2,009

資料：農林水産部 農業政策局

3. 農機械 事後奉仕와 安全事故 防止

農機械普及擴大에 따른 修理奉仕體系의 確立을 위해 '87년까지 設置된 事後奉仕施設을 內實化하고 今年에 追加로 邑·面修理店 50個所, 市·郡代理店 20個所, 道單位 綜合整備施設 8個所를 新規로 擴充할 것이며 農機械部品

<表2 3-6>

事後奉仕施設 設置計劃

	'87末実績	'88計劃	事業費	支援内譯	
				融資	自擔
綜合整備工場	個所 13	個所 8 (個所當)	百萬圓 1,504 (188)	1,200 (150)	304 (38)
代理店部品管理 電算化	3	20 (個所當)	250 (12.5)	200 (20)	50 (2.5)
邑・面修理店	2,425	50	-	-	-

資料：農林水産部 農業政策局

의 圓滑한 供給을 위하여 個所當 部品센터에는 200百萬圓, 代理店은 30百萬圓, 修理店은 10百萬圓까지 總 100億圓을 融資支援하여 一定量의 部品을 確保토록 制度化할 計劃이다.

한편 農機械의 安全使用과 農民의 自家修理能力을 向上시키기 위하여 農機械 生産業體의 訓練施設을 擴充하고 農村指導所 및 道農民教育院에 訓練 裝備를 補強하여 技術訓練의 內實化를 期하는 한편, 今年度에는 農機械 實需要者등 86千名을 對象으로 技術訓練을 實施할 計劃이다.

또한 農機械安全事故 豫防을 爲하여 農機械 操作技術訓練時에 安全運行 教育을 實施하고 交通事故豫防을 위하여 トレ일러 뒷면에 夜光反射板을 義務적으로 附着토록 하는등 指導를 강화하고 있다.

또한 不意의 事故를 當했을시에 補償을 받을 수 있는 農機械 事故被害補償制度를 마련코자 '88年度에 農機械 事故保險制度 實施方案에 대하여 調査 研究를 할 計劃이다.

4. 農機械價格 自律化推進

農機械供給 擴大와 農家の 購入負擔을 덜기 위하여 農機械價格을 行政指導價格으로 長期間 据置함으로써 市場競爭原理에 의한 生産業體의 自生力이 惡化되는 한편 生産業體의 經營惡化, 流通 및 事後奉仕의 未洽 等 問題點이

노출되고 있다.

지금까지 行政指導價格은 事實上 價格告示制의 性格으로서 市場競爭原理에 逆行하여 自律的인 企業活動과 市場競爭을 沮害함으로써 長期的으로는 企業의 市場 適應力을 弱화시키고 製造會社別로 製品의 特性을 勘案하지 아니한 單一價格體制를 運營하기 때문에 技術開發과 品質改善의 努力을 疏忽히 하고 製造業體와 代理店의 經營不實에 따른 缺損部分도 製品價格으로 轉嫁하는 傾向이 있어 앞으로는 農機械의 生産, 流通 및 價格이 市場競爭原理에 의해 決定될 수 있도록 農機械價格의 自律化를 推進하되 다만 價格自律化가 價格引上으로 連繫되어 農民에게 큰 負擔을 주지않고 製造業體의 經營이 正常化될 수 있도록 하기 위해서 農民과 製造業體에 대한 補完對策을 並行 推進할 計劃이다.

第5節 農村人力 및 農業技術開發

1. 農漁民 後繼者 育成事業

가. 育成方向

'81년부터 시작한 農漁民後繼者 育成事業은 '87년까지 39,444名을 育成함으로써 農漁村마을當 1名씩을 確保하게 되었으며, '92년까지는 6萬餘 農漁村 自然部落에 대하여 1名씩을 確保할수 있도록 '88년부터 매년 4,000名씩을 育成하여 '92年末까지는 6萬名 程度를 確保할 計劃이다.

앞으로의 農漁民後繼者 育成은 農水産系 學校 卒業者를 中心으로 選定하여 定着率을 높여나가고 支援資金도 現在 1人當 平均 8百萬원 水準에서 基金이 許容하는 範圍內에서 增額하고, 生産基盤 擴張을 爲한 追加資金도 支援하는 方案을 講究하며, 教育訓練方法도 技術教育과 精神 教育을 統合實施하여 農漁民後繼者들이 事業에만 專念할 수 있도록 할 計劃이다.

또한 農漁民後繼者들이 都市移住, 就業 移轉 등으로 離農하는 것을 防止하기 爲해 技術指導를 통하여 生産性を 높이고 經營教育 實施로 事業을 合理化시키는 한편, 販賣斡旋, 流通情報提供, 生産物出荷指導 등 實質所得이 向上되도록 事後指導管理를 強化해 나갈 계획이다.

나. 育成基金 擴大 造成

'80年末에 396億원 相當의 寄附財産으로 造成한 農漁民後繼者 育成基金은 그간 政府出捐金 500億원, 畜産振興基金出捐金 700億원, 運用收益 등 821億원을 合하여 '87年末에는 2,417億원으로 擴大 되었으며 '88年末에는 2,452億원으로 늘어날 展望이다.

<表 2-3-7> 農漁民後繼者育成基金 造成 및 育成人員 (年末基準)

		計	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88
基金造成			億원 515	665	1,477	1,742	1,893	2,162	2,417	2,452
育成	人員	名 43,444	1,945	1,998	2,001	5,000	10,000	10,000	8,500	4,000
人員	資金	百萬원 316,223	7,000	14,580	13,944	35,007	70,042	70,194	70,307	35,147

資料：農林水産部 農業政策局

<表 2-3-8> 農漁民後繼者育成基金 造成內譯 (單位：百萬원)

	'86년까지	'87年		'88年(計劃)	
		當 年	累 計	當 年	累 計
寄 附 財 産	39,634	-	39,634	-	39,634
政 府 出 捐 金	30,000	20,000	50,000	-	50,000
蓄産基金出捐金	70,000	-	70,000	-	70,000
運 用 收 益	76,561	5,546	82,107	3,438	85,545
計	216,195	25,546	241,741	3,438	245,179

資料：農林水産部 農業政策局

다. 教育訓練 強化

'88年 農民後繼者 教育은 3,600名을 對象으로 營農希望作目과 連繫하여 19個 專門技術教育 課程을 設置하여 1週씩 15期에 걸쳐 實施할 計劃이며, 主要 教育內容은 短期間內에 꼭 알아두어야 할 核心專門技術과 農場經營 및 流通技術을 中心으로 講義, 討議 및 實技實習 教育을 重点 實施하여 農村定着에 必要한 新 知識과 技術을 習得하도록 할 것이다.

또한 지난해에까지 選定된 農民後繼者를 농어촌개발을 선도해 갈수 있는 營農能力과 指導力을 겸비한 농어촌의 중심인력으로 育成하기 위하여 成長 段階別 重点指導 目標를 設定하여 精密指導를 繼續하고, 作目別 研究모임을 活性化해 나갈것이다.

2. 農業技術開發

農產物의 國際競爭力을 높이고 農產物의 安定生産 供給과 農家所得을 增大키 위하여는 遺傳工學의 農業利用등 尖端農業技術의 開發이 積極 推進되어 實用化되어야 한다. 이를 위해 組織培養은 꽃가루培養 成功率 向上과 高所得作物의 人工種子生産 技術確立, 細胞融合은 種屬間 雜種食物 開發과 家畜疾病 早期 診斷液 開發, 核置換은 凍結受精卵의 微細分離 增殖 技術과 雄性不稔을 利用한 1代雜種育成, 遺傳子 造成 技術은 有用遺傳子 分離와 形質 轉換 技術開發에 重点을 두고 推進해 나갈 것이며, 開發된 技術에 대하여는 物質特許를 導入해 나갈 것이다.

한편, 尖端技術開發을 위한 研究基盤은 遺傳工學科를 遺傳工學部로 改編토록 하고, 基礎研究施設에 實用化 研究施設을 追加 新設하여 最新 機資材 239種, 1,792臺를 確保하여 研究效率을 높이도록 하며 確保된 機資材는 7年 週기로 繼續 代替토록 하고 研究員의 海外 長期研修를 60名으로 擴大함은 물론 國際會議 參加, 外國 專門家 招請 및 國際研究機關과의 共同研究를 擴大 實施토록 할 計劃이며, 全 研究員의 40% 水準까지 博士學位를 所持하도록 積極 支援하고 國內外 最新 農業情報의 活用을 積極 支援하여 研究員의

資質向上을 통해 尖端技術開發 基盤을 擴充해 나갈 것이다.

第 6 節 資源의 合理的 利用

1. 國內 賦存 飼料資源의 利用擴大

國民所得向上에 따른 畜產物 消費增加에 따라 家畜飼育 規模가 늘어나고 있는데 國內 飼料 生産基盤은 매우 脆弱하여 飼料自給度가 繼續 낮아지고 있다.

앞으로 飼料의 海外依存度를 줄여 나가기 위해 國內賦存 飼料資源의 積極인 開發과 利用이 絶실히 要請되고 있다.

가. 草地造成

'88年 草地造成事業은 造成面積擴大보다는 實需要者 爲主로 4,800百萬원을 投資하여 4千ha로 造成해 나갈 計劃이다. 이에 따라 對象地 選定을 위해 畜產, 山林, 建設等 關係機關 合同으로 適地調査를 實施하고 草地造成後 都市 計劃區域, 工場地帶等 他用途로 轉用이 豫想되는 地域은 對象地 選定에서 除外해 나갈 計劃이다.

<表 2 - 3 - 9>

草地造成 適地の 判定基準

等 級	傾 斜 度	有 效 土 深	자 갈 舍 量 (바위露出)	土 性
1 級	20' 以下	100cm 以上	5% 以下	砂壤土, 壤土
2 "	21 ~ 30	99 ~ 50	6 ~ 20	埴壤土, 埴土
3 "	31 ~ 35	49 ~ 30	21 ~ 30	砂土, 中粘土
4 "	36' 以上	29cm 以下	31% 以上	粒砂質土

註：適地는 可及的 3級以上으로 選定
資料：農林水産部 畜産局

또 家畜飼育으로 인한 糞尿流出 防止施設을 設置하여 公害로 인한 被害가 最少化되도록 하고 對象地의 與件을 勘案한 草地造成을 推進하고 農村指導

所에서 對象地別로 指導指針書를 作成하여 農家에 配布할 計劃이다.

그리고 既成草地中 牧草生産량이 不良한 草地에 대하여는 施肥, 補播를 實施토록하여 優良草地化하고 既 道當 1個所씩 造成한 團地草地 9個所와 農高草地 48個所를 養畜農家の 畜産技術教育場으로 活用할 計劃이다.

나. 飼料作物 栽培

겨울철 遊休農地를 이용한 호밀, 이탈리아인 라이그라스등 畚裏作 飼料作物을 금년에도 110千ha를 재배하여 936千%의 粗飼料를 생산함으로써 풀飼料의 給與率을 높여나감과 동시에 耕地利用率을 제고시켜 나갈 것이다.

<表 2-3-10>

飼料作物 栽培現況

(單位: 千ha, 千%)

		'85	'86	'87	'88計劃	備 考
畚裏作 飼料作物	面積	86	100	109	110	生産량은 風乾物 基準
	生産量	734	803	989	936	
青刈 飼料作物	面積	69	104	124	130	
	生産量	1,085	1,666	2,019	2,133	
計	面積	155	204	233	240	
	生産量	1,819	2,469	3,008	3,049	

資料: 農林水産部 畜産局

아울러 良質의 山野草 利用 擴大를 爲하여 每年 7月부터 4個月間을 乾草 增産期間으로 設定하여 部落單位 共同作業을 통한 增産運動을 推進해 나가 고 풀飼料의 圓滑한 流通을 위한 풀飼料 去來市場도 24個所로 擴充할 計劃이다.

다. 其他 賦存 飼料資源의 利用

豊富한 賦存 飼料資源인 벼짚, 보리짚 등에 대한 벼짚암모니아 處理事業을 擴大하여 今年에는 지난해보다 45천%이 늘어난 180千%의 암모니아處理 벼짚飼料를 生産할 計劃이며 아울러 國內産 收買 穀物中 옥수수 53千%, 大豆 10千%을 飼料原料로 供給하고 魚粉, 탈지강等 國內産 原料의 使用을 積

極 擴大해 나갈 計劃이다.

2. 山林 및 水産資源의 合理的 利用體系 定立

그동안 保全中心의 山林政策과 採取爲主 水産政策으로부터 山地의 開發과 漁場의 牧場化등 農漁民所得源으로서 利用開發하는 政策으로 轉換이 必要하게 되었다.

山地所得源의 開發을 위해서는 休養林業開發등 立地與件別 所得源開發을 多樣化하고, 地域社會開發과 林業生産을 連繫한 林道施設의 大幅 擴充과 山林作業의 機械化, 그리고 國有林內 林間放牧의 許容등 山地利用 規制를 緩和하는 한편, 石材産業의 附加價値 提高를 爲해 原石輸出에서 製品化를 통한 加工輸出로 轉換해 나갈 計劃이다.

또한 水産所得源開發을 爲해서 沿岸漁場에 人工魚礁, 大規模 種苗培養場 등을 擴大 設置하고, 尖端技術을 利用한 品種改良과 養殖漁場 開發擴大, 댐, 貯水池등의 內水面開發을 促進하는 한편 養殖水産物의 任意上場制를 制度化하고 僻地 漁村의 水産物 加工施設도 積極 擴充해 나갈 計劃이다.

第4章 農水産物 價格安定과 流通改善

第1節 果菜類 需給 및 價格安定

1. 菜蔬類

菜蔬類는 그동안 主産團地 造成과 栽培技術의 開發普及 擴大等으로 生産 基盤이 擴充됨으로써 單位當 生産量이 크게 향상되었고, 年中 生産體制가 確立되었으며 所得도 他競合作物에 비해 相對的으로 有利하여 栽培面積이 繼續 增加되는 傾向을 보임으로서 過剩生産에 의한 需給 및 價格不安定이 憂慮되고 있다.

따라서 今年에는 播種段階부터 適正面積 確保를 통한 菜蔬類 栽培農家の 安定的인 營農을 圖謀하기 위하여 流通豫告의 內實化를 期하고, 特히 양념 類에 대하여는 生産者 團體인 單位農協과 農家間의 生産 出荷約定을 締結하여 適正面積의 栽培를 誘導하고 出荷約定된 物量에 대하여는 農協系統出荷

<表 2-4-1>

菜蔬類 生産計劃

(單位：千ha, 千%)

	'87 實 績		'88 計 劃		
	面 積	生 産 量	面 積	生 産 量	
計	325	7,224	355	7,698	
무	우	35	1,536	35	1,524
배	추	37	2,434	40	2,796
고	추	89	138	110	165
마	늘	49	401	40	296
양	파	12	525	11	467
기	타	103	2,190	119	2,450

資料：農林水産部 農産物 流通局

및 優先收買를 實施하여 양념類 需給調節體系를 강화해 나갈 것이다. 또한 양념類價格安定帶 制度의 發展定着을 위해 下限價格을 出荷期 以前에 發表하여 市中價格이 下限價格 以下로 下落할 境遇에는 政府收買 및 民間收買 支援事業을 實施하고 端境期 價格安定을 爲한 上限價 設定도 積極 檢討할 計劃이다.

한편 貯藏性이 弱한 무우, 배추에 對하여는 收穫期 洪水出荷로 因한 價格 下落防止를 爲해 分散播種을 徹底히 指導하고 出荷調節事業의 擴大로 安全 生産을 誘導하고, 主產地 農協을 中心으로 김치 製造業體등 大量 需要處와 의 契約栽培를 積極 推進하여 需給 및 價格安定을 圖謀할 計劃이다.

<表 2-4-2>

菜蔬流 價格安定事業計劃

(單位：F%, 百萬원)

	'86		'87		'88 計 劃	
	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額	物 量	支 援 額
收 買 備 蓄	18.5	30,651	9.0	13,165	25.0	43,000
고 추	8.0	23,444	2.1	8,858	10.0	31,500
마 늘	8.5	6,770	6.4	4,262	10.0	10,800
양 파	2.0	437	0.5	45	5.0	700
民 間 收 買	38.7	6,561	59.5	6,850	44.0	8,851
마 늘	11.7	4,941	15.6	4,668	6.0	5,400
양 파	27.0	1,620	43.9	2,182	38.0	3,451
出 荷 調 節	300.6	15,476	319.8	16,233	407.9	23,815
봄 菜 蔬	34.8	1,891	30.6	1,750	37.7	2,200
高 冷 地 菜 蔬	69.7	3,080	69.7	3,035	73.6	3,430
가 을 菜 蔬	167.6	3,877	182.7	4,209	265.2	6,430
마 늘	9.5	5,297	14.8	5,920	13.2	9,970
양 파	19.0	1,331	22.0	1,319	18.2	1,785

資料：農林水産部 農産物流通局

2. 果 實 類

今年度 果實類 生産은 果實需要增加에 安定的으로 對處해 나가기 爲하여

'87年 對比 2%가 增加된 1,657千%를 生産할 計劃이며 果實生産 基盤擴充을 爲하여 山地開發 및 低位生産 農地를 活用한 新規果園造成을 段階的으로 擴大해 나가고 既存 在來品種에 對한 品種更新事業도 持續的으로 推進해 나갈 것이다.

또한 果實類의 安定生産을 爲하여 熟期別로 優良品種을 按配하여 植栽토 록 誘導하고 果種別로 安全栽培圈域을 設定하는 한편 凍害, 旱害等 氣象災 害防止에 힘쓸 計劃이다.

<表 2-4-3> 果實類 生産計劃

	'87		'88 計 劃	
	面 積	生 產 量	面 積	生 產 量
計	116.3 千ha	1,582.8千%	117.8	1,657.0
사 과	39.0	556.2	39.6	648.0
배	8.1	144.9	8.2	135.0
복 승 아	14.0	137.8	14.0	125.0
포 도	16.8	158.2	16.8	165.0
단 감	9.2	65.3	9.7	74.0
감 굴	18.2	441.0	18.2	414.0
其 他	11.0	79.4	11.3	96.0

資料：農林水産部 農產物流通局

한편, 果實消費의 高級化에 副應한 品種更新의 積極的인 推進과 商品性 提高를 爲한 封紙栽培 및 選果機普及을 積極推進해 나가고 新規輸出市場의 積極的인 開拓으로 輸出을 擴大해 나갈 計劃이며 特히 果樹栽培農家에서 輸 入使用하고 있는 果樹栽培用 特殊封紙를 農水産物流通公社에서 '87年度에 工場을 完工하여 國內製造 供給하여 低廉한 價格으로 農家에 供給함으로써 果實의 品質向上을 통한 國際競爭力 提高와 外貨節減을 圖謀해 나갈 것이다.

또한 收穫期 洪水出荷로 因한 價格下落을 防止하기 爲하여 사과, 배, 감굴 等に 對한 收買 및 出荷調節事業을 擴大해 나가며 이를 爲하여 農水産物價

格安定基金에서 지난해보다 40%가 늘어난 297億원을 支援할 計劃이다.

表 2 4 4 > 果實類 價格安定事業計劃

	'85		'86		'87		'88 計 劃	
	物 量 T.M.T	支援額 百萬圓	物 量	支援額	物 量	支援額	物 量	支援額
收 買 備 蓄	95.4	7,086	75.7	6,727	119.8	12,400	1,630	18,795
사 과 · 배	17.9	2,721	19.7	3,333	20.5	4,404	35.0	10,095
복 송 아	3.8	256	8.6	593	10.1	1,098	16.0	2,500
포 도	8.1	933	5.9	612	10.9	1,668	12.0	3,200
감 귤	65.6	3,176	41.5	2,189	78.3	5,230	100.0	3,000
出 荷 調 節	25.0	5,145	27.0	6,212	27.6	8,808	43.0	10,952
사 과	15.0	3,255	19.8	4,840	20.0	6,736	25.0	7,088
감 귤	10.0	1,890	7.2	1,372	7.1	1,911	15.0	3,150
배					0.5	161	3.0	714

資料：農林水産部 農産物流通局

第 2 節 畜産物需給 및 價格安定

1. 소

'84年以後 繼續的인 飼育頭數 減少現象이 나타남에 따라 쇠고기 價格 도 '87年平均 1,014 円에서 '88. 5月에는 1,350 円으로 上昇하는등 需給安 定基盤이 弱화되고 있다. 따라서 '88년에는 이와같은 소飼育頭數의 急激한 減少를 防止하고 適正飼育頭數를 維持함으로써 安定的인 農家の 所得基盤을 保障하고 쇠고기의 需給 및 價格을 安定시키는데 力點을 두어나갈 計劃이다. 現行 쇠고기 消費趨勢를 全量 國內産으로 充當할 境遇 急激한 國內 소 飼育 基盤의 弱화가 不可避하기 때문에 今年度에는 不足量에 對하여 돼지고기, 닭고 기등으로 代替消費를 誘導하는 한편 最少限의 不足物量에 對해서는 輸入을

通해 充當함으로써 急激한 國內 소 飼育頭數 減少를 抑制하여 소 飼育基盤을 維持해 나가야 할 것으로 판단되고 있다. 그러나 쇠고기 輸入이 國內소 값에 미치는 影響이 큰점을 勘案하여 徹底할 補完對策을 樹立해 나갈것이다. 特히 소값안정을 위해 쇠고기 價格安定帶制를 運用해 나갈 計劃이며 安定價格의 範圍를 130~115萬원을 定하고 130萬원 以上으로 價格이 올라갈 경우 備蓄肉을 放出하고 115萬원 以下로 내려갈 境遇 收買·備蓄을 通해 쇠고기 價格을 安定시켜 나갈것이다. 또 쇠고기 價格安定帶制 運營外에 養畜資金 支援擴大, 配合飼料 및 畜産機資材 關稅 引下, 韓牛改良事業 強化등 綜合的인 對策을 마련하여 施行해 나갈 것이다.

2. 돼지와 닭

돼지는 '84年 以後의 價格好調로 '86下半年期부터 母豚頭數가 急增하여 '88년에는 價格이 下落할 것으로 豫想되고 있다.

이에 따라 畜産觀測을 強化하여 養豚農家가 事前에 生産을 調節토록 하고 系列化 生産體制를 擴大하여 系列農家에서 生産된 돼지는 系列主體인 飼料 生産業體, 肉加工業體, 大規模 養豚業體등에서 蒐集·販賣토록 하여 價格振幅을 最少化시켜 나갈 計劃이다.

또한 輸出業體와 肉加工業體에 資金을 支援하여 價格下落時에는 原料肉을 收買하고 上昇時에는 輸出殘餘肉을 放出케하는 한편, 輸出量과 肉加工品 生産量의 彈力的 調節을 통하여 需給 및 價格안정을 期함으로써 養豚農家の 經營을 安定시켜 나갈 計劃이다.

닭도 需要에 알맞는 適正生産을 爲하여 養鷄場의 入卵 및 병아리生産 販賣量을 隨時로 把握, 長·短期 展望을 分析하여 弘報함으로써 生産者團體를 通한 自律的인 生産調節을 꾀해 나가고 消費者團體들과 協調하여 消費擴大도 誘導해 나갈 것이다.

또 닭고기의 計劃生産體制를 確立하기 爲해 '85년부터 推進하고 있는 系列化 生産事業을 擴大하고 鷄卵 集散地에 鷄卵集荷場을 設置하여 流通構造를

改善하는 한편 長期的인 改良目標의 設定과 養鷄關聯產業의 整備로 養鷄業의 安定的인 成長을 圖謀해 나갈 方針이다.

3. 牛 乳

牛乳는 젖소 飼育頭數의 增加와 飼育技術의 發展에 따른 生産性 向上으로 生産量이 繼續 늘어날 것으로 展望되고 있다. '88年度에는 學校 牛乳給食擴大, 消費弘報 및 乳加工 製品開發등으로 消費를 促進하는 한편, 酪農 經營指導와 低能力牛 淘汰 推進 및 젖소 改良등 積極的인 生産性 向上 施策推進으로 農家所得增大 및 牛乳需給安定을 圖謀해 나갈 것이다.

<表 2 4 5> 牛 乳 需 給 動 向

		'86	'87	'88(展望)
供 給	移 越	56 千%	62	50
	生 産	1,154	1,413	1,658
	計	1,211	1,475	1,708
消 費		1,162	1,425	1,679
年 末 在 庫		49	50	29

資料：農林水産部 畜産局

第 3 節 政府糧穀管理制度的 發展

1. '88糧穀需給計劃

'88糧穀年度에는 지난해보다 5.4% 늘어난 1,032 千%을 供給할 計劃이며 이중 쌀과 보리, 그리고 薯類는 國內生産으로 供給해 나가고 國內生産量이 需要量에 비해 絶對적으로 부족한 밀, 옥수수, 콩등 飼料용곡물은 不足分을 外國으로부터 導入하여 充當할 計劃이다.

따라서 '88糧穀年度の 糧穀自給度는 加工食品 및 飼料穀物の 需要增加로

지난해보다 낮은 38.4%로 展望되며 飼料穀物を 除外한 純食糧 自給度は 65.2%로 展望된다.

한편 쌀 需要는 1人當消費量이 '87年の 126.2kg에서 '88년에는 124.8kg 水準으로 減少될 것으로 展望되나, '88年度 食糧用 需要는 人口增加로 前年보다 8千噸이 增加한 5,315千噸의 消費가 豫想되고 年間 總需要는 5,576千噸水準에 이를 것으로 展望되며, 지난해의 生産量이 需要量에 미치지 못함으로써 次年移越量은 다소 줄어든 1,156千噸이 될 것으로 豫想된다.

그리고 쌀값안정을 위해 못자리 設置期, 모내기철, 颱風장마기를 쌀값上昇 憂慮期로 보고 3月10日부터 9月10日까지의 6個月間을 쌀값 集中管理期間으로 設定, 穀價調節用 政府糧穀을 彈力的으로 運用하여 쌀값을 適正水準에서 安定되도록 努力할 것이다.

보리는 食用 消費減少와 함께 農家所得支持를 爲하여 加工需要의 長期的인 保護가 必要하므로 酒精原料등 加工用으로 供給을 擴大할 計劃이며, 밀, 옥수수등 國內供給이 絶對적으로 不足한 品目は 不足分을 適期에 導入하여

<表 2-4-6> '88糧穀年度 全體糧穀 需給計劃 (單位：千噸)

		計	쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	薯類	其他
供給	前年移越	2,685	1,239	150	294	562	132	-	308
	生産	6,893	5,493	697	4	127	203	284	85
	導入	10,638	-	-	2,200	4,930	1,143	-	2,365
	計	20,216	6,732	847	2,498	5,619	1,478	284	2,758
需要	食糧	6,827	5,315	105	1,063	60	103	124	57
	加工	3,308	53	354	1,080	1,436	272	93	20
	飼料	7,375	-	50	-	3,822	1,026	25	2,452
	種子	105	44	31	-	1	11	14	4
	減耗	330	164	52	13	35	17	28	21
	計	17,945	5,576	592	2,156	5,354	1,429	284	2,554
次年移越		2,271	1,156	255	342	265	49	-	204
1人當消費(kg)		175.0	124.8	2.5	31.5	3.2	8.8	2.9	1.3
自給度(%)		38.4	98.5	117.8	0.2	2.4	14.2	100.0	3.3

資料：農林水産部 糧穀局

國內需要를 安定的으로 供給해 나가고 飼料用에 對해서는 國內賦存資源의 開發에 力點을 두어 飼料穀物의 海外依存度를 줄여나갈 것이다.

2. 糧穀流通委員會 設置運營

지금까지는 夏·秋穀收買 價格決定이 生産者 農民의 直接 參與없이 이루어지므로서 生産者 農民의 收買方針 決定에 對한 理解不足과 一部不滿의 素地가 있어왔던것이 사실이며 이와 關聯하여 지난 大統領 選舉時에 '88년부터 夏·秋穀收買價格은 農民, 消費者, 學界등이 參與하는 米價審議委員會의 審議를 거쳐 決定토록 한다."는 大統領 公約事項으로 提起된바 있다.

이에 따라 糧穀收買價格 및 收買物量은 물론 糧穀流通構造改善事項등 流通全般에 對하여 事전에 利害關係者들의 意見이 最大限 反映될 수 있도록 하기 위한 制度的인 裝置를 마련하기 위하여 糧穀流通委員會 設立을 推進하였다.

이에 따라 '88年 6月 糧穀管理法 施行令을 改正하여 同委員會의 設置根據를 마련하고 '88年 7月 5日 糧穀流通委員會의 設置를 完了하였다.

同委員會의 構成은 委員長 1人을 包含한 20人으로 하였으며 生産者側 5名 消費者側 5名 및 糧政에 關한 學識이나 經驗이 豊富한 사람중에서 委囑한 中立系 10名으로 構成하였다. 앞으로 糧穀流通全般에 關한 政策事項을 決定하기에 앞서 同委員會를 開催하여 여기서 收斂된 意見을 最大限 糧政에 反映해 나갈 計劃으로 있다.

3. 一般米 收買擴大 方案講究

國民의 一般米 選好傾向에 따라 一般米 價格安定的의 重要性이 增大되고 있다. 따라서 一般系벼 生産農家가 政府收買를 願하고 있고, 政府米의 米價安定能力을 提高하기 위하여 一般米의 收買 擴大方案을 講究해 나갈 計劃이다.

現行 벼 檢査規格은 72年이래 쌀의 增産을 위해 單位當 收量이 높은 統一

系에 대해 優待하는 것으로서 統一系の 擴大栽培를 誘導하여 主穀인 쌀의 自給水準을 높이는등 많은 成果를 거두었으나 이제는 農家の 栽培技術이 向上되고 優秀品種이 開發普及됨으로써 一般系와 統一系の 段收差異가 적어지고 있고 穀價調節能力 向上을 위해서는 適正量의 一般米 保有가 必要함에 따라 現行 統一系의 優待規格을 면밀히 檢討하여 一般米收買가 擴大될 수 있도록 收買規格의 改善이나 差等價格制 등의 導入을 檢討해 나갈 計劃이다.

4. 糧穀管理法 改正

88年 7月の 第143回 臨時國會에서 糧穀管理法이 改正됨으로써 그동안 論難의 對象이 되어왔던 政府糧穀需給計劃등 政府糧穀管理制度가 大幅 바뀌게 되었다.

먼저 國務會議 審議와 大統領의 承認만으로 樹立·決定하던 政府糧穀需給計劃과 政府糧穀 買入價格 및 買入量에 대하여 앞으로는 國會의 同意를 받도록 하고 糧穀輸入으로 因하여 國內糧穀價格의 安定과 糧穀生産農民의 利益이 侵害되지 않도록 하기 爲하여 輸入糧穀의 賣買業者 및 加工業者로 하여금 價格安定基金등을 積立 運用할 수 있도록 하는것을 主要骨子로 하고 있다.

따라서 88年度 秋穀때부터는 國會의 同意를 얻도록 한 趣旨에 맞게 生産者인 農民, 消費者등 各界各層의 意見을 最大限 收斂하여 收買量 및 收買價를 決定해 나갈 것이다.

그러나 輸入糧穀의 賣買業者 및 加工業者로 하여금 價格安定基金등을 積立 運用하게 하는 制度는 對外通商 影響등을 勘案하여 慎重하게 檢討 推進해 나갈 計劃이다.

第4節 農水産物の流通改善

1. 推進方向

商業營農의 進展과 함께 營農形態도 市場販賣를 目的으로 作物을 栽培하게 되고 流通物量도 크게 增大됨에 따라 農水産物の 需給均衡을 통한 價格安定과 함께 流通能率을 提高시켜 나가는 것이 중요한 課題로 대두되고 있다.

이를 爲하여 農業觀測과 流通情報의 蒐集·分散體系를 더욱 內實化하여 需要에 알맞는 適正生産을 誘導하고 生産者團體를 中心으로 한 自律的인 生産調節과 價格安定帶制度를 效率的으로 運營해 나갈 것이다.

또한 農水産物流通構造의 近代化를 爲하여 이미 開場한 서울 可樂洞 및 大田都賣市場을 비롯한 圈域別 公營都賣市場網을 段階的으로 構築해 나가고 產地協同出荷機能의 強化와 包裝規格化 事業을 擴大하여 流通能率을 向上시켜 나갈 것이다.

이와함께 '87년에 發足한 韓國食品開發研究院을 中心으로 食品關聯 部門의 體系的이고 綜合的인 研究로 食品의 品質向上 및 原料 農水産物の 附加價値를 提高시켜 나가고 아울러 食品加工에 관한 先進技術과 情報의 蒐集, 傳播를 擴大해 나갈 計劃이며, 農畜産物 加工食品 標準規格化 事業을 本格的으로 擴大 推進하여 加工食品의 品質改善 및 需要擴大를 圖謀해 나갈 것이다.

2. 重點施策

가. 產地流通機能 強化

農産物の 產地流通은 生産者團體 中心으로 市場 交渉力을 向上시키는데 力點을 두고 品目別 協力出荷組織을 內實있게 育成해 나갈 것이다.

協同出荷班은 '87년까지 11,708個를 組織하였으며, 今年度에는 既構成된

協同出荷班의 運營 및 機能을 活性化하기 爲하여 500億원의 育成資金을 支援할 計劃이다.

또한 農産物 產地出荷에 必要한 集荷場, 輸送車輛, 簡易貯藏庫, 選果場等 流通施設도 協同出荷組織에 優先적으로 支援해 나갈 것이다.

나. 圈域別 公營都賣市場의 擴充

農水産物の 公正去來 秩序를 確立하고 流通物量の 增大에 對處하여 圈域別로 主要都市에 公營都賣市場을 建設해 나갈 計劃이다.

이에 따라 '85年 6月에는 可樂洞 都賣市場은 開場하였고 '87年 11月에는 大田都賣市場을 開場하였으며, 現在 建設中에 있는 地方都賣市場中 大邱와 淸州都賣市場은 今年에 開場할 예정이며, 光州와 蔚山都賣市場은 '89年에 開場할 計劃이다. 이들 都賣市場에 對해서는 可樂洞 都賣市場과 大田都賣市場의 運營經驗을 토대로 開場과 同時에 市場이 活性化될 수 있도록 合理的인 市場 移轉對策을 樹立하여 推進해 나갈 計劃이다.

또한 都賣市場의 機能 活性化와 公正去來의 早期定着을 爲하여 競買士 價格制度를 導入하고 都賣市場과 公販場에 140億원의 出荷促進資金을 支援하여 運營의 內實化를 기해 나가도록 할 計劃이다.

이울러 糧穀流通機能을 強化하고 糧穀去來秩序 確立을 爲하여 서울 江南區 良才洞에 敷地 9千坪, 建物 5千坪 規模의 糧穀都賣市場을 '87. 3月에 着工하여 今年에 開場할 豫定이다.

다. 流通情報強化 및 流通教育 擴大

農漁民이 迅速하고 正確한 市場情報를 接함으로써 生産한 農水産物を せ값을 받고 팔수 있게 하기 爲하여 主要 農水産物 92個 品目에 對하여 產地 및 消費地 都賣市場 價格等を 調査하여 이를 農林水産部 傘下 統計出張所, 農水畜協 等 關聯機關, 그리고 매스콤 및 自動應答裝置를 通해 全國의 單位組合, 農漁民 및 消費者에게 提供하고 있다.

특히 迅速한 情報 提供을 爲해 1,500餘에 單位農協 電算網 온라인化를 '86年

부터 年次的으로 推進하고 있으며 今年까지 609個所の 單協을 온라인化할 計劃이다.

한편 流通 專門人力の 業務能力 向上을 圖謀하고 流通人으로서의 使命感을 鼓吹하기 爲하여 '85年 8月 農水産物流通公社에 農水産物流通教育院을 開設하여 流通從事者에 對하여 組織的이고 體系的인 流通專門教育을 實施하고 있다.

今年에는 關聯 公務員, 都賣市場從事者, 貯藏加工業者 및 自營農科生等 1,600名을 對象으로 流通教育을 實施할 計劃이다.

第 5 章 對外協力強化와 輸出促進

第 1 節 通商協力 強化

國家經濟의 持續的인 成長과 더불어 國際交易量에서 우리나라가 차지하는 比重이 점차 增加되고 있을뿐만 아니라 지난 86年 부터는 貿易黑字國으로 轉換됨에 따라 主要交易 상대국으로 부터 市場開放 要求가 계속 增加하고 있다. 특히, 우리나라의 對美貿易 黑字가 '87년에는 96억불로 크게 增加되고 美國의 貿易 및 財政 赤字가 계속 增加함에 따라 美國은 우리나라의 쇠고기 및 담배의 輸入制度和 관련하여 GATT(關稅 및 貿易에 관한 一般協定)에의 提訴 및 美通商法 301조 發動 調査등 農產物 分野에 대한 通商壓力이 크게 增加되고 있다.

또한, 다자간 貿易協商開始로 農產物의 交易自由化가 國際交易의 主要爭點으로 擡頭되는등 國際交易環境의 急速한 變化로 對外通商協力の 效率的인 推進이 絶실히 要求되고 있다.

1. 農產物 輸入의 基本方向

農產物은 우리나라의 管農規模가 零細하고 生産基盤이 脆弱할뿐만 아니라 生産基盤은 한번 무너지면 다시 復舊하기가 어렵기때문에 市場開放措置를 最大한 抑制하고 있으나 國民所得向上에 의한 食品消費의 高級化趨勢 그리 고 적은 耕地規模로 인한 農產物 自給基盤의 未備와 市場開放壓力의 계속적 인 增加로 인하여 農產物의 輸入制限에는 많은 어려움이 있다.

農產物輸入에 대한 基本方向은 需給上 不足量에 한해서 最小量을 輸入하 되 農產物輸入으로 인해 價格에 影響을 미칠경우 農家에 被害가 發生하지

않도록 價格安定大制度를 運營하는등 徹底한 補完對策을 樹立施行하고 輸入에서 發生한 利益은 農業部門投資를 통해 全額 農民에게 還元하고 輸入開放의 衝激을 吸收할 수 있도록 輸入自由化 品目の 充分한 事前豫示등을 통해 段階的이고 漸進的으로 推進해나갈 것이며 長期的으로 農林水產業의 構造改善事業을 本格的으로 推進하여 國內 農業의 競爭力을 提高시켜 나갈 것이다.

2. 對美 通商對策

美國의 農產物分野 市場開放壓力에 對해서는 韓·美 經濟協議會, 貿易實務會談等を 통해 美國의 關心品目에 對해 我國이 取한 開放措置와 함께 輸入自由化施策을 推進하는 政府의 基本立場을 充分히 認識시켜 通商摩擦을 緩和해 나가고 追加로 開放을 要請하는 品目에 對해서는 國內需給狀況과 農家經濟에 미칠 影響을 考慮하여 彈力的이고 慎重히 對處해 나갈 것이다.

3. 多者間 貿易協商 對策

'86年 9月 世界貿易의 自由化 擴大를 目標로 새로운 多者間 貿易規範 定立을 爲하여 開始된 우루과이라운드는 지난해까지 初期段階 協商을 끝내고 '88년부터 後續段階協商을 始作하고 있다.

農產物協商그룹에서는 農產物貿易에 미치는 主要問題點과 그 原因, 農業의 特殊性, 開發途上國 優待問題等과 農產物交易原則에 關한 各國의 提案에 對한 論議가 있었으며, 今年中에는 各國의 提案 및 主要爭點등에 對한 보다 細部的인 事項들이 集中 論議될 展望임에 따라 우리나라는 農林水產物의 急激한 自由化로 因한 國內農業의 被害를 防止하기 爲하여 農產物 輸入國으로서의 立場이 새로운 規範에 反映될 수 있도록 積極 努力해 나갈 것이다.

第 2 節 農林水産物の 輸出促進

1. 需給安定基盤으로 海外市場의 積極 活用

'80年代 들어와 商業營農의 急速한 進展으로 商品化量이 크게 增加함으로써 一部 農産物의 境遇 內需를 통한 農家所得増大에 隘路가 나타나고 있으며, 農産物의 交易自由化等 國際貿易環境의 變化로 農産物 輸入制限에 의한 農業生産基盤 및 農漁家所得源의 保護에 많은 隘路가 나타나고 있다. 아울러 農漁家所得源 擴大와 需給調節能力의 強化를 爲하여 海外市場確保 必要性이 増大되는等 對内外 與件의 變化를 肯定的으로 受容하고 이를 積極적으로 活用하기 爲해 綜合的인 支援體制를 講究해 나갈 것이다.

2. 輸出農産物의 商品性 提高와 海外市場의 多邊化 推進

今年에도 農林水産物 輸出増大를 爲하여 品質管理 優秀業體를 中心으로 輸出自律檢査制를 擴大하고, 輸出附帶 節次의 簡素化等 關聯制度 改善을 繼續 推進하며, 農産物價格安定基金等を 財源으로 輸出支援資金의 擴大와 함께 資金支援節次를 簡素化해 나갈 것이다. 또한 品質高級化를 爲한 包裝改善 및 마무리손질 指導와 經營改善을 통한 輸出競爭力의 向上에 注力하는 한편, 高附加價値의 輸出有望品目を 發掘하여 重點 育成함으로써 農林水産物의 輸出을 促進하기 위한 支援施策을 持續적으로 推進해 나갈 것이다.

특히 最近에 늘어나고 있는 豚肉, 김치等の 對日輸出을 더욱 늘리기 爲하여 돼지改良事業과 規格豚 生産指導를 實施하고, 김치의 衛生處理 및 品質管理를 指導하기 爲해 今年 5월에 김치標準化 工場 및 展示館을 設置하고 果實類의 商品性 提高를 爲한 特殊封紙 供給도 擴大해 나갈 것이다. 지금까지 品目別로 偏重된 海外市場을 連繫貿易 및 對外通商協力を 強化하여 市場의 多邊化를 積極 推進해 나갈 것이다.

輸出 基盤을 擴充하기 爲해 花奔類의 境遇 輸出促進을 爲한 꽃示範圍地를 擴大 造成하고 밤·포고버섯等에 對한 輸出支援資金을 擴大하고, 통조림, 피렛트, 맛살等의 加工農水産食品의 輸出增大와 피조개, 갯지렁이等 多穫性 品種의 輸出支援을 強化해 나갈 것이다.

第 3 節 技術協力 強化

今年에는 農業部門의 對外開放與件에 彈力的으로 對應하기 爲하여 賦存資源의 保存管理, 放射性同位元素의 農業利用, 花奔類 栽培技術 및 실크加工 技術等의 開發을 爲하여 UNDP事業 및 FAO/TCP事業을 積極 推進해 나갈 것이다.

아울러 開發途上國들과의 農林水産分野 協力を 積極 推進, 中東, 中南美, 아프리카等 70餘個 開發途上國에서 9個分野에 97名을 招請, 訓練을 實施하는等 對外供與技術事業을 擴大하고 네팔, 가나, 케냐, 페루等 10個國 8個分野에 10名의 農林水産專門家を 派遣할 計劃이다.

또한 FAO, IFAD等 國際機構에서 理事國으로 選出됨에따라 總會等 各種會議 및 세미나, 執行機構等에서의 活動을 더욱 強化해 나갈 것이다.

第 6 章 食品加工産業의 育成

國民所得이 向上되고 産業社會로 進行됨에 따라 食品의 消費構造도 多樣化, 高級化, 便宜化 傾向을 보이고 있으며 이러한 變化는 食品加工産業의 發達과 함께 加速化되고 있다. 이에따라 食品加工産業의 國民經濟 位置와 役割은 그 重要性을 더해가고 있으나 아직까지 우리나라의 食品加工産業은 規模가 零細하고 技術水準도 낮은 水準에 있다.

또한 國內產 農産物의 加工現況을 보면 農産物의 生產品種에 따른 價格變動을 充分히 緩和시키지 못하고 있을뿐만 아니라 늘어나는 加工食品需要에 效果的으로 對處하지 못하고 있는 實情에 있다.

따라서 國內 農産物生産과 늘어나는 加工需要를 效果的으로 連繫시킴으로써 食品消費構造 變化에 效率的으로 對處하고 國內農産物의 需要開發과 需給安定을 위해서 食品加工産業의 體系的인 育成方案을 繼續 講究해 나가야 할것이다.

第 1 節 分野別 食品加工産業 育成

1. 果實類 加工

食品加工産業은 '60年代까지만 해도 微微한 産業이었으나 '70年代 접어들면서 國民所得의 增大와 함께 食生活形態의 多樣化에 따라 통조림을 中心으로 한 食品加工産業이 빠른 速度로 發展하기 始作하였다.

製品別 消費趨勢를 보면 '70年代에는 복숭아, 포도 등 단순 통조림 消費가 主流를 이루었으나 國民食品 기호 變化에 따른 새로운 製品開發이 뒤따르지 않아 消費가 정체되고 있는 반면 '80年代에 들어와서는 國民所得增加에 따

은 國民의 高級飲料 選好, 各種 國際行事, 外國觀光客의 增加에 따라 오렌지 주스, 포도酒 등의 消費가 크게 伸張되어 왔다.

따라서 繼續 增加하는 消費趨勢에 副應하기 위하여 果實加工産業을 年中 複合加工體制를 갖추도록 支援해 나가고, 國內生産增大가 可能한 사과, 포도, 복숭아 등의 加工用 果實의 品種開發 普及으로 國產原料 供給을 擴大하며 國民의 嗜好에 맞는 新製品 開發 등으로 國內 消費基盤과 連繫한 輸出産業으로 發展시켜 나갈 것이다.

〈表 2-6-1〉 果 種 別 加 工 實 績

	'71	'75	'80	'82	'83	'84	'85	'86
計	9.7 ^{100%}	20.1	56.9	79.0	72.3	54.9	106.4	93.0
사 과	1.4	2.3	3.8	10.6	15.4	6.2	8.3	13.7
복 승 아	5.6	5.1	10.9	9.2	8.5	10.8	12.4	14.5
포 도	2.3	5.8	18.3	13.3	13.7	9.2	13.4	14.9
감 귤	0.2	6.8	23.8	45.9	34.5	27.6	71.2	48.5
其 他	0.2	0.1	0.1		0.2	1.1	1.1	1.4

資料：農林水産部 農産物流通局

2. 畜産物 加工

國民의 所得增加로 肉類消費增加와 함께 畜産物加工品에 대한 選好 역시 크게 增加하여 '80년에 비해 소시지生産量은 4배, 햄은 10배가 增加하는 등 全般的으로 畜産物加工産業이 커다란 伸張을 持續하여 왔다. 이러한 畜産物 加工은 國民消費形態의 多樣化 趨勢에 副應할 뿐만 아니라 加工處理에 의한 貯藏期間의 延長으로 畜産物 貯藏을 위한 間接效果까지 期待할 수 있어 畜産農家 所得源開發은 물론 畜産物需給 및 價格安定을 위해서도 重要한 産業으로 擡頭되고 있다.

政府는 앞으로 이러한 趨勢에 맞추어 國內에서 손쉽게 原料調達이 可能한 돼지, 닭 등의 畜産物을 中心으로 加工技術을 開發하고 消費需要를 擴大하는

등의 加工産業育成을 위한 綜合的인 支援對策을 마련해 나갈 것이다.

〈表 2-6-2〉 主要肉加工品生産動向 (單位：%)

	소시지	햄	베이컨	통조림, 其他
'80	1,895	728	80	3,076
'85	5,385	4,369	280	3,673
'86	5,904	4,849	388	2,618
'87	7,748	7,203	417	3,301

資料：農林水産部 畜産局

한편 乳加工製品도 食生活 質的改善에 따른 消費量 增加에 따라 納乳量中 粉乳, 煉乳, 치즈, 아이스크림등 乳加工用으로 사용되는 量도 크게 增加하고는 있으나 學校 牛乳給食 擴大 및 牛乳消費量 弘報實施등 牛乳 需給安定을 위한 消費擴大 施策의 推進으로 白色 市販牛乳 消費量이 前年 對比 21% 增加하여 總納乳量중 市販牛乳 使用比率이 '86年の 77%에서 '87년에는 80%水準으로 增加함에 따라 加工用使用比率이 相對적으로 낮아지는 傾向을 보였다.

〈表 2-6-3〉 牛乳處理動向 (單位：千%)

	納乳量	市乳用	加工用
'80	452.3(100)	258.6(57.2)	193.7(42.8)
'85	1,005.8(100)	714.4(71.0)	291.4(29.0)
'86	1,154.5(100)	884.5(76.6)	270.0(23.4)
'87	1,413.1(100)	1,065.2(75.4)	347.9(24.6)

資料：農林水産部 畜産局

3. 油脂와 穀類加工

國民所得水準向上과 食生活 패턴의 多樣化 및 高級化로 食用油脂의 消費가 '80年以後 年平均 12%로 急激히 伸張되고 있다. 主要 食用油는 콩기름,

팜유, 야자유등이며 國產기름으로는 참기름, 米糠油, 油菜油 등이 主種을 이루고 있다.

油脂加工은 米糠油 加工工場의 統·廢合을 통한 施設現代化와 콩기름 등의 大量 需要에 對處하기 爲한 大規模의 最新施設을 갖춘 加工業體 등의 등장으로 油脂加工製品의 質이 크게 改善되고 製品도 多樣化 되어가고 있으나 繼續 增大 되어가는 國內 消費需要에 副應하고 國內 賦存資源活用度 提高를 爲해 國內 油脂加工産業을 繼續 育成 發展시켜 나가며, 우지, 팜유, 야자유, 면실유 등 國內 油脂作物 栽培農家에 影響이 적은 食用油의 輸入을 漸進적으로 自由化 하여 國民의 食用油 消費選擇 範圍를 擴大시켜 나갈 計劃이다.

<表 2-6-4>

食用油 消費動向

	'75	'80	'83	'84	'85	'86	'87
計	96	198	308	345	367	393	434
콩기름	6	68	105	107	134	152	163
팜유	-	33	92	84	85	118	124
야자유	7	5	12	20	17	11	28
참기름	5	7	10	13	13	12	15
米糠油	3	11	11	13	18	17	13
유채유	11	10	7	3	3	2	3
우지	52	31	45	71	43	25	42
其他	12	33	26	34	54	56	46

資料：農林水産部 農産局

또한 穀類加工은 國內 賦存資源 利用開發과 食生活改善을 위하여 政府에서는 쌀食品開發을 支援하여 쌀스프, 쌀유산음료, 玄米후레이크 등 試製品을 開發하였고 또한 쌀의 壓出型 營養食品(소시지 인조육 形態)을 開發中에 있다. 한편 民間部門에 있어서는 從前의 製粉, 精糠, 軟食品 澱粉 등 1次加工의 性格의 加工製品에서 製菓, 제면, 製빵, 보리飲料 등 2次 加工의 性格의

加工製品이 크게 늘어나고 있다. 앞으로 穀類를 原料로한 新製品開發을 積極 支援해 나갈 計劃이다.

第 2 節 加工食品 標準化 本格 推進

加工食品의 品質改善을 誘導하고 品質保證을 통한 食品加工의 健全한 育成을 위하여 加工食品標準化(KS)事業을 本格的으로 擴大 推進해 나갈 計劃이다.

現在 KS表示를 할 수 있도록 指定된 品目は 소시지, 果實飲料, 釀造간장, 마요네즈, 딸기잼, 마가린 등 17個로 이중 業體로부터 KS表示 許可申請이 있어 이들 業體에 대한 工場審査 및 製品試驗과 判定審査를 거쳐 12個品目 23個 工場에 대해 KS表示許可를 하였다.

앞으로도 KS表示許可業體의 申請이 있을시 審査基準에 의거 細密한 審査와 成分分析을 거쳐 KS表示許可를 繼續 擴大해 나갈으로써 加工食品에 대한 消費者 信賴度 提高 및 品質向上을 誘導해 나갈 計劃이다.

'88年度에는 消費者 信賴도가 낮고 品質 식별이 어려운 어묵, 카레, 고추가루, 乾燥 김 등 16個 品目に 대해 規格을 새로 制定하고 既存 規格의 改正 또는 確認後 5년이 經過되었거나 再檢討가 必要的한 8個 規格에 대해서 再確認할 計劃이다.

아울러 流通量이 많고 消費者의 關心이 높은 7個品目を KS表示許可 對象 品目으로 追加 指定하고 이에 대한 구체적인 審査事項을 規定한 審査基準을 制定 公示하므로써 加工食品標準化(KS)事業을 定着시켜 나갈 計劃이다.

또한 KS表示許可製品 및 許可工場에 대한 事後管理를 위하여 每分期 1回 市販品을 收去 分析함과 아울러 必要時 工場檢查를 實施하여 KS表示許可製品의 品質維持 및 不良品 流通防止에 徹底를 期해 나갈 것이다.

이와함께 食品 KS制度에 대한 業界 및 消費者 理解增進을 위하여 弘報를 強化하고 食品製造業體를 對象으로 標準化 및 品質管理에 관한 教育도 實施할 計劃이다.

第 3 節 韓國食品開發研究院의 機能 活性化

加工食品 및 便宜食品의 需要增大와 함께 食品加工技術 開發을 통하여 原料 農水産物의 附加價値를 提高하고 食品의 品質改善을 圖謀하는 한편 傳統 固有食品에 대한 産業化를 促進시켜 나가기 위해 이와 關聯된 分野를 體系적으로 研究 發展시킬 수 있는 綜合研究機關의 必要性이 크게 擡頭되고 있다. 따라서 食品에 관한 加工, 貯藏, 包裝, 輸送등의 效率化를 통하여 農漁民所得增大에 寄與하고 나아가서는 國民營養의 均衡供給을 圖謀하기 위하여 綜合研究機能을 가진 韓國食品開發研究院을 設立하였다.

韓國食品開發研究院은 韓國食品開發研究院育成法에 依據 農水産物流通公社의 綜合食品研究院과 韓國科學技術院(KAIST) 遺傳工學센터의 食品關聯研究部門을 統合하여, '87. 12. 31에 發足하였으며, 今後 優秀 研究人力 및 裝備도 年次的으로 擴大해 나갈 計劃이다.

앞으로도 韓國食品開發研究院의 發足과 함께 國家的 次元에서 食品關聯部門의 綜合적인 研究를 遂行해 나갈 計劃이며, 食品研究 및 加工技術開發을 위한 學問적인 研究와 함께 企業研究機能과의 連繫機能을 強化하는 한편 加工食品에 관한 先進技術과 情報의 蒐集도 擴大해 나갈 計劃이다.

第7章 農漁家 所得倍加와 農漁村經濟 活性化 綜合對策 推進

第1節 農漁家 所得倍加

그동안 우리經濟의 急速한 成長過程에서 都市와 工業部門에 비하여 農漁村과 農林漁業部門은 相對的으로 落後되어 活力을 잃고 있으며 아직도 農林漁業部門에 대한 問題의 認識이나 解決方案에 대한 國民的合意가 未洽한 實情이다. 또한 國際收支의 黑字擴大에 따라 農林漁業部門 에서도 對外開放壓力이 增大되고 있으며 새 政府의 出帆 및 政治的인 民主化發展 過程에서 分配의 衡平欲求도 커지고 있는 實情이다.

이러한 與件變化에 副應하여 都·農間 所得均衡을 이루어나가기 爲해 劃期的인 農漁家所得增大施策을 마련하게 된 것이다.

1. 基本方向

向後 5年內 農漁家所得을 現在의 2倍인 13百萬원으로 늘려나가는 것을 목표로 農業所得을 '87年 戶當 4,016千원에서 '93년까지 6,400千원으로 增大하기 위해 農業構造를 果敢히 改善하고 農水產 技術開發投資를 劃期的으로 늘려나감과 아울러 農產物 品質高級화와 價格安定에 對한 支援을 強化하는 한편 山林水產資源을 積極 開發하는 등 새로운 農漁業所得源 擴充에도 努力해 나갈 것이다. 또한 農外所得은 '87年 戶當 2,519千원에서 '93년까지 6,600千원으로 늘려서 農外所得 比重도 現在 38.5%에서 '93년에는 50.6% 높힐 計劃이다. 이를 위해 農漁村工業開發施策을 꾸준히 推進하여 勞賃 및 給料所得을 持續的으로 擴大하고 休養觀光地 開發 및 農漁村 經濟構造를 高度化하여

農業所得도 늘려나갈 것이다.

이에따라 같은 期間中 農業所得은 1.6배가 增加되고 農外所得이 給料 및 兼業所得을 中心으로 2.6배 늘어나 全體 農家所得은 2배가 되도록 할 계획이다.

2. 農業所得의 持續的 增大

가. 農業構造의 改善을 통한 農業의 競爭力 提高

零細한 營農構造아래서는 生産性向上이나 農家所得增大의 어려움을 극복하고 長期的 眼目에서 農業을 高生産性農業, 競爭力있는 產業으로 育成하기 위하여 營農規模擴大, 生産基盤의 綜合整備등 과감한 農業構造改善施策을 推進해 나갈 것이다.

이를위해 農地購入資金 支援規模를 現在 2,000億원에서 '92년에는 1兆원으로 擴大하고 農地長期貸借에 대한 貸借料를 一時에 支援하는 制度를 檢討하여 商業的 專業農을 積極 育成함으로써 農漁業經營의 能率化를 圖謀해 나갈 것이다. 또한 農地相續 및 稅制改善을 통하여 農地細分化를 防止하고 耕地整理, 排水改善 등 農業機械化를 위한 生産基盤을 擴充하여 生産性を 向上시키고 專業農을 中心으로 營農規模를 擴大해가기 위한 시책을 강구해 나갈方針이다.

나. 農產物의 安定生産을 爲한 支援強化

農業所得의 安定的인 成長을 위하여 主穀등 農業所得比重이 큰 品目과 持續的인 需要擴大가 豫想되는 品目を 中心으로 效率的인 生産이 이루어질 수 있도록 支援을 強化하고, 加工開發, 海外輸出促進등을 통해 需要基盤의 持續的 擴大를 推進해 나갈 것이다.

쌀은 收益性이 높은 品種 爲主로 生産體系를 轉換해 나가되 持續的인 自給으로 安定的인 農家所得增大를 圖謀하고, 보리는 酒精 및 麥酒麥의 契約栽培를 持續的으로 實施하며, 食用豆類는 單位當 生産性を 向上시키기 위하여

支援을 強化하고 菜蔬類는 適正生産으로 價格安定에 注力해 나갈 計劃이다. 또한 果實類와 花卉類는 品質向上 및 加工促進과 輸出市場 開發에 힘써 나갈 것이다.

한편, 國內産 農産物을 原料로 하는 加工産業을 育成하기 위하여 이들이 生産한 加工食品에 대한 特別消費稅 賦課制度를 再檢討하고 農漁民團體가 食品加工産業에 積極 參與할 수 있도록 誘導해 나감은 勿論, 輸出有望 農産物에 대한 政府支援을 強化해 나갈 計劃이다.

다. 農水産物 價格安定機能 大幅 強化

從來 自給自足方式의 營農에서 商業農으로의 轉換을 圓滑히 뒷받침하고 農家所得을 保護하기 위해서는 農水産物의 需給 및 價格安定이 重要하다.

따라서 國民生活 安定과 農家所得에 重要な 品目を 選定하여 集中支援함으로써 價格安定을 통한 生産農家の 所得安定을 圖謀하고, 過剩生産品目등에 對한 價格安定事業의 制度化로 生産調節을 誘導해 나가기로 하고, 이를 效率적으로 뒷받침하기 위하여 農安基金 運用規模를 今年度 4,000億원에서 '92년에는 1兆원으로 大幅 擴大해 나갈 것이다.

특히 畜産物 價格安定事業의 內實化를 爲해서는 쇠고기 下限價格 및 價格安定基準線을 設定하여 運用함으로써 養畜農家が 安心하고 生産에 專念할 수 있도록 하고, 또한 流通構造改善事業도 積極 推進하며, 圈域別 都賣市場 網 構築과 產地共同出荷基盤을 擴充하고 需給振幅이 큰 作物을 中心으로 生産觀測 및 流通豫告制度를 活性化하여 事전에 需給調節이 이루어지도록 하여 農漁民들의 被害를 防止해 나갈 計劃이다.

라. 農業經營支援 擴大

營農漁資金支援을 '90년까지 3兆원으로 擴大 供給함으로써 農家を 所要 經營費에 對한 營農漁資金 供給比率를 現在 28.9% 水準에서 53% 水準까지 높이고, 農漁村地域開發基金도 '88年 5,000億원에서 '92년까지 1兆원으로 擴大 造成하는 등 農業金融支援을 大幅 擴大함과 아울러 肥料의 輸入·販賣의

自由化와 飼料등 原料農産物の 圓滑한 輸入推進으로 農業經營費節減을 誘導해나갈 것이다.

마. 技術開發 投資擴大와 農漁民의 經營能力 培養

앞으로는 米穀生産 및 現場技術中心의 指導事業에서 脫皮하여 遺傳工學등 農林水産部門의 新技術開發事業을 強化하고, 農業指導에 있어서도 農漁民의 專門經營 能力培養에 重點을 두어 나갈것이다.. 이를위해 農村振興廳의 研究開發機能과 韓國食品開發研究院의 國産農産物の 貯藏·加工技術開發 機能을 活性化하고 一線 農村指導所의 機能轉換 및 運營改善, 그리고 地方大學研究所 機能을 活性化하여 地域農業綜合研究센터로 育成하고, 아울러 農業系高等學校의 教育體制를 改編함과 아울러 農漁民後繼者 制度를 內實化하여 商業農轉換 趨勢에 따라 農漁民의 經營能力을 提高시켜 나갈 것이다.

3. 農外所得源의 擴充

農業與件의 變化와 相對的으로 높은 非農業部門과의 生産性 隔差를 勘案할때 農業에만 依存해서는 都·農間 所得均衡에 어려움이 있기 때문에 과감한 農業構造改善과 아울러 農外所得源의 擴充은 農家所得을 持續的으로 늘려나가기 위한 重要한 課題가 되고 있다.

가. 農工地區造成 擴大와 支援強化

지난 '84년부터 本格的으로 推進하기 始作한 農工地區 造成事業은 '87년까지 77個所를 指定하였고, 그중 38個所는 造成工事を 完了하여 114個 業體가 入住하였으며 지난해에 指定한 46個 地區에 對해서는 '88年 敷地造成工事を 完了하고 工場建設을 推進中에 있다.

또한 今年度에도 45個 地區 以上の 農工地區를 新規로 指定할 計劃이며, 앞으로 이를 年次的으로 擴大하여 '93년까지 350個所 以上の 農工地區를 造成함으로써 總 100萬名의 雇傭이 可能하도록 할 計劃이다.

이러한 農工地區 造成事業을 效率的으로 뒷받침하기 위해 農工地區 入住企

<表 2-7-1>

農工地區 造成現況

	'84	'86	'87	'88. 6	計
地區數(開所)	7	24	46	25	102
延面積(千坪)	182	704	2,145	1,014	4,045
入住工場(個)	78	217	449	287	1,031
雇傭計劃(千名)	11	34	85	36	166

資料：農林水產部 農業政策局

業에 對한 工場設立 節次를 簡素化하고 稅制支援을 強化하는 한편, 農漁村에 入住하는 企業의 技術人力確保를 爲하여 各道 農民教育院의 就業訓練機能 및 施設을 韓國職業訓練管理工團으로 移管하고 農工地區內에 職業訓練院을 入住시켜 職業訓練을 強化하는 同時에 市·郡 및 邑·面에 農工地區 就業案内窓口를 開設해 나갈 것이다.

이와 아울러 農工地區 隣近地域의 土地利用規制를 緩和하고 政府補助로 共同 汚·廢水 處理施設을 設置하는 등 農工地區造成으로 인하여 우려되는 環境汚染防止에도 徹底를 期해 나갈 計劃이다.

나. 農漁村副業團地 育성과 內實化

農漁村 遊休勞動力과 賦存資源을 效率적으로 活用하여 農外所得源을 開發하기 위하여 推進되어온 農漁村 副業團地 育成事業은 家內手工業型에서 小規模企業型으로 發展됨으로써 農漁家の 所得增大에 크게 寄與하고 있다.

今年에도 120個 副業團地를 新規로 育成하고 副業製品의 販賣網을 農協連鎖店, 슈퍼마켓까지로 擴大하는 한편 農加工產品販賣센터를 통한 副業製品 競進大會 및 道別 副業製品 展示會를 開催하고 副業製品의 輸出市場 開拓에도 注力해 나갈 計劃이다.

아울러 對象業種도 從來의 民俗工藝品, 食料品, 纖維織物, 農水產資材 등에서 새로이 石材商品을 追加하여 傳統的인 副業概念에서 發展하여 새로운

地域特化産業으로 育成시켜 나갈 計劃이다.

<表 2-7-2>

農漁村 副業園地 現況

(單位：個所)

	計	一般工產品	民俗工藝品	纖維織物	食料品	農水產資材	石材
'87 年 末	660	54	273	35	215	83	0
'88 까 지	754	76	292	39	265	77	5

資料：農林水產部 農業政策局

다. 觀光農業開發事業의 擴大

自然景觀, 歷史的 遺跡地, 文化財 및 農漁村地域의 觀光資源을 農漁家の 所得源으로 連結하기 위한 觀光農業 開發事業을 지난 '84년부터 示範事業으로 推進해 오고 있으며, '87년까지 總18億원의 資金을 支援하여 52個地區를 造成하였으며, 地區當平均 約 8,500名의 來訪客을 誘致하여 約 22百萬원의 所得을 올리고 있는 것으로 나타나고 있다.

따라서, 今年度에도, 12億원의 資金을 支援하여 17個 地區를 새로이 造成할 計劃이며, 從前的 農畜產物 直賣, 貸貸農園 爲主에서 벗어나 來訪客의 健康增進, 休養, 自然學習을 위한 場所를 兼할 수 있는 綜合觀光農園으로의 開發을 誘導해 나갈 計劃이다.

<表 2-7-3>

觀光農業 開發事業 推進現況

	單 位	'84	'85	'86	'87	'88(P)	計
地區 造成	個 所	12	13	16	11	17	69
資金 支援	百 萬 圓	314	465	432	591	1,200	3,002

資料：農林水產部 農業政策局

4. 特性있는 地域開發로 快適한 生活環境 造成

農漁村 生活環境의 相對的 落後는 農漁村 住民들의 相對的 貧困感을 深化시킴에 따라 農村에 居住하는 人口의 減少는 물론 年齡別 · 性別 不均衡,

農業就業人力の老齡化·婦女化現象을 招來하는 등 農業構造를 脆弱하게 하고 있으며 農村층각의 結婚問題등 農村社會構造上 많은 問題點이 惹起되고 있다. 따라서 農漁村所得増大施策推進과 並行하여 農漁村住民의 生活與件을 改善하기 위하여 農漁村地域開發基金 規模를 '88年 5千億원에서 '92년까지 1兆원으로 擴充해서 農漁村地域 綜合開發事業을 圓滑하게 支援해 나갈 計劃이다.

第2節 農漁村經濟 活性化 綜合對策 推進

農漁民負擔輕減을 推進하기 爲해 農漁村綜合對策('86. 3. 5)과 農漁家負擔輕減對策('87. 3. 16)의 後續措置로서 農漁村의 經濟를 보다 活性化하기 爲해 '87年 12月 9日 農漁村經濟活性化 綜合對策을 發表하였다.

主要 內容은 營農漁資金의 大幅的인 擴大供給, 私債代替 特別相互金融資金의 金利引下, 農水産關聯 中長期資金의 償還期間 大幅延長, 農業基盤施設에 대한 國庫補助 擴大, 農業機械化 支援強化, 山林開發支援등 農漁民의 負擔輕減을 위한 施策을 內容으로 하고 있다.

1. 主要 內容

가. 營農漁資金의 擴大供給

營農漁資金은 農漁業經營費 支援을 爲하여 그동안 꾸준히 支援規模를 擴大하여 왔으나 '87年 營農資金 供給規模는 1兆원으로서 總 農業經營費의 25.4%에 不過하여 低利의 制度金融 擴大가 時急한 實情이었다.

이러한 側面에서 營農漁資金을 '90년까지 '87年보다 122%가 늘어난 3兆원 規模로 擴大하여 農漁業經營費의 50%以上을 이 資金으로 供給해 나가도록 했다.

〈表 2-7-4〉

營農漁資金擴大計劃

(單位：億圓)

	'87	'88	'89	'90
營農資金	10,000	12,000	17,500	24,000
營漁資金	3,500	3,840	4,800	6,000
計	13,500	15,840	22,300	30,000
農業經營費支援率	25.4 %	28.9	40.4	53.4

資料：農林水產部 農業政策局

나. 私債代替資金의 金利引下

'87年 3月 農漁家 負債輕減對策에 依해 耕地規模가 1町步以上인 農漁家에 支援키로한 私債代替 特別相互金融資金 5,000億圓의 金利를 14.5%에서 10%로 引下하였다.

다. 中長期資金의 償還期間 延長

지난 農漁家負債輕減對策에서 零細農漁家 中長期資金 低利代替 支援對象에서 除外된 耕地規模 0.5ha以上 農漁家와 '87年 3月 16日부터 12月 9日사이에 新規로 中長期資金을 貸出받은 農漁民의 中長期政策資金 償還期間을 5年据置 7年 均分償還(年利 8%) 條件으로 償還期間을 延長하였다.

라. 農業基盤 施設에 대한 支援擴大

現在 70~85% 大·中·小規模 水利施設 設置費를 道路等 社會間接資本施設과 같이 全額 國庫 支援토록 하였으며 耕地整理 農民負擔率을 現行 20%에서 10%로 낮추고 國庫補助率을 60%에서 70%로 引上하였다.

마. 長期債 全額 國庫補助 및 一般組合費 輕減

水利施設 設置에 따른 長期債償還은 그동안 農地改良組合이 負擔토록 하여 實質的으로는 農民이 負擔하여 왔으나 이번 措置에서 全額 國庫補助토록 하였다.

現在 6,010億원에 달하는 長期債額을 앞으로 政府가 每年 約 172億원씩 支援할 計劃이고 또한 農地改良組合의 一般組合費도 現在의 10a當 平均 벼 23.7kg에서 10kg으로 引下調整하고 그 差額은 全額 國庫에서 支援키로 하였으며 이를 위해 農地改良組合育成에 關한 特別措置法 改正을 推進中에 있다.

바. 農業機械化 支援強化

그동안 急激한 農業勞動力 減少에 對應하여 農業機械化施策을 꾸준히 推進하여 農業機械 普及率이 相當한 水準에 到達하였으나 農機械購入에 따른 農家負擔이 增加하고 事後奉仕體制의 未洽등으로 農業機械化에 制約要因이 되고 있다.

따라서 이러한 點을 勘案 農機械의 共同利用促進과 農漁民의 負擔輕減을 위하여 機械化營農團 造成에 대한 補助率을 40%에서 50%로 擴大하였다.

또 農機械修理 部品資金 支援擴大를 위하여 部品資金을 '88년에는 100億 원 89年以後에는 200億원을 造成하여 低利資金으로 支援을 擴大해 나가도록 할 計劃이다.

사. 山林開發 支援

山林資源의 效率的 利用과 山林經營의 育成을 위하여 育林地 및 造林地域 (保全林地에 限함)의 相續稅를 免除하기 위하여 相續稅法 改正을 推進키로 하였으며 山林開發基金을 '87年の 110億원에서 '89년부터는 年次的으로 擴大해 나갈것이다.

2. 負擔輕減 效果

農漁村經濟活性化綜合對策은 '88년부터 本格的으로 推進됨에 따라 今年度에 各種 農漁民負擔金の 輕減을 통하여 年間 約 3,400億원의 農漁民負擔이 輕減될 것으로 展望된다.

<表 2-7-5>

農漁村綜合對策의 負擔輕減 效果(推定)

	主 要 內 容	負擔輕減 效果 (年間)
農漁村經濟活 性化 綜合對策 (’87. 12. 9)	○營農漁資金 供給擴大(’91까지 3兆원 造成)	1,072 ^(億圓)
	○私債代替特別相互金融資金 金利引下(14.5→10%)	225
	○農水產中長期資金의 償還期間延長(5年拒置 7年償還)	682
	○農業基盤施設物補助支援擴大(大·中·小規模 水利施設 全額 國庫補助, 農組長期債 全額 國庫負擔, 耕地整理 農民負擔輕減, 農組一般組合費 負擔輕減)	925
	○農機械 支援強化(機械化營農團 擴大造成 및 補助金 支援擴大, 農機械修理部品資金 支援擴大 등)	100
	○山林開發支援強化(保全林地와 造林地域 相續稅 免除, 長期低利山林開發基金擴大 造成)	100
	○農藥支援強化(農藥製造用原劑 輸入關稅引下)	270
○農漁村 子女 低利學資金 擴大 支援	5	
	合 計	3,379

資料：農林水產部 農業政策局

第8章 農業災害 및 公害防止

第1節 農業災害保險制度 開發

農業은 他產業에 比하여 自然環境 依存度가 높아 每年 程度의 差異는 있으나 自然災害를 겪고 있으며 現行 農業災害對策法과 風水害對策法에 의거 融資金의 償還延期와 農地稅, 子女授業料 減免等의 支援을 하고 있으나 支援方法 및 水準等에 一貫性이 적고 支援額도 적어 災害가 發生할 경우 長期間 農家經濟를 어렵게 하고 있다.

따라서 政府支援下에 農民이 所得의 一部를 保險料 形態로 積立하여 두었다가 災害發生時 損失을 補填받아 大規模 自然災害時에도 農家經濟를 安定시키고 持續的인 農業再生産 與件을 造成할 수 있는 恒久的인 災害對策으로서 農業災害保險制度의 導入이 要請되고 있다.

1. 推進方針

農業災害保險制度는 社會保障的 側面과 農家經濟安定側面을 다같이 考慮하여 一般保險의 性格과 政府의 公的扶助의 性格을 適切히 造化시켜 나갈 計劃이다. 또 事業의 性格上 民間部門이 遂行하기는 어려움이 있으므로 政府의 政策保險 形態로 運營해나갈 方針이다. 또한 保險對象 作物은 農業所得의 比重과 基礎統計資料등이 具備되어야 하는 點을 考慮하여 水稻作을 優先 實施하고 점차 對象作物을 擴大하고 事業地域도 一部 標本地域을 選定하여 試驗事業을 實施하여 問題點을 補完한 後 本事業을 實施해 나갈 計劃이다.

2. 向 後 計 劃

지난 '79년부터 美國, 日本 등 先進外國의 制度分析과 導入妥當性を 檢討하였으며 '82년부터 '84년까지 試驗調查事業을 實施하였으며, '85년부터 '86년까지는 試驗事業 準備를 위해 基本統計를 整備·補完하고 保險事業團 組織의 構成과 損害評價員 教育 등을 통하여 基礎人力を 養成하였으며 '87년부터 圖上演習을 實施하는 한편, 基本設計案을 修正·補完하는 作業도 實施하고 있다. 앞으로 試驗事業을 年次的으로 擴大 實施하여 制度를 整備·補完하고 本事業의 實施基準을 마련하는 등 '93年 以後의 本事業 實施基盤을 다져 나갈 것이다.

第 2 節 公 害 防 止 對 策

1. 農 業 用 水 的 保 存

'70年代 以後 產業化와 都市化가 急激히 進行되면서 水質汚染이 急激히 增加되고 있어 良質의 用水源 確保가 어려워지고 있는 實情에 直面하게 되었다.

이런 點을 勘案, '78年 農村近代化推進黨에 第 158 條의 5 (農業用水汚染防止)를 新設하고 '78年 以後 繼續事業으로 全國 15個 主要 河川水域 및 4個 淡水湖의 農業用水源에 對하여 水質汚染推移를 調査해 오고 있다. 특히 汚染이 심각한 김포평야에 對해서는 굴포천下流의 流路變更 및 汚泥淤를 設置하고, 낙동강지류인 금호강 하류의 다사 양수장은 汚染이 극심한 금호강에서 낙동강본류로 水源을 代替하고 水原市을 生活下水 및 工團廢水의 流入으로 汚染이 극심한 서호貯水池에 對해서는 차집암거를 埋設하는 등 農業用水 保存施策을 實行해 왔다.

금년도에는 안성천 및 정읍천 등 9個 河川水域과 插橋湖 및 大湖의 2個 淡水湖에 46個 地點을 選定하여 갈수기, 평수기 및 풍수기로 區分하여 年間

2~4회씩 生物化學的 산소 要求量(BOD) 및 重金屬 (Cu, Cd, Pb) 等 11個 水質基準 指標項目에 對한 調查를 實行중에 있다.

더우기, 앞으로는 農工團地造成, 地方工團 및 據點都市 育性 等 均衡發展 政策 및 農業用水源 周邊이 위락공간으로의 利用이 擴散되고 있는 點을 勸 案할 때 農業用水의 水質汚染은 急激히 擴散될 展望이다.

따라서 國民生活의 被害를 最小化하기 위해 農業用水 水質汚染調查를 더 욱더 擴大 實施하여 全國的인 水質汚染에 의한 被害 또는 被害豫想 農耕地 의 現況을 把握하여 積極的인 豫防 또는 防止對策을 樹立 施行해나갈 計劃 이다.

2. 農藥殘留 및 土壤汚染防止

農藥公害防止를 위하여는 防除回數를 줄일 수 있는 混合劑와 藥效를 增大 시키는 새로운 劑型을 開發하고, 農藥의 安全使用基準 設定에 있어서 現在 의 180品目を 240品目까지 擴大토록 하며, 高추疫病, 벼白葉枯病 等に 대한 低毒性 生物農藥의 開發을 積極 推進하고 農作物과 土壤에 대한 撒布農藥의 行蹟을 追跡 糾明하며 生果菜用 洗劑를 開發하여 農藥公害를 防止토록 할 것이다.

또한 土壤汚染防止를 위하여는 農作物 環境汚染源 調查를 實施하고 環境 汚染에 대한 農作物 被害對策을 講究토록 하며, 施設園藝地에서의 鹽類蓄積 및 가스發生等 障害對策 技術을 確立하고 家畜糞尿等を 肥料化 또는 에너지 化 하거나 廢水淨化 技術을 새로 開發하여 農業을 環境汚染으로부터 積極 保護할 수 있도록 할 計劃이다.

第9章 民主農政의 具現과 21世紀 農政 特別作業 推進

第1節 民主農政 具現

1. 農水畜協의 民主化

가. 農水畜協의 發展過程

우리나라의 協同組合은 外國에 比하여 그 歷史가 日淺함에도 不拘하고 빠른 速度로 發展하여 諸般事業의 推進이나 運營面에서 어느 나라의 協同組合에도 뒤지지 않는 組織으로 成長되어 왔다.

협동조합은 '60年代初부터 우리나라의 國民經濟와 農漁村이 極도로 落後되었던 時代에 우리의 協同組合이 農漁村의 開發과 農水產政策推進에 重要한 役割을 擔當하여 왔다.

이러한 過程 속에서 農水畜協은 成長되어 왔으나 아직도 協同組合의 內部的 自立基盤이 微弱하고 地方自治制 實施의 遲延 등 政治的·社會的 側面的 與件이 成熟되지 못하여 農水畜協의 民主化가 遲延되어 왔으나 이제는 大部分의 組合이 自立내지는 自立되어 가는 段階에 있으며, 아울러 地方自治制 實施 등 周邊與件이 成熟되어가고 있을 뿐만 아니라 協同組合이 그동안 蓄積된 力量을 바탕으로 自律化와 民主化를 實現키 위한 與件이 造成되어 가고 있다.

<表 2 9- 1>

組 合 別 自 立 現 況

	農 協				畜 協				水 協			
	奉仕	成長	支援	計	奉仕	成長	支援	計	奉仕	成長	支援	計
地 域 組 合	700	643	120	1,463	54	41	46	141	21	27	8	56
業 種 組 合	18	13	10	41	4	3	10	17	8	5	3	16
計	718 (48%)	656 44%	130 8%	1,504 100%	58 (37%)	44 28%	56 35%	158 100%	29 (40%)	32 45%	11 15%	72 100%

資料：農林水産部 農業政策局

나. 農水畜協의 民主化 推進

政治, 社會의 民主化 趨勢에 따라 農漁民團體를 中心으로 民主化 要求가 強하게 나타나고 있으며 특히 農水畜協 組合長 및 中央會長을 現行 任命制에서 選出制로 改善하자는 要求에 따라 그동안 自體的으로 討論會를 開催하여 農漁民, 學者, 一線組合長등 各界의 意見을 收斂한 바 있다. 公聽會時 나타난 意見을 最大한 收斂하여 政府에서도 農水畜協의 組合長 및 中央會長의 選任方法을 選出制로 改善하는 등 民主化의 實現을 위하여 가장 適切한 方法을 檢討해 나가고 있다.

公聽會에서 나타난 各界의 意見을 綜合해 보면 國會議員 選舉方式과 같이 組合員인 農漁民이 直接 投票에 의하여 組合長을 選出해야한다는 見解와 마을單位에서 組合員들이 選出한 組合員 代表인 總代會에서 選出토록 하자는 意見이 提示되었으나 一般的인 意見은 法에서 民主的 方式인 選出制의 原則을 定하고 組合實情에 따라 組合員이 組合長 選出方法을 選擇할 수 있도록 具體的인 方法은 定款에 定하는 것이 보다 效率的이라는 것이었다.

全 組合員의 意思를 直接 反映할 수 있다는 點에서 直選制가 바람직 하기는 하나, 農水畜協의 組織이나 會員數에 비해 적은 組合은 數百名으로부터 많은 組合은 1萬名을 넘는 組合이 있는가 하면 管轄區域에 있어서도 面單位로 부터 全國單位까지 多樣하게 構成되어 있는 現實에서 볼때는 直選制와 間選制의 어느 한 方法만이 좋다고 決定 짓기는 어려운 實情이므로 各界의

意見を 充分히 検討하여 組合의 發展과 民主化方向에 가장 適切한 方法이 될 수 있는 制度를 마련코자 農水畜協法改正을 推進할 計劃이다.

2. 農地改良組合의 民主化

가. 農地改良組合의 現況

農地改良組合은 農地改良事業등을 遂行함으로써 組合員의 農業生産力 增大에 寄與하기 위하여 原則적으로 農民의 自發的 意思에 의하여 農林水産部長官에게 設立申請을 하여 認可를 받아 設立後 自體的으로 運營하는 法人으로 '88年現在 全國에 걸쳐 103個 組合이 設立되어 있다.

農地改良組合長의 選出은 農村近代化促進法의 規定에 의해 總會에서 選出하도록 되어 있으나 農村近代化促進法 附則 (第9條 및 第10條)의 總會 및 組合任員에 관한 暫定措置에 의거 農林水産部長官이 任命토록 되어 있으며, 實際 運營은 5000ha 以上の 蒙利面積을 管轄하는 34個 組合의 組合長은 道知事의 추천에 의하여 農林水産部長官이 任命하고, 蒙利面積 5000ha以下를 管轄하는 69個 組合의 組合長은 市長·郡守의 推薦에 의해 道知事が 任命하고 있다.

나. 農地改良組合의 民主化 推進

그동안 組合長이 政黨이나 公務員 出身으로 任命되는 경우가 많아 農民의 不滿要因이 되어 組合長의 任命制를 選出制로의 轉換을 要求하는 소리가 높았던 것도 事實이다.

한편 農地改良組合은 組合員의 出資로 設立된 農·水·畜協과는 달리 大部分 國家의 豫算으로 農地改良施設을 設置하고 組合員은 維持 管理하는데 드는 費用의 一部만을 負擔하게 되므로 農·水·畜協과는 그 性格을 달리하고 있어 組合長의 選出制로 轉換問題는 農水畜協 組合長과 同一하게 取扱할 수 없다는 主張이 擡頭되어 온 것도 事實이다.

그러나, 農民의 民主化에 대한 熱望을 充足시키고 全國 약 7兆원에 달하

는 水利施設을 效率的으로 維持管理하여 組合員의 利益을 保護하기 위하여 組合長을 選出한다는 基本原則을 定하여 이를 推進해 나가고 있다.

다만, 間選制와 直選制를 檢討하여 農民의 意思가 보다 效率的으로 反映되는 選舉制를 檢討하여 組合長이 選出되도록 할 것이다. 이를 위해 農村近代化 促進法의 關聯規定을 綿密히 檢討 중에 있으며 地方自治制 實施등 諸般 趨勢에 맞추어 推進해 나갈 計劃이다.

3. 農漁民의 農政參與機會 擴大

지금까지 農政을 遂行해 오는 過程에 있어서는 行政의 迅速성과 能率面을 보다 強調하여온 結果 政策決定過程에 小數 關係者의 形式的인 意見收斂過程을 거침으로써 實際 農漁民과 農漁民團體의 利益이 充分히 反映되지 못함으로써 一部 不滿의 소리가 있었던 것도 사실이다.

그러나 民主化의 時代的 要求에 副應하여 이제는 農政을 遂行하는데 있어서도 農漁民과 農漁民團體에 幅넓게 農政에 대한 參與機會를 提供함으로써 直接 當事者들의 폭넓은 意見을 收斂하여 이를 農政施策樹立에 連繫시켜 나감으로써 信賴받는 農政을 具現시켜 나갈 수 있을 것이다.

이를 위하여 政府는 올해의 農政施策을 農漁民과 農漁民團體 代表 그리고 各界의 利害當事者들에게 理解시키고 이들의 輿論을 收斂키 위해 3月부터 6月까지 總12회에 걸쳐 延人員 2,800餘名の 農漁民代表등이 參與하는 輿論收斂會를 開催하여 이들로부터 收斂된 다양한 意見과 建議事項을 政策으로 連繫시켜 나가기 爲한 努力을 계속해 나가고 있다.

앞으로도 政府가 推進하는 各種 施策에 대하여는 農漁民과 農漁民團體의 理解度를 높이고 이들과 함께 共感帶를 形成하기 위하여 이들의 보다 많은 農政參與機會를 擴大함은 勿論 主要政策懸案事項에 대하여는 隨時로 各界의 意見을 收斂하고 이를 慎重히 檢討하여 農政施策에 反映해 나감으로써 보다 信賴받는 農政을 具現하는데 힘써 나갈 것이다.

	日 時	參席人員	主 要 會 議 議 題
○ 農政施策說明會 (8個道)	'88. 3. 31 ~5. 13	1,901 名	'88 農政施策說明
○ 畜産綜合對策會議 (3回)	'88. 3. 3 ~4. 28	67	쇠고기輸入 補完對策
○ 農政 大討論會	'88. 3. 14	95	農政全般
○ 韓牛繁殖「세미나」	'88. 3. 17	21	韓牛繁殖基盤 擴大方案
○ 水産 大討論會	'88. 4. 18	115	水産政策 全般
○ 山林 大討論會	'88. 4. 20	170	山地資源化 方案
○ 蠶業振興 大討論會	'88. 5. 31	120	蠶絲, 繭業振興對策
○ 農業機械化 討論會	'88. 6. 3	31	效率的 農機械普及과 價格 自律化
○ 農地改良組合 運營	'88. 6. 7	55	組合長 選出方法 등 運營全般
○ 農漁家 負債輕減	'88. 6. 9	60	農漁家 負債 輕減方案
○ 農水畜協法 改正	'88. 6. 15	214	組合長, 中央會長 選任方法 改善 등 運營全般

資料：農林水産部 企劃管理室

4. 對農民教育強化와 指導方式의 改善

農民教育是 農家の 希望課題를 中心으로 商業的 營農으로 轉換되는 등 農業與件變化에 副應하여 專門營農技術, 經營流通技術에 대한 綜合教育이 이루어질 수 있도록 農民教育을 強化해 갈 것이다.

또한 商業農의 擴散과 農村住民의 文化福祉 向上 慾求에 效率的으로 對應하기 위하여 一線農村指導機關의 機能을 所得增大와 生活의 質向上을 위한 教育的 專門指導 體制로 改編하여 專門指導機能을 補強해 나갈 計劃이다.

아울러 農村指導人力の 專門實技能力 向上에 重點을 둔 補修教育 實施와 農民教育 施設 및 教育 機材도 擴充함으로써 對農民 教育效果를 높혀 나갈 것이다.

第2節 21世紀 農政 特別作業 推進

1. 推進 背景

21世紀 產業社會에 副應하는 農山漁村開發의 中長期 政策方向 樹立을 위한 「21世紀 農政企劃班」을 '87. 2. 18 韓國農村經濟研究院에 設置하였다. 이 特別作業班에서는 2000年代의 바람직한 農林漁業·農漁村·農漁村의 모습과 積極的인 農山農村의 開發 및 利用計劃을 樹立하여, 今世紀안에 所得이나 生活面에서 都市 못지 않은 農漁村 建設을 目標로 綜合的인 靑寫眞을 마련하기 위한 作業을 進行中에 있다.

2. 主要推進經過

韓國開發研究院, 國土開發研究院 및 韓國農村經濟研究院 合同으로 2001年의 農村像 設定을 위한 豫備檢討會議('87. 3~4)를 거쳐 各界 專門家 632名을 選定하여 2次에 걸친 郵便調查實施結果를 土台로 2001年의 農村像 設定 作業을 推進하였으며, 韓國農政 40年에 대한 回顧와 評價, 當面한 課題, 그리고 21世紀를 向한 農政의 方向에 대한 討論會를 開催하여 “21世紀를 向한 韓國農政의 進路와 課題”를 檢討하고, 特別作業 推進을 위하여 研究課題를 檢討하고, 特別作業 推進을 위하여 研究課題 15件을 選定, '87年 9月부터 '88年 2月까지 學界 專門家에게 委囑研究作業을 推進하여 21世紀 農政發展方向 構想을 위한 基礎研究를 實施하는 등의 結果를 土台로 21世紀 農政報告書 (案)을 마련 하였으며, '87. 11月에는 21世紀 農政企劃班이 作成한 農政全般, 農業, 林業·山地·山村, 바다·漁業·漁村의 4個部分의 特別作業報告書 試案에 대하여 部分別로 政府, 學界, 農漁民, 團體 등 專門家 40餘名을 招請하여 討論會를 開催하고 '87. 12月에는 13個 關係機關 88名의 專門家の 檢討를 거쳐 88年 1月부터 1, 2次 檢討會에서 論議된 事項에 대하여 補完作業을 推進中

에 있으며 21世紀 農漁村開發計劃의 最終報告書는 關係部處와의 3, 4次 檢討會議를 거쳐 今年中에 確定할 計劃으로 推進中에 있다.

3. 計劃에 나타난 21世紀 農漁村 모습

2000년에는 農村漁業이나 農漁村은 經濟的 次元에서 그 比重이 相對的으로 줄어드는 것은 事實이나 國民食糧供給基地로서의 役割이나 人口增加에 따라 適正人口의 居住를 위한 國民의 生活空間으로서의 役割은 더욱 重要한 比重을 차지할 것이다. 따라서 장기적으로 농어업은 구조개선을 통한 高能率산업으로 육성하며, 농어촌은 활력이 넘치고 쾌적한 定住空間 건설을 목표로하고 있다. 計劃에 나타난 2000年度의 우리 農漁村의 모습을 分野別로 展望해 보면, 農漁家 人口는 總人口에서 차지하는 比重이 現在 20%에서 10%로 減少될 것이나, 農漁村에 居住하는 人口는 20%以上 차지할 展望이며, 農林漁業이 國民經濟에서 차지하는 比重은 農產物의 需要增大의 制約과 產業間의 生産性 向上의 隔差로 인하여 現在 11.0%에서 7% 内外로 줄어들 展望이다. 耕地整理, 排水改善, 用水開發, 農路開設 등 生産基盤도 完全히 整備되고 農業도 물 걱정 없이 農事를 지을 수 있고 農作業도 完全 機械化가 이룩될 것이다. 또한 農業部門에 尖端技術의 應用이 本格化됨으로써 農產物 生産性 向上과 商品性이 크게 높아지고 電算網을 利用한 流通豫告와 價格安定帶事業의 擴大 實施등으로 適正生産이 誘導되고 流通效率이 크게 높아질 것이다.

그리고 農漁村 工業開發이 擴散되어 農漁民의 農事外 就業機會가 크게 늘어날 것이며, 農家所得도 '87年 現在 6,535 F원에서 2000년에는 15,000 F원 ('87不變價格)以上으로 늘어나고 道路網, 上水道, 教育, 醫療等 社會間接資本 擴充과 福祉基盤도 크게 向上되어 21세기의 농어촌은 生活與件面에서도 都市 못지 않은 安樂한 定住空間으로 변모할 것이다.

第2部 林業部門

第1編 1987年度 林業動向

여백

第1章 林業의 現況

第1節 山林現況

1. 山林面積과 林木 蓄積

우리나라 山林面積은 1987年末 現在 6,499千ha로 全國土의 66%를 차지하고 있으며 이중 國有林이 1,320千ha(20%) 公有林 505千ha(8%)이며 私有林은 4,674千ha로 全體 山林의 72%를 차지하고 있다.

山林面積은 그동안 人口의 膨脹과 高度産業化 되어가는 過程에서 草地, 農地와 宅地 및 産業施設用地 등 他目的으로 轉用되어 '81年以來 每年 平均 7~8千ha의 山地가 줄어들었고 '87年末 現在 總林木蓄積은 200,802千 m^3 이며 이중 國有林이 75,500千 m^3 (38%), 公有林이 14,302千 m^3 (7%) 私有林 110,000千 m^3 (55%)이다. ha當 平均 林木蓄積은 31 m^3 으로 先進林業國인 西獨 150 m^3 , 日本 113 m^3 , 美國 78 m^3 에 비해 크게 낮은 水準에 있으며 世界平均 林木蓄積인 81 m^3 에 비해서도 크게 낮은 水準이나 지난 73년부터 本格的으로 推進하기 始作한 1.2次 治山綠化事業의 積極的 推進으로 林木蓄積은 72年 11 m^3 에서 87년에는 31 m^3 으로 2.7배나 增加되었다.

〈表 1-1-1〉

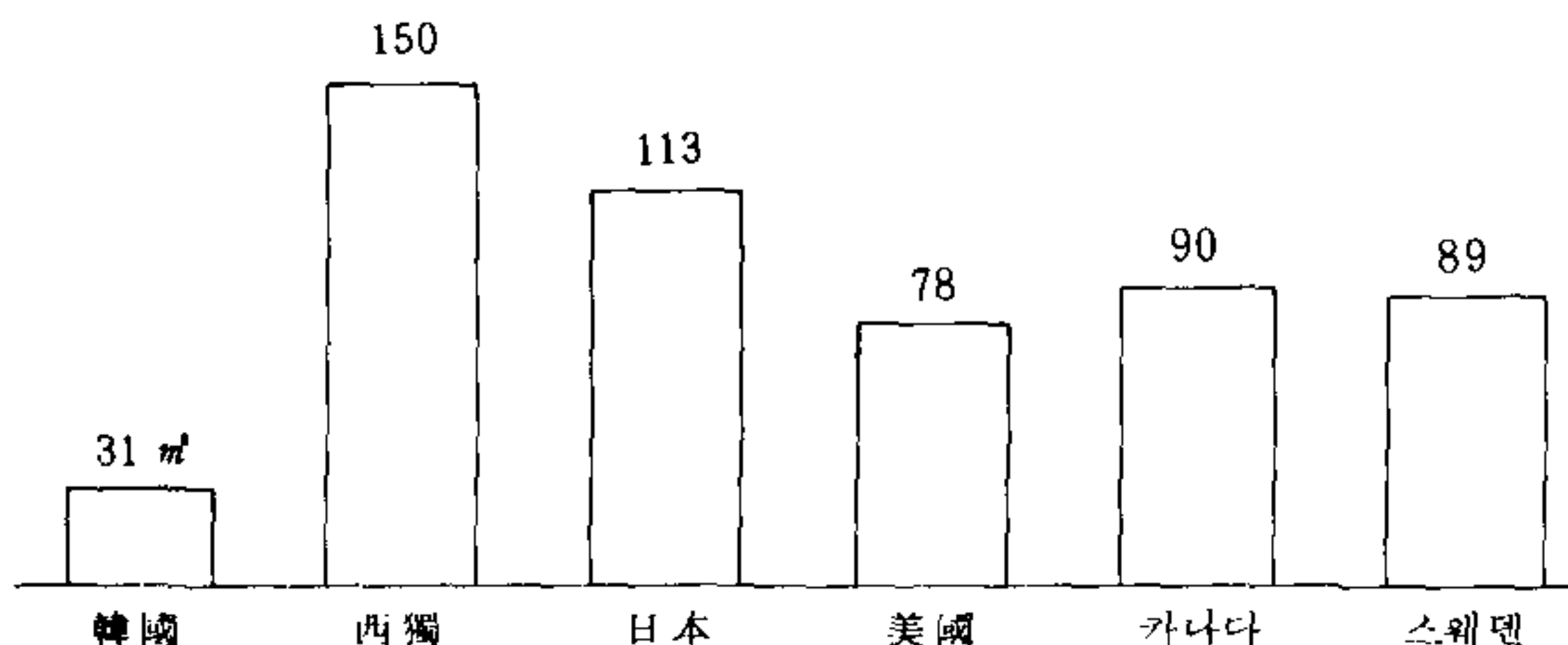
所有別 山林面積 및 蓄積

	面 積	%	蓄 積	%	ha 當 蓄 積
計	6,499千ha	100	200,802千 m^3	100	31 m^3
國 有 林	1,320	20	75,500	38	57
公 有 林	505	8	14,302	7	29
私 有 林	4,674	72	111,000	55	24

資料：山林廳 林政局

<圖 1-1-1>

先進林業國의 ha當 林木蓄積



資料：FAO, 日本 林野廳

한편 林相別 山林面積을 보면 針葉樹林이 3,269 Fha로 全體의 52%를 차지하고 있으며 闊葉樹林 19%(1,187 Fha), 混淆林이 29%(1,835 Fha)를 차지하고 있다.

그리고 齡級別 山林面積은 10年生 以下인 I 齡級이 3,081 Fha(49%), II 齡級 2,133 Fha(34%)로 全體林地의 83%를 占有하고 있어 아직까지 우리나라의 山林은 幼齡林이 大部分으로서 每年 木材需要量의 83%以上을 外材에 依存하고 있는 實情이다.

<表 1 1 2>

林相別 齡級別 山林面積

(單位：Fha)

	計		針葉樹		闊葉樹		混淆林	
	計	%	計	%	計	%	計	%
計	6,291	100	3,269	100	1,187	100	1,835	100
I 齡 級	3,081	49	1,940	59	371	31	770	42
II "	2,133	34	1,025	31	329	28	779	42
III "	589	9	162	5	260	22	167	9
IV "	357	6	115	4	155	13	87	5
V " 以上	131	2	27	1	72	6	32	2

資料：山林廳 林政局

2. 山林의 所有構造

우리나라의 山林面積率은 國土의 66%에 이르고 있으나, 國民 1人當 山林面積은 0.16ha로 世界平均 0.8ha의 1/5에 지나지 않는 實情이며,全體 山主數는 1,948 千名으로서 山主1人當 平均 私有林野 所有面積도 2.4ha에 不過하다.

山林 所有別로 보면 10ha未滿의 山林所有主가 1,865千名으로서 全體山主의 96%에 이르고 있는 반면 이들이 차지하고 있는 山林面積은 2,443千ha로서 全體 私有林의 52%에 不過하여 所有規模가 매우 零細한 實情이다.

이와같이 山林의 所有規模가 零細함으로 因하여 山主들이 山林에 投資하려는 意慾이 低調하고 山林을 所有하는 意識에 있어서도 經營보다는 大部分 墓地 또는 備蓄財産의 手段으로 認識함으로써 山林經營의 活性化에 커다란 沮害要因이 되고 있다.

第2節 林木生産

1. 林業 附加價値

'87年度 林業附加價値는 3,407億원으로 國民總生産의 0.5%를 차지하고 있으며 國民總生産에 對한 林業의 構成比率은 '75年度 1.3%, '80年度 0.9%로서 점차 減少하고 있는 趨勢에 있다.

이와같이 國民總生産에 對한 林業部門의 比重이 점차 낮아지고 있는 것은 相對적으로 2,3次 產業이 높은 成長을 가져온데 기인되지만 林業生産의 主종을 이루고 있는 農用資材, 燃料材등의 生産이 점차 감소하고 있을 뿐만 아니라 大部分의 山林이 幼齡林으로서 國內材 節伐政策을 堅持함에 따라 木材生産이 크게 늘어나지 못하고 있기 때문이다.

그러나 山林이 지니고 있는 國土保全, 水源涵養, 空氣淨化등의 公益的價値가 林木生産과 같은 經濟的價値의 26倍以上으로 評價되고 있어, 林業이 國民生活에 미치는 영향은 지대하고 山의 價値는 無限하다고 할 수 있다.

〈表 1-1-3〉

國民總生產과 林業生產

(單位：10億圓)

	總 生 產			構 成 比 (%)		成 長 率 (%)		
	國 民 總 生 產	農 林 漁 業	林 業	農 林 漁 業	林 業	國 民 總 生 產	農 林 漁 業	林 業
1975	25,815.7	6,289.1	326.4	24.3	1.3	6.8	4.2	△3.4
1980	36,672.3	5,524.7	347.1	15.1	0.9	△4.8	△19.9	17.0
1985	52,705.4	7,802.2	435.5	14.8	0.8	5.4	4.8	△4.7
1986	59,187.8	8,114.2	359.1	13.7	0.6	12.3	3.9	△8.7
1987	66,319.6	7,766.8	340.7	11.7	0.5	12.0	△4.3	△5.1

註：1) 80年 不變市場價格基準임

2) '83年 以後 林業生產에는 土石類生產이 除外됨

資料：韓國銀行

2. 林產物 生產額

'87年度 林產物 生產額은 總 11,438億圓이며, 그中 土石類가 4,517億圓으로 全體生產額의 40%를 차지하고 있으며, 農用資材 3,370億圓(30%), 燃料941億圓(8%), 種實類 1,052億圓(9%), 버섯類 500億圓(4%), 其他 600億圓(5%)이며 主產物인 用材 및 竹材生產額은 458億圓으로 4%에 불과한 실정에 있다.

〈표 1-1-4〉

林 產 物 生 產 推 移

(單位：億圓)

	單 位	'82		'83		'84		'85		'86		'87	
		物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額
計			5,853		10,848		18,793		18,441		18,393		11,438
用 材	千 m ³	976	474	878	501	854	532	781	460	801	476	741	455
竹 材	千 束	66	7	166	21	136	12	139	13	80	8	35	3
燃 料	千 t	4,343	839	4,404	1,201	3,990	1,138	3,181	974	2,816	933	2,968	941
農用資材	"	19,057	2,657	26,692	3,887	29,414	4,283	26,345	4,028	22,124	3,723	20,030	3,370
種 實 類	千 kg	70,861	740	77,841	489	74,089	639	80,393	645	66,078	676	66,935	1,052
버 섯	"	1,725	154	3,497	344	2,745	292	3,067	382	2,090	401	2,222	500
土 石 類	千 m ³	11,685	903	11,155	3,739	21,513	11,276	23,956	11,379	27,883	11,565	26,855	4,517
其 他	-		79		666		621		560		611		600

資料：山林廳 林政局

第3節 林業投資

1. 林業部門豫算

'87年度 林業部門 豫算規模는 '86年보다 4%가 增加된 623億원으로서 會計別로는 一般會計 476億원(76%), 國有林野 管理特別會計 122億원(20%), 資金管理特別會計 25億원 (4%)으로 構成되어 있다.

'87年度 林業部門 豫算의 具體的 內容을 보면 造林 및 育林事業 199億원, 砂防事業 105億원으로서 山林資源造成과 公益機能 增進分野가 49%를 占有하고 있으며 그외 林道施設이 29億원(5%), 林業技術指導 및 林業試驗研究가 66億원(11%), 國有林 經營管理 78億원(12%), 山林保護 37億원(6%), 其他109億원(17%)이다.

2. 林業資金支援

山林 經營은 資本의 懷妊期間이 길어 造林에서, 育林, 伐採에 이르기까지 長期間동안 지속적인 資本投資가 이루어 져야 하나 林業의 低收益性과 零細 山主들의 投資能力이 不足한 實情에서는 長期低收益性 融資金支援은 산림개발을 위한 주요한 과제가 되고 있다.

各種 山林事業에 對한 融資는 大部分 山林開發基金과 資特資金에 의해 支援되고 있으며 이외에 副產物 收買 調節 및 輸出支援을 위해 農水產物價格 安基金과 農業 開發資金등으로 支援하고 있으며 '87年度 林業融資金 規模는 前年度인 '86보다 6% 增加한 36億원이며 內譯別로는 山林開發基金 11億원, 資特資金 25億원으로 造林과 育林 林產物利用加工, 養苗施設, 山林副產物收集 등에 重點的으로 支援되었다.

〈表 1-1-5〉

林業部門豫算

(單位：百萬圓)

事業	'86 豫算				'87 豫算			
	合計	一般	國特	資特	合計	一般	國特	資特
合計	59,984	47,102	10,382	2,500	62,328	47,570	12,258	2,500
機關運營	1,775	1,775	-	-	1,924	1,924	-	-
林政管理	3,871	3,871	-	-	4,188	4,188	-	-
營林計劃	392	392	-	-	391	391	-	-
山林保護	3,137	2,558	579	-	3,688	3,081	607	2,500
造林及育林	18,819	13,521	2,798	2,500	19,896	14,499	2,897	-
砂防	12,031	12,031	-	-	10,539	10,539	-	-
技術指導	2,045	2,045	-	-	2,808	2,808	-	-
林道施設	2,266	1,374	892	-	2,922	2,036	886	-
國有林經營管理	6,048	-	6,048	-	7,758	-	7,758	-
林業試驗	3,186	3,186	-	-	7,776	3,776	-	-
山林調查	165	165	-	-	166	166	-	-
育種研究	2,271	2,271	-	-	2,409	2,409	-	-
林業研修	308	308	-	-	379	379	-	-
試驗林管理	3,605	3,605	-	-	1,374	1,374	-	-
豫備費	65	-	65	-	110	-	110	-

資料：山林廳 企劃管理室

〈表 1-1-6〉

林業融資現況

(單位：百萬圓)

	'86			'87		
	計	資特	山林開發基金	計	資特	山林開發基金
計	3,375	2,304	1,071	3,576	2,500	1,076
養苗施業	1,267	742	525	720	300	420
林產物利用加工	241	-	241	1,020	788	232
林產事業	100	-	100	92	-	92
豆豉生產	376	296	80	572	340	232
山林副產物收集	493	368	125	400	300	100
林道施設	160	160	-	-	-	-
造林	127	127	-	160	160	-
育林	611	611	-	612	612	-

資料：山林廳 林政局

第2章 山地資源化 10年計劃 樹立

第1節 推 進 背 景

1973年 長期 山林基本計劃인 第1次 治山綠化 10年計劃('73~'82)을 樹立하고 '82년까지 全國土를 綠化한다는 目標아래 汎國民的인 植樹運動과 強力한 山林保護政策을 展開한 結果 當初計劃期間보다 4年 앞당겨 '78년에 目標를 達成하였으며, 그후 '79年 다시 第2次 治山綠化10年計劃('79~'88)을 樹立 推進함으로써 國土綠化를 完成하고 이를 바탕으로 山地資源化의 기틀을 마련하였다.

그러나 社會 經濟的인 與件變化에 따라 山에 對한 國民的 여망은 크게 달라지고 있으므로 山林行政도 이에 副應하고 農漁村綜合對策과 連繫하여 第2次 治山綠化10年計劃을 한해 앞당겨 '87年度에 마무리짓고, '88年度부터 山地資源化10年計劃('88~'97)을 樹立, 推進하기 위해 基本計劃을 作成 完了하였다.

第2節 計劃의 主要內容

山地資源化政策은 이제까지의 綠化爲主政策에서 벗어나 山地를 經濟林으로 가꾸면서 農漁村의 所得源으로 開發하고 國民休息空間을 擴大하는등 公益機能을 增進하여 山地의 效用을 極大化하기 위한 政策으로서 그동안 治山綠化 過程에서 硬直化된 保全과 規制爲主의 政策을 經營과 助長爲主로 轉換하는 것을 基調로 하고 있으며, 山地資源化 計劃이 完了되는 10年後의 우리나라 山林모습은

- 人工造林率이 現在の 29%에서 34%로 1.2배
- 林木蓄積은 193百萬 m^3 에서 270百萬 m^3 로 1.5배
- 林道施設은 1,006km에서 11,000km로 11배
- 林業生産額은 1兆8千億원에서 3兆원으로 1.7배로 늘리는 등 林業先進國의 山村水準에 近接하는것을 基本目標로 하고 있다.

1. 山林資源의 增蓄과 林業基盤造成

山林率이 70%以上되는 地域 200萬ha를 林業振興促進地域으로 指定하고 資金, 稅制, 技術등을 集中 支援하여 國內材 70%의 供給基地로 發展시키며, 林業生産性 提高와 林業機械化促進을 위해 10年間 林道を 現在の 11倍인 ha 當 1.7m로 擴充함과 아울러 山主의 零細性を 克服하기 위해 協業經營指導所를 310個所로 擴大하고, 山林의 集約的 經營과 公益的 管理를 쉽게 하기 위하여 國有林 91千ha를 擴大할 計劃이다.

適正한 木材價格維持와 流通體系確立으로 山主의 利益을 保護하기 위하여 山林組合을 林產物流通의 中樞組織으로 發展시키고, 間伐材爲主의 內材生産과 小徑材, 低質木의 需要創出을 積極 推進하여 育林을 促進하고 山林資源을 增蓄해 나갈 것이다.

2. 山地의 效率的 利用 開發

'88년부터 準保全林地에 對한 細部調査를 2년에 걸쳐 實施하여 農用地와 非農用地로 區分을 완료하고, '90年度부터 4年間은 다시 保全林地에 對한 調査를 實施하여 不合理的하게 區劃된 地域은 現實에 알맞게 再測定할 計劃이며, 準保全林地는 山主의 意思에 따라 草地, 果樹園, 林間放牧, 副產物生産, 休養林地등 山林所得源으로 積極 開發하여 林業의 長期投資를 短期所得으로 補完할 수 있도록 하고, 保全林地는 經濟林의 造成과 公園, 保安林등 公益機能을 다할 수 있도록 가꿔나갈 것이다.

3. 山林의 公益機能 增進

快適한 生活環境을 造成하여 山林의 公益需要를 充足시켜 나가기 위해 山林內 休樂施設을 擴大하여 國民保健休息空間으로 提供하고 樹木園, 林間修鍊場을 全國에 擴大, 愛林思想을 擴散하며, 都市周邊에 景觀林 造成으로 公害緩和와 環境淨化에도 이바지 하고, 山沙汰豫防管理와 荒廢溪川 復舊擴大로 國土保全機能을 더욱 增進시켜 나갈 計劃이다.

4. 支援制度의 整備

山地資源化政策을 圓滑하게 推進할 수 있도록 하기 위하여, 各種 規制를 緩和하고 經營을 助長하는 內容으로 山林法 改正을 推進하며, 山林組合의 自立基盤擴充과 大單位 山林開發事業을 專擔할 수 있는 山林開發事業團 設置등을 內容으로 하는 山林組合法 改正을 推進하고, 私有林投資誘致를 위하여 相續稅등 各種稅金의 惠澤範圍를 擴大하는 內容으로 林業稅制를 改善하고, 山林開發基金을 500億圓으로 늘리면서 融資條件을 緩和하는 등 金融制度를 改善해 나갈것이다.

第3章 山林資源 増殖의 促進

第1節 造林 및 育林

1. 經濟樹 重點造林

'70年代까지만 하더라도 速成樹 中心의 物量 爲主의 造林을 實施해오다가 '80年代에 들어오면서 점차 經濟樹 中心의 質的 造林으로 轉換해 나가고 있으며, 특히 '86년부터 21個 經濟樹種을 定하고 이를 擴大 普及하고 있으며 적지적수원칙에 의한 경제수 造林에 힘쓰고 있다.

'87年度 造林은 目標量 47,840ha보다 6%가 增加된 50,792ha에 135百萬本을 植栽하였으며 그중 一般造林 41,437ha, 올림픽對備 9,355ha 造林을 實施하였다. 특히 地域別 適地適樹 基準表를 作成 普及함으로써 누구나 손쉽게 自己山에 알맞는 造林 樹種을 選擇할 수 있도록 하였으며, 아울러 加平의 잣나무, 天原의 호도나무와 같이 地域을 代表할 수 있는 特色 樹種 主産團地 9個所등에 2,208ha를 植栽하여 適地適樹 示範林을 造成하였다.

2. 優良 天然林 保育擴大

우리나라 天然林面積이 3,463 Fha로 全體 山林面積의 53%나 차지하고 있고, 天然林중에서도 萌芽更新이 잘되는 潤葉樹林과 天然下種 更新이 잘되는 剛松林 面積이 1,509 Fha나 차지하고 있어 이들 山林을 잘가꾸어 用材林化하는것이 山地資源化를 위한 중요한 과제가 되고 있다.

따라서 '82년부터 天然林 保育事業을 最初로 實行, 每年 事業을 擴大해 나가고 있으며, '87年度에는 6次年度로 24,584ha의 天然林 保育事業을 實施하였다.

<表 1-3-1>

造 林 實 績

單位 □ 面積：ha
本數：千本

		'85		'86		'87	
		面 積	本 數	面 積	本 數	面 積	本 數
計		52,327	137,257	52,792	138,679	50,792	134,623
一般造林	小 計	39,800	114,534	42,579	121,640	41,437	119,264
	長 期 樹	37,991	113,815	39,581	120,467	38,910	118,284
	有 實 樹	1,809	719	2,998	1,173	2,527	980
올림픽 對備造林	小 計	12,527	22,723	10,213	17,039	9,355	15,379
	速 成 樹	10,906	5,514	8,518	4,171	7,823	3,568
	大 苗	1,621	3,224	1,695	3,376	1,532	3,077
	造 景	-	13,985	-	9,492	-	8,734

資料：山林廳 造林局

<表 1-3-2>

天然林 保育事業 實績

(單位：千ha)

區 分	實 績				
	計	'82~'84	'85	'86	'87
事 業 量	109	46	19	19	25

資料：山林廳 造林局

3. 育林 管理의 徹底

우리나라 全體 山林중 II 령급以下 유령림이 83%나 차지하고 있어 經濟樹 植栽 못지않게 심어놓은 나무를 더욱 쓸모있게 가꾸기 위한 育林作業이 절실히 요구되고 있다. 따라서 '87年度에는 計劃量 373千ha보다 11千ha가 增加된 384千ha의 育林作業을 完了하였다.

育林作業을 내용별로 보면 어린나무의 生育을 促進하기 위하여 136千ha에 대한 施肥를 실시하였으며, 造林後 3~5年까지의 林地를 대상으로 158千ha에 대한 풀베기를 造林後 5~10年이 지난 造林木에 대한 가지치기, 잡목 疎아내기등 稚樹가꾸기 73千ha와 造林木에 支障을 주는 畝덩굴除去作業을

17 fha 實行하는 한편 效率的인 間伐作業促進을 위하여 道別로 作業促進團地를 '87年度에 1個所씩 設定하고, 이곳에 林道施設 및 機械裝備를 集中 投入함과 아울러 作業能率을 올리기 위한 淘汰 및 列式間伐方法을 普及하여 間伐作業 33 fha를 실행하였다.

<表 1-3-3>

育林事業 推進實績

(單位: fha)

	'83	'84	'85	'86	'87
計	943	694	679	410	417
追肥	250	137	134	119	136
물베기	335	275	204	173	158
椎樹가꾸기	345	253	299	78	73
덩굴除去	1	4	16	16	17
間伐	12	25	26	24	33

資料: 山林廳 造林局

<表 1-3-4>

間伐促進團地 指定現況

計	位 置	面 積	'87間伐面積
	8個 團地	16,249 ha	4,554 ha
京 畿	楊平郡 西宗面	1,838	592
江 原	平昌郡 蓬坪面, 珍富面	1,997	270
忠 北	清原郡 加德面, 琅城面	1,000	300
忠 南	公州郡 正安外 1	1,478	333
全 北	茂州郡 赤裳外 3	2,399	644
全 南	昇州郡 松廣外 2	1,500	500
慶 北	英陽郡 英陽邑	3,000	1,000
慶 南	固城郡 會華面	3,037	915

資料: 山林廳 營林局

4. 優良 種苗의 安定供給

좋은 形質의 秀型木과 採種林, 優良林에서 優良種子를 採取하여 健全苗木

을 키우는 養苗事業은 곧 山地資源化의 基本이 되는 重要한 事業으로서, '87年度에 長期樹, 速成樹, 有實樹등 137, 586千本을 養苗 施業하였다.

<表 1-3-5> 養 苗 生 產 計 劃 (單位: 百萬本)

	實		績	
	'84	'85	'86	'87
計	147.2	157.4	150.6	137.6
長 期 樹	120.3	135.2	132.8	123.4
速 成 樹	5.5	4.0	3.5	2.3
有 實 樹	0.5	0.4	0.6	0.6
砂 防 樹	18.0	14.7	10.0	7.5
大 苗	2.9	3.1	3.7	3.8

資料: 山林廳 造林局

第 2 節 山林保護 強化

1. 산불 및 山林被害 防止

最近 山林이 울창해지고 山을 찾는 사람들이 急増함에 따라 산불發生危險率이 점점 높아지고 있으며, 일단 發生한 산불은 大型化되고 있는 趨勢이다.

'87年度 산불發生狀況은 '86年보다 88件이 減少된 87件이 발생되었으며 減少된 主要原因은 氣象條件의 好調와 함께 '86年の 大型산불을 거울삼아 段階別로 산불危險警報制를 實施하고, 산불脆弱地域의 監視를 強化하는등 豫防爲主의 산불警報體制를 더욱 強化하고, 特히 담배갑(술)에 산불조심포스터를 掲載, 全國에 發賣하여 國民에게 산불조심에 對한 認識을 高취시키는 한편 TV, 라디오등 各種放送媒體와 班常會, 캠페인을 통한 弘報 및 啓導 活動을 積極的으로 推進한 結果라 할 수 있다.

原因別로는 入山者失火가 57件(66%)으로 가장 많고, 논·밭두렁 燒却 15件(17%), 어린이불장난 5件(6%), 其他 10件(11%)으로 分析되고 있다.

<表 1-3-6>

原因別 산불 發生現況

(單位：件)

	'82	'83	'84	'85	'86	'87
計	136	135	359	165	275	87
入 山 者 失 火	68	66	159	86	157	57
논·밭두렁태우기	42	29	93	28	52	15
어린이불장난	10	13	50	28	22	5
其 他	26	27	57	23	44	10

資料：山林廳 林政局

한편 過去 山林事故의 大宗을 이루던 無許可 伐採등 山林被害를 根絶하기 爲하여 關係 職員으로 하여금 月 3回以上 責任 區域을 巡山토록 義務化하고 分期別로 1回以上씩 警察과의 合同團束班을 編成 伐採許可地, 선착장등 취약지를 中心으로 機動 團束을 實施함으로써 盜·濫伐發生 件數는 '86年度보다 144件(22%) 줄어들었다. 다만 山林事故全體件數는 '86年度보다 크게 줄어든 1,388件('86 : 1,852件)으로서 사고발생件數는 줄었으나 被害材積은 1,786 ㎥('86 : 1,467 ㎥)으로서 多少 增加를 보였다.

原因別로는 不法山林毀損이 583件, 無許可伐採 358件, 濫伐 160件順으로 被害가 發生되었으며 아직도 伐採許可를 奇貨로한 不法伐採와 朱木등 稀貴 樹木의 濫採등이 根絶되지 않고 있어 이를 防止하기 爲해 地域責任制에 依한 脆弱地 巡察을 더욱 強化하고 伐採許可地에 對한 監視 및 監督을 徹底히 하는 한편 稀貴樹木群落地에 對하여는 每木마다 一連番號를 부여하고 臺帳化하여 管理하는 등 山林事故 根絶에 努力하였다.

<表 1-3-7>

年度別 山林事故 發生現況

	'70	'75	'80	'85	'86	'87
面 積 (件)	16,760	7,567	4,770	1,713	1,852	1,388
面 積 (ha)	6,570	834	470	112	83	96
材 積 (㎥)	16,849	3,375	1,854	1,771	1,467	1,786

資料：山林廳 林政局

2. 山林病害蟲防除

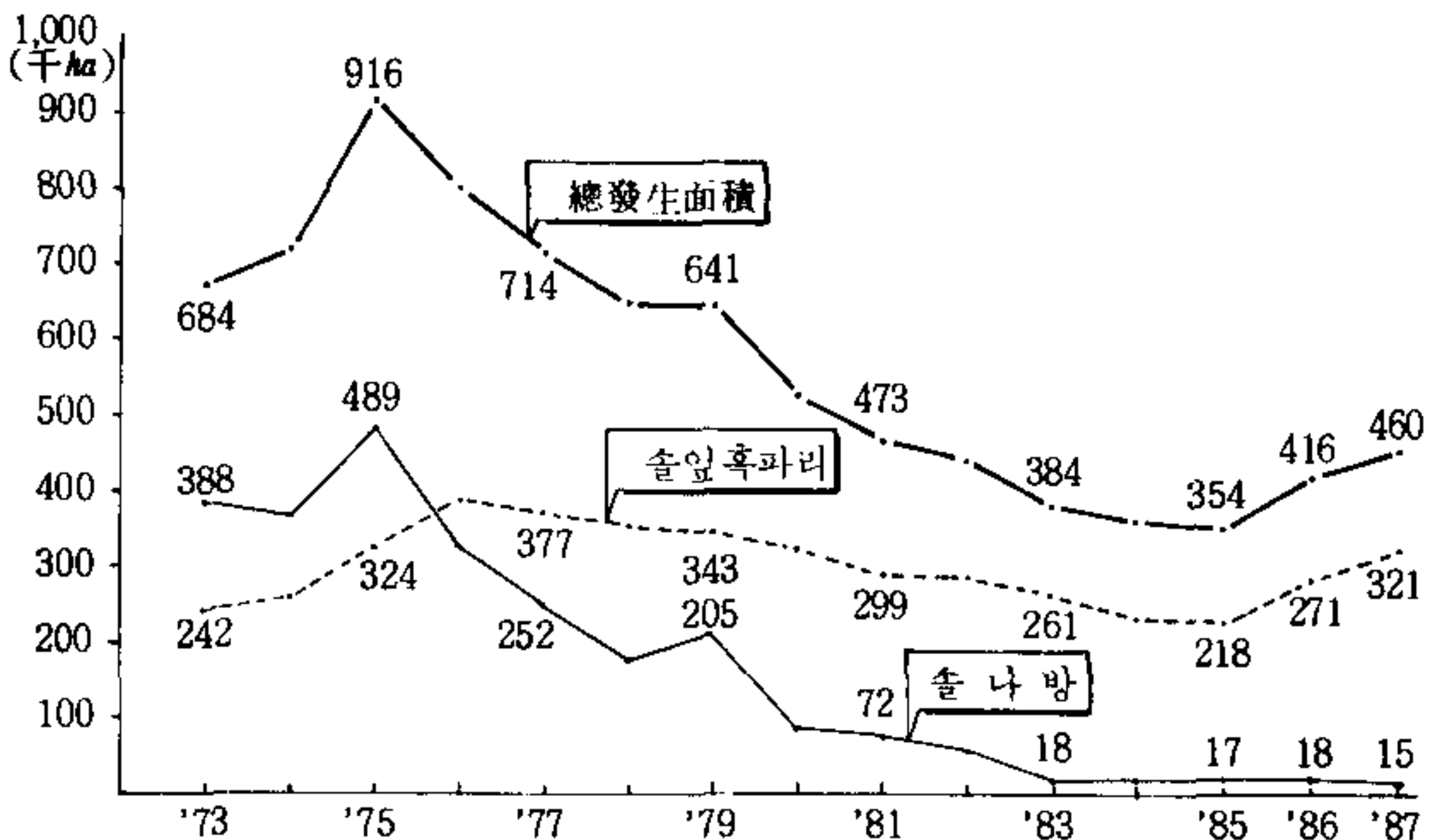
山林病害蟲은 그동안 꾸준한 防除活動과 울창한 山林造成으로 山林生態系의 均衡이 이루어지게 되어 '70年代 中盤以後부터 계속 減少 추세에 있었으나 '87年度에는 '86年度보다 44千ha 增加되었다. 增加原因은 솔잎혹파리피해가 '83年以後 每年 增加趨勢에 있는데 기인되며, 특히 소나무林地에 甚한 被害를 주고 있는 솔잎혹파리被害를 防止하기 위하여 樹幹注射, 根部處理藥劑인 테믹處理, 被害地 樹種更新등 防除活動을 強化하고 있으나, 솔잎혹파리의 根源的防除는 事實上 어려운 形便이다.

또한 農山村의 所得源을 保護하기 위하여 잣나무, 밤나무林地에 對한 航空防除를 實施하고, 生態系의 均衡破壞를 防止하기 위하여 樹種更新, 衛生間伐등의 林業的防除를 積極 展開하였다.

'87年度 防除實績은 175千ha로 主要山林病害蟲인 솔잎혹파리 25千ha, 솔나방 21千ha, 흰불나방 49千ha, 오리나무잎벌레 27千ha를 重點的으로 防除하였으며, 잣나무털녹病등 其他 病蟲害防除 42千ha와 솔껍질각지벌레 被害林地에 對한 樹幹注射 및 衛生間伐 11千ha를 實施하였다.

<圖 1-3-1>

山林病蟲害 發生推移



資料：山林廳 林政局

<表 1 3 8>

年度別 山林病害蟲 防除 實績

(單位: Fha)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87
計	230	216	172	152	160	166	175
솔 잎 흑 과 리	10	22	18	18	16	18	25
솔 나 방	110	88	55	20	19	22	21
흰 불 나 방	54	51	40	42	46	43	49
오리나무잎벌레	36	34	28	28	27	29	27
잣나무털녹병	9	6	3	3	3	3	2
솔껍질각지벌레			15	10	10	10	11
기 타	11	15	13	31	39	41	40

資料: 山林廳 林政局

3. 野生 鳥獸 保護 管理

우리나라에 서식하고 있는 野生 鳥獸現況을 보면 鳥類가 371種, 獸類가 95種이며, 이중 天然記念物로 指定된 鳥類가 크낙새外 36種, 獸類는 사향노루外 5種이다.

그러나 最近 都市化, 産業化의 영향으로 野生鳥獸棲息環境이 파괴되고 있어 지금까지의 保護 團束 爲主의 消極的 保護에서 탈피하여 積極的인 保護를 위하여, '86年度에 野生鳥獸保護基本計劃을 樹立하여('87~91年) 今年부터 積極 推進하고 있다.

그리고 370個 鳥獸保護區를 設定管理하고 있으며 鄉土새(道別)를 指定하여 鳥獸愛護精神을 鼓吹시켜 나가고 있다.

市道別 鄉土새 指定 狀況을 보면

서울 까치, 釜山 갈매기, 大邱 독수리, 仁川 두루미, 光州 비둘기, 京畿 비둘기, 江原 삿꾸기, 忠北 까치, 忠南 원앙새, 全北 까치, 全南 산비둘기, 慶北 왜가리, 慶南 백로, 濟州 큰오색딱다구리등을 指定하였다.

第 4 章 林業基盤의 擴充

第 1 節 林業經營의 合理化

1. 林道施設의 擴充

林道는 山林施業의 機械化, 省力化를 促進시켜주고 特히 손이 닿기 어려운 山林에 對한 造林 및 育林을 원활하게 할수 있어 山地資源化를 促進시킬수 있는 가장 重要한 要因이 되고 있으며 山火, 病害蟲防除등 山林災害에 신속히 對處할수 있고 地域社會開發에도 기여하는 등 多目的인 效用을 지닌 必須的인 林業基盤施設이다. 우리나라는 '68년에 國有林 林道를 처음 施設하기 始作하였고, 私有林에는 '83년부터 始作하여 '87까지 總 1,006km를 施設하였다.

그중 '87年度에 總 305km를 國有林에 47km, 民有林에 258km 施設하였으며 經濟林團地, 協業經營團地등 特定地域에 優先 施設하였다.

그리고 國有林道 施工能力을 培養하기 爲해 直營林道 10km를 施工 完了하였고 아울러 林道の 經濟的 施工과 適正 林道路線 配置方法을 研究하고 教育하기 爲하여 林業 機械訓練院에서 15km를 示範的으로 施設하여 林業公務員의 現地實演教育場으로 活用하고 있다.

우리나라 林道の ha當 密度는 0.15m에 不過해 獨逸의 40m, 美國의 10m, 日本의 4m에 比해 매우 貧弱한 實情이므로 앞으로 2010년까지 ha當 密度를 現在 日本 水準인 4m까지 높이고 2030년까지는 ha當 密度를 10m까지 끌어올릴 計劃으로 推進하고 있다

<表 1-4-1>

林道施設實績

(單位: km)

區分	'82年以前	'83	'84	'85	'86	'87
計	224	9	77	161	230	305
國有林	224	4	11	27	41	47
民有林		5	66	134	189	258
總延長 (ha當密度)	224 (0.03)	233 (0.03)	310 (0.05)	471 (0.07)	701 (0.11)	1,006 (0.15)

資料: 山林廳 營林局

2. 私有林 協業經營擴大

우리나라의 山林所有構造를 보면 10ha未滿의 山林을 所有하고 있는 零細山主가 96%에 達하고 있는 實情으로서, 이와같은 零細私有林의 開發을 活性化하는 것이 時急한 課題이다.

따라서 零細私有林을 協業의 方法으로 開發 促進하기위해 '75年 韓·獨技術協力事業의 一環으로 慶南 梁山에서 처음으로 私有林協業經營 모델事業을 實施한 結果, 그 成果가 優秀하여 '84年부터는 全國 各道에 이를 擴散함으로서, '86年까지 8個 協業經營指導所(34個協業體)를 設置하여 山主 協同體로 運營하고 있다.

'87年度에는 또 다시 江原 橫城, 忠北 堤原, 全南 昇州, 慶南 咸陽의 4個地域에 私有林協業經營指導所를 設置함으로서 '87年末現在 12個協業經營指導所를 運營하고 있으며, 또한 '87년에 全國의 協業體에서 實行한 事業은 造林 397ha, 天然林保育 465ha, 育林 4,643ha, 林道施設 18km, 間伐 830ha에 達하며, 林業技術指導員 增員(4個指導所 16名)과 林業機械·裝備(機械外 3種)를 支援하였다.

〈表 1-4-2〉

私有林 協業體 造成實績('87 年末 現在)

道 別	協業經營 指導所	協業體數	加 入 實 績	
			面 積	山 主
計	12個所	53 個	30,998 ha	3,931 名
京 畿	楊 平	6	4,143	295
江 原	平 昌	4	3,413	402
"	橫 城	5	2,047	521
忠 北	清 原	5	2,431	406
"	堤 原	4	1,390	206
忠 南	公 州	4	3,021	371
全 北	鎮 安	3	3,075	349
全 南	長 城	5	2,717	339
"	昇 州	5	1,914	274
慶 北	尙 州	3	2,514	353
慶 南	蔚 州	4	2,676	245
"	咸 陽	5	1,657	170

資料：山林廳 造林局

3. 國有林 擴大 經營

우리나라의 國有林은 大部分 奧地인 上流水源 地域에 分布되어 있어 用材 生産뿐만아니라 水源涵養, 國土保全等 公益機能에 重要な 役割을 하고 있다.

現在 우리나라의 國有林率은 20%에 不過한 實情이지만 國家에서 必須的으로 保全經營하여야할 林地를 確保하고 山林의 集約的 經營基盤을 造成하기 위해 앞으로 2030년까지 國有林率을 日本 및 獨逸水準인 40%선까지 擴大시킬 計劃으로 推進하고 있다.

'87년에는 要存 國有林에 連接 또는 介在된 民有林 913ha를 買收하였고 小規模 分散 國有林과 民有林 2,412ha를 交換하고, 無主不動產 3,825ha를 取得하였다.

第 2 節 林業技能 人力的 養成

1. 篤林家 支援 擴大 및 林業後繼者 育成

山主에 依한 自律的 經營을 誘導하기 爲하여 '74年 처음으로 244名의 篤林家を 發掘하기 시작하여 '87年度 現在 492名의 篤林家가 있으며 그 동안 政府에서 各種支援을 해오고 있으나 아직까지 經營活性化를 하기에는 未洽한 實情이다.

이러한 篤林家들이 私有林經營 活性化의 先導的役割을 다할 수 있도록 하기 위해 '87年度에 新規로 31名을 指定, 그 人員을 每年 늘려감과 아울러 經營을 助長해 주기 위해 伐採施業을 自律的으로 할 수 있도록 制度化하고 林業金融支援, 技術指導支援 등을 擴大하고 있다.

한편 篤林家の 身上 및 經營現況을 카드화하여 事後管理를 徹底히 하고 褒賞擴大와 現地 研鑽會開催 등으로 篤林家の 士氣를 振作시킴으로써 認定感을 심어주고 있다.

또한 篤林家の 相續對象者나 農山村居住 農高林科以上 졸업자로서 山林經營意慾이 높은 靑少年을 林業後繼者로 선발 私有林 經營의 先導者가 되도록 育成하기 위해 有關機關과 協調하여 林業後繼者를 育成코자 關係法規의 改正 등을 積極 推進하고 있다.

〈表 1-4-3〉 篤 林 家 現 況

		基 準		認 定 權 者	人 員
		所 有 規 模	造 林 實 績		
加 入 人	模 範	300ha 以上	100ha 以上	山 林 廳 長	72 名
	憂 愁	100 "	50 "	道 知 事	191 "
	自 營	50 "	20 "	市 長 · 郡 守	216 "
法 人		500 "	300 "	山 林 廳 長	13 法人

資料：山林廳 造林局

2. 專門 林業人力の 養成

數年前까지만 해도 山林作業은 大部分 手作業에 依해 이루어져 왔으나 最近 勞動力의 都市流出에 따른 農山村勞動力不足과 生活水準의 向上으로 因한 山地勞動을 기피하는 傾向에 따라 林業勞動의 機械化 및 專門化의 必要性이 擡頭되고 있어 '82年度 韓獨事業의 一環으로 林業機械訓練院을 設置, 林業勞動者에 對한 訓練을 實施하여 지금까지 156名을 專門技能人으로 養成하였다. 養成된 技能人은 國家技術資格法에 依한 一定한 資格을 賦與받고 營林署와 全國의 協業經營指導所에 組織된 技能人作業團에 所屬되어 山林作業에 從事하게되는바, '87年度는 既存에 養成한 作業團員의 補修教育에 重點을 두고 總 60名에 對한 教育을 完了하였다.

第5章 流通構造改善 및 木材安定供給

第1節 木材需給 安定

우리나라 山林의 平均 齡級 構造를 보면 IV齡級以上の 伐採利用 可能한 成林面積은 473千ha로 全體 林木地의 7%에 지나지 않아 당분간 資源 保全的 側面에서 國內材 節伐 政策을 堅持, 國內材 生産은 間伐 爲主의 生産體制를 維持하고 坑木, 펄프 등과 같은 必須産業用材에 優先 供給해 나갈 것이다.

한편, 外材의 適正導入을 期할수 있도록 木材工業協同組合, 海外山林開發協會等 民間主導에 의해 輸入 自律化가 이루어 질수 있도록 調整해 나가고 있다.

아울러 安定的인 外材 供給先 確保를 爲해 海外 山林開發을 東南亞 爲主에서 南美, 아프리카등으로 多邊化하고 資源保有國과의 外交를 한층 強化해 나가고 있다.

'87年度 木材 需給量은 '86年度보다, 950千 m^3 이 많은 8,532千 m^3 을 供給 하였고, 그중에 內材 1,388千 m^3 , 外材 6,462千 m^3 , 廢殘材 682千 m^3 을 供給 하였다.

<表 1-5-1>

木材供給實績

(單位: 千 m^3)

	計	木材供給量			廢殘材	自給率
		小計	內材	外材		
'70	4,000	4,000	845	3,155		21
'75	6,465	6,015	896	5,119	450	14
'80	7,750	7,149	1,008	6,141	601	13
'85	7,321	6,766	1,188	5,578	555	16
'86	7,582	7,014	1,242	5,772	568	16
'87	8,532	7,850	1,388	6,462	682	17

資料: 山林廳 營林局

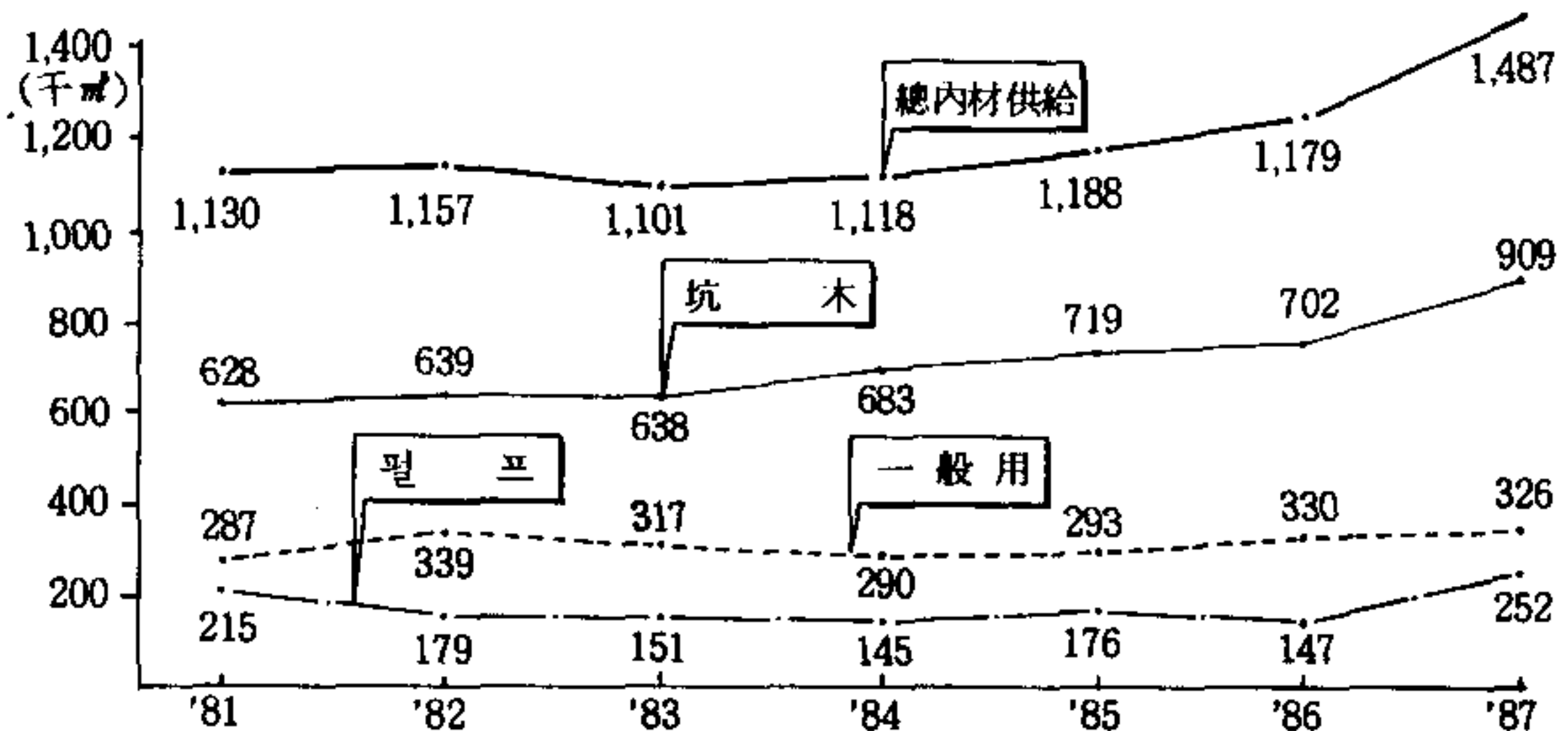
2. 國產材 活用度 提高

'87年度 國產材의 用途別 利用現況을 살펴보면 坑木用 66%, 펄프用 23%, 一般用材 11%로 大部分 坑木과 펄프用으로 使用 되고 있다.

앞으로 國內材 生産에 있어서는 大徑材 보다는 間伐小徑材 爲主로 國內材를 供給하려는 節伐政策에 맞추어 間伐 小徑材의 用途開發 方案을 研究하며, 아울러 木材의 耐久年限을 延長시키고 廢殘材를 最大限 活用, 木材消費 節約을 積極 推進해 나가고 있으며 '87年度에 470千 π 의 廢殘材를 파티클 보드, 하드보드, 화학펄프, 製造原料등으로 活用하고 建築 用材, 枕木, 坑木등 85千 π 을 防腐處理 하는등 國產材 活用度 提高를 爲하여 積極努力 하였다.

<圖 1-5-1>

年度別 國產材 利用 推移



資料：山林廳 營林局

第 2 節 林產物 流通構造의 合理化

우리나라의 경우 主產物인 木材, 特히 間伐小徑材의 需給問題가 擡頭되고 國民들의 食生活變化에 따라 밤, 잣, 버섯등 山林副產物의 需要가 늘고 있어 體系的인 流通 秩序 確立과 構造 改善이 要請되고 있는 實情이며 앞으로 間

伐이 늘어나고 農村 所得 事業으로 副產物 生産이 增大되면 林產物 流通問題는 더욱 深化될 것이다.

따라서 林產物의 流通 體系 確立과 市場 情報提供으로 山主의 利益을 增進하고 山村 所得을 增大시키기 爲해 山林組合을 林產物 流通 센터로 育成하여 各種 林產物의 收集 流通情報提供 機能등을 擔當 하도록 하고 있다.

'87年度 이와같은 機能을 더욱 원활히 遂行토록 하기위해 既存의 林產物 直賣場 運營改善과 함께 全北 全州에 直賣場을 새로 設置 그 地域特產物을 消費者에게 直接供給하여 生産者와 消費者의 利益保護에 努力하였다.

第3節 山村所得源 開發과 林產物 輸出 擴大

1. 山村 所得源 開發

우리나라는 그동안 荒廢된 國土의 綠化를 爲해 山地 被履과 山林資源 保護에 總力을 기울여온 結果 山地를 國民經濟的 側面에서 效率적으로 利用 開發하는데는 消極的인 面이 없지도 않았다.

그러나 社會, 經濟的 與件 變化에 다른 國民의 새로운 欲求에 副應하여 앞으로는 山地를 資源으로 가꾸면서 草地, 果樹園, 桑田 등으로 開發하고 약초, 버섯등을 栽培하는 등 農山村 住民의 所得을 높이기 위해서 山地를 他用途로 利用開發하는 등 多角的으로 活用해 나가야 할 것이다. 따라서 '81년부터 '85년까지 全山林에 걸쳐 山地 利用區分調查를 實施하고 山地를 一定基準에 따라 林產資源增殖 및 公益機能增進을 위해 活用할 保全林地와 他目的으로 活用 가능한 準保全林地로 區分한 바에 따라 山地를 農山村 所得源으로 開發하는데 支援하였다.

山林所得源 開發 擴大를 위해 特產品別 主產團地를 18個所 指定하였는 바, 그 指定品目は 밤, 송이, 포고, 石材, 山菜, 잣, 대추 등이며, 또한 林產物 所得增大를 위해 加工工場등 施設 運營등에 必要한 資金을 農漁村地域 開發

基金등에서 16, 758百万원을 支援 하였다.

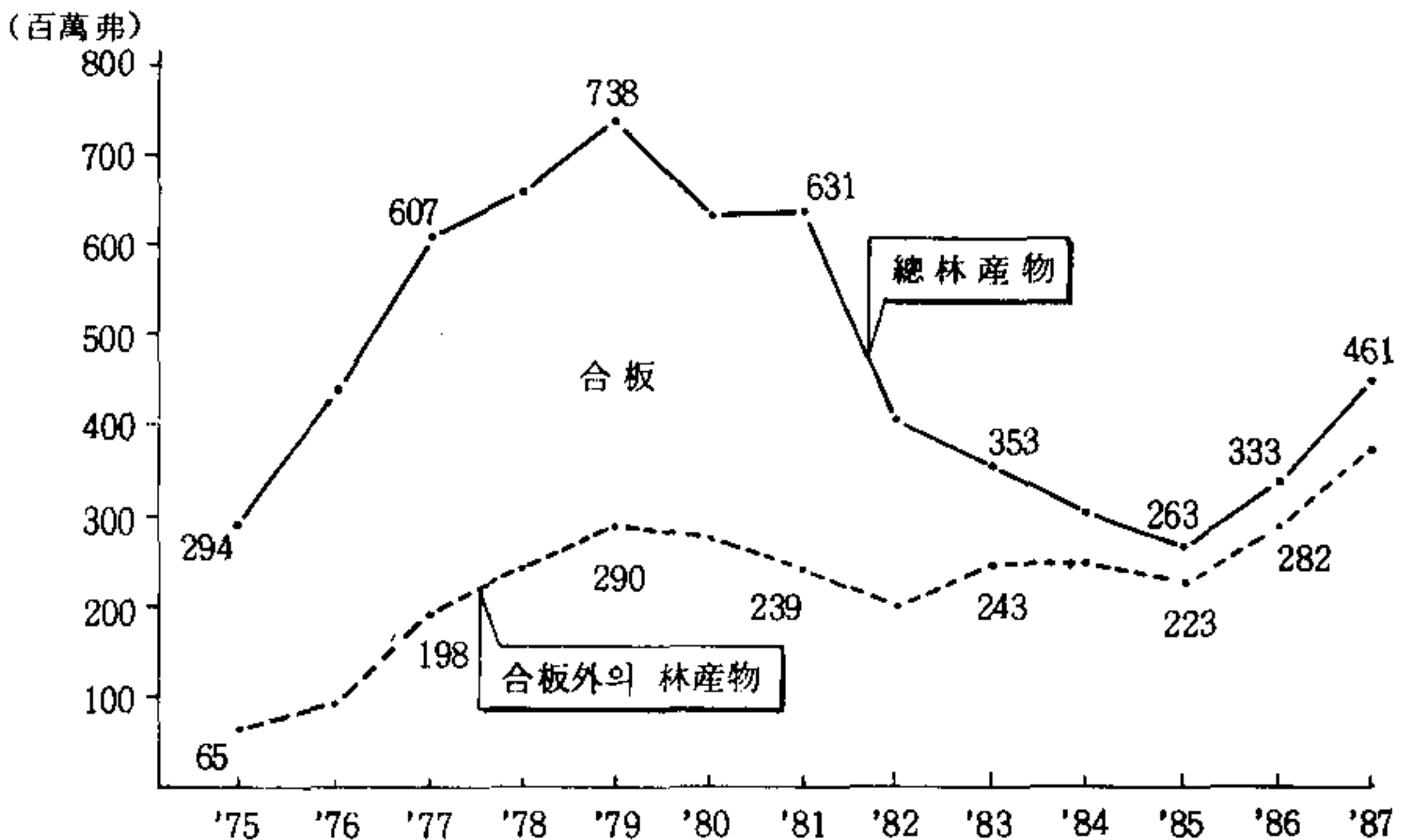
2. 林產物 輸出 增大

'80年代에 들어서면서 合板輸出의 不振으로 林產物 輸出은 계속 減少 趨勢였으나, '86年度 부터 石材, 珪고, 송이, 밤 등이 輸出이 好調를 보이고 合板輸出도 점차 늘어나면서 부터 林產物輸出은 增加趨勢에 있다. '87年度 林產物 輸出額은 461百万\$로서 '86年보다 128百万\$이 늘어났으며, 이는 合板輸出이 回復勢를 보이고 있고, 밤, 石材, 송이 등 山林副產物 輸出이 增加趨勢에 있기 때문이다.

또한 林產物 輸出 增大를 위해 有望品目에 對하여 45億원의 資金을 支援 하였고, 台灣과의 珪고버섯 輸入關稅를 kg當 483NT\$에서 300NT\$로 引下 하는 등 輸出與件改善과 海外市場 開拓에 努力하였다.

<圖 1-5-2>

林 產 物 輸 出 推 移



資料：山林廳 林政局

<表 1-5-2>

林 產 物 輸 出 實 績

(單位：百万弗)

		'75	'80	'84	'85	'86	'87
總	輸 出 (A)	5,081	19,505	29,245	30,283	34,714	47,281
農 林 水 產 物 (B)		931	1,725	1,472	1,397	1,925	2,686
林 產 物 (C)		294	629	300	263	333	461
· 合	版	229	352	66	40	51	56
· 木	材	18	82	26	21	27	47
· 木	製 品	9	37	31	18	20	26
· 壁	紙	12	35	17	16	12	15
· 石	材	12	58	76	84	122	166
· 비	석	10	24	33	43	43	40
·	밤	—	37	47	37	53	84
· 其	他	4	4	4	4	5	27
比 重	C/A (%)	5.8	3.2	1.0	0.9	1.0	1.0
	C/B (%)	31.5	36.5	20.4	19.8	17.3	17.2

資料：山林廳 林政局, 關稅廳 貿易統計

第6章 山林의 公益機能 增進

第1節 山林의 國土 保全機能 提高

1. 砂防事業

그동안 砂防事業은 主로 集團荒廢地復舊를 위한 山地砂防에 力點을 두어 온 結果 남아있는 山地砂防對象地는 約 2千ha로서 '88까지 完了豫定이었으나, 今年 集中豪雨로 因한 산사태 발생지의 우선 復舊關係로 集團荒廢地復舊 完了가 한해쯤 늦어질 展望이다. 앞으로의 砂防事業은 荒廢계천을 安定시켜 下流農耕地 등을 保護하기 위한 野溪砂防과 砂防댐 施設에 力點을 두고 推進하고 있다.

'87年度, 砂防事業은 山地砂防 1,535ha, 海岸砂防 20ha을 實施하여 山林의 理水機能을 增進시키고, 下流 농경지를 保護하기 위해 砂防댐 23個所를 開設하였으며, 野溪砂防 67km를 施設하였다.

〈表 1-6-1〉 砂 防 事 業 實 績

	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87
山地砂防(ha)	3,850	5,850	5,239	3,040	3,203	2,230	1,535
海岸砂防(ha)	50	65	21	68	43	60	20
野溪砂防(km)	-	4	-	30	50	70	67
砂防댐(個所)	-	-	-	-	-	30	23

資料：山林廳 造林局

〈表 1·6 2〉

砂 防 事 業 效 果

	山 地 砂 防	海 岸 砂 防	野 溪 砂 防
水 源 涵 養	· 土砂流出防止 및 理水機能 向上		· 洪水被害減少
· 地表流下水率減少	· 76%→30%		
· 土砂流出防止	· ha當 97m ³		
· 滲透率提高	· 100%→295%		
林 產 燃 料 生 產	· 施 I. 5年後 ha當 每年 10m ³		
用 材 生 產	· 施 I. 40年後 ha當 4m ³	施 I. 40年後 ha當 60m ³	
公 害 解 消	· CO ₂ : 每年 ha當 16% 吸收 · O ₂ : 每年 ha當 12% 發散 (年間 44명 호흡량)		

資料：山林廳 造林局

2. 保安林管理

先進社會로 進入됨에 따라 國民들의 休養需要 增大는 물론 環境汚染, 食水問題等 公害에 關한 問題가 크게 대두되고 있을뿐 아니라 우리나라와 같이 國土面積이 좁고 여름철에 降雨가 集中되고 있는 나라에서는 土砂流出防止 등 國土保全的 側面과 水源涵養을 위하여 山林의 役割은 매우 重要하다고 할 수 있다. 이에 따라 水源地附近의 山林, 土砂流出이 豫想되는 山林 景觀을 維持시켜야 할 林地等 公益上 꼭 必要로 하는 山林을 保安林으로 指定管理해 오고 있다. '87年은 「保安林一齊 整備의 해」로 定하고 全國 354千ha의 保安林 實態調査를 실시하여 與件變化로 必要性이 없어졌거나 이미 目的을 達成한 保安林은 解除하고 公益上 特別히 必要한 山林 334千ha만 指定管理해 나가도록 整備하였으며 保安林內에서의 가지치기 등 撫育事業은 指定目的에 支障이 없는 범위내에서 任意로 할수 있도록 하여 山主의 權益을 保護해 주고 있다.

第2節 山林休養空間 擴充 및 景觀造成

1. 올림픽關聯地域 景觀造成

'88올림픽에 對備하여 '82년부터 主要觀光地, 史蹟地, 獨立記念館周邊등의 景觀造成을 위한 大苗造林을 實施하였다. '87年度에는 올림픽關聯 道路邊의 切開地나 裸地의 被覆造林과 獨立記念館 등 史蹟地 및 觀光地의 景觀造林을 9,355ha에 15,379千本の 大苗를 植栽하였으며, 아올러 競技場 周邊과 聖火奉送路, 國鐵道邊 山林에 對한 山林病蟲害防除를 重點的으로 實施하여 自然景觀이 毀損되지 않도록 積極的인 노력을 傾注하였다.

2. 街路樹 植栽管理

街路樹는 快適한 街路景觀 造成으로 都市美觀을 向上시키고 國民情緒生活에 도움을 주는 것은 勿論 大氣淨化, 防風, 防音 등 各種 公益的 機能增進에 큰 役割을 하고 있다. 街路樹는 '87年度 現在 全國 52千km의 道路邊에 은행나무, 이태리포플러, 플라타나스등 2,666千本을 植栽하였다.

<표1-6-3>

年度別·樹種別 街路樹 植栽現況

(單位: 千本)

年度別	計	플라타나스	이태리포플러	현사시	은행나무	수양버들	히말리야사시	메타세콰이아	벗나무	단풍나무	목백합	기타
計	2,666	387	501	355	534	235	61	37	114	45	59	338
'82 까지	1,704	265	331	316	184	226	24	14	82	18	28	216
'83	173	30	26	23	33	3	7	5	9	6	9	22
'84	168	22	36	4	48	1	9	6	6	7	9	20
'85	189	24	33	4	75	1	9	4	5	6	5	23
'86	181	19	38	3	65	2	7	2	4	6	6	29
'87	251	27	37	5	129	2	5	6	8	2	2	28

資料: 山林廳 造林局

'87年度에는 總 251千本の 街路樹를 植栽하였으며, 樹種別로는 은행나무 129千本으로 가장 많고 그다음 이태리포플러 37千本 등 總 43種의 街路樹를 植栽하였다.

3. 山林樹木園과 博物館 管理運營

林業史料의 保存과 함께 傳統樹種의 展示와 國民의 自然學習教育場으로 活用하고 나아가 韓國의 林業을 世界에 紹介하기 위해 '83년부터 京畿道 光陵 林業試驗林內에 造成해 온 山林樹木園과 博物館을 '87年 4月 4日 植木日 行事와 더불어 준공식을 갖고 4月 21日부터 一般國民에게 開場하였다.

樹木園規模는 總 500ha로서 盲人植物園, 藥用植物園, 花木園 등 15個園으로 構成되어 있고, 樹木 1,716種, 草本 1,059種 總 2,775種이 植栽되어 있으며, 博物館은 地下1層, 地上2層의 建物로서 動·植物標本, 木製品등 14千餘種을 展示하고 있고 開場以後 總 181千名の 觀覽人員이 入場하여 65百萬원의 入場收入을 올렸다.

4. 休養林 및 林間修練場 運營

都市近郊 山林에 國民休養과 情緒涵養에 寄與할 수 있는 休養林을 年次的으로 擴大 造成하여 國民에게 開放 利用할 수 있도록 休養林 造成의 法的根據를 마련중에 있으며 이미 慶南에 造成되어 있는 6個所의 休養林을 地域住民의 休息空間으로 活用해 나가고 있다.

또한 靑少年의 心身을 단련함은 물론 自然學習場으로 利用하기 위해 中部 營林署 麟蹄管理所 管轄 國有林內에 林間修練場을 設置 運營하고 있으며 앞으로 이를 점차 擴散시켜 나갈 方針이다.

第7章 林業試驗研究 促進과 技術普及

第1節 林業試驗研究 促進

1. 合理的인 山林經營과 所得開發에 關한 研究

私有林 營林計劃 制度와 運營上의 改善方案을 提示하는 한편 소나무와 잣나무의 用途別 適正 伐期齡등을 밝혀냄으로써 效率的인 山林經營에 이바지 하였으며, 케이블크레인 및 트랙터 集材作業工程을 究明하고, 山林副産物(표고)의 生産 및 流通實態를 調査分析하여 그 改善策을 提示함으로써 農山村 所得增大方案을 摸索하였다.

2. 山林作業의 省力化와 能率化 技法研究

造林장려 樹種인 스트로브잣나무등 15樹種의 養苗施業基準을 確立하였으며, 藥劑에 의한 苗圃除草作業 및 地拵, 下刈作業을 省力化 할수 있는 方法을 발견하였으며, 도태間伐의 效果的인 作業實行方法, 天然林保育方法, 除伐方法改善에 의한 混濬林造成, 適地適樹를 爲한 山林토양을 分類함으로써 造林에서부터 間伐에 이르기까지의 作業을 科學的이고 能率的으로 實行할 수 있도록 하였다.

한편 山火로 因한 山林토양의 變化 및 植生遷移등을 밝혀냄으로써 山火跡地의 效果的인 造林 및 育林方法을 提示하였다.

3. 林産資源의 新用途開發

낙엽송, 리기다소나무 등의 利用度를 增進시키기 爲하여 間伐材의 原木

및 製材 利用方法을 究明하였다.

또한 가래나무外 9樹種의 木材 理化學的 材質特性을 究明함으로써 이들 木材의 合理的인 利用加工方法을 提示하였고 木質資源을 代替 飼料로 利用하고자 木質의 飼料化 研究를 實施하여 현사시, 참나무類등을 既存飼料에 30% 混合給食하는 方法을 밝혀냈으며, 林産Biomass를 利用한 代替에너지개발에 拍車를 加하여 經濟性 提高에 힘쓰고 있다.

4. 山林被害防止

산불豫防과 鎮火技術開發을 爲하여 樹種別, 齡級別 연소物質을 모델化하고 林內 溫濕度, 연소溫도의 變化 및 林相別 화염溫度를 밝혀냄으로써 山火 危險率判斷의 基礎資料로 提供하였으며, 소나무노랑점바구미 및 소나무좀의 防除法을 開發하였고 또한 소나무등 28개 樹種의 病害診斷에 活用할수 있도록 病害診斷檢索表를 作成하였다.

5. 生物工學을 應用한 新品種 育成

우리나라는 '80年代에 生物工學을 應用한 育種研究를 꾸준히 推進해온 結果 그동안 剛松 大量增殖法 및 交配不能樹種間 細胞融合可能性 究明등 育種研究에 新紀元을 이룰 상당한 성과를 거두었다.

'87년에 葯(꽃가루)培養, 칼루스器官分化, 細胞培養 등을 통한 新品種開發研究를 계속하고 特히 細胞融合 技術에 依한 試驗管内 交配實施 및 組織培養過程 實用化 試驗을 實施하였다.

第2節 林業技術 指導 普及擴大

1. 林業技術指導 力量強化

'86年末 現在 우리나라 私有林面積은 4,674千ha이나 林業技術指導員數는 377名에 不過해 技術指導員 1人當 管轄面積은 12千ha에 達하고 있고 指導員 1人當 山主 5千名을 指導해야 하는 實情이다.

이에 따라 私有林 經營의 活性化를 위해서는 林業技術指導員의 擴充이 必要하다는 認識 아래 第6次 經濟社會發展 5個年計劃期間 동안 總 450名의 林業技術指導員을 增員할 計劃으로 今年에 150名을 增員, 一線 市·郡 山林組合에 配置하여 林業技術指導를 大幅強化하였다. 아울러 技術指導員의 指導能力을 培養시키기 위하여 林業研修院에서 專門技術教育을 實施하는 한편, 山林組合中央會에서 自體職務教育을 實施하는 등 指導員의 資質向上과 技術指導能力培養에 努力하였다.

<表1-7-1>

林業 技術指導員 配置現況

(單位：名)

	計	山組中央會	山組道支部	山林組合
計	527	10	51	466
1級 指導員	10	2	8	—
2級 指導員	152	2	9	141
3級 指導員	365	6	34	325

資料：山林廳 造林局

2. 林業技術 情報

篤林家 및 山林契員 등은 물론 山林行政機關과 關聯團體에 山林施策을 널리 알리고 새로운 林業技術과 情報 등을 신속하게 提供해주기 위해 山林組合中央會에서 國內唯一의 林業專門技術誌인 山林誌를 月 23千部씩 발간 普

及하고 있으며 이에 所要되는 발간經費의 70%를 國庫에서 補助해 주고 있다

'87年度에는 山主가 손쉽게 자기山에 알맞는 造林樹種을 선택할 수 있도록 地域別 適地適樹基準表 11千部를 製作하여 山林行政機關과 山林組合, 團體 등에 普及하였다.

또한 우리나라에 自生하고 있는 主要樹木의 컬러사진과 特性을 곁들인 樹木圖鑑과 野生鳥獸圖鑑을 각각 1千部를 발간 普及하여 野生動·植物 愛護意識을 鼓吹시켰으며 山林廳 本廳을 비롯하여 傘下機關 市道·市郡, 市郡山林組合等 443個 機關에 林業相談室을 設置 445名の 相談要員을 指定 運營하고 있으며 山林經營과 林業技術方法 等に 關하여 延 643千件을 相談 案内하여 주었다.

第2編 1988年度 林業施策

여백

第1章 林業政策의 基本方向

第1節 基本目標와 重點施策

第1, 2次 治山綠化 10年計劃의 成功的 推進으로 우리나라의 山林은 完全 綠化되었으며 ha當 林木蓄積은 '72年 11㎥에 不過하던 것이 '87年度末에는 31 ㎥으로 3倍나 增加하였다. 그리고 林地生産力을 增大시키고 山主의 經營意 慾을 鼓吹시키기 위해 林道 등 經營基盤施設을 擴充하는 한편 零細私有林 協業 經營事業을 示範的으로 實施하고 各種 林業資金의 支援擴大와 林業技 術指導를 強化해 나가고 있으나 아직까지 우리 林業은 利用可能山林資源의 貧弱, 私有林所有 構造의 脆弱, 林道施設의 未備, 專門林業勞動力의 不足, 流 通構造의 前近代性, 林業投資의 미흡 등 많은 問題點을 안고 있다. 이러한 우리 林業의 어려운 現實을 打開하고 山에 對한 國民의 欲求를 充足하기 위 하여 政府는 山林政策의 劃期的 轉換과 함께 山地資源化 政策을 推進하기에 이르렀다. '88年度는 山地資源化 10年計劃推進의 첫해로서 資源化 政策의 成 敗를 가름하는 重要的 意味를 가지는 해이다.

따라서 今年度에는 資源化 政策의 基盤을 構築하는데 目標를 두고 經濟林 業과 함께 環境林業을 擴大하여 山地의 多目的 資源化를 이룩함과 아울러 山村住民의 所得增大를 위해 山地를 合理的으로 利用開發 할 수 있도록 林 業振興促進地域 設定, 山林資源 造成의 促進, 林業經營基盤의 擴充, 山林保 護의 徹底, 林業所得開發 및 流通構造 改善, 山林의 公益機能 增進, 實用的 林業技術의 開發에 力點을 두고 施策을 推進할 것이다.

第2節 林業 投融资 規模

1. 林業部門 豫算

'88年度 林業部門 豫算規模는 一般會計와 特別會計, 財特會計를 合하여 總 845億 원으로서 國家全體 豫算規模의 0.35%에 不過하며, 前年對比 豫算增加 率은 36%로 政府豫算增加率인 3.8%보다는 높은 水準이다.

〈表 2-1-1〉 山林部門 豫算 比率

	'87	%	'88	%	增	減	%
政府全體豫算	231,898	100	240,837	100	8,939		3.8
山林部門豫算	623	0.3	845	0.35	222		36

資料：山林廳 企劃管理官室

〈表 2-1-2〉 事業別 林業 豫算 (單位：百萬元)

計	'87	'88	增 △	減	%
計	62,328	84,530	22,202	36	%
I. 事業費	46,924	66,507	19,583		42
1. 機關運營	263	450	187		71
2. 林政管理	1,185	2,228	1,043		88
3. 營林計劃	391	753	362		93
4. 山林保護	3,456	8,098	4,642		134
5. 造林 復育林	17,359	19,854	2,495		14
6. 砂防	10,539	11,778	1,239		12
7. 技術指導	2,808	3,507	699		25
8. 林道施設	2,922	4,552	1,630		56
9. 林業研修	156	1,163	1,007		646
10. 林業試驗	1,570	1,735	165		11
11. 山林調查	166	213	47		28
12. 育種研究	1,541	1,661	120		8
13. 試驗林管理	1,374	1,328	△ 46		△ 3
14. 國有林經營	3,085	3,573	488		16
15. 國有財產管理	-	5,556	5,556		
16. 豫備費	109	58	△ 51		△ 47
II. 基本的經費	12,904	15,023	2,119		16
III. 融資(財特)	2,500	3,000	500		20

資料：山林廳 企劃管理官室

2. 林業資金 支援

'88年度 林業資金支援計劃은 '87年보다 65億원이 많은 238億원으로 이중 山林開發基金 21億원, 財特資金 30億원과 農漁村開發基金등 農安基金 187億 원으로 造林 및 育林, 養苗, 林道施設, 山林副產物 生産事業 등에 支援할 計劃이다.

<表 2-1 3>

林業資金 支援計劃

(單位: 百万원)

	'87	'88計劃	主要事業
計	17,260	23,835	
山林開發基金	1,076	2,100	養苗 350, 표고生産 300 林產物, 利用加工 550 林道施設 등 900
財特資金	2,500	3,000	造林 및 育林 1,380 養苗 350, 표고生産 300 林道施設 등 970
農漁村地域開發基金	2,951	5,108	밤加工工場施設 464 林產物利用加工 1,544 표고生産 등 3,100
農水產物價格安定基金	7013	10,500	밤出荷調節 9,000 건표고수집 등 1,500
養苗資金	3,720	3,127	養苗事業

資料: 山林廳 林政局

第2章 山林資源造成의 促進

第1節 林業振興促進地域 設定開發

1. 林業振興促進 地域의 設定

林業振興促進 地域開發事業은 山地資源의 增蓄과 所得向上에 크게 寄與할 수 있도록 地域 私有林中 山林面積率이 70%以上인 全國의 110個郡 約200萬 ha를 林業振興促進地域으로 指定하고 全地域을 3,000ha內外의 林業振興團地(面單位)로 區分 指定하여 政府의 集中 支援과 山主들의 創發的 經營意慾의 誘導로 山林資源의 寶庫로 造成할 計劃이다.

2. 支援機能의 強化

지금까지 全國적으로 分散投資해 오던 從來의 投資方式을 止揚하고 各種 補助事業의 優先支援, 林道, 林業機械, 技能人作業團의 重点投入, 融資, 稅制 特惠附與등 各種 支援과 投資를 強化함으로써, 2000年代에는 國內材 70%를 振興地域에서 安定供給 할 수 있도록 內材供給의 基地로 育成시킬 計劃이다.

한편 今年에는 年次別 事業計劃樹立을 위한 現地調査 및 準備完了의 해로서 振興促進 地域內 造林豫定地 整理費 및 풀베기 事業에 所要되는 事業費를 集中 支援하고 林業振興地域에 技術指導員 150名을 우선 配置할 計劃이다.

3. 重点的인 山林資源 造成과 基盤構築

그동안 荒廢地域의 早期綠化를 위해 第1次 治山綠化 10年計劃期間('73~'78)에는 速成樹爲主의 量的造林을 實施하였고, '79년부터 始作된 第2次 治

山綠化 10年計劃부터는 山地를 資源化하여 山地에 새로운 國民經濟圈을 造成하기 위해 長期樹爲主의 大單位 經濟林 圃地를 集中 造成하여 왔다. 今年에는 林業振興地域 開發의 첫해로서 事業計劃樹立을 위한 細部調査를 完了하고 山林資源 造成과 經營基盤構築을 위해 林業振興促進地域을 中心으로 造林 18千ha, 育林 95千ha, 間伐 15千ha, 林道 190km를 施設함과 아울러 24萬ha의 山林에 對한 協業營林計劃을 作成하고 專擔指導員 150名을 集中 配置하는 등 事業成果舉揚에 最大限 努力을 傾注할 計劃이다.

<表 2-2-1>

林業振興 促進地域 指定現況

(單位：面積千ha)

道	別	圃地數	面積
計		692	2,066
京	畿	52	160
江	原	97	307
忠	北	57	168
忠	南	49	140
全	北	56	174
全	南	106	309
慶	北	185	538
慶	南	90	269

資料：山林廳 造林局

第 2 節 造林과 育林

1. 適地適樹의 經濟樹 造林

林木의 生長은 氣候條件, 토양成分과 方位등 周圍環境 因子의 影響에 따라 生育狀態가 달라지는 등 複雜한 環境要因을 가지고 있어, 이러한 要因에 알맞는 適地適樹를 植栽하는 것이 곧 經濟林를 成功的으로 造成하는 길이라 하겠다.

우리가 1, 2次 治山綠化事業을 實施해오면서 '70年代까지는 優先 綠化를 目標로 速成樹 中心의 物量爲主 造林을 實施해오다가 '80年代에 들어오면서 漸次 經濟樹 爲主의 質的 造林으로 轉換해 나가고 있으며 特히 '85年度부터는 21個 經濟樹種을 定하고 지난해에는 地域別 適地適樹 基準表를 作成 普及하는 등 適地適樹原則에 依한 造林에 힘써왔다.

今年度에는 43千ha의 山地에 地域風土에 알맞는 樹種을 植栽할 計劃이며 2000年代 國產材供給 基地化를 위한 林業振興促進地域에 18千ha, 솔잎혹파리 被害地 및 不良林地에 對한 經濟樹 更新 造林 30千ha, 자작, 느티나무등 有用濶葉樹 造林 1千ha를 實施할 計劃이다.

〈表 2-2-2〉

'88年 春期 造林計劃對實績

單位 面積：ha
本數：千本

	計 劃		實 績		比率(面積)
	面 積	本 數	面 積	本 數	
計	43,004	117,705	43,351	118,831	101 %
長 期 樹	34,944	109,807	35,192	110,575	101
有 實 樹	1,300	475	1,383	504	106
速 成 樹	5,411	2,371	5,411	2,371	100
大 苗 造 林	1,349	2,026	1,365	2,230	101
造 景 造 林	-	3,026	-	3,151	-

資料：山林廳 造林局

2. 優良種苗 安定供給

좋은 形質의 秀型木에서 優良種子를 採取하여 健全한 苗木으로 키우는 養 苗事業은 經濟林 造成의 基礎가 된다.

今年度에는 '89年度 造林用 苗木 89百萬本을 원활하게 供給할 수 있도록 山林組合 및 民營코포와 國有養苗場에서 山主希望度와 適地適樹計劃을 감안 새로운 經濟樹種과 有用濶葉樹의 養苗를 擴大하는등 樹種을 多樣化할 計劃 이다.

<表 2-2-3>

養 苗 生 產 計 劃

(單位：百萬本)

	實 績			'88計劃
	'85	'86	'87	
計	157.4	150.6	137.6	89.1
長 期 樹	135.2	132.8	123.4	81.0
速 成 樹	4.0	3.5	2.3	1.9
有 實 樹	0.4	0.6	0.6	0.5
砂 防 樹	14.7	10.0	7.4	4.8
大 苗	3.1	3.7	3.9	0.9

資料：山林廳 造林局

3. 마을권 景觀林 造成

國土美觀과 快適한 國民生活環境을 造成하고자 今年에는 全國 8千個 마을 空閑地에 地域實情에 맞는 有實樹 6百萬本을 植栽하여 마을所得과 連繫한 景觀을 造成하고, 46個 마을에는 느티나무, 팽나무 등 長壽性 傳統鄉土 樹種 11千本을 植栽하여 옛부터 傳來되어오던 傳統的인 “마을숲”을 再現함으로써 옛것을 지키고 崇尚하는 마음씨를 기리고 樹木保存意識을 提高시켜 나갈 것이며, 아울러 서울올림픽을 기리 紀念하고 後世에 자랑스런 歷史的 遺跡으로 傳授하기 위하여 市道別로 聖火기착지, 奉送路, 競技場 周邊등에 1~2個 所의 適地를 選定하여 個所別로 0.5ha以上 規模에 느티나무, 소나무등 地域 鄉土樹種으로 “올림픽紀念숲”을 造成할 計劃이다.

4. 體系的인 育林管理

우리나라는 全體山林中 II 齡級以下の 幼齡林이 83%나 차지하고 있어 經濟樹 植栽 못지않게 심은 나무를 더욱 쓸모있게 가꾸고 값지게 利用하기 위한 體系的인 育林管理는 將次 山林生産力을 향상시키는데 매우 重要的 것이나, 1, 2次 治山綠化期間中에 造林해 온 많은 林地와 天然更新地中에 事後 管理가 되지않고 放置된 林地가 많은 실정이다.

따라서,今年度에는 地域別 林地實態에 알맞는 育林作業計劃을 세워 造林地의 肥料주기, 풀베기, 稚樹가꾸기, 덩굴除去作業등 362千ha, 優良闊葉樹林, 天然剛松林을 用材林으로 育成하기 위한 天然林 保育 23千ha, 適正 生育空間을 確保해줌으로써 林木의 生長 및 形質向上을 위한 間伐作業 25千ha등 總 410千ha의 育林作業을 實施할 計劃이다.

특히 間伐은 作業의 效果와 費用節減을 위해 立地條件에 符合하는 淘汰, 列式間伐方式과 같은 새로운 間伐法을 繼續普及하고, 間伐小徑材의 用途開發을 積極 推進함으로써 山地資源化를 促進시키는 與件을 造成할 計劃이다.

<表 2-2-4> 育林事業計劃 (單位: 千ha)

	實 績			'88計劃
	'85	'86	'87	
計	698	429	442	410
追 肥	134	119	136	103
풀 베 기	204	173	157	146
稚 樹 가 꾸 기	299	78	74	97
덩 굴 除 去	16	16	17	16
天 然 林 保 育	19	19	25	23
間 伐	26	24	33	25

資料: 山林廳 造林局

第 3 節 山林保護의 徹底

1. 산불 및 山林被害 豫防

最近 都市化, 高度産業化와 生活水準의 向上으로 山을 찾는 사람들이 많아짐으로써 산불발생의 危險은 더욱 높아지고 있으며 山林이 울창해져 山林內 落葉, 灌木과 같은 可燃物質이 많아짐에 따라 산불은 漸次 大型化 되어 가는 추세이다.

今年度에는 이러한 산불발생의 原因別 추세를 勸案하고 過去의 발생사례와 經驗을 거울삼아 豫防爲主의 山火防止體制를 強化하는 한편 TV, 라디오 등 各種放送媒體, 班常會등을 통한 弘報는 勿論 山火豫防과 鎮火活動에 對한 國民教育用漫畫(VTR用)를 製作 活用하는 등 國民에게 보다 近接된 弘報方法으로 國民에게 愛林精神을 鼓吹시킴으로써 國民 스스로가 自律적으로 山火豫防에 힘쓰도록 誘導할 計劃이다.

또한 봄, 가을철 山火조심期間(3. 1~5. 31, 11. 15~12. 15)에는 氣象變化에 따른 山火危險警報制를 實施함과 아울러 山火脆弱地域에 對한 監視活動으로 헬기 11대와 山火監視員 7千名을 集中配置하는등 綜合적인 山火豫防對策을 推進하여 나갈 計劃이다.

<表 2-2-5> 氣象變化에 따른 山火 危險警報制

區 分	警報發効要件	措 置 內 容	깃발揭揚 (主要登山路)
山 火 危險警報	· 實効濕度 40%以上 · 風 速 5m/秒以上	· 職員 1/2以上 24時間 勤務 · 入山禁地 및 全登山路 閉鎖 · 火氣物携帶禁地	白色깃발
山 火 危險注意報	· 實効濕度 41~60% · 風 速 5m/秒未滿	· 職員 1/3以上 24時間 勤務 · 部分的 入山統制 · (主登山路만 活用) · 火氣物 携帶統制	黃色깃발
山 火 注意報	· 實効濕度 61%以上 · 風 速 3m/秒未滿	· 正常勤務 · 登山路 開放 · 入山時 도시락 持參勸獎	靑色깃발

資料：山林廳 林政局

또한 盜·濫伐등 山林被害를 根絶하기 위하여 關係公務員으로 하여금 月3回以上 擔當區域을 責任巡山토록 하고, 分期別로 1回以上 警察과의 合同 團束을 實施하고, 伐採許可를 빙자한 不法伐採를 一掃하기 위해 施業許可에

에 對한 責任監督을 強化해 나갈 계획이다.

그리고 朱木등 稀貴樹木과 盆栽木, 壽石등의 不法掘取를 根絶하기 위해 虞犯地域 豫防 團束을 더욱 強化해 나갈 계획이다.

<表 2-2-6>

山 火 發 生 現 況

單位 [件數 : 件
面積 : ha

	'85	'86	'87	'88(7月末)
發生件數 (A)	165	275	87	209
被害面積 (B)	363	3,417	191	616
平均面積 (B/A)	22	12.4	2.2	29

資料 : 山林廳 林政局

2. 山林病蟲害 防除

山林이 尙창해져서 山林生態系의 均衡이 이루어짐에 따라 山林病害蟲의 被害가 全國的으로 漸次 減少되어 가는 추세에 있다. 그러나 솔잎혹파리, 솔껍질각지벌레등 痼疾的인 害蟲이 增加추세에 있으며 今年度에는 푸르고 健康한 山林을 保存하고 가꾸기 위하여 山林病害蟲 豫察調査를 體系化하고 強化하여 病害蟲의 早期발견, 適期防除를 實施함으로써 被害擴散을 방지할 계획이다.

<表 2-2-7>

山林病害蟲 防除計劃

(單位 : 千ha)

	'85	'86	'87	'88計劃
計	160	166	175	205
솔 잎 혹 파 리	16	18	25	25
솔 나 방	19	22	21	19
흰 불 나 방	46	43	49	45
오리나무잎벌레	27	29	27	39
잣나무털녹병	3	3	2	7
솔껍질각지벌레	10	10	11	10
其 他	39	41	40	70

資料 : 山林廳 林政局

특히, 農山村 所得源을 保護하기 위해 송이生産地 部近 소나무林의 솔잎혹파리 防除와 밤나무단지의 害蟲驅除를 重點的으로 實施할 計劃이며 環境汚染防止를 위해 化學藥劑의 使用을 줄이고 天敵飼育放飼, 衛生間伐등의 林業的, 生物的 防除와 B.T 및 주론水和劑와 같은 低毒性 無公害 農藥使用을 漸次 擴大하여 自然生態系의 保護를 겸한 病害蟲 防除를 實施할 計劃이다.

3. 野生鳥獸 保護增殖

산이 푸르러짐에 따른 山林生態系 均衡回復으로 예전보다 훨씬 많은 野生鳥獸를 보고 즐길 수 있게 되었다. 野生鳥獸는 山林內에 棲息하면서 自然의 均衡維持에 重要한 役割을 하는 資源으로서 '72년부터 實施한 禁獵措置와 持續的인 保護運動으로 棲息密度가 增加되고 있다.

<表 2-2-8>

野生鳥獸 棲息密度 推移

(單位: 마리/100ha)

鳥 獸 別	ha 當 棲息密度			適正密度 (推定)
	禁獵以前('71)	禁獵以後('87)	增加倍數	
참새	22.2	458.6	20.7	250
꿩	4.7	14.1	3.0	20
멧비둘기	9.9	25.7	2.6	30
멧토끼	2.7	6.5	2.4	20
노루	0.4	2.2	5.5	5

資料: 山林廳 林政局

'88年度는 鳥獸保護5個年計劃의 2次年度로서 野生鳥獸集團棲息地, 철새渡來地등 370個所를 鳥獸保護區로 設定하여 管理를 徹底히 하고, 98個所(2,940ha)의 野生鳥獸棲息實態를 調査하여 科學的인 鳥獸保護 및 狩獵行政을 推進할 것이며, 不法捕獲을 嚴重히 團束하여 野生鳥獸의 適正棲息密度를 維持토록 하며, 有害鳥獸를 適期에 驅除하여 農作物被害를 최소화 해나갈 計劃이다.

第3章 林業經營 基盤의 擴充

第1節 林業經營의 活性化

1. 林道施設의 擴充

우리나라 林道施設은 '67년에 國有林에서 처음 始作하여 '87年度까지 總 1,006km를 施設하였으나, ha當 林道密度는 0.15m에 不過해 先進 林業國인 獨逸 40m, 美國 10m, 日本 4m에 비해 매우 貧弱한 實情이다.

앞으로 2010년까지 ha當 密度를 現在의 日本水準인 4m까지 높이기 위해 今年度에는 國有林에 90km, 民有林에 270km 總 360km를 施設할 計劃이며, 林道の 活用度를 높이고 林業의 機械化를 促進시키기 위해 地域完結 原則으로 林業振興促進地域, 協業經營團地, 間伐促進團地 등에 集中施設하는 한편 國有林道 施工能力을 培養하기 위해 各營林署別로 10km씩 30km를 施工할 計劃이다. 아울러 林道の 經濟的 施工과 適正 林道路線配置方法을 究明하기 위해 林業機械訓練院에서 15km를 示範的으로 施設할 計劃이다.

<表2-3-1>

林道施設計劃

(單位: km)

	'85 以前	'86	'87	'88 計劃
計	471	230	305	360
國有林	266	41	47	90
民有林	205	189	258	270
總延長 (m當密度)	471 (0.07)	701 (0.1)	1,006 (0.15)	1,366 (0.21)

資料: 山林廳 營林局

2. 私有林 協業經營의 擴大

우리나라의 山林所有構造를 보면 10ha未滿의 山林을 所有하고 있는 零細

山主가 全體山主의 96%에 達하고 이들이 차지하고 있는 面積도 全體私有林의 52%에 이르고 있어 零細한 私有林의 經營 活性化 如何가 우리 林業成敗의 關鍵이 되고 있다.

〈表 2-3-2〉 所有規模別 私有林野 現況

所 有 規 模	山 主 數	面 積
計	1,948千名(100%)	4,698千(100%)
10 ha 以 上	83千名(4%)	2,255千(48%)
10 ha 未 滿	1,865千名(96%)	2,443千(52%)

資料：山林廳 造林局

따라서 '75년부터 韓獨 技術協力事業의 一環으로 慶南 梁山에 처음으로 실시된 私有林協業 經營示範事業推進 結果를 토대로 '87年度까지 全國的으로 12個所에 53個 協業體를 組織하고, 山主協同에 依한 自律的經營으로 育成 定着시켜 나가고 있다.

今年度에는 忠南 青陽과 全北 任實등 2個地域에 새로 協業經營指導所를 設置하여 總 14個所로 擴大할 計劃이며, 이를 위해 協業區域內的 모든 山主가 協業體에 加入하도록 권장하고 協業經營計劃에 의거 自律的 施業이 되도록 하며, 專門技能人作業團의 組織運營과 造林, 育林, 伐採作業 5,703ha, 林道施設 29km 등 短期共同收益事業을 위한 技術指導와 專門技術人 등 328名에 對한 教育訓練을 實施하고 699百萬원을 支援할 計劃이다.

3. 國有林 擴大 集團化

우리나라 國有林은 大部分 奧地인 上流水源地域에 分布되어 있어 用材生産 뿐만 아니라 水源涵養, 國土保全 등 公益機能을 發揮하는데 重要的 役割을 擔當하고 있다. 現在 우리나라의 國有林率은 20%에 不過한 實情이지만 國家에서 必須的으로 保存 經營해야 할 林地를 確保하고 山林의 集約經營基盤을 造成하기 위해 앞으로 2030년까지 國有林率을 日本 및 獨逸 水準인 40

劣線까지 提高시킬 計劃이다.

今年度에는 要存國有林에 인접해 있는 未開發 私有林 5,000ha를 買收하고 小規模 分散國有林과 私有林의 交換 및 無主不動產 取得 등 3,000ha를 確保할 計劃이다. 特히 保安林 등 施業制限 私有林과 國有林을 相互交換함으로써 山主의 權益保護에 힘쓸 計劃이다.

<表 2-3-3>

國有林 擴大計劃

(單位：千ha)

區 分	計 (50年間)	3 次 期 (’88~’97)	4 次 期 (’98~2007)	5 次 期 (2008~2017)	6 次 期 (2018~2027)	7 次 期 (2028~2037)
取 得	926	91	190	200	210	235
總 面 積 (國有林率)	—	1,405	1,595	1,795	2,005	2,240 (40%) ※ 全國山 林面積 (豫側) 5,600千ha

資料：山林廳 營林局

第 2 節 林業技術 普及 強化

山主의 自律的인 山林經營參與를 誘導하기 위해서는 造林에서 伐採에 이르기까지 各種 事業要領과 所得向上技術 등의 指導業務가 必須的이다. 이에 따라 '78년부터 林業技術指導事業을 體系的으로 始作하였으며 林業技術指導員 312名을 山林組合에 配置하기에 이르렀고 그後 漸次 增員하여 '87年度末 現在까지 527名이 技術指導를 하고 있으며 今年度에도 技術指導員 150名을 增員配置할 計劃이다.

또한 山林廳 및 市道 등 山林關係機關에 林業相談室을 設置하여 山林 投資의 뜻이 있어도 方法과 節次를 몰라 山을 가꾸지 못하는 國民에게 投資의 길을 案内하고, 山林誌 및 各種 林業技術弘報 資料를 發刊 配布해 나갈 計劃이다.

<表 2-3-4>

林業技術指導員 配置計劃

(單位：名)

	計	山組中央會	山組道支部	山林組合
計	677	11	59	607
1級指導員	10	2	8	-
2級指導員	222	7	17	198
3級指導員	445	2	34	409

資料：山林廳 造林局

第3節 山地資源化推進을 위한 制度改善

今年度에는 山地資源化10年計劃의 成功的인 推進을 뒷받침하기 위하여 各種規制를 緩和하고 經營을 助長하는 內容으로 山林法을 改正하고, 山林組合을 山主中心으로 改編하여 自立基盤을 擴充하여 大單位 山林開發事業을 專擔할 수 있는 山林開發事業團設置 등을 內容으로 하는 山林組合法改正 推進과 山林投資促進을 위한 林業稅制의 改善과 長期低利의 山林開發基金造成 그리고 山林災害保險制度 등 林業全般에 關한 長期的인 制度改善事業을 段階的으로 推進해 나갈 計劃이다.

아울러 새로운 行政需要를 充足하고 第2의 山地開發을 效率的으로 推進하기 위하여 營林署의 現 3段階組織을 2段階로 改編하여 現場 責任經營 體制를 強化하고, 山地開發 및 經營指導를 活性化하기 위해 道山林局을 復活시키는 등 一線 山林行政機構를 漸次 補強해 나갈 計劃이다.

第4章 山林所得開發 및 流通構造改善

第1節 山林所得의提高

1. 山林所得源開發

山林副產物 生産을 短期所得源으로 開發하여, 山林의 長期投資에서 오는 經濟的 脆弱性を 克服하고, 集約的 林地活用に 의한 林業所得을 提高시키기 위하여 今年度에는 地域實情에 맞는 特產品 生産團地 18個所를 指定 集中的으로 財政 및 技術을 支援하여 特化産業으로 育成할 計劃이다. 또한 京畿 加平, 江原 溟州 등 4個所에 山林內 休養施設을 造成하여 國民保健向上 및 情緒함양 등 레저 需要에 寄與함과 아울러 山主所得向上과도 連繫시킬 計劃이다.

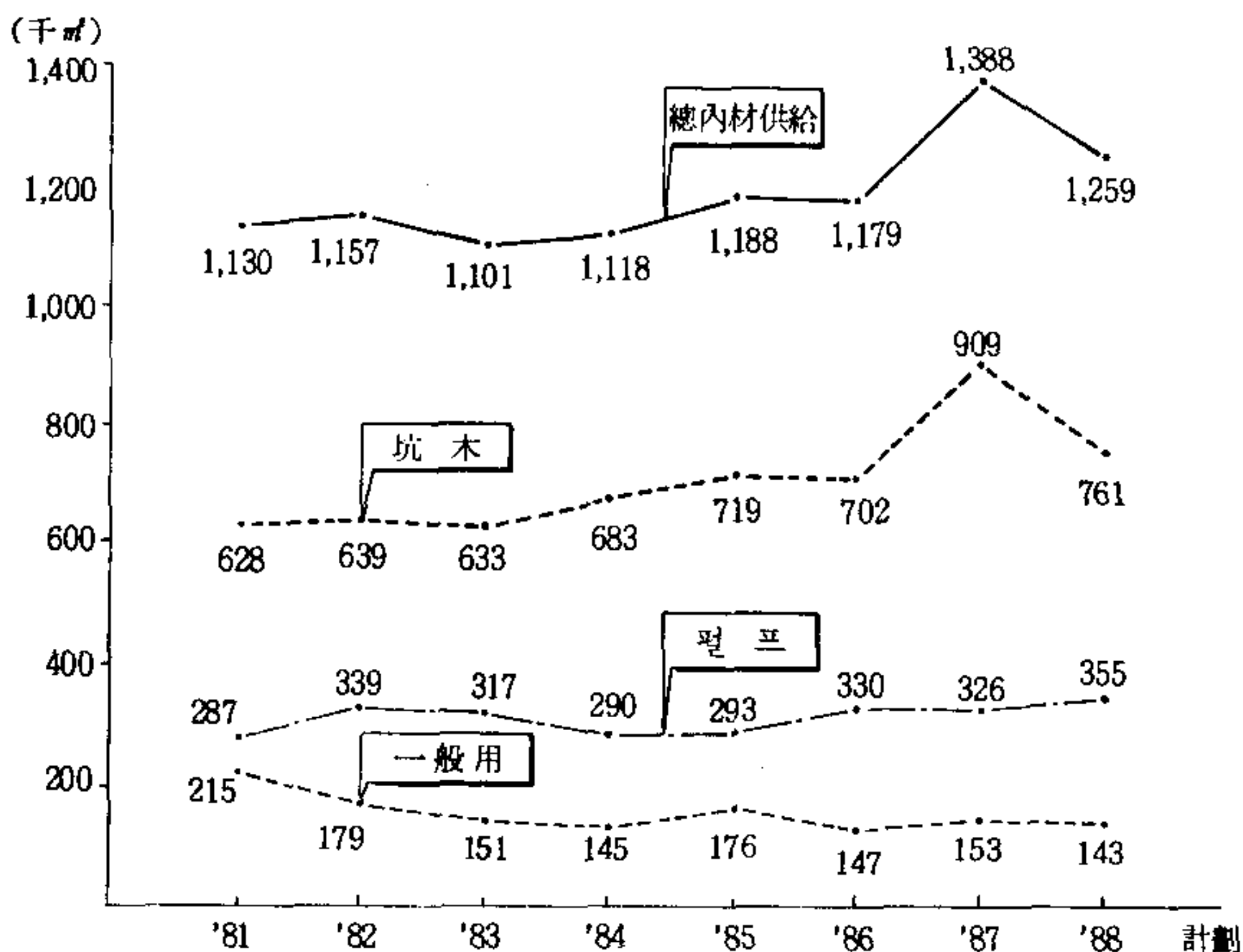
2. 國產材 需用創出 및 價格支持

最近 國產材의 用途別 利用現況을 보면 坑木이 '86년에 60% '87년에 66%, 펄프用은 '86년에 28%, '87년에 23%, 一般用材는 '86년에 12%, '87년에 11%로 大部分 坑木과 펄프用으로 使用됨에 따라 當분간 大徑材보다는 間伐 小徑材爲主로 國內材를 生産 供給하려는 節伐政策에 맞추어 間伐 小徑材의 用途개발을 強化할 計劃이다.

今年度에는 治山綠化事業 期間에 植栽된 잣나무, 낙엽송 등의 間伐 小徑材를 많이 生産 淸, 마루板 등의 새로운 用途를 開發하여 國產材 活用度を 높여 나가되 廢殘材 652千 π 을 最大限 活用하여 木材消費節約을 積極推進해 나갈 計劃이다.

<圖 2-4-1>

年度別 國產材 利用推移



資料：山林廳 營林局

3. 木材의 安定供給

우리나라 山林의 齡級構造를 보면 IV령급이상의 伐採利用 可能한 成林面積은 474千 ha로 全體山林의 7%에 지나지 않아 當分間 資源保全的 側面에서 國內材 節伐政策을 堅持하여 木材資源의 増築을 도모해 나갈 計劃이다. 今年度 木材 需給計劃量은 8,040千㎥으로써 內材 供給量이 1,357千㎥으로 自給率은 17%에 不過하여 不足되는 物量에 對하여는 外材 6,683千㎥을 導入 供給할 計劃이다.

또한 國內木材 需給의 安定을 꾀하기 위해 海外輸入先을 東南亞 一邊倒에서 中南美, 아프리카, 大洋洲 等地로 多邊化하고, 資源保育國과의 外交를 強化하며, 海外山林開發을 擴大하여 나갈 計劃이다.

<表 2-4-1>

木 材 需 給 計 劃

(單位：千³)

		'87	'88計 劃	增 △ 減 %	
需 要 量	計	8,532	8,040	△ 492	△ 6
	內 需 用	7,816	7,509	△ 307	△ 4
	輸 出 用	71.6	531	△ 185	△ 26
供 給 量	計	8,532	8,040	△ 492	△ 6
	內 材	1,487	1,357	△ 130	△ 9
	外 材	7,045	6,683	△ 362	△ 5
	(廢 殘 材)	(682)	(652)	(△ 30)	(△ 4)

資料：山林廳 營林局

第 2 節 林產物 流通構造改善 및 輸出增大

1. 林產物 流通構造改善

우리나라의 主產物인 木材, 特히 間伐小徑材의 需要가 개발되고 國民들의 食生活 嗜好의 變化에 따라 밥, 醬, 버섯 등 山林副產物의 需要가 늘고 있어 體系的인 流通秩序確立과 構造改善이 要請되고 있는 實情이며, 앞으로 農山村 所得事業으로 副產物 生産이 增大되면 林產物 流通問題는 더욱 深化 될 것이다.

따라서 林產物의 流通體系確立과 市場情報 提供으로 山林所得을 增大시키 기 위해 山林組合을 林產物 流通센터로 育成하여 各種 林產物의 收集, 共販, 流通情報提供 機能 등을 擔當하게 될 것이며 지난해 서울과 全州에 設置한 바 있는 林產物直賣場을 忠南 大田에 設置할 計劃으로 있고 또한 今年에 처음으로 京畿 加平과 慶北 聞慶등 2個所에 原木集荷場을 新設하여 各種 林產物을 消費者에게 直接 供給함으로써 生産者와 消費者의 利益을 함께 保護해 나갈 計劃이다.

2. 林產物 輸出增大

'80年代 들면서 合板輸出의 不振으로 林產物 輸出은 繼續 減少추세에 있었으나 '86年度부터 石材 및 밤의 輸出이 好調를 보이고 合板輸出도 漸次 늘어나면서부터 '87年度까지 增加 추세에 있다. 今年度에는 外貨稼得率이 높은 표고, 밤, 石材 등의 有望 輸出品目에 資金을 集中 支援하여 輸出을 促進하고, 林產物 輸出對象國을 對日地域 爲主에서 脫皮하여 美國, 캐나다, EC 등으로 多邊化하여 新市場을 開拓하고 合板, 木製品의 特殊製品개발로 輸出 競爭力을 提高시켜 올해의 輸出目標 470百萬\$을 達成할 計劃이다.

<表 2-4-2>

林 產 物 輸 出 計 劃

(단위 : 百萬\$)

	'85	'86	'87	'88 計 劃
計	263	333	461	470
合 板	40	51	56	55
木 材	21	27	47	47
木 製 品	18	20	25	26
壁 紙	16	13	15	15
石 材	84	121	166	175
버 섯	43	43	62	65
밤	37	53	4	80
其 他	4	5	6	7

資料 : 山林廳 林政局

第 5 章 山林의 公益機能 增進

第 1 節 山林의 國土保全機能 提高

1. 砂防事業과 災害復舊

그동안 荒廢山地 및 溪川을 安定시켜 理水機能을 높이고 國土를 保全하기 위하여 砂防事業을 꾸준히 實施해온 結果 集團荒廢地 復舊를 위한 山地砂防과 海岸砂防은 거의 마무리 段階로 來年까지는 復舊完了할 計劃이며 앞으로의 砂防事業은 荒廢溪川을 安定시켜 下流 農耕地 등을 保護하기 위한 野溪砂防과 砂防댐 施設에 重點을 들 計劃이다.

今年度에는 集團荒廢地와 지난해 集中豪雨로 因한 山沙汰 被害地 1,400ha의 山地砂防을 實施하고, 飛砂防止와 砂丘地 固定을 위한 海岸砂防도 12ha 實施할 計劃이며, 系統砂防에 依한 地域完結復舊 原則에 따라 山地砂防과 連繫하여 野溪砂防 106km와 砂防댐 32個所를 施設할 計劃이다.

<表 2-5-1>

砂 防 事 業 計 劃

	'85	'86	'87	'88 計 劃
山地砂防 (ha)	3,203	2,230	1,535	1,400
海岸砂防 (ha)	43	60	20	12
野溪砂防 (km)	52	70	67	106
砂防댐 (個所)		31	23	32

資料：山林廳 造林局

또한 산사태 豫防을 위하여 산사태 危險地를 1, 2, 3級地로 區分 調査하고 台帳 圖面化하고 管理하며, 危險地域은 氣象豫報에 따라 산사태발생 豫報制를 實施하여 適期에 對處함으로써 人命 및 財產被害를 最少化시켜 나갈 計

劃이다.

〈表 2-5-2〉

山沙汰發生豫報制

區 分	豫 報 發 令 要 件
山沙汰注意報	○ 豪雨注意報 및 暴風雨注意報時 連續降雨量 …… 100mm ~ 200mm 未滿 時 雨 量 …… 20" ~ 32 " 日 降 雨 量 …… 80" ~ 150 "
山沙汰警報	○ 豪雨警報 및 暴風雨警報時 連續降雨量 …… 200mm 以上 時 雨 量 …… 32 " 日 降 雨 量 …… 150 "

資料：山林廳 造林局

2. 街路樹 造成管理

'87年末 現在 全國 52千km의 道路邊에 이태리포플러, 플라타너스 등 2,666千本을 植栽하였으며, 今年度에는 總 200千本の 街路樹를 植栽할 計劃이며 主樹種인 은행나무, 느티나무, 벚나무, 이태리포플러, 플라타너스 등 公害에 強한 地域傳統樹種을 植栽할 計劃이다.

아울러 올림픽과 關聯한 聖火奉送路 및 觀光地 周邊에 重點的으로 樹種別 樹型을 勘案한 適正剪技를 實施하여 街路景觀을 美化하고 颱風等 各種 被害를 豫防할 計劃이다.

第 2 節 保健休養空間 및 自然學習場 擴大

1. 國民保健休養空間 擴大

國民生活 및 文化水準이 先進社會로 進入함에 따라 國民의 休養需要는 急

激히 增加되고 있다.

山林은 林產物을 生産하는 機能外에도 公害緩和와 生活環境의 淨化 그리고 保健休養空間 提供 등 公益的인 面에서 큰 役割을 하고 있음에따라 앞으로 山林行政은 林業을 投資價値가 높은 經濟林業으로 成長시키면서 變化를 追求하는 國民的 興望을 誠實하게 受容하여 山地의 多目的 利用 需要에 따라 山地를 國民的 所得源으로 利用하면서 激增하는 公益需要에 對處한 環境 林業 擴大를 積極 推進할 計劃이다.

그동안 自然休養林을 慶南 金海등 6個所에 造成하였으며 앞으로 보다 많은 都市近郊 山林에 對하여도 年次的으로 擴大 造成하고자, 88年度에는 京畿, 加平, 雪岳과 升安, 江原 溟州, 慶南 蔚州 등 4個所에 새로이 休養林을 造成할 計劃이며, 또한 東部營林署管內 國有林에 300ha規模의 狩獵場을 造成하여 國民레저 空間으로 活用할 計劃이다.

2. 自然學習教育場 擴大

山林과 人間生活에 對한 올바른 認識과 學生들의 自然學習 및 國民教育場으로 活用하기 위하여 지난해 京畿 光陵에 山林樹木園과 博物館을 完工開園하여 國民들로부터 좋은 反應을 얻고 있다.

'88年度에는 全北, 全南, 慶南, 濟州 등 4個道에 地域 特色을 살려 地方樹木園을 造成할 計劃이다.

또한 靑少年을 對象으로 夏期휴가를 겸한 山林教育을 實施함으로써 愛林思想을 鼓吹하고 健全한 情緒을 함양하기 위하여 林間修練場를 江原 溟州와 慶北 奉化 등 2個所에 新設하고 既設置된 江原 麟蹄(장수대)의 施設을 擴充할 計劃이다.

第6章 實用的 林業技術의 開發

第1節 實用的 林業研究

1. 山林災害豫防法 研究

成功的인 治山綠化事業으로 林木蓄積이 增加하고 人工單純林이 造成됨에 따라 各種 山林病害蟲, 山火등의 被害가 增加되고 있어 이에 對한 被害豫防이 切實히 要求되고 있다.

今年度에는 山林病害蟲中 가장 많이 發生되어 極甚한 被害를 주고 있는 솔잎혹파리와 솔껍질각질벌레의 恒久的인 防除法을 개발하기 위하여 總力研究를 實施할 것이며 山火發生原因 및 山火의 動態를 豫測하기 위한 基礎資料의 蒐集 및 分析으로 電算 프로그램을 개발하여 現地에서 活用할 수 있는 山火豫防體系를 마련해 나갈 計劃이다.

2. 生物工學을 利用한 優良新品種 開發

從來의 林木育種方法은 選拔育種과 交雜育種이 大宗을 이루어 왔으나 最近 急激히 발달한 生物工學技術을 林木育種研究分野에도 導入, 育種期間을 短縮하고 優良苗木을 大量 生産할 수 있는 基盤을 造成하였으며 遺傳子操作이나 細胞融合에 依한 새로운 新品種 開發이 可能하게 하였다.

'80年代에 生物工學을 利用한 育種을 꾸준히 推進해 온 結果 그동안 剛松 大量增殖法 및 交配不親和性 樹種間細胞融合可能性 究明으로 育種研究에 新紀元을 이룰 상당한 成果를 거두었다.

今年度에도 生物工學을 應用한 連續·急速增殖法에 依한 經濟樹種의 大量增殖方案을 研究하고, 國民의 無公害 自然食品 需要의 充足과 山村 所得向

上을 위하여 다래, 으름, 왕머루등 山果實을 未來 食品樹種으로 발굴 改良할 計劃이며 細胞融合과 꽃가루 培養등을 通하여 經濟性 있는 優良 新品種 개발研究를 繼續해 나갈 計劃이다.

第 2 節 生産性 提高를 위한 林業技術 開發

1. 林業生産性 提高를 위한 研究

아직까지 林道施設이 貧弱하고 林業의 機械化率이 낮아 林業生産費中 伐採, 運材費에 所要되는 投資比重이 커서 林業低收益性的의 主要 要因이 되고 있다.

今年度에는 間伐小徑材의 集材方法 改善을 위해 耕耘機엔진을 利用한 小徑材 集材試驗을 實施할 計劃이며 立地條件別, 樹種別, 地位調査를 實施하여 林木收穫을 豫測하고, 立地에 符合한 適地適樹技法을 개발하는 한편, 天然潤葉樹林의 生態를 類型別로 區分하여 優良用材生産이 可能한 林分에 對하여 生育 段階別로 除伐, 間伐등 撫育方法을 體系化하여 經濟的으로 가장 效果的인 撫育作業技術 究明에 注力할 計劃이다.

2. 山林資源化利用法 開發

2次에 걸친 治山綠化期間에 集中的인 造林으로 漸次 間伐對象地가 擴大됨에 따라 間伐小徑材등 低利用材의 多様な 用途개발이 時急한 實情으로 今年度에는 리기다소나무, 잣나무, 낙엽송 間伐材에 對한 原木 및 製材利用 實演과 樹皮抽出物에 依한 接着劑, 탄닌利用 및 土壤改良劑, 脫臭劑등의 新需要를 創出함으로써 低利用 林産資源의 活動을 促進시켜 나갈 計劃이다.

또한 石材資源의 適正管理 및 加工技術 개발을 위하여 京畿加平等 4個地域의 石材分布 및 매장량을 調査하여 附加價值 增大를 위한 石材品の 工程 標準化와 石材加工品質高級化 試驗을 並行해 나갈 計劃이다.

〈附 錄〉

圖表로 본 農業動向

農 業

1. 經濟成長率斗 農林漁業成長率
2. 產業別 構成
3. 總人口와 農家人口
4. 耕地利用
5. 農業生產基盤
6. 農機械 普及狀況
7. 肥料 및 農藥消費量
8. 食糧作物 生産量
9. 쌀 및 보리쌀 生産量
10. 家畜飼育動向
11. 양념류 生産 및 價格推移
12. 農業 生産性
13. 農業粗收入
14. 農家所得
15. 可處分所得 및 家計費

16. 農家負債

17. 食糧 自給度

18. 1人當 食品消費量

19. 農家交易條件

20. 農水産物 輸出入動向

林 業

1. 林業成長

2. 林相別 林野面積

3. 林木蓄積

4. 山林所有 構造

5. 樹種別 造林實績

6. 林道

7. 木材需給

8. 用途別 內材供給

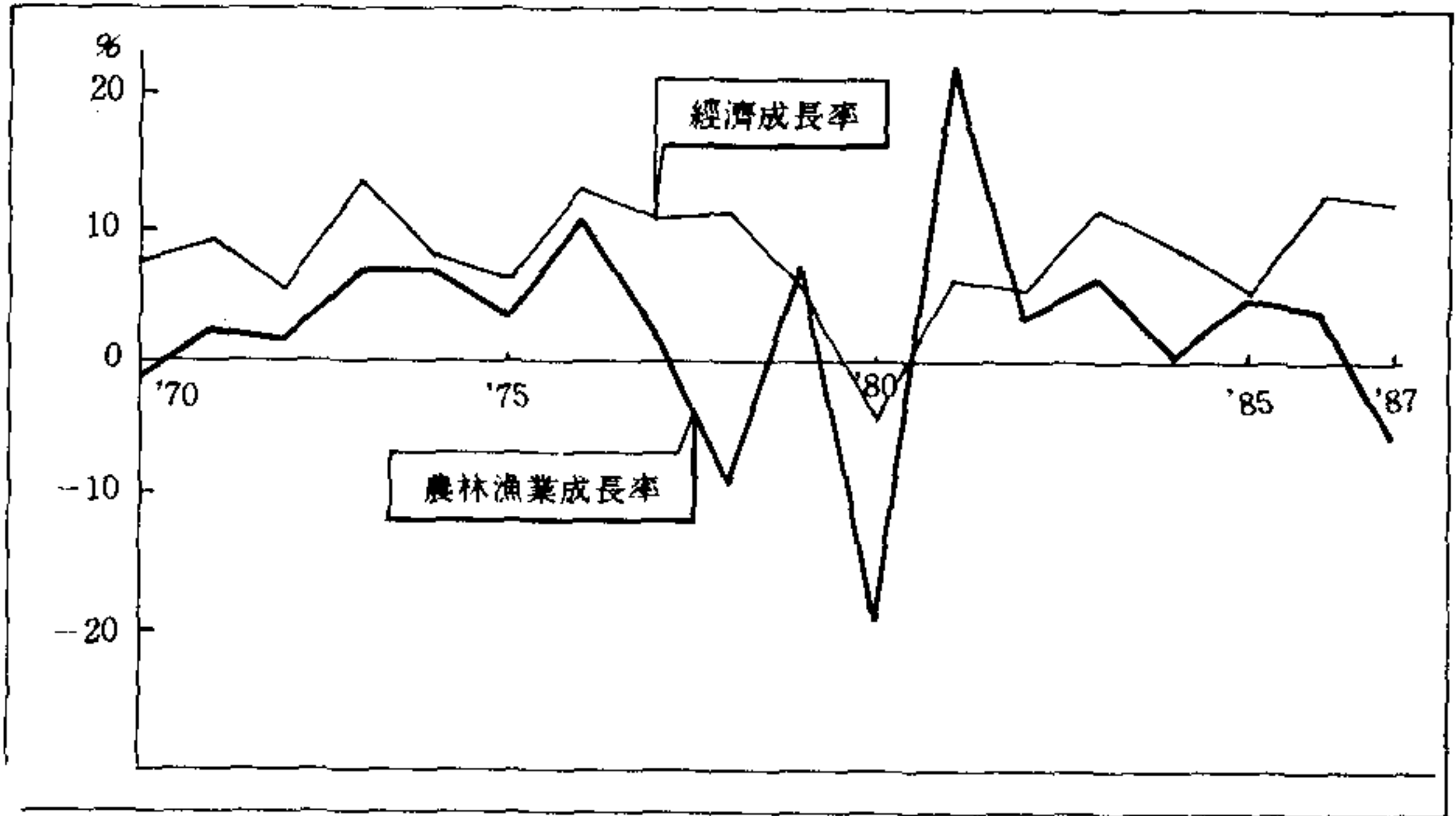
9. 主要 山林副産物 生産

10. 林産物 輸出入

여백

農業

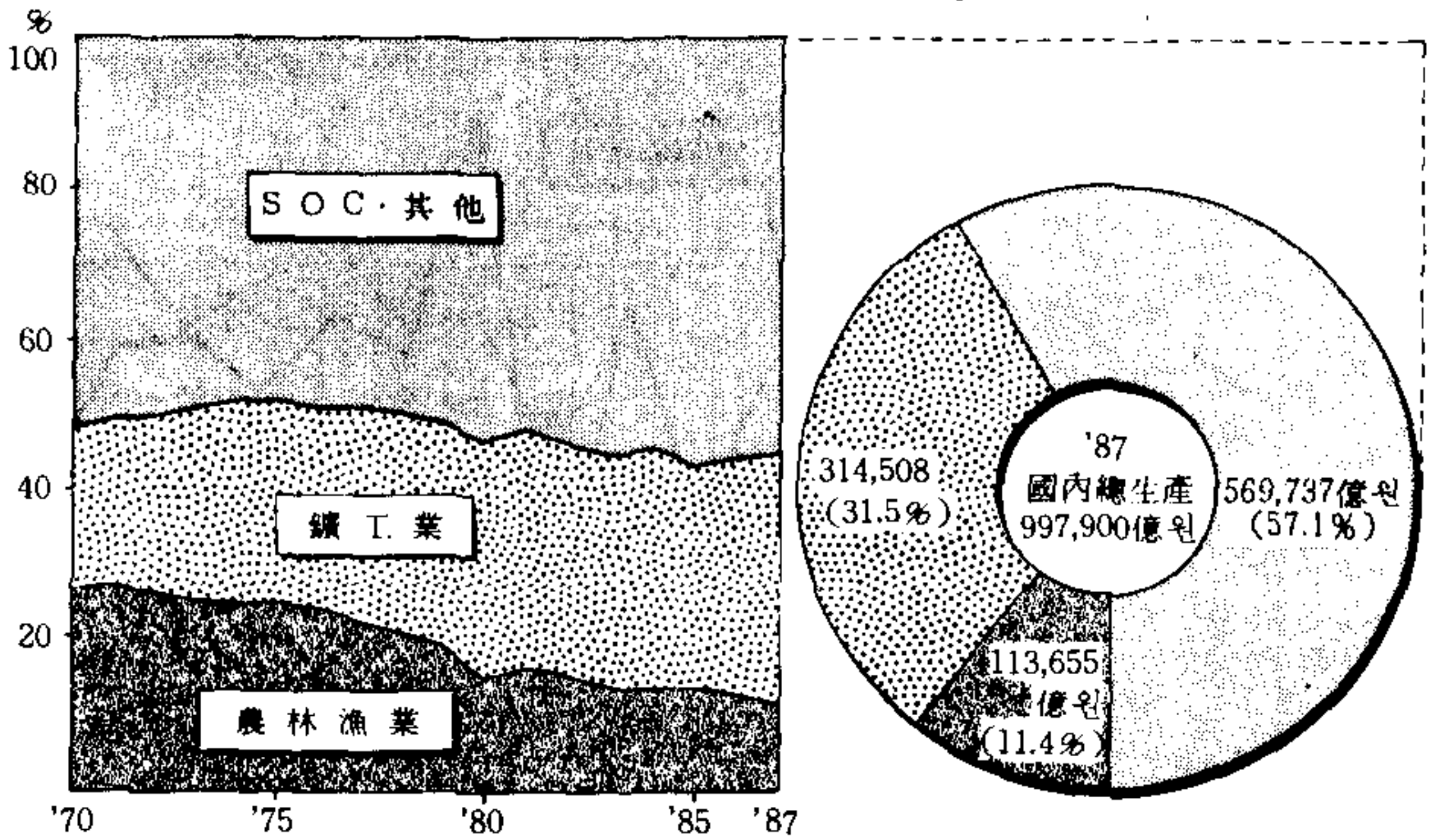
1. 經濟成長率及 農林漁業 成長率



(單位：80不變，%)

	國民 總生產	農 林 漁 業			礦 工 業	建設·電氣 가스·水道事業	서어비스業	
		農 業	林 業	漁 業				
70	7.6	△1.4	△2.2	△0.1	19.2	19.6	-	-
71	9.1	3.4	4.1	△4.4	1.3	16.5	1.6	12.9
72	5.3	2.0	1.2	1.9	15.6	11.9	2.1	5.7
73	14.0	7.1	5.7	12.8	20.8	27.8	20.0	11.9
74	8.5	7.1	7.2	△3.6	15.3	15.1	12.4	5.7
75	6.8	4.2	5.3	△3.4	2.2	12.3	11.1	6.3
76	13.4	10.2	11.2	3.2	1.9	22.5	13.6	9.6
77	10.7	3.0	3.1	2.4	2.0	15.1	23.3	10.4
78	11.0	△9.9	△11.0	5.0	△5.6	20.3	26.3	12.2
79	7.0	7.4	8.9	△18.2	8.9	9.6	5.1	6.4
80	△4.8	△19.9	△23.8	17.0	4.1	△1.4	1.3	1.9
81	6.6	22.4	24.3	5.7	16.0	8.0	△1.4	4.1
82	5.4	3.3	4.4	△11.9	1.6	4.0	15.4	5.7
83	11.9	6.5	6.3	31.1	△4.4	12.1	20.8	9.4
84	8.4	0.2	△1.0	7.7	8.3	14.5	10.2	7.0
85	5.4	4.8	5.3	△4.7	6.7	3.9	8.2	6.0
86	12.3	3.9	4.4	△17.5	12.6	17.1	9.7	10.9
87(P)	12.0	△4.3	△4.6	△5.1	△1.2	15.7	14.7	11.2

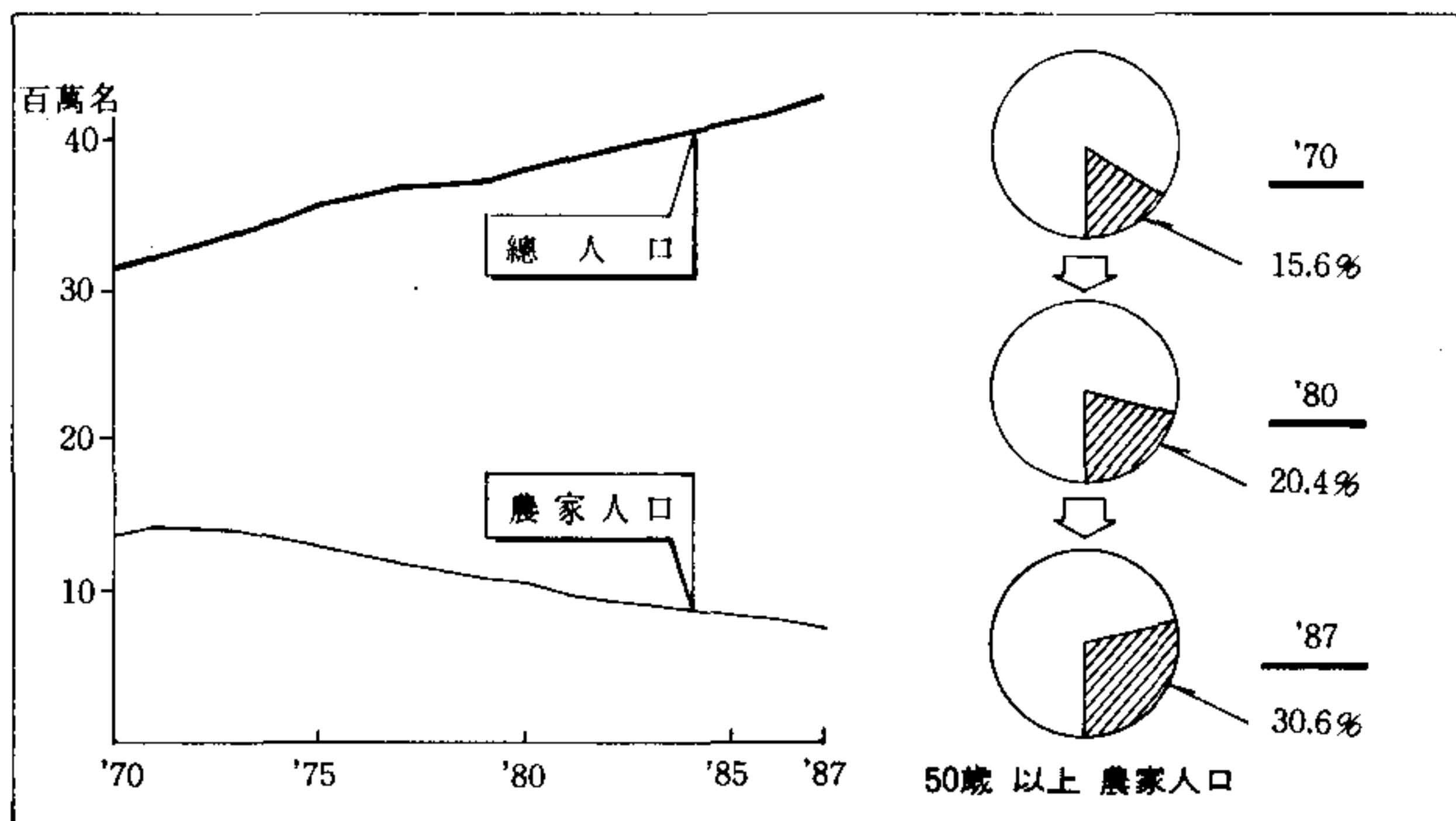
2. 產 業 別 構 成



(單位：經常 10億圓)

	國內 總生產	農 林 漁 業				鑛 工 業	建設 및 電氣 가스·水道事業	서어비스業
		農 業	林 業	漁 業	業			
70	2,759.8	26.0 %	22.6	1.6	1.8	22.4	6.7	44.9
71	3,409.7	26.6	23.1	1.4	2.0	22.5	6.1	44.8
72	4,193.9	26.1	23.0	1.3	1.8	23.5	5.8	44.6
73	5,396.8	24.5	20.7	1.4	2.4	26.2	5.8	43.5
74	7,631.3	24.3	21.3	1.3	1.7	27.2	5.4	43.1
75	10,223.9	24.5	21.4	1.3	1.8	26.2	6.0	41.9
76	13,995.7	23.2	20.4	1.1	1.7	28.8	5.9	42.1
77	17,985.2	22.0	18.8	1.1	2.1	28.9	7.1	42.0
78	24,242.5	20.2	17.8	1.0	1.7	29.4	9.0	41.4
79	31,224.1	18.8	16.1	0.9	1.8	29.8	10.2	41.2
80	37,914.9	14.6	12.3	0.9	1.4	30.9	10.4	44.1
81	47,023.9	15.8	13.5	0.8	1.5	30.7	9.4	44.1
82	52,912.7	14.6	12.1	1.1	1.4	29.8	10.2	45.4
83	61,002.9	13.6	11.1	1.0	1.5	29.8	10.8	45.8
84	68,866.7	13.3	11.1	1.0	1.3	30.5	11.1	45.1
85	75,510.7	13.5	11.2	0.8	1.5	29.6	11.3	45.6
86	86,652.8	12.3	10.0	0.7	1.6	31.3	10.9	45.6
87(P)	99,790.0	11.4	9.2	0.6	1.6	31.5	11.4	45.7

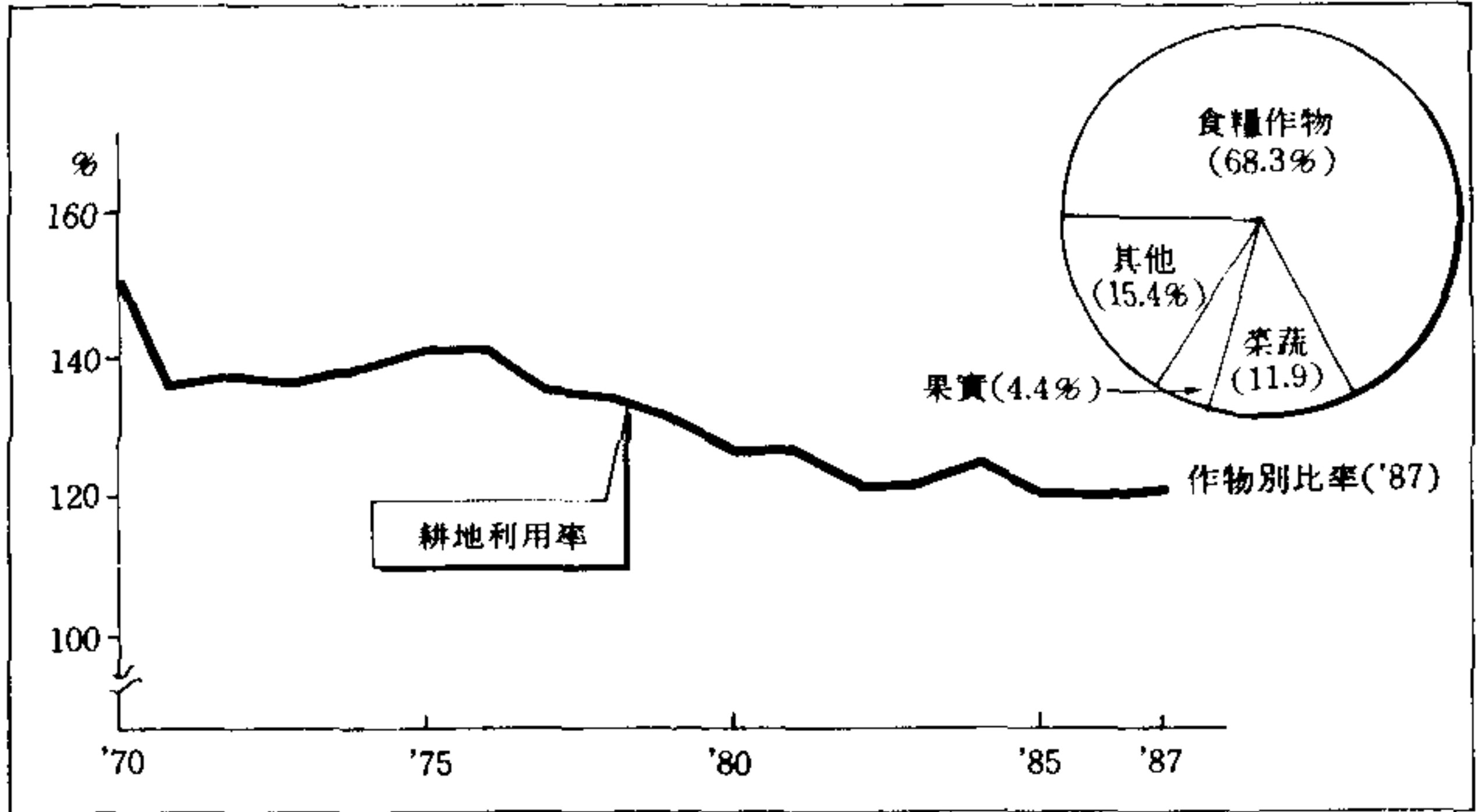
3. 總人口와 農家人口



(單位：千名)

	總人口		農家人口			漁家人口		
		增加率 %		構成比	增減率		構成比	增減率
70	32,241	1.77	14,422	44.7	△7.5	1,165	3.6	△12.1
71	32,883	1.97	14,712	44.7	2.0	-	-	-
72	33,505	1.87	14,677	43.8	△0.2	1,062	3.2	△8.8
73	34,103	1.77	14,645	42.9	△0.2	979	2.9	△7.8
74	34,692	1.71	13,459	38.8	△8.1	914	2.6	△6.6
75	35,281	1.68	13,244	37.5	△1.6	894	2.6	△2.2
76	35,849	1.64	12,785	35.7	△3.5	880	2.5	△1.6
77	36,412	1.61	12,309	33.8	△3.7	871	2.4	△1.0
78	36,969	1.60	11,527	31.1	△6.3	827	2.2	△5.0
79	37,534	1.58	10,883	28.9	△5.6	791	2.1	△5.3
80	38,124	1.38	10,827	28.4	△0.5	843	2.2	6.6
81	38,723	1.57	9,999	25.8	△7.7	776	2.0	△7.9
82	39,326	1.56	9,688	24.6	△3.1	755	1.9	△2.7
83	39,929	1.53	9,475	23.7	△2.2	739	1.8	△2.1
84	40,513	1.46	9,015	22.3	△4.9	716	1.8	△3.2
85	41,055	1.34	8,521	20.8	△5.5	689	1.7	△3.8
86	41,569	1.25	8,180	19.7	△4.0	662	1.6	△3.9
87(P)	42,082	1.24	7,771	18.5	△5.0	635	1.5	△4.1

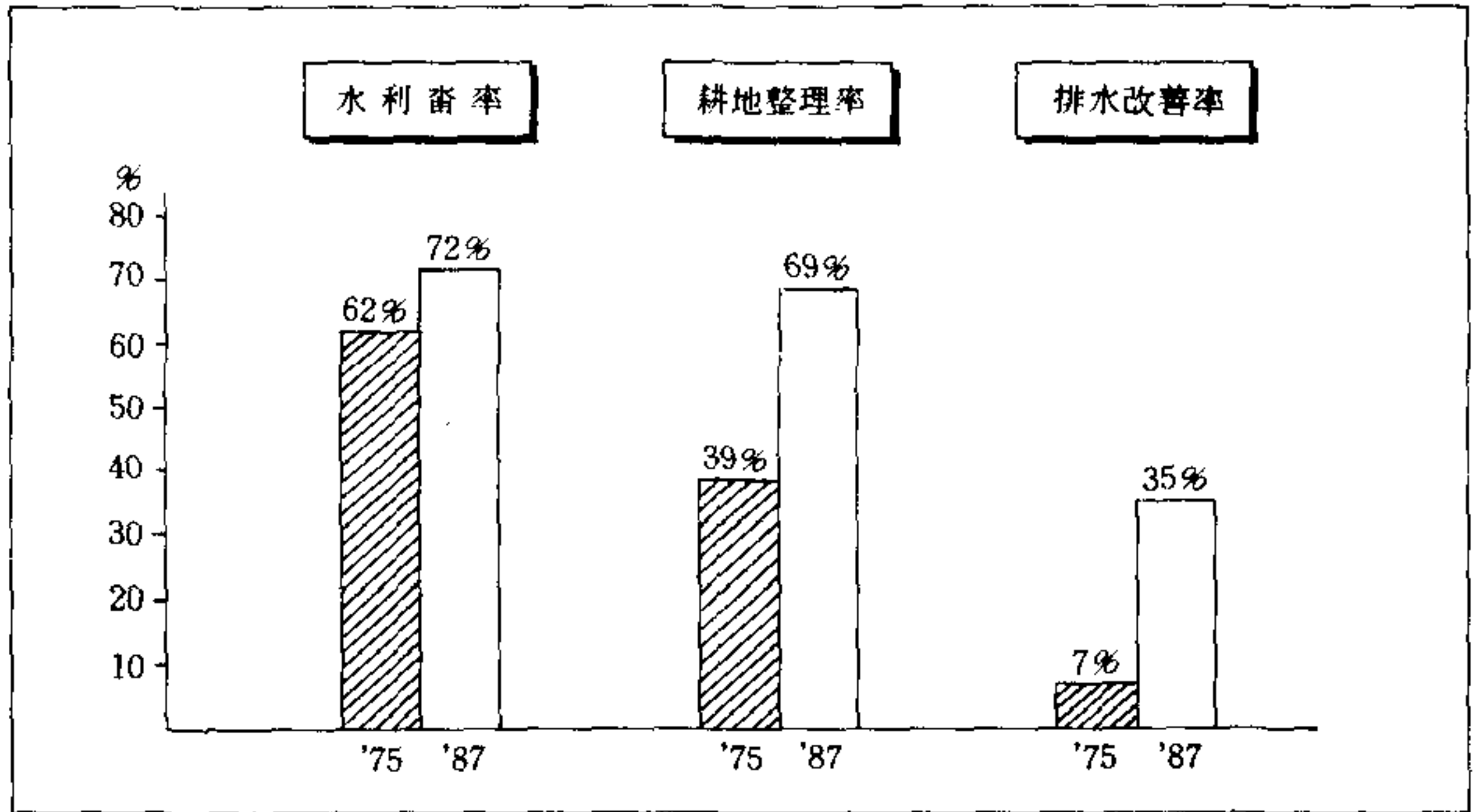
4. 耕 地 利 用



(單位：千ha)

	耕地 面積	耕 地 利 用 面 積											耕地 利用 率
		食 糧 作 物					特 作	菜 蔬	果 實	桑 田	其 他		
		米 穀	麥 類	豆 類	薯 類	雜 穀							
70	2,298	2,947	1,203	1,075	365	181	123	89	254	60	85	43	151.3
71	2,271	2,553	1,190	768	332	163	100	97	257	55	82	56	136.5
72	2,242	2,535	1,191	777	334	147	86	88	248	59	79	67	137.2
73	2,241	2,489	1,182	713	365	138	91	88	254	66	80	72	136.0
74	2,238	2,472	1,204	745	328	122	73	113	274	75	88	75	138.2
75	2,240	2,522	1,218	761	324	146	73	118	244	74	43	143	140.4
76	2,238	2,474	1,215	752	304	136	67	132	282	87	45	154	141.7
77	2,231	2,284	1,230	546	316	127	65	132	294	94	41	188	135.5
78	2,222	2,272	1,230	575	299	113	55	136	276	94	35	188	134.5
79	2,207	2,129	1,233	489	263	95	49	133	339	96	32	180	130.9
80	2,196	1,982	1,233	360	244	92	53	118	359	99	27	180	125.3
81	2,188	2,002	1,224	374	262	91	51	100	365	100	22	185	126.3
82	2,180	1,907	1,288	339	242	91	57	124	343	101	16	187	122.4
83	2,167	1,926	1,229	351	232	72	42	138	322	105	14	193	123.8
84	2,152	1,917	1,231	346	233	62	45	132	318	107	14	219	124.9
85	2,144	1,780	1,237	242	196	65	40	133	337	109	12	221	120.4
86	2,141	1,707	1,236	193	182	56	41	153	368	112	12	219	119.9
87	2,143	1,775	1,262	208	212	47	46	176	308	114	9	216	120.0

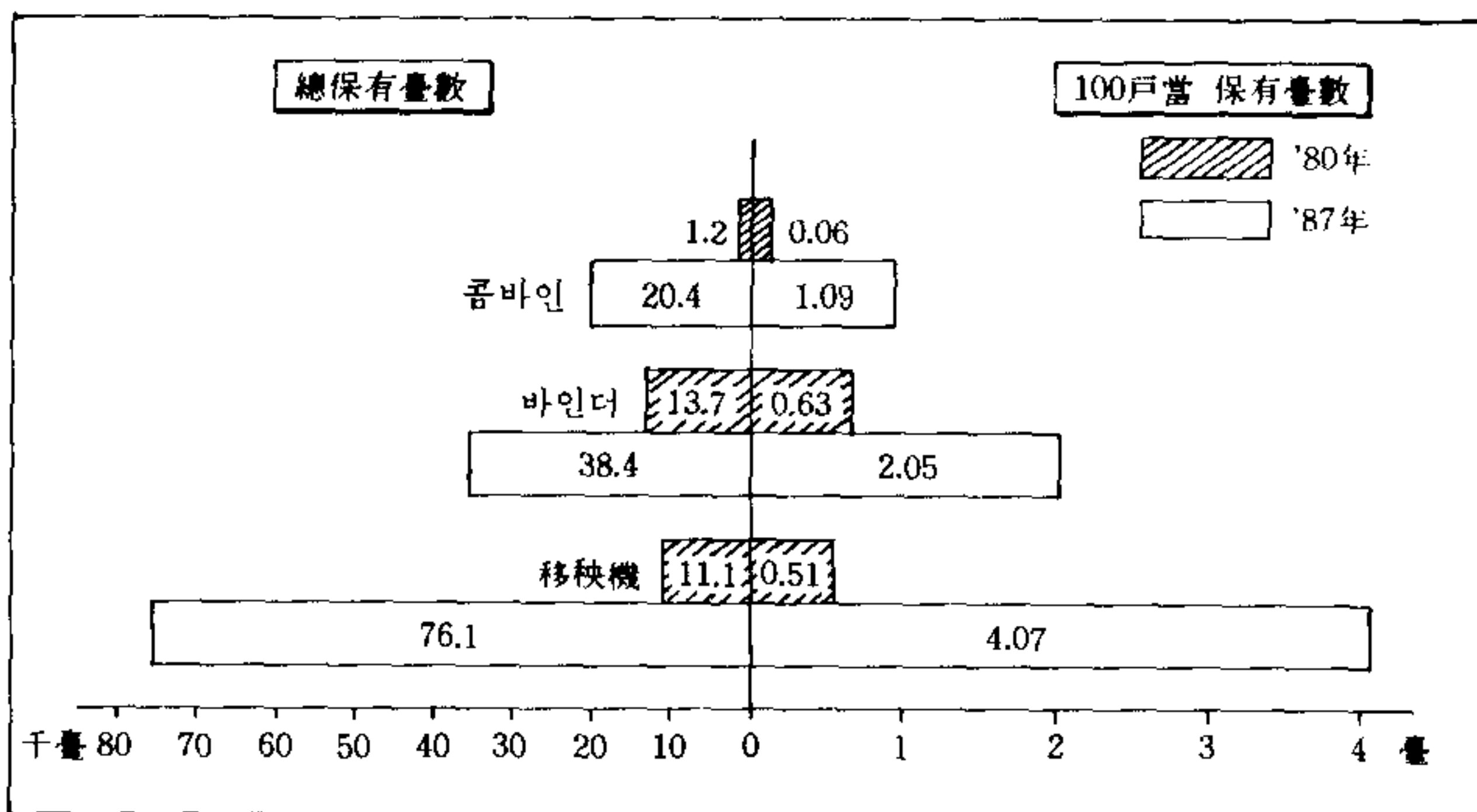
5. 農業生產基盤



(單位：千ha)

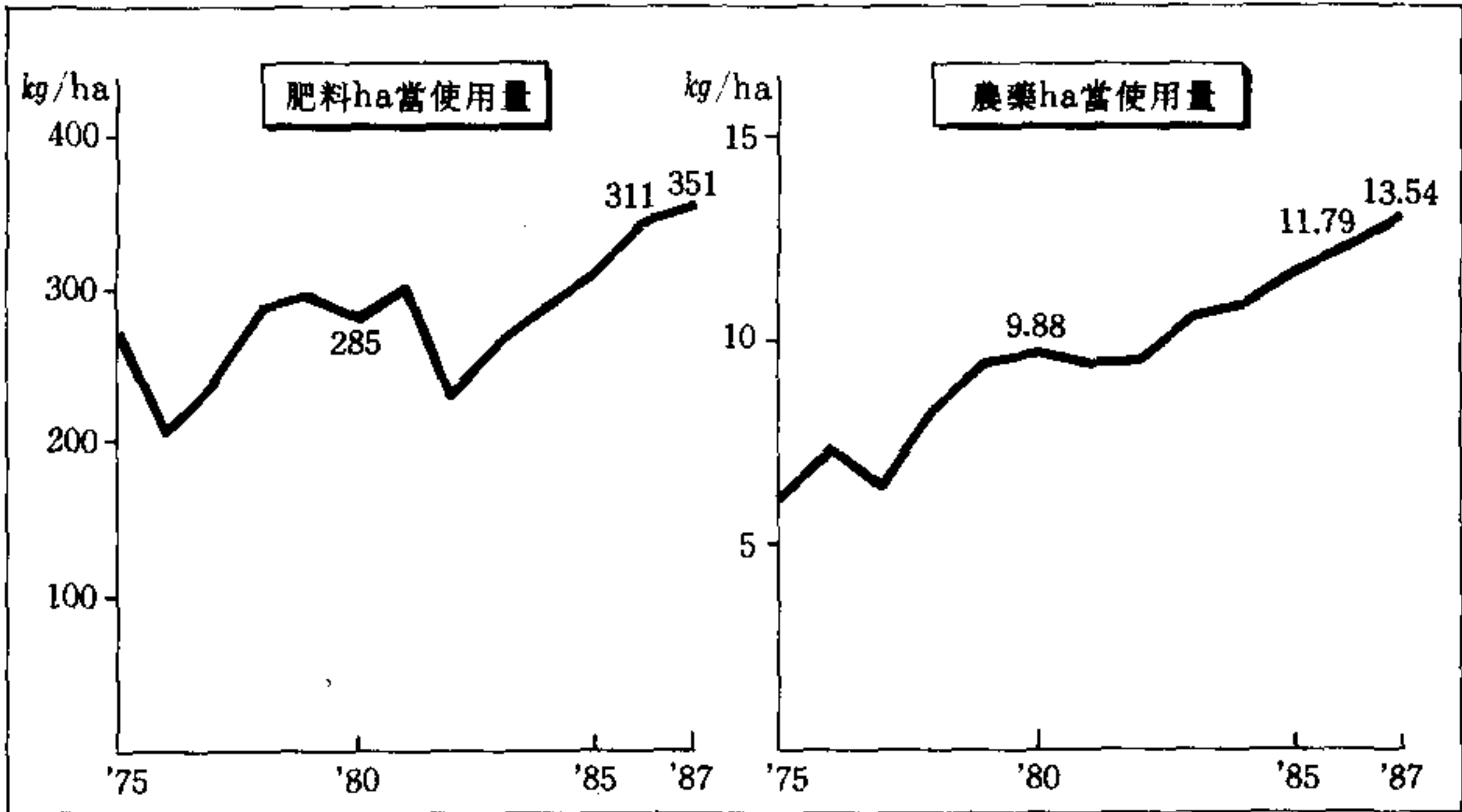
	畝面積	水利畝		耕地整理 (706千ha)		排水改善 (127千ha)	
		水利畝率	整理率	改善率			
70	1,284	745	58 %	144	20 %	—	— %
71	1,265	746	59	161	23	—	—
72	1,259	753	60	186	26	—	—
73	1,263	764	60	203	29	—	—
74	1,269	771	61	234	33	—	—
75	1,277	790	62	277	39	8	7
76	1,290	805	62	299	42	11	8
77	1,303	834	64	322	46	13	10
78	1,312	860	66	343	49	16	12
79	1,311	867	66	356	50	18	14
80	1,307	893	68	369	52	19	15
81	1,308	908	69	383	54	21	17
82	1,311	917	70	400	57	27	21
83	1,316	929	71	415	59	30	24
84	1,320	935	71	431	61	32	25
85	1,325	948	72	447	63	33	26
86	1,329	965	73	467	66	39	31
87	1,352	979	72	488	69	44	35

6. 主要農機械 普及 狀況



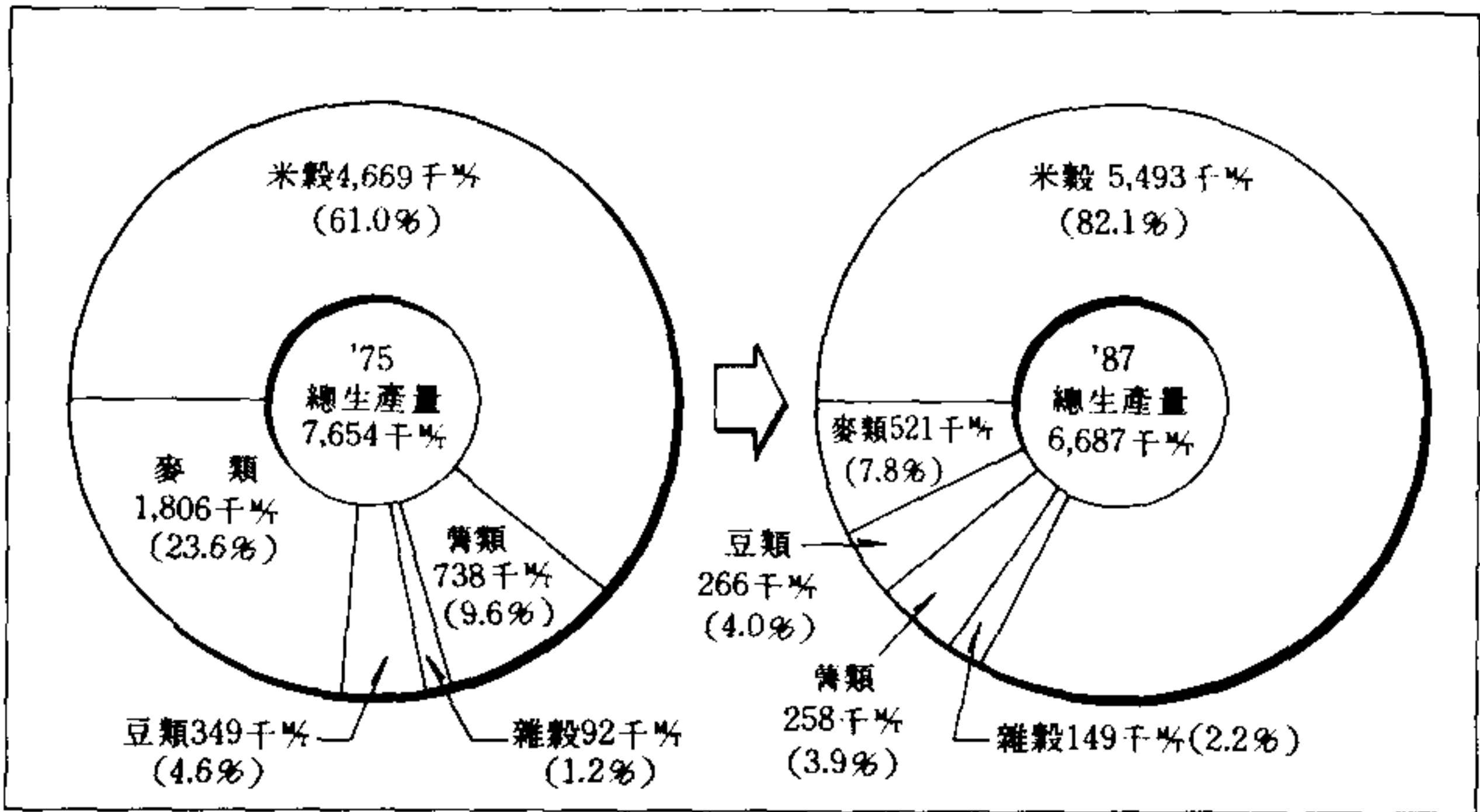
	耕耘機	트랙터	移秧機	바인더	콤바인	噴霧機	揚水機	脫穀機
	千臺	臺	臺	臺	臺	千臺	千臺	千臺
70	12	61	-	-	-	45	54	41
71	17	183	-	-	-	69	58	63
72	25	212	-	-	-	82	61	76
73	38	293	6	-	25	16	61	85
74	60	388	12	-	53	23	63	108
75	85	564	16	-	56	33	66	127
76	122	790	24	-	69	41	86	145
77	154	1,121	121	122	77	53	120	161
78	195	1,601	531	3,487	134	66	181	186
79	236	2,035	2,416	11,117	505	82	188	203
80	290	2,664	11,061	13,652	1,211	109	194	220
81	350	3,862	15,271	15,580	2,130	143	209	239
82	422	5,575	19,660	17,294	3,509	171	246	254
83	489	7,469	24,818	19,816	5,689	208	263	270
84	538	9,684	30,893	22,635	8,417	245	273	287
85	589	12,389	42,138	25,538	11,667	292	286	302
86	684	16,167	59,580	32,860	15,502	327	287	294
87	711	19,863	76,070	38,418	20,395	370	295	303

7. 肥料 及 農藥消費量



	肥 料				農 藥			
	生 產	消	費	自給率	生 產	消	費	自給率
			ha當				ha當	
	成分 千%		kg	%	基準量千%	千%	kg	%
75	860	886	282	97	22	21	6.15	106.2
76	833	643	203	129	26	24	7.27	110.2
77	1,089	736	243	148	31	24	6.18	130.5
78	1,330	866	289	154	30	26	8.22	116.5
79	1,438	863	297	167	37	31	9.56	121.3
80	1,345	828	285	162	42	33	9.88	126.5
81	1,208	832	300	145	46	35	9.52	121.9
82	1,201	617	230	195	44	34	9.57	132.1
83	1,197	809	263	169	47	40	10.88	117.5
84	1,394	762	281	183	48	38	10.95	127.4
85	1,398	807	311	173	51	42	11.79	120.1
86	1,374	893	347	154	68	52	12.21	132.0
87	1,554	913	351	170	70	56	13.54	125.3

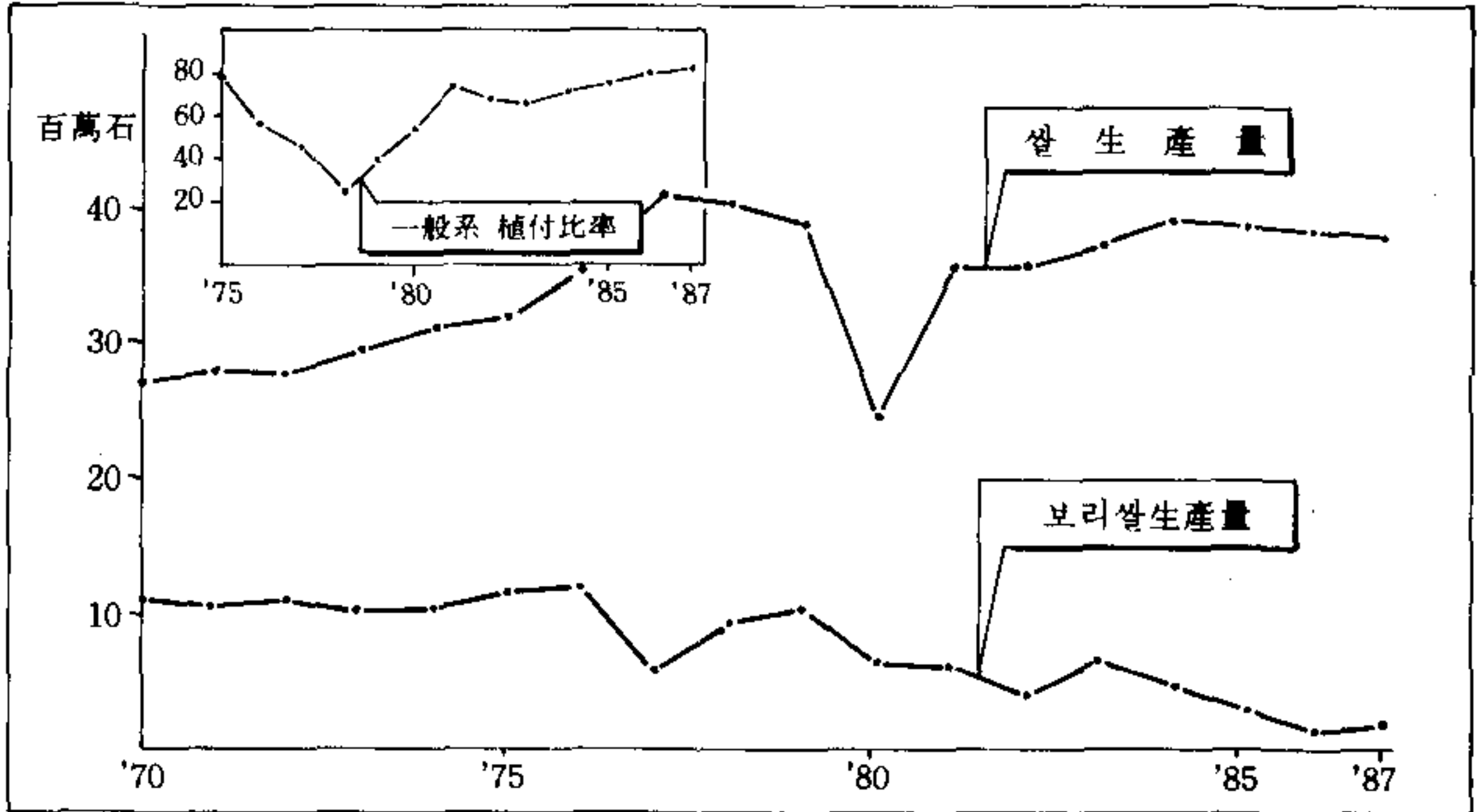
8. 食糧作物生產量



(單位：千ha, 千噸)

	計		米 穀		麥 類		豆 類		薯 類		雜 類	
	面 積	生產量	面 積	生產量	面 積	生產量	面 積	生產量	面 積	生產量	面 積	生產量
70	2,699	6,937	1,203	3,939	833	1,820	358	271	180	783	123	124
71	2,553	6,787	1,190	3,998	768	1,715	332	258	163	707	100	110
72	2,535	6,738	1,191	3,957	777	1,756	334	256	147	674	86	94
73	2,489	6,755	1,182	4,212	713	1,549	365	279	138	611	92	104
74	2,472	6,895	1,204	4,445	745	1,468	328	354	122	539	73	90
75	2,522	7,654	1,218	4,669	761	1,806	324	349	146	738	73	92
76	2,474	8,177	1,215	5,215	752	1,847	304	345	136	667	67	103
77	2,284	7,958	1,230	6,006	546	862	316	378	127	595	65	117
78	2,272	8,212	1,230	5,797	575	1,388	299	339	113	565	55	123
79	2,129	8,096	1,233	5,565	489	556	262	310	95	501	49	165
80	1,982	5,324	1,233	3,550	360	906	244	266	92	431	53	170
81	2,002	6,915	1,224	5,063	374	919	262	315	91	454	51	163
82	1,908	6,804	1,188	5,175	339	820	242	295	81	369	57	146
83	1,926	7,133	1,228	5,404	351	930	232	277	72	407	42	115
84	1,917	7,315	1,231	5,682	346	824	233	296	63	365	45	148
85	1,780	6,990	1,237	5,626	242	584	196	275	65	359	40	147
86	1,707	6,773	1,236	5,607	192	459	182	251	56	325	41	131
87	1,775	6,687	1,262	5,493	208	521	212	266	47	258	46	149

9. 쌀 및 보리쌀 生産量

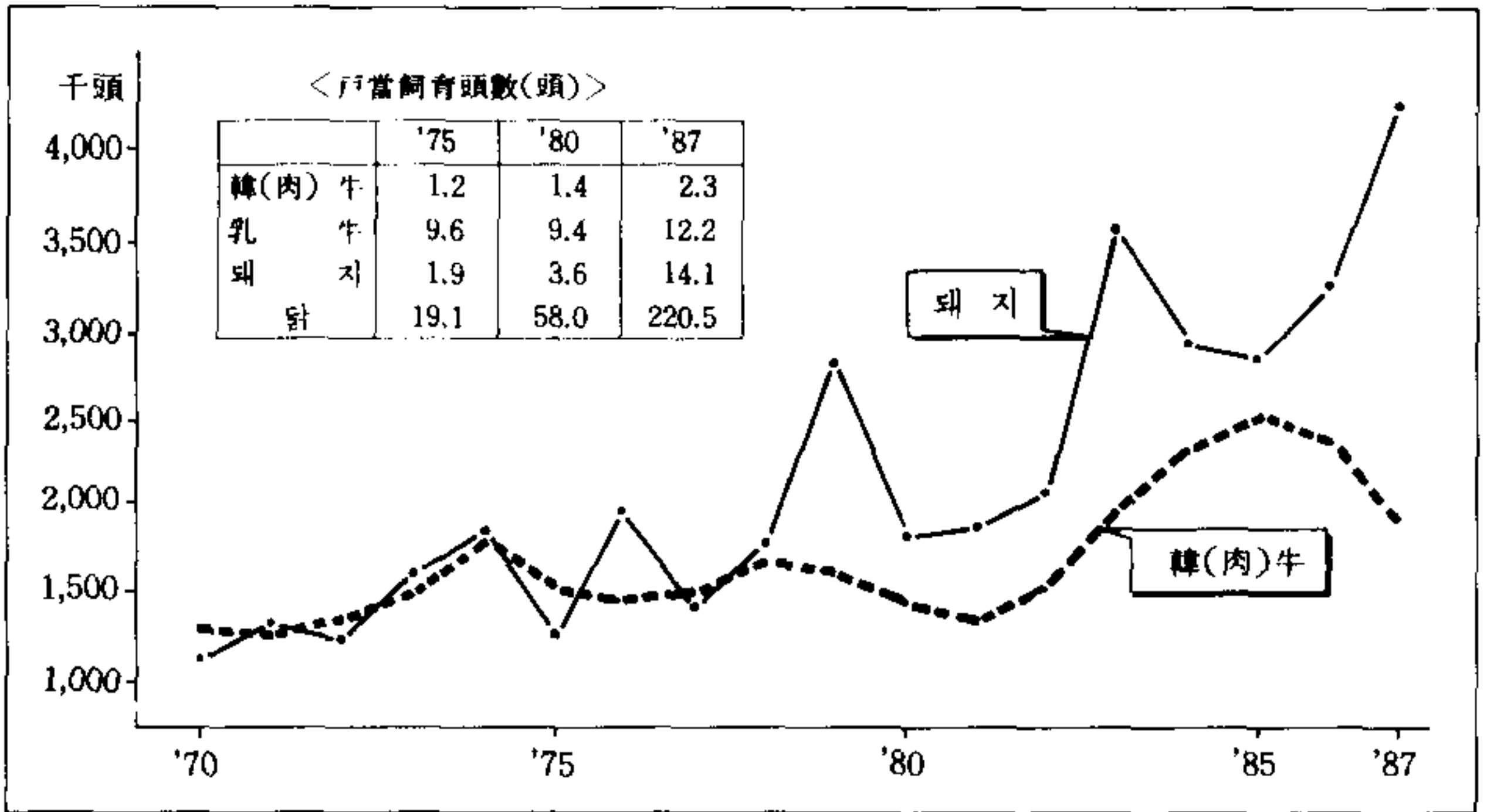


(單位：千ha, 千石)

	쌀						보리쌀					
	計		一般系		多收系		計		大麥		裸麥	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
70	1,203	27,356	1,203	27,356	—	—	730	11,528	342	4,837	388	6,691
71	1,190	27,761	1,190	27,761	—	—	675	10,919	310	4,408	365	6,511
72	1,191	27,481	1,191	27,481	—	—	709	11,580	296	4,469	413	7,111
73	1,182	29,248	1,182	29,248	—	—	664	10,424	280	3,899	384	6,525
74	1,204	30,867	1,023	24,726	181	6,141	701	10,023	327	4,201	374	5,822
75	1,218	32,134	944	22,553	274	9,581	708	12,272	322	5,062	386	7,210
76	1,215	36,215	682	18,483	533	17,732	701	12,577	303	4,975	398	7,602
77	1,230	41,706	570	16,372	660	25,334	503	5,748	197	2,071	306	3,677
78	1,230	40,258	301	8,895	929	31,363	537	9,436	246	3,691	291	5,745
79	1,233	38,645	489	14,697	744	23,948	450	10,408	173	3,713	277	6,695
80	1,233	24,655	629	12,621	604	12,034	297	5,244	111	1,933	186	3,311
81	1,224	35,160	903	25,414	321	9,746	320	5,585	123	1,750	197	3,835
82	1,188	35,938	802	22,804	386	13,134	287	4,851	100	1,435	187	3,416
83	1,228	37,529	809	23,480	419	14,049	290	5,334	95	1,845	195	3,489
84	1,231	39,457	864	26,663	367	12,794	287	4,870	104	1,603	183	3,267
85	1,237	39,071	894	27,064	343	12,007	165	2,802	64	1,174	101	1,628
86	1,236	38,935	964	30,007	272	8,929	140	2,288	52	815	88	1,473
87	1,262	38,145	1,015	30,315	247	7,830	161	2,810	57	980	104	1,830

註：一般系 쌀의 面積 및 生産量은 水稻와 陸稻實績을 包含

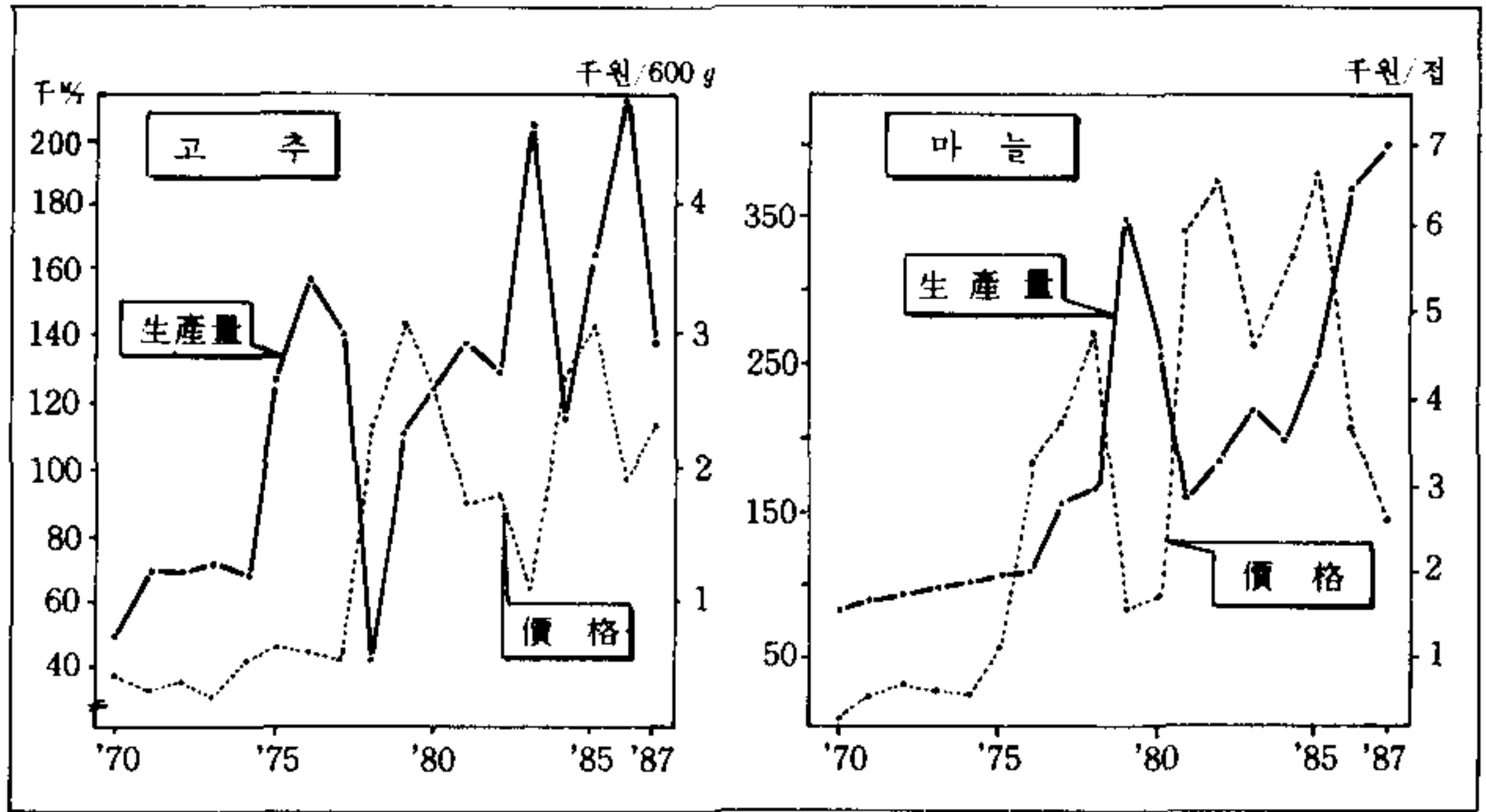
10. 家畜飼育動向



(單位：千頭, 千首, 千戶)

	韓 (肉) 牛		乳 牛		돼 지		닭	
	頭 數	戶 數	頭 數	戶 數	頭 數	戶 數	首 數	戶 數
70	1,286	1,102	24	3	1,121	884	23,633	1,338
71	1,250	1,049	30	3	1,333	925	25,903	1,110
72	1,338	1,107	36	4	1,248	861	24,537	1,045
73	1,493	1,191	52	5	1,595	817	23,701	1,004
74	1,785	1,359	73	7	1,818	890	18,814	1,002
75	1,556	1,277	86	9	1,247	654	20,939	1,094
76	1,463	1,196	90	10	1,953	910	26,325	1,237
77	1,508	1,173	109	14	1,482	689	30,224	1,179
78	1,651	1,176	136	16	1,719	658	40,753	1,172
79	1,599	1,092	163	17	2,843	758	41,120	923
80	1,427	997	207	22	1,784	503	40,130	692
81	1,312	858	194	18	1,832	425	42,999	628
82	1,526	896	228	23	2,183	444	46,592	618
83	1,940	971	275	30	3,649	539	49,239	538
84	2,318	1,037	334	38	2,958	362	46,483	367
85	2,553	1,048	390	44	2,853	251	51,081	303
86	2,370	991	437	43	3,347	262	56,095	282
87	1,923	854	463	38	4,281	303	59,324	269

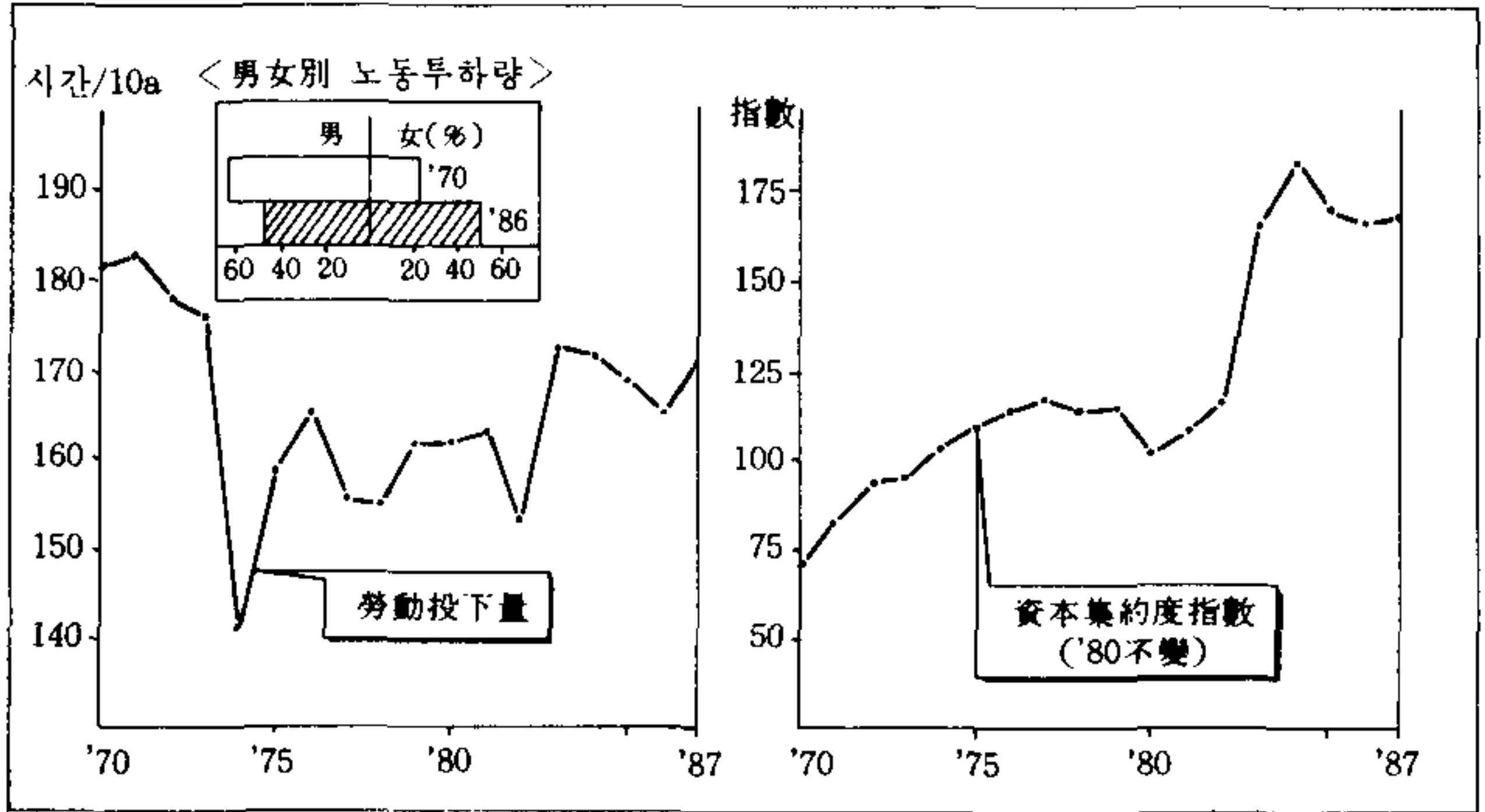
11. 양념類 生産 및 價格推移



	고 추			마 늘			양 파 ¹⁾		
	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格
	千ha	千%	원/600g	千ha	千%	원/1집	千ha	千%	원/20kg
70	37	53	472	15	78	364	4.0	83	134
71	41	74	388	15	82	545	3.6	90	126
72	44	73	401	16	88	748	5.1	120	77
73	45	77	355	17	91	608	4.3	91	131
74	48	71	563	18	97	504	5.8	128	163
75	99	128	732	14	103	1,027	4.2	95	246
76	108	157	670	14	106	3,350	5.1	124	372
77	99	141	589	20	156	3,700	12.1	258	277
78	69	42	2,439	25	166	4,882	7.1	165	994
79	109	112	3,108	41	350	1,569	9.9	393	352
80	133	125	2,662	37	253	1,720	7.7	275	590
81	151	138	1,764	26	154	5,994	9.8	281	959
82	113	130	1,888	28	186	6,556	14.3	439	530
83	122	194	1,166	33	220	4,617	14.5	542	277
84	100	117	2,665	40	200	5,611	5.3	171	6,574
85	118	165	3,100	39	256	6,353	10.7	440	2,604
86	129	198	1,958	48	370	3,231	9.7	379	4,135
87	89	138	2,359	49	401	2,124	11.8	525	2,390

註：1) '83년까지는 3.75kg當 價格임.

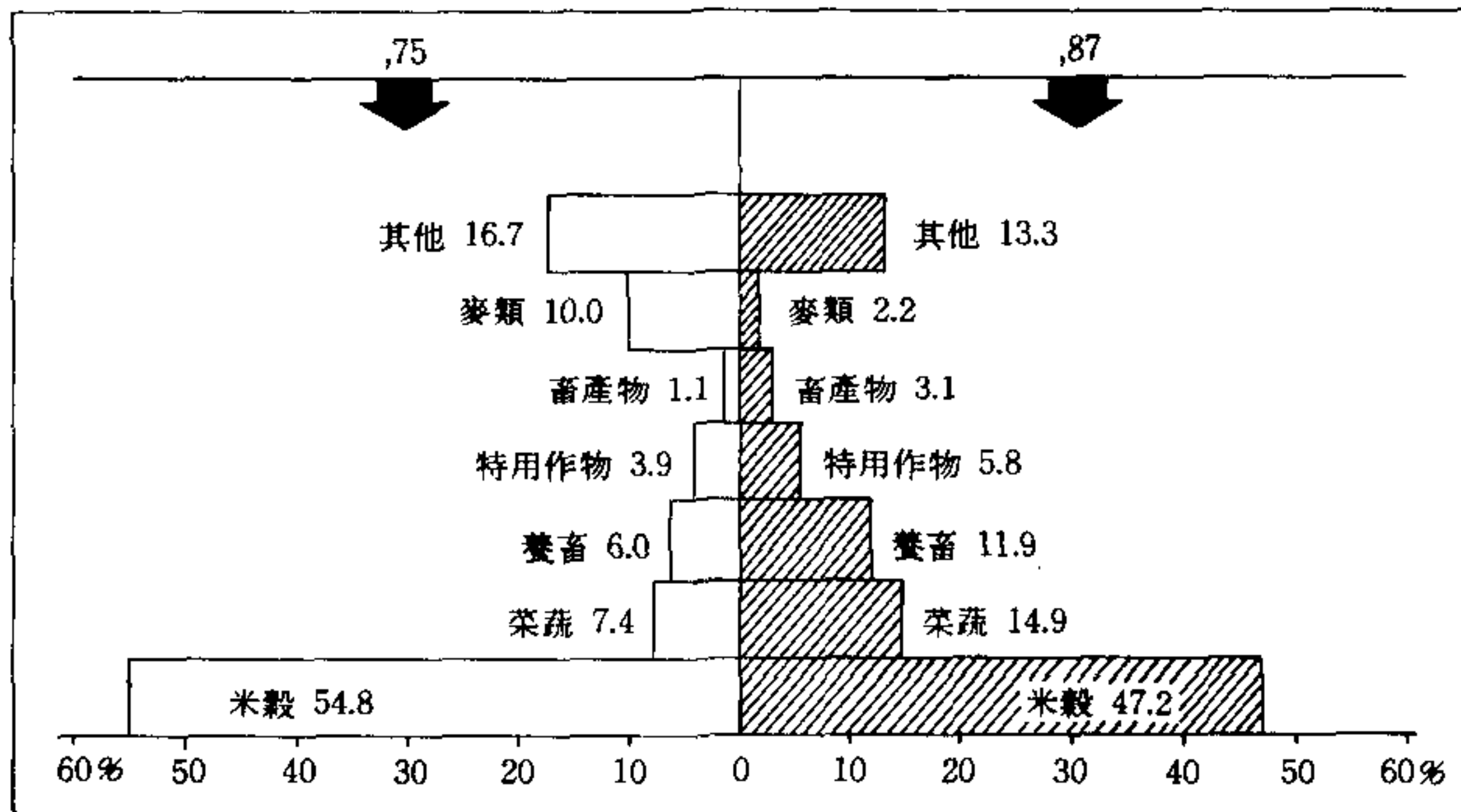
12. 農 業 生 產 性



	勞動生産性	勞動集約度	土地生産性	資本生産性	資 本 集 約 度	
	원/時間	時間/10a	원/10a		經 常	'80 不 變
70	107	183.23	19,639	0.74	26,394	161,926
71	159	194.25	29,338	0.81	36,194	196,707
72	200	177.79	35,551	0.77	46,459	217,099
73	223	175.33	39,071	0.71	54,757	228,154
74	378	14.23	56,040	0.72	77,642	248,058
75	467	159.04	74,307	0.74	100,904	25,873
76	575	165.38	95,066	0.74	128,796	272,873
77	660	156.94	103,614	0.67	154,915	283,208
78	855	155.98	133,432	0.72	185,195	278,489
79	926	162.97	150,865	0.67	224,385	281,184
80	1,061	161.03	170,868	0.70	243,143	243,143
81	1,454	162.85	236,756	0.77	306,229	265,363
82	1,860	154.07	286,518	0.80	358,578	291,527
83	1,750	172.90	302,540	0.58	517,847	404,884
84	1,949	171.02	333,272	0.57	589,289	443,742
85	1,925	168.84	325,038	0.57	570,159	412,561
86	1,936	165.19	319,763	0.56	570,008	401,697
87	2,018	172.42	348,008	0.58	603,161	410,035

註：不變價格은 GNP deflator로 換算한 것임.

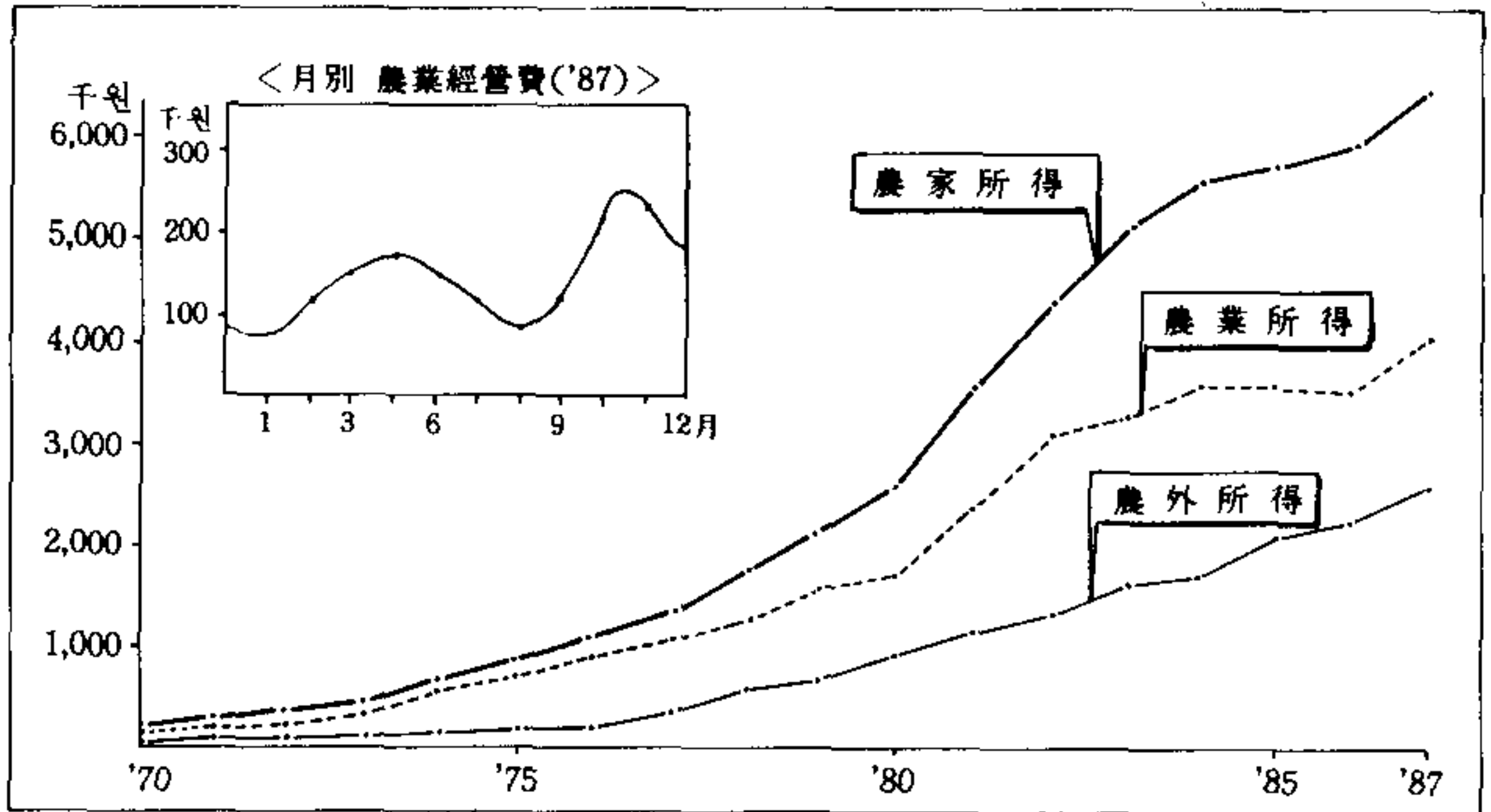
13. 農 業 租 收 入



(單位：千圓)

	計	農 作 物 收 入					農 作 物 以 外 收 入				
		米 穀	麥 類	菜 蔬	特用作物	其 他	農作物	養 畜	養蠶·其他		
70	248	220	138	26	21	7	20	28	4	9	15
71	357	318	210	35	22	15	36	39	5	13	21
72	428	378	248	42	24	18	46	50	8	19	23
73	480	421	271	42	18	23	57	60	10	21	29
74	664	585	395	51	43	26	70	80	11	28	41
75	891	784	488	89	66	35	106	107	10	54	43
76	1,166	1,012	655	99	99	40	119	153	15	96	42
77	1,334	1,126	775	38	124	61	128	207	29	141	37
78	1,769	1,484	911	111	198	85	179	285	48	191	46
79	2,027	1,838	1,155	145	239	91	208	180	43	91	55
80	2,342	2,019	1,140	120	379	102	278	323	41	226	56
81	3,269	2,708	1,697	137	418	132	324	526	97	421	44
82	3,998	3,103	1,960	160	476	163	344	895	162	686	47
83	4,702	3,485	2,080	169	552	194	490	1,217	79	1,087	51
84	5,277	4,233	2,477	156	775	241	584	1,044	95	989	51
85	5,477	4,524	2,628	125	950	225	596	953	130	751	72
86	5,619	4,608	2,827	108	781	290	602	1,011	160	762	89
87	5,984	5,024	2,922	130	894	349	729	960	183	711	66

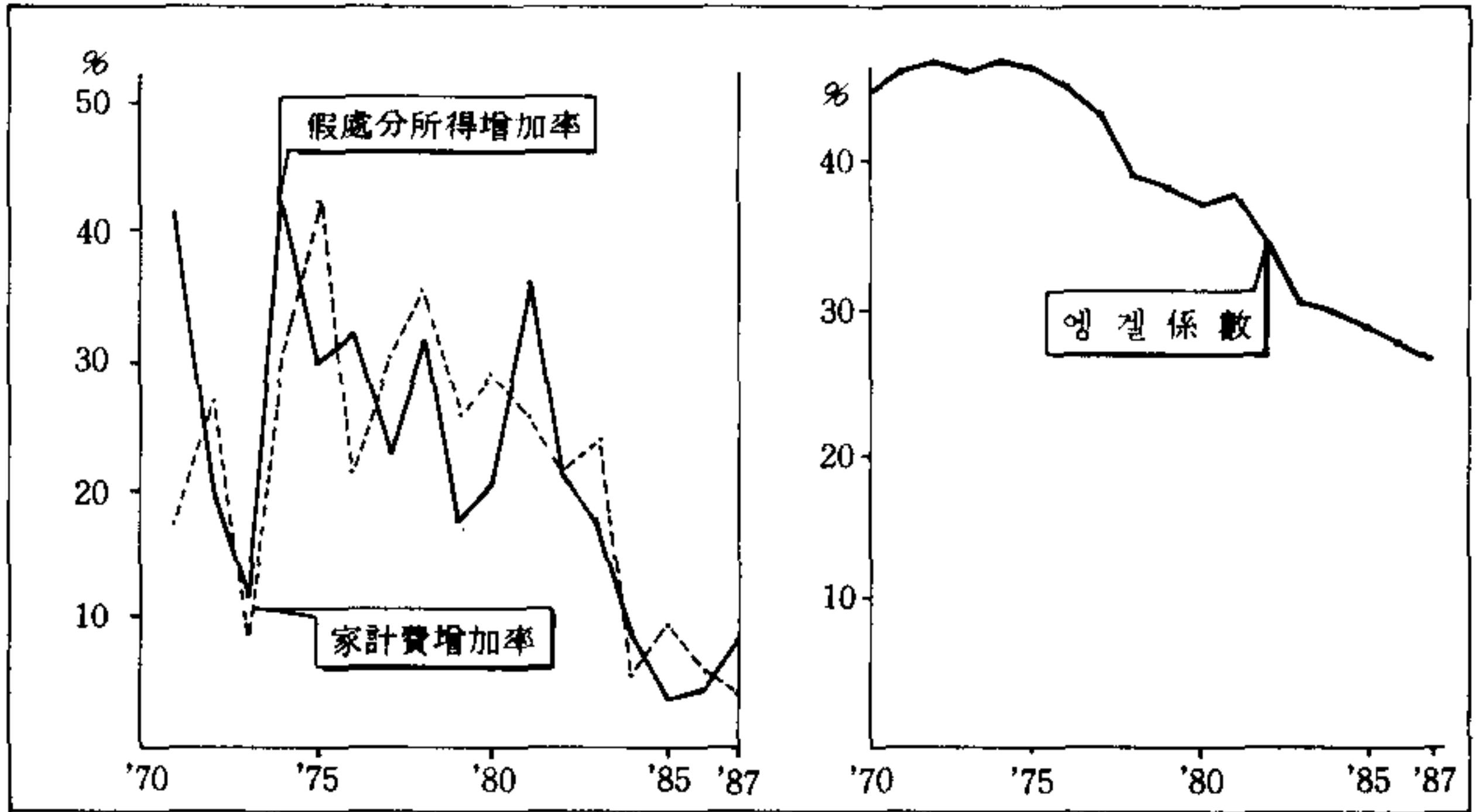
14. 農 家 所 得



(單位：千圓)

	農家所得	農 業 所 得		農 外 所 得		農外所得 構 成 比		
		農業租收入	農業經營費	兼業所得	事業外收入			
70	256	194	248	54	62	10	52	24.2
71	356	292	357	65	64	11	53	18.1
72	420	353	428	75	76	14	62	17.7
73	481	390	480	90	91	16	75	18.8
74	674	542	664	122	132	22	110	19.6
75	873	715	891	176	158	22	136	18.1
76	1,156	921	1,166	245	236	28	207	20.3
77	1,433	1,036	1,334	298	397	40	357	27.7
78	1,884	1,356	1,769	413	529	45	484	28.0
79	2,227	1,531	2,027	496	696	44	652	31.2
80	2,693	1,755	2,342	587	938	66	872	34.8
81	3,688	2,476	3,269	793	1,211	106	1,105	32.8
82	4,465	3,031	3,998	967	1,434	71	1,363	32.1
83	5,128	3,331	4,702	1,371	1,797	183	1,614	35.0
84	5,549	3,699	5,276	1,577	1,850	192	1,658	33.3
85	5,736	3,699	5,477	1,778	2,037	214	1,823	35.5
86	5,995	3,677	5,619	1,942	2,318	274	2,044	38.7
87	6,535	4,016	5,984	1,968	2,519	281	2,238	38.5

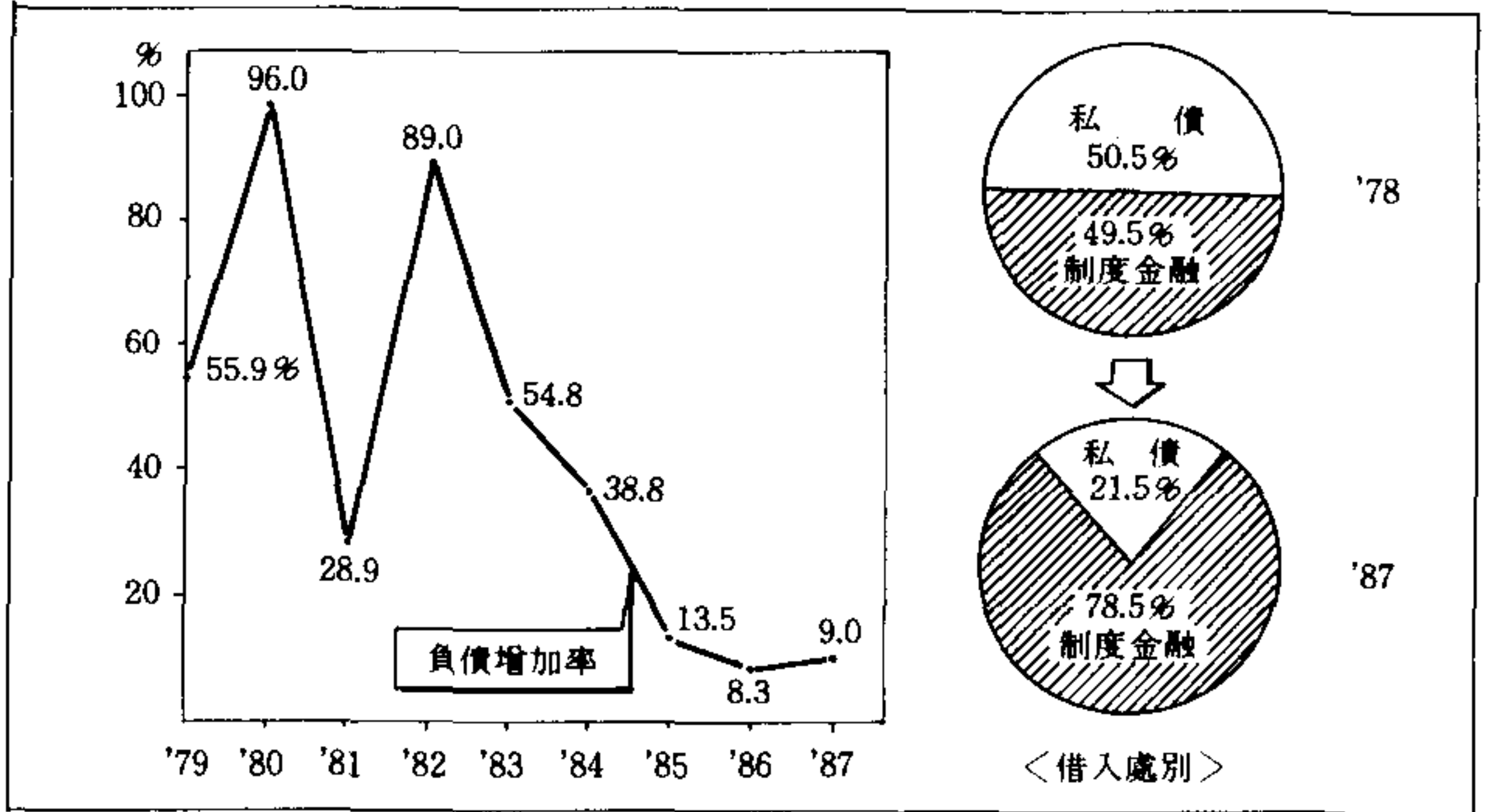
15. 可處分 所得 및 家計費



(單位：千圓)

	農家所得	假處分所得	家計費								영겔係數
			飲食物費	住居費	光熱費	被服費	教育費	散差·娛樂費	家計雜費		
70	256	249	208	95	9	16	18	14	1	55	45.9
71	356	349	244	116	10	20	19	18	2	59	47.4
72	429	422	310	149	18	21	23	20	3	76	48.2
73	481	470	337	160	22	22	25	24	4	80	47.3
74	675	660	436	211	33	31	31	28	6	96	48.4
75	873	853	616	292	43	39	42	38	7	155	47.3
76	1,156	1,127	749	343	57	46	54	58	8	183	45.7
77	1,433	1,387	976	418	77	56	66	79	11	269	42.8
78	1,884	1,826	1,321	505	114	61	93	105	16	427	38.3
79	2,228	2,148	1,662	629	136	74	112	147	26	538	37.8
80	2,693	2,579	2,138	788	144	101	131	200	36	738	36.8
81	3,688	3,542	2,676	1,008	167	126	145	253	44	933	37.7
82	4,465	4,294	3,258	1,086	208	140	168	345	60	1,251	33.3
83	5,128	5,050	4,054	1,233	307	170	183	445	56	1,661	30.4
84	5,549	5,467	4,272	1,258	315	179	179	492	55	1,794	29.4
85	5,736	5,690	4,691	1,333	359	192	190	555	54	2,008	28.4
86	5,995	5,950	4,995	1,371	387	199	189	586	57	2,206	27.4
87	6,535	6,490	5,201	1,401	435	203	214	586	58	2,304	26.9

16. 農 家 負 債



○用途別

(單位：千圓)

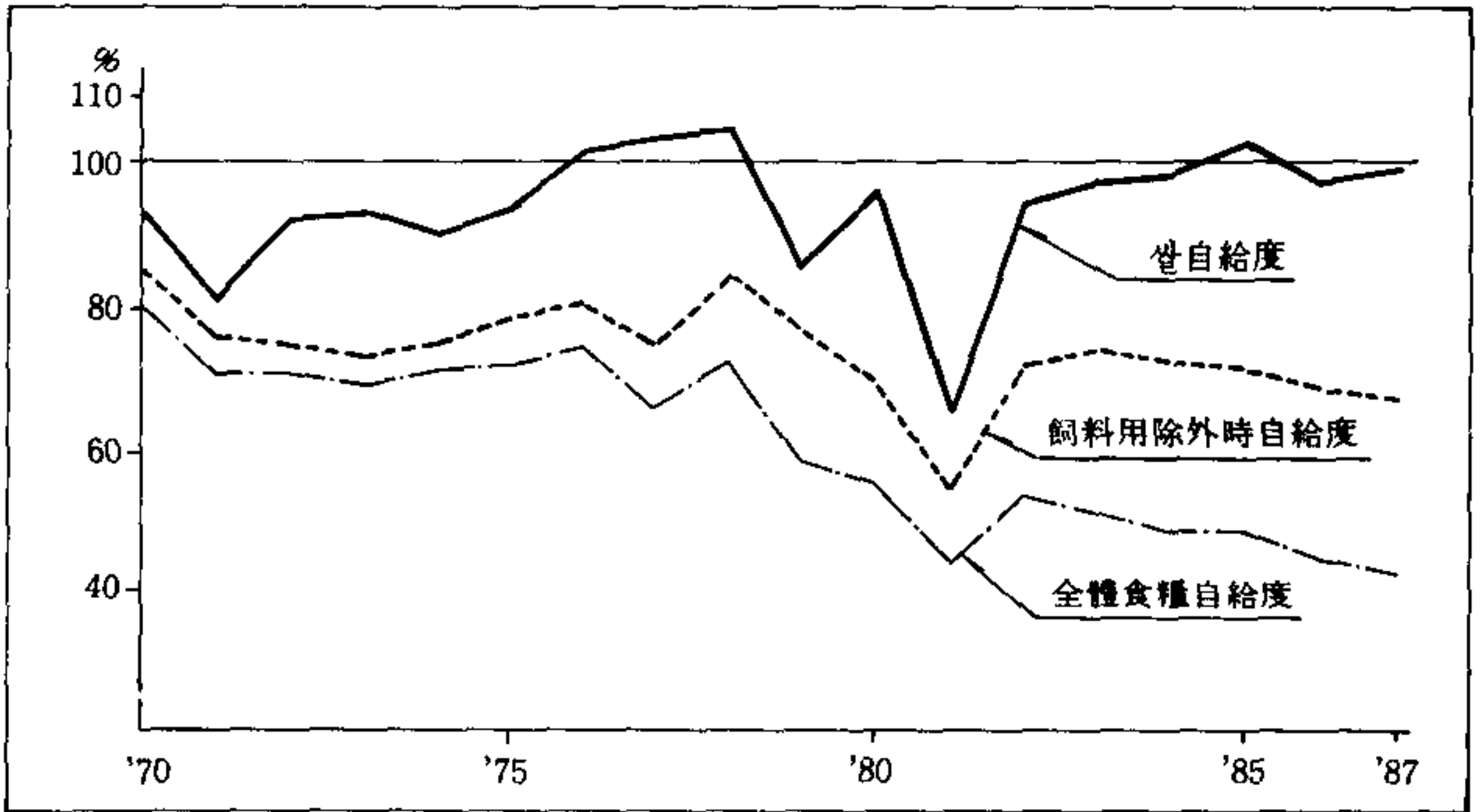
	計	生産性負債					消費性負擔				負債償還用
		小計	管農施設	管農資材	動物飼料	兼業資金・其他	小計	生計費	教育費	冠婚喪祭・其他	
79	173	115	57	20	19	19	47	13	6	28	11
80	339	206	79	47	36	44	112	40	19	53	21
81	437	260	88	60	52	60	145	44	28	73	32
82	830	509	143	135	130	101	263	64	48	151	58
83	1,285	801	238	243	232	88	361	159	70	132	123
84	1,784	1,140	369	294	336	141	455	195	78	182	189
85	2,024	1,306	419	308	320	259	476	290	97	89	242
86	2,192	1,357	471	314	289	283	537	335	103	99	298
87	2,390	1,446	493	327	266	360	532	339	98	95	412

○借入處別

(單位：千圓)

	計	制 度 金 融			個 人
		小 計	農 協	市中銀行, 其他	
79	173	145	86	59	28
80	339	173	165	8	166
81	437	227	216	11	210
82	830	554	524	30	276
83	1,285	864	823	41	421
84	1,784	1,226	1,148	78	558
85	2,024	1,441	1,337	104	583
86	2,192	1,550	1,436	114	642
87	2,390	1,876	1,718	158	514

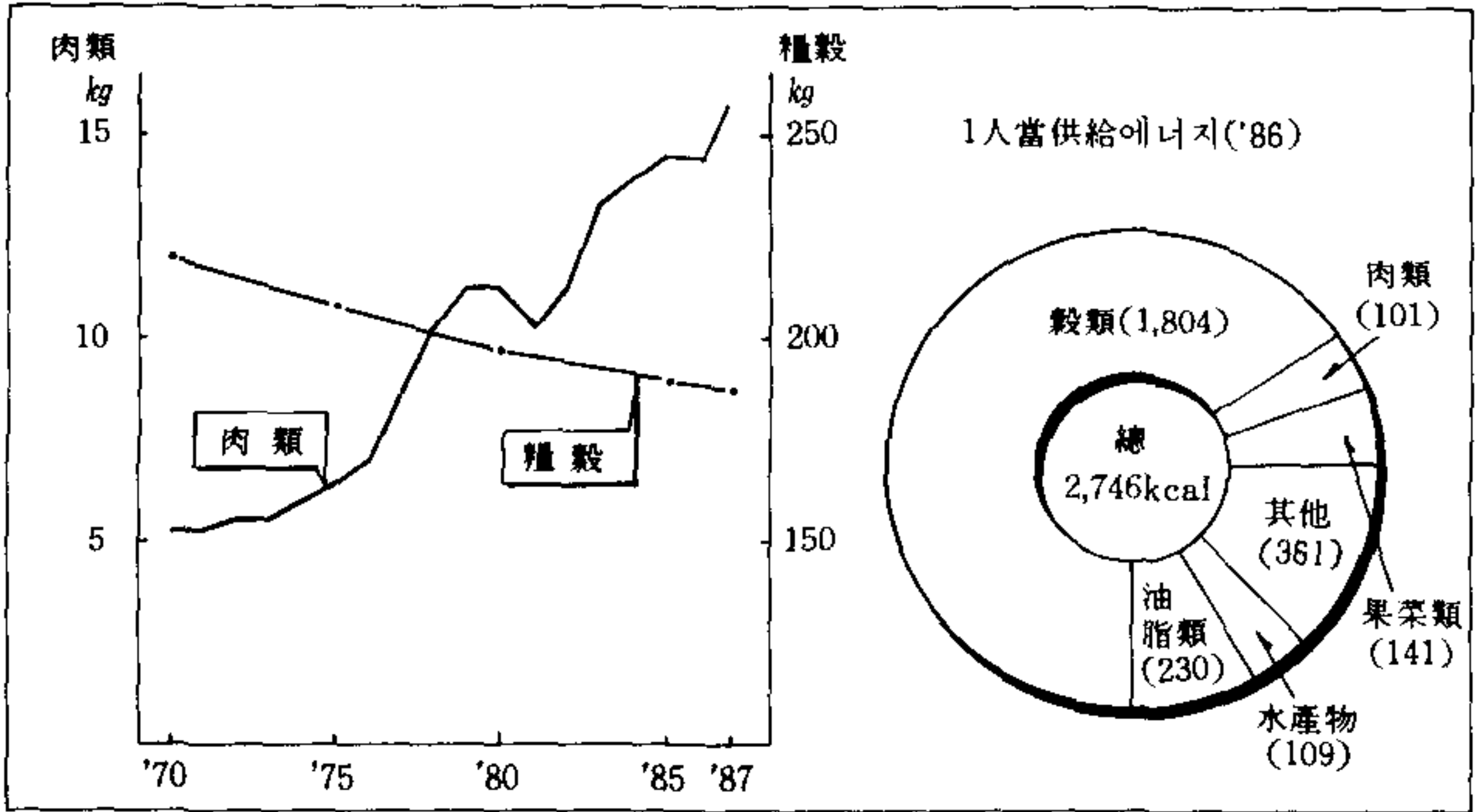
17. 食糧自給度



(單位：%)

	全 體	쌀	보리쌀	밀	옥수수	豆 類	薯 類	飼料用 除 外 時
70	80.5	93.1	106.3	15.4	18.9	86.1	100.0	86.2
71	71.2	82.5	91.8	11.8	18.6	82.6	100.0	76.0
72	70.8	91.6	93.2	7.3	13.8	85.1	100.0	75.8
73	69.4	92.1	82.9	5.3	12.4	75.2	100.0	74.0
74	70.3	90.8	74.8	4.9	10.3	84.5	100.0	75.9
75	73.0	94.6	92.0	5.7	8.3	85.8	100.0	79.1
76	74.1	100.5	97.9	4.5	6.7	74.4	100.0	81.7
77	65.1	103.4	53.4	2.3	6.2	67.5	100.0	74.2
78	72.6	103.9	119.9	2.1	6.0	59.3	100.0	85.8
79	59.8	85.7	117.3	2.4	3.4	43.4	99.8	75.5
80	56.0	95.1	57.6	4.8	5.9	35.1	100.0	69.6
81	43.2	66.2	72.7	2.7	6.1	29.7	100.0	53.9
82	53.0	93.7	85.9	3.4	4.9	32.4	100.0	70.7
83	50.2	97.6	129.0	6.0	2.8	25.7	100.0	73.7
84	48.7	97.5	103.9	0.6	3.1	23.5	100.0	72.3
85	48.4	103.3	82.6	0.4	4.1	22.5	100.0	71.6
86	44.5	96.9	82.3	0.2	3.5	18.8	100.0	68.5
87(P)	41.3	99.8	97.2	0.1	2.4	16.2	100.0	67.0

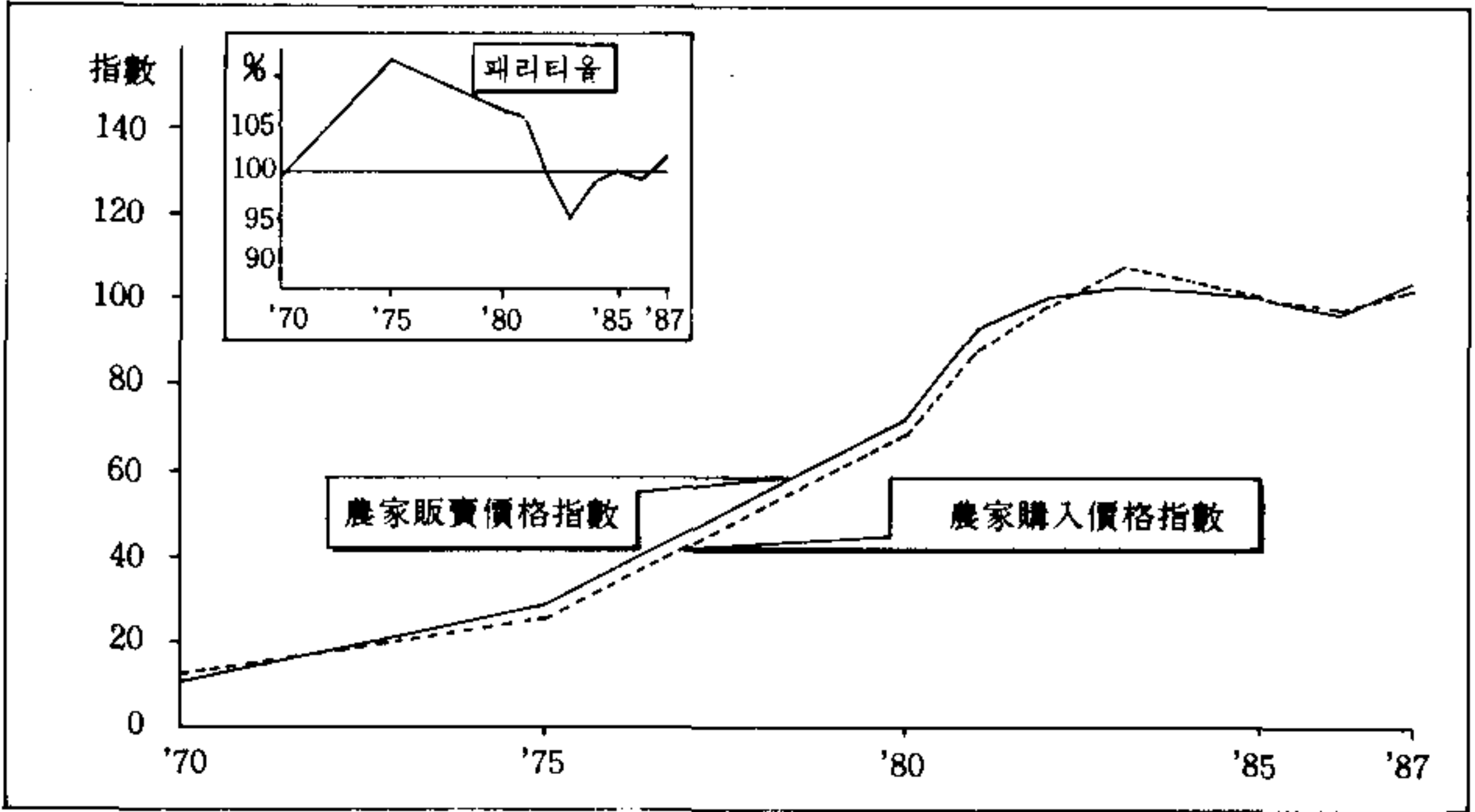
18. 1人當 食品消費量



(單位: kg)

年次	糧穀	쌀	菜蔬類	果實類	肉類	쇠고기	牛乳
70	219.4	136.4	59.9	13.1	5.2	1.2	1.4
71	224.3	134.8	67.5	12.3	5.2	1.2	1.9
72	225.9	134.5	62.3	14.6	5.5	1.2	2.5
73	222.1	129.4	58.8	16.1	5.5	1.3	3.2
74	208.8	127.8	65.2	16.8	5.8	1.5	3.6
75	207.3	123.6	62.5	15.0	6.4	2.0	4.6
76	203.5	120.1	68.2	16.7	6.8	2.1	5.5
77	203.9	126.4	62.5	21.1	8.1	2.2	7.0
78	201.5	134.7	104.0	21.6	10.1	3.1	8.8
79	198.8	135.6	122.5	22.8	11.3	3.0	10.0
80	195.1	132.7	120.6	21.8	11.3	2.6	11.0
81	196.0	131.4	124.0	26.4	10.2	2.4	14.4
82	192.2	130.2	130.4	30.3	11.2	2.7	15.1
83	185.2	129.5	110.1	35.0	13.3	2.9	18.2
84	183.5	130.1	102.6	30.2	13.9	2.6	20.5
85	181.7	128.1	98.6	35.2	14.4	2.9	23.3
86	179.0	127.7	114.6	35.2	14.3	3.5	27.8
87(P)	175.7	126.2	104.6	38.0	15.7	3.6	31.9

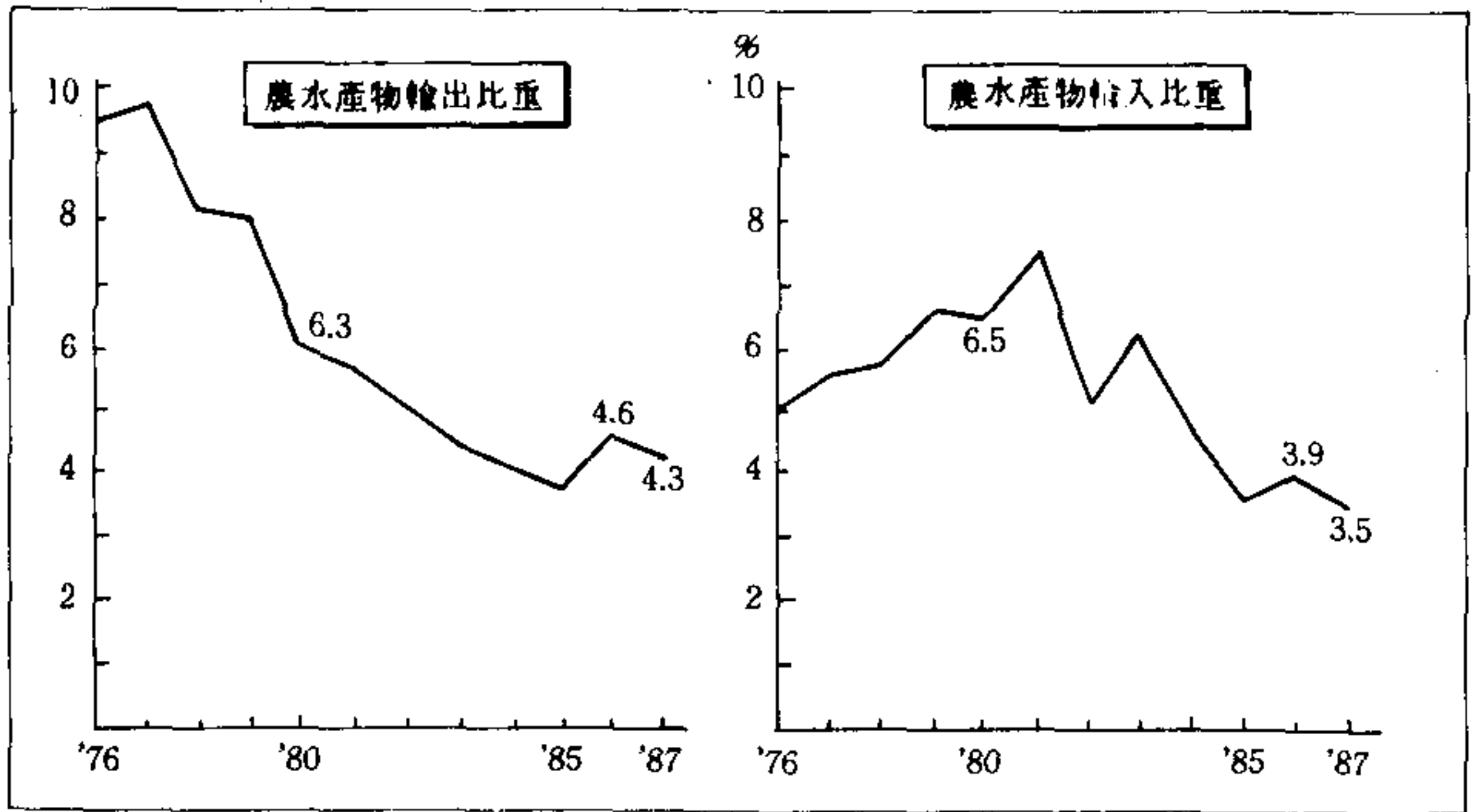
19. 農家交易條件



('85=100)

	農家販賣價格指數				農家購入價格指數				農家交易條件 (패리티)
	總指數	穀物	青果物	畜產物	總指數	家計用品	農業用品	農貸料金	
70	10.6	9.2	15.1	10.8	10.7	11.2	12.3	5.8	99.1
75	28.4	27.8	31.5	24.8	25.3	26.7	27.1	15.6	112.3
80	72.4	72.6	74.3	68.6	68.3	68.4	68.7	66.8	106.0
81	92.8	85.7	93.1	105.0	87.8	84.5	96.0	77.5	105.7
82	99.2	88.9	85.6	127.7	98.8	91.7	113.3	86.1	100.4
83	101.5	89.9	72.9	142.1	107.0	95.6	128.9	91.2	94.9
84	100.7	92.4	95.5	120.0	102.5	97.3	112.7	94.9	98.2
85	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
86	97.8	108.2	85.9	91.4	99.4	102.4	94.5	103.5	98.4
87	102.6	113.2	97.1	88.4	101.1	104.8	94.6	108.1	101.5

20. 農水產物 輸出入 動向

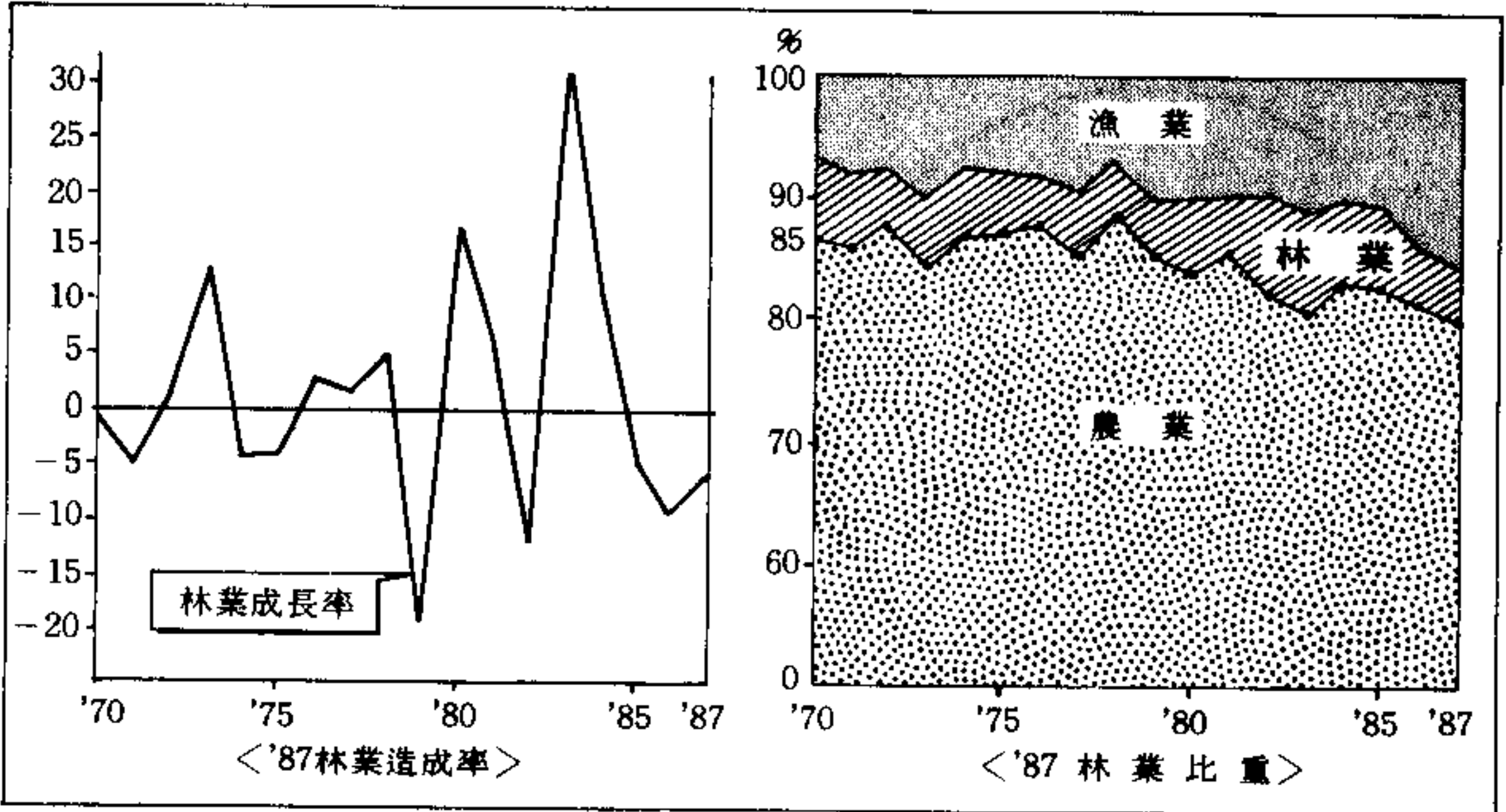


(單位：百萬\$)

	輸 出				輸 入			
	總輸出	農水產物	農產物	水產物	總輸入	農水產物	糧 穀	飼料穀
76	7,715	744	176	568	8,774	451	409	111
77	10,046	979	275	703	10,811	613	569	221
78	12,711	1,033	281	752	14,972	871	576	60
79	15,065	1,202	266	936	20,339	1,316	1,018	486
80	17,505	1,096	225	871	22,292	1,444	1,355	393
81	20,993	1,233	182	1,051	26,131	1,938	1,703	421
82	21,616	1,102	155	947	24,251	1,241	969	444
83	24,223	1,062	155	907	26,192	1,605	1,191	744
84	29,245	1,172	217	955	30,631	1,447	1,167	688
85	30,283	1,134	164	970	31,136	1,151	983	575
86	34,714	1,592	208	1,384	31,584	1,231	1,016	611
87	47,281	2,051	320	1,731	41,020	1,420	1,107	657

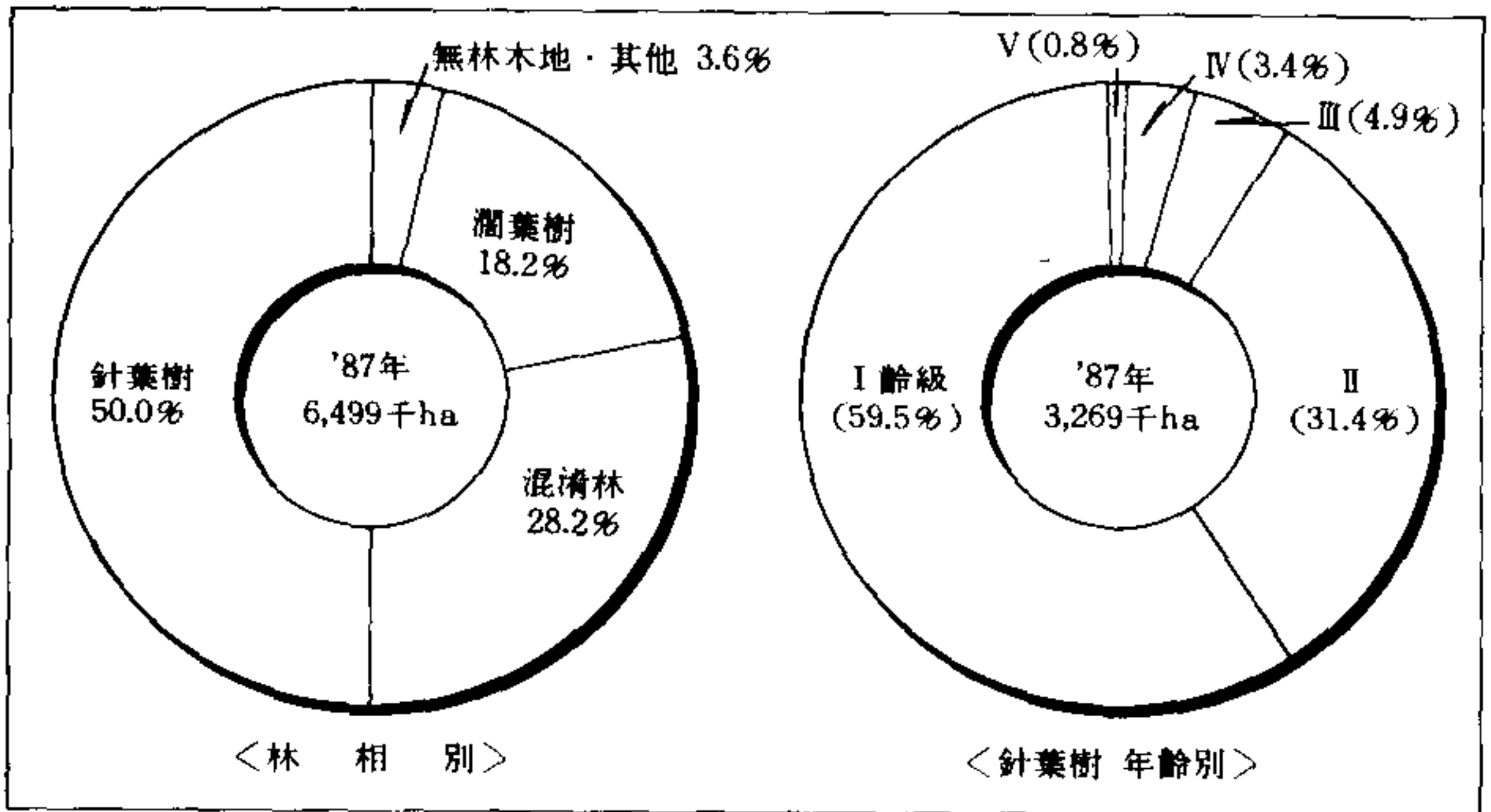
林業

1. 林業成長



	農 業 構 造					成 長 率				
	國 民 總生產	農 林 漁 業			國 民 總生產	農 林 漁 業				
		農 業	林 業	漁 業		農 業	林 業	漁 業		
	經常10億円				80不變%					
70	2,776.9	25.8	22.5	1.6	1.7	7.6	△1.4	△2.2	△0.1	19.2
71	3,406.9	26.6	23.1	1.4	2.0	9.1	3.4	4.1	△4.4	1.3
72	4,177.5	26.2	23.1	1.3	1.8	5.3	2.0	1.2	1.9	15.6
73	5,355.5	24.7	20.9	1.4	2.4	14.0	7.1	5.7	12.8	20.8
74	7,564.5	24.6	21.5	1.4	1.7	8.5	7.1	7.2	△3.6	15.3
75	10,064.6	24.9	21.8	1.3	1.8	6.8	4.2	5.3	△3.4	2.2
76	13,818.2	23.5	20.7	1.1	1.7	13.4	10.2	11.2	3.2	1.9
77	17,728.6	22.3	19.1	1.2	2.1	10.7	3.0	3.1	2.4	2.0
78	23,936.8	20.4	18.1	1.0	1.8	11.0	△9.9	△11.0	5.0	△5.6
79	30,741.1	19.1	16.4	0.9	1.8	7.0	7.4	8.9	△18.2	8.9
80	36,672.3	15.1	12.7	0.9	1.4	△4.8	△19.9	△23.7	17.0	4.1
81	45,126.2	16.5	14.0	0.9	1.6	6.6	22.4	24.3	5.7	16.0
82	50,724.6	15.2	12.5	1.2	1.4	5.4	3.3	4.4	△11.9	1.6
83	58,985.8	14.1	11.4	1.1	1.5	11.9	6.5	6.3	31.1	△4.4
84	66,408.2	13.8	11.5	0.9	1.3	2.4	0.2	△1.0	7.7	8.3
85	72,849.8	13.9	11.6	0.9	1.5	5.4	4.8	5.3	△4.7	6.7
86	83,833.0	12.7	10.9	0.7	1.6	12.5	4.4	4.5	△8.7	12.6
87	97,531.7	11.4	9.2	0.7	1.6	12.0	△4.3	△4.6	△5.1	△1.2

2. 林相別 林野面積

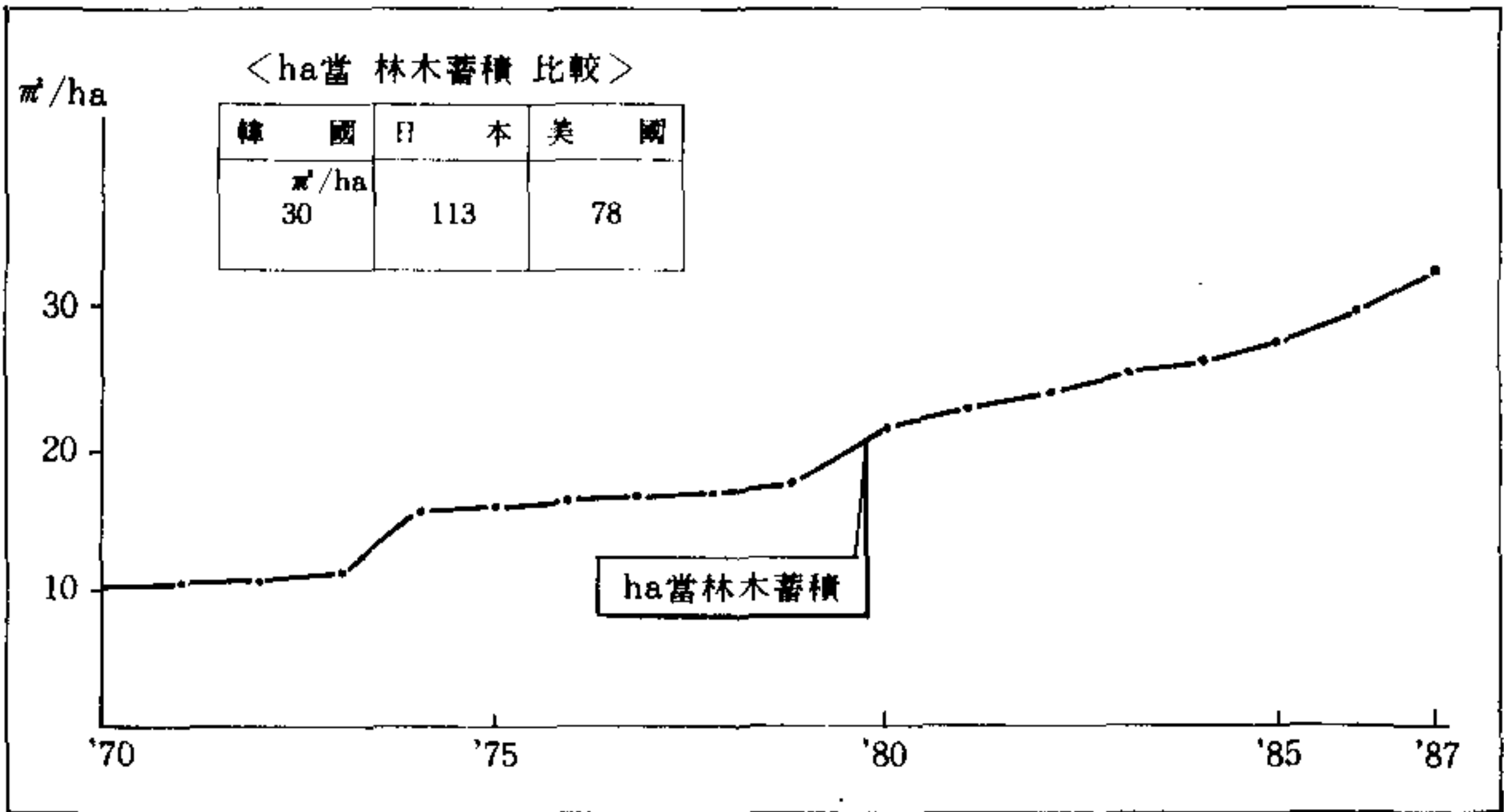


(單位：千ha)

	計	針葉樹	闊葉樹	混淆林	竹林	無立木地	未調査地
70	6,611	3,268	1,207	1,219	6	860	51
71	6,611	3,306	1,209	1,216	7	826	47
72	6,597	3,306	1,208	1,210	7	822	43
73	6,586	3,317	1,217	1,201	7	799	45
74	6,641	3,211	1,038	1,677	4	703	8
75	6,635	3,201	1,099	1,676	4	647	8
76	6,613	3,185	1,147	1,680	4	589	8
77	6,593	3,178	1,182	1,693	4	528	8
78	6,578	3,178	1,229	1,681	4	478	8
79	6,571	3,193	1,252	1,667	5	446	8
80	6,567	3,249	1,148	1,899	5	241	25
81	6,563	3,256	1,150	1,881	5	246	25
82	6,554	3,260	1,159	1,860	5	245	25
83	6,547	3,274	1,157	1,847	5	239	25
84	6,539	3,280	1,161	1,832	5	242	19
85	6,531	3,281	1,158	1,823	5	245	19
86	6,624	3,270	1,182	1,831	5	217	19
87	6,499	3,269	1,187	1,835	5	184	19

註：I 齡級(1~9年) II 齡級(10~19) III 齡級(20~29) IV 齡級(30~39) V 齡級(40~49)

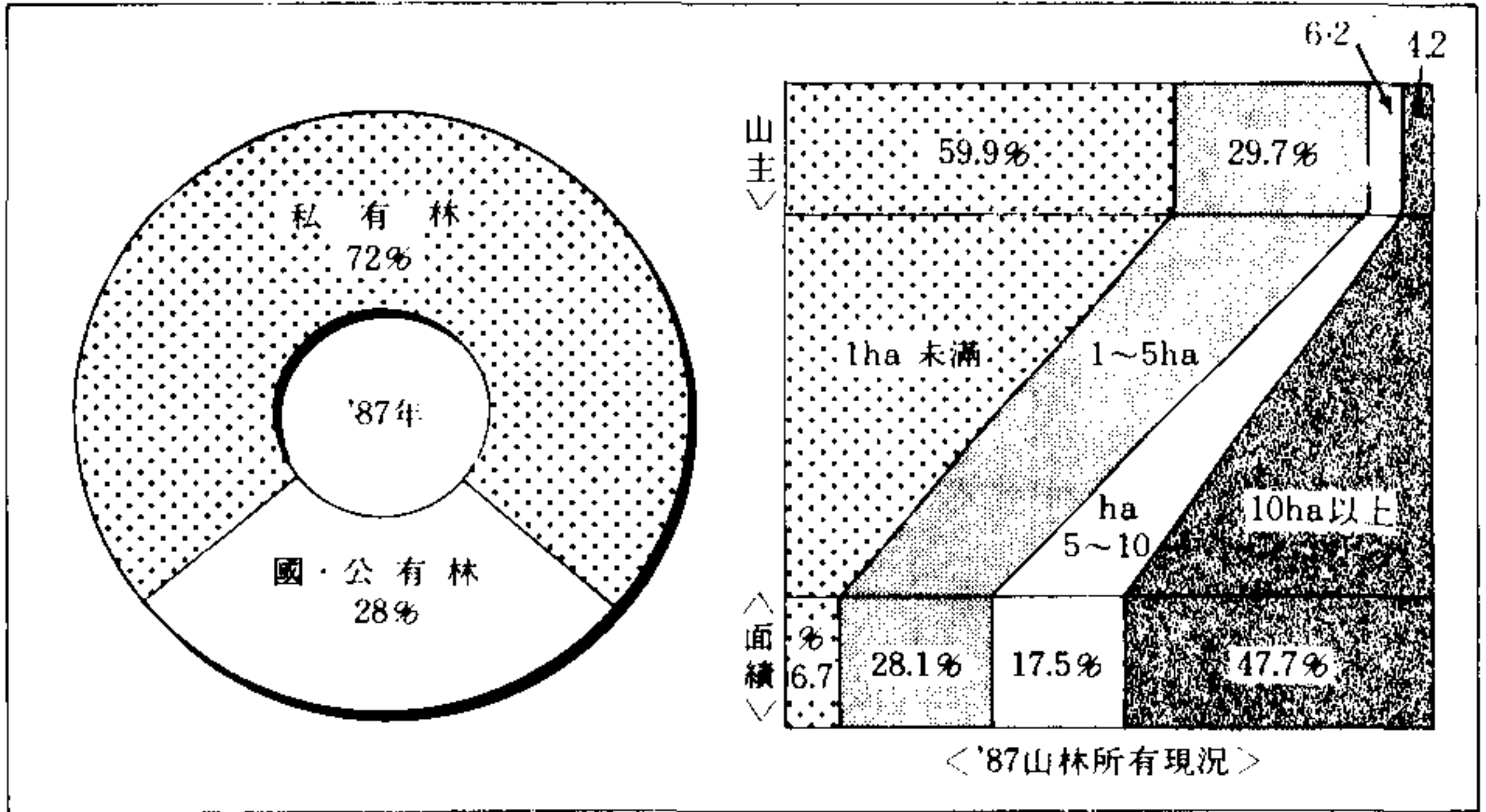
3. 林 木 蓄 積



(單位：千 π^2)

	計	國 有 林	公 有 林	私 有 林	ha當 林木蓄積
70	68,773	34,307	5,041	29,425	10.32
71	70,770	35,306	5,234	30,230	10.61
72	72,698	36,450	5,475	30,772	10.93
73	74,466	37,342	5,692	31,432	11.21
74	102,458	43,781	6,963	51,714	15.43
75	105,343	44,893	7,218	53,232	15.88
76	108,161	46,024	7,483	54,665	16.35
77	111,011	47,208	7,748	56,055	16.84
78	114,008	48,422	8,058	57,526	17.33
79	117,281	49,740	8,345	59,196	17.85
80	145,694	57,295	10,033	78,366	22.18
81	151,550	59,177	10,492	81,881	23.09
82	157,758	61,398	10,981	85,377	24.07
83	164,362	63,557	11,503	89,302	25.10
84	171,946	66,283	12,094	93,569	26.29
85	179,381	68,665	12,661	98,055	27.47
86	192,931	72,289	13,657	106,985	29.57
87	200,802	75,000	14,302	111,000	30.90

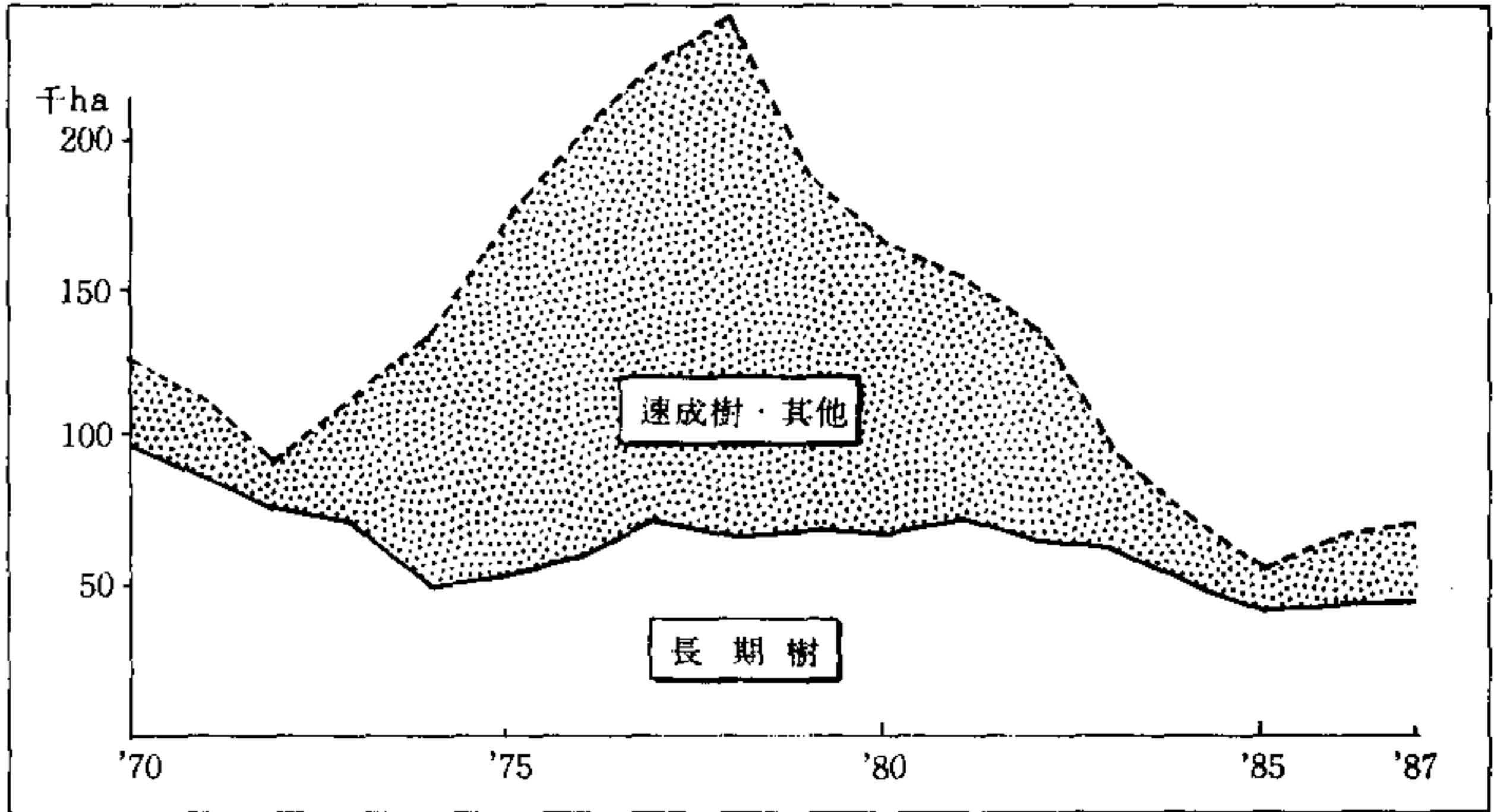
4. 山林所有構造



(單位：千ha)

	計 面積	林 野 面 積		
		國 有 林 面 積	公 有 林 面 積	私 有 林 面 積
70	6,611	1,276	489	4,846
71	6,611	1,285	490	4,836
72	6,597	1,287	497	4,813
73	6,586	1,292	496	4,798
74	6,641	1,304	510	4,827
75	6,635	1,310	506	4,819
76	6,613	1,309	503	4,801
77	6,593	1,308	502	4,783
78	6,578	1,308	501	4,769
79	6,571	1,307	501	4,763
80	6,567	1,314	520	4,733
81	6,563	1,310	520	4,733
82	6,554	1,314	518	4,722
83	6,547	1,315	518	4,714
84	6,539	1,318	513	4,708
85	6,531	1,314	512	4,705
86	6,524	1,318	508	4,698
87	6,499	1,319	486	4,694

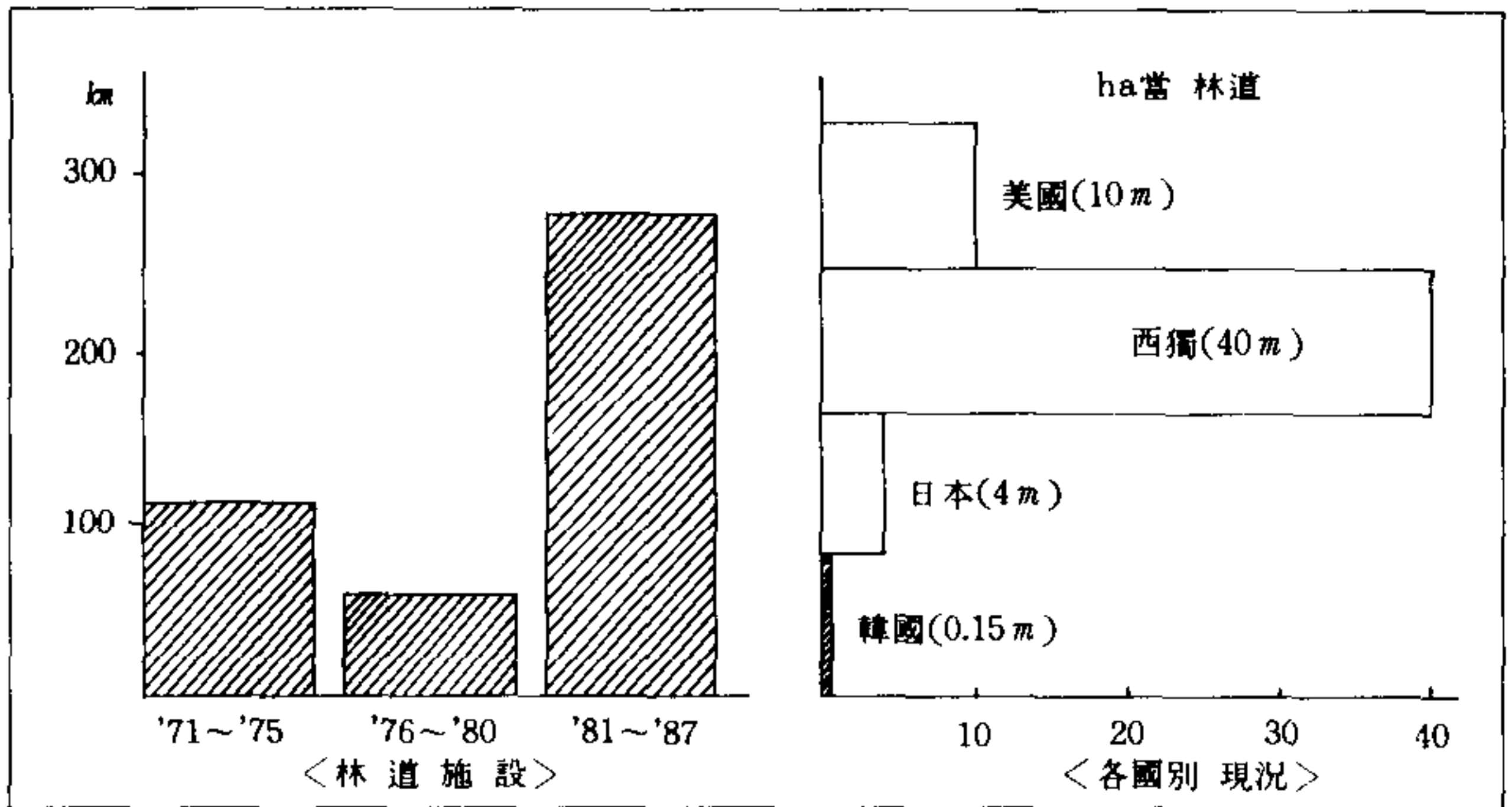
5. 樹種別 造林實績



(單位：千ha, 百萬本)

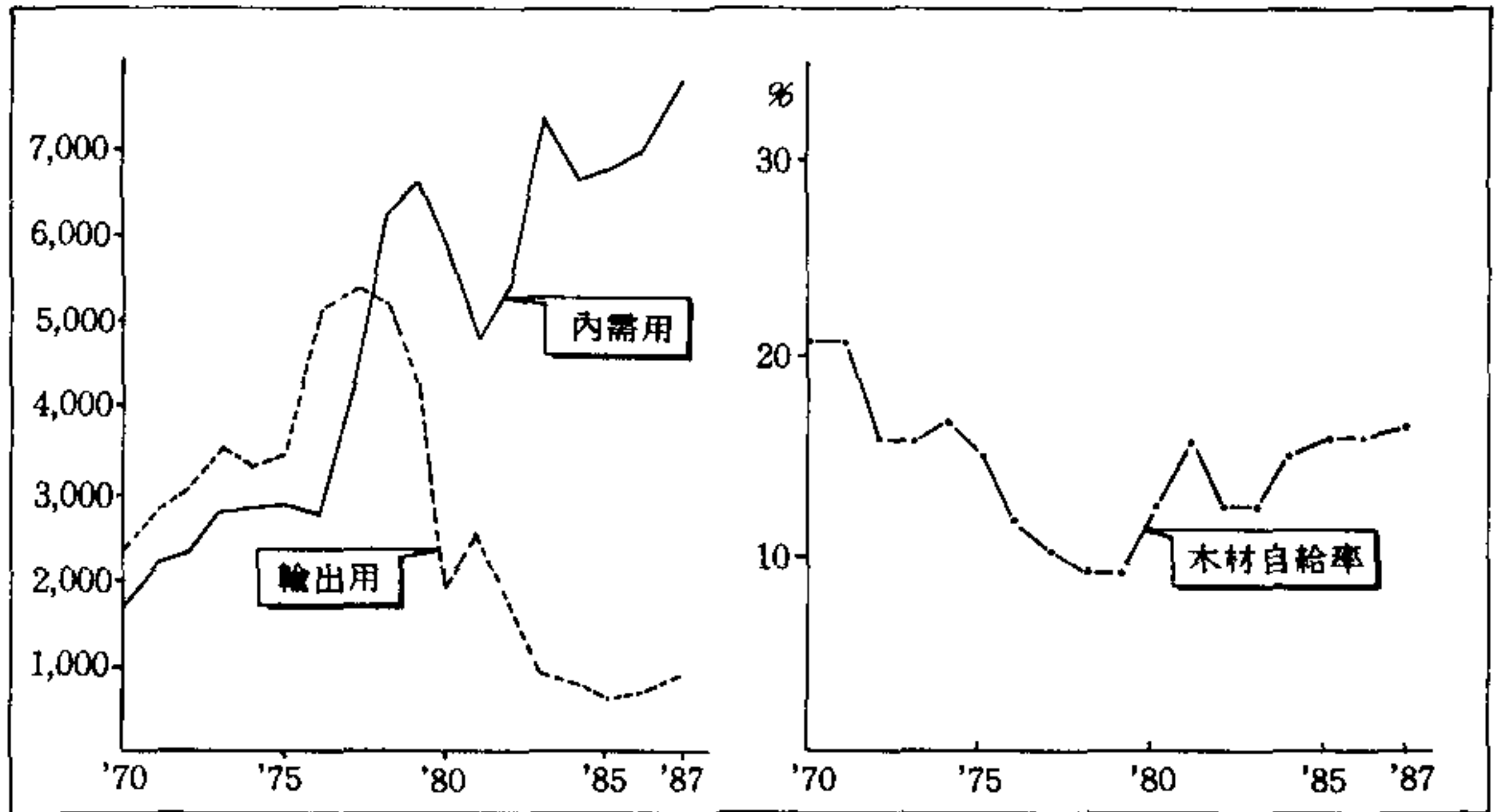
	計		長期樹		有實樹		速成樹		其他	
	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數
70	125	318	95	292	12	5	15	5	3	14
71	109	272	83	255	20	8	5	3	1	6
72	89	229	73	218	12	5	3	2	1	5
73	112	311	79	259	19	8	4	3	10	42
74	135	352	48	184	25	11	31	16	30	140
75	174	562	52	166	24	10	57	200	41	186
76	204	600	59	183	39	15	55	158	50	244
77	226	711	70	216	31	12	48	80	77	402
78	229	423	64	194	20	8	146	180	10	41
79	189	308	67	202	8	3	115	55	-	48
80	166	281	65	195	2	1	98	51	-	33
81	153	273	70	214	2	1	80	38	-	70
82	136	257	63	189	2	1	61	30	9	36
83	94	210	60	180	3	1	28	16	2	13
84	72	175	48	144	2	1	21	13	-	17
85	52	137	40	117	2	1	11	6	-	14
86	53	139	41	124	2	1	21	13	-	17
87	51	143	40	130	3	1	8	3	-	9

6. 林 道



	施 設 量			投 資 額			
	計	國 有 林	民 有 林	計	國 費	地 方 費	自 力
	km			千圓			
70	6.46	6.46	-	6,490	6,490	-	-
71	11.18	11.18	-	25,541	25,541	-	-
72	11.04	11.04	-	48,534	48,534	-	-
73	6.41	6.41	-	27,130	27,130	-	-
74	8.09	8.09	-	42,122	42,122	-	-
75	86.68	86.68	-	397,211	397,211	-	-
76	46.63	46.63	-	262,906	262,906	-	-
77	14.00	14.00	-	116,342	116,342	-	-
78	0.55	0.55	-	12,254	12,254	-	-
79	0.43	0.43	-	10,850	10,850	-	-
80	2.86	2.86	-	52,404	52,404	-	-
81	-	-	-	-	-	-	-
82	-	-	-	-	-	-	-
83	8.66	3.66	5.0	228,178	131,998	53,605	42,575
84	77.32	11.60	65.72	1,637,352	633,712	842,042	161,598
85	160.74	26.82	133.92	2,899,257	1,374,045	1,005,442	519,770
86	230	41	189	4,118,967	2,061,523	1,348,409	709,037
87	305	47	258	5,726,227	2,744,934	1,973,991	1,007,302

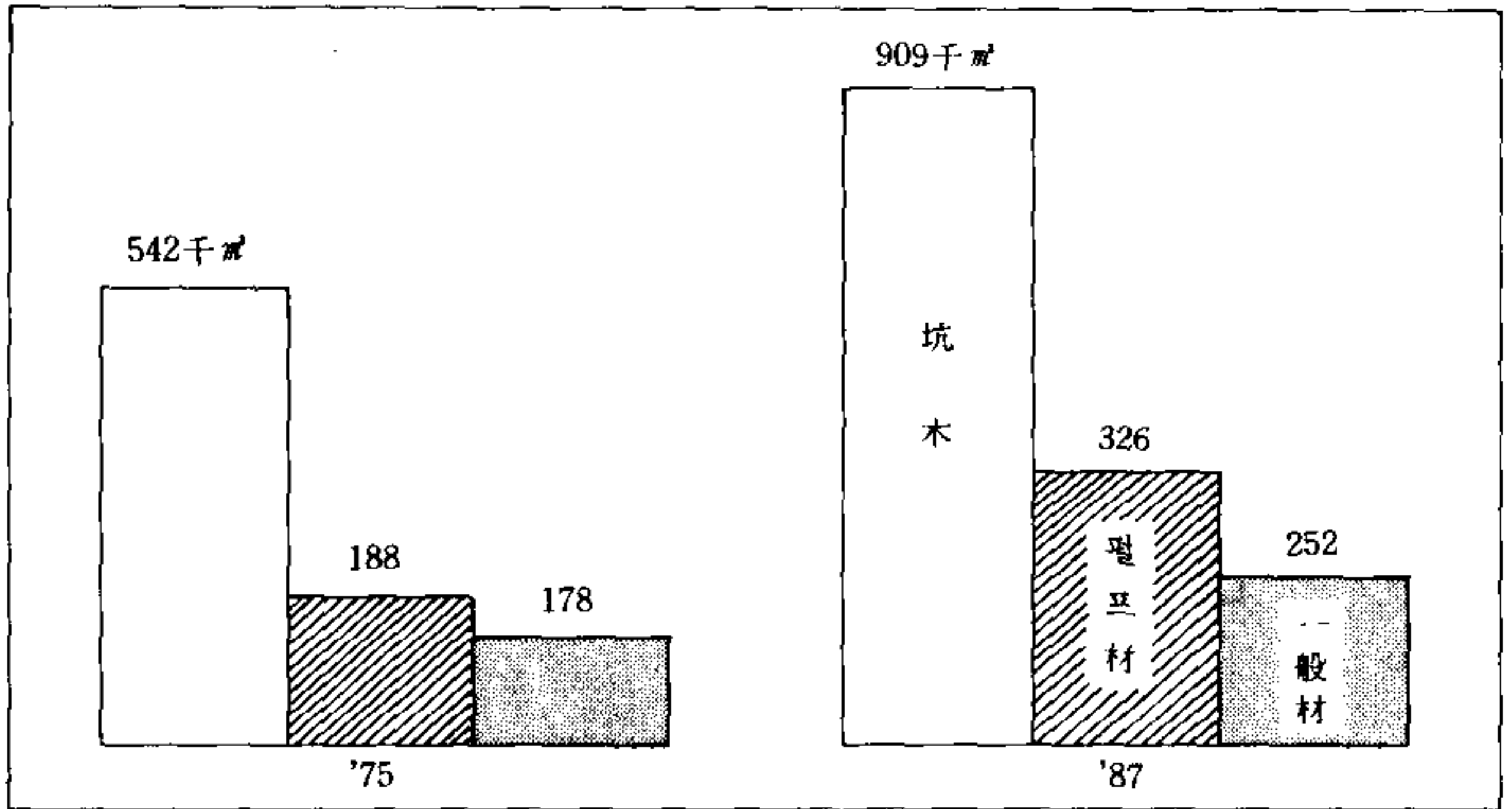
7. 木 材 需 給



(單位：千cc)

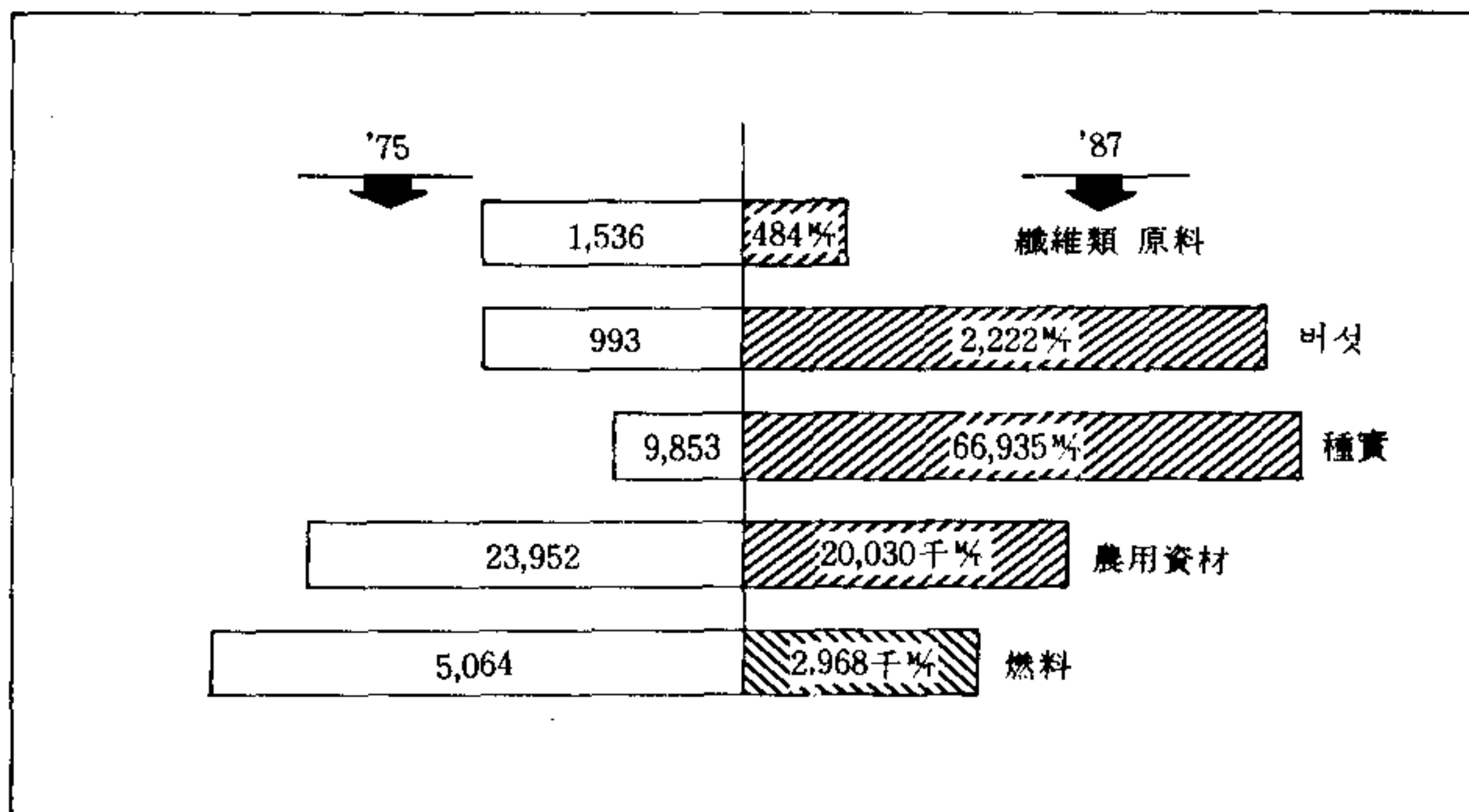
	需 要			供 給				自 給 率
	計	内 需 用	輸 出 用	原 木 供 給			廢 殘 材 利 用	
				計	内 材	外 材		
70	4,000	1,713	2,287	4,000	845	3,155	—	21 %
71	5,060	2,192	2,868	4,772	1,016	3,756	288	21
72	5,348	2,293	3,055	4,949	782	4,167	399	16
73	6,412	2,782	3,630	5,945	943	5,002	467	16
74	6,356	2,873	3,483	5,799	969	4,830	557	17
75	6,465	2,889	3,576	6,015	896	5,119	450	15
76	7,825	2,700	5,125	7,266	943	6,323	559	12
77	9,817	4,406	5,411	8,834	1,047	7,807	983	10
78	11,611	6,346	5,265	10,423	996	9,427	1,188	9
79	10,940	6,616	4,324	10,038	952	9,086	902	9
80	7,750	5,785	1,965	7,149	1,008	6,141	601	13
81	7,265	4,585	2,680	6,688	1,130	5,558	577	16
82	7,417	5,661	1,756	6,772	1,157	5,615	645	13
83	8,302	7,340	962	7,625	1,101	6,524	677	13
84	7,472	6,727	745	6,891	1,118	5,773	581	15
85	7,321	6,792	529	6,766	1,188	5,578	555	16
86	7,582	6,996	586	7,014	1,242	5,772	568	16
87	8,532	7,816	716	7,850	1,388	6,462	682	17

8. 用途別 内材供給



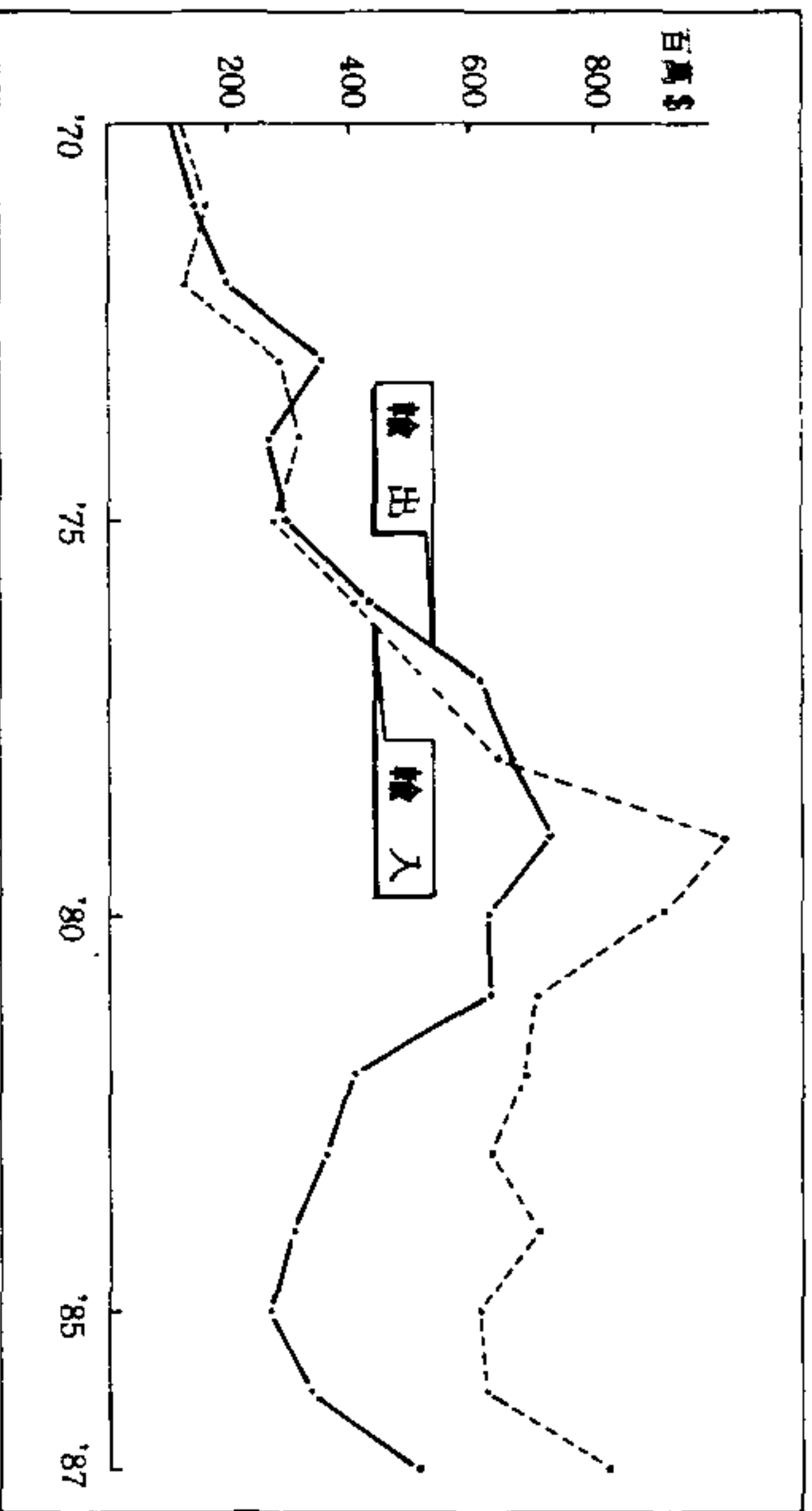
	合 計 千㎥	坑 木	합 판 재	一 般 材
70	845	450	206	189
71	1,034	470	265	299
72	795	395	216	184
73	959	418	204	337
74	1,00	456	239	305
75	908	542	188	178
76	959	498	254	207
77	1,047	534	241	272
78	1,013	617	313	83
79	958	626	206	126
80	1,013	515	393	105
81	1,201	628	287	286
82	1,252	639	339	274
83	1,143	633	317	193
84	1,160	683	290	187
85	1,236	719	293	224
86	1,287	772	323	192
87	1,487	909	326	252

9. 主要山林 副產物 生產



	燃 料		農 用 資 材		種 實		버 섯		纖 維 類 原 料	
	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額
	千%	百萬圓	千%		千%		千%		千%	
70	6,353	11,378	26,183	27,618	8,334	971	419	413	441	239
75	5,604	27,493	23,952	67,855	9,853	7,426	993	4,087	1,536	1,041
76	5,037	28,151	23,794	73,953	11,095	7,860	798	4,453	1,381	901
77	4,926	31,481	25,373	104,664	21,581	21,303	1,054	7,831	1,617	1,747
78	5,084	38,037	26,233	132,031	32,950	26,893	1,844	15,050	1,284	1,349
79	4,713	41,601	18,472	151,898	44,271	44,185	1,545	12,199	1,008	1,106
80	4,700	48,402	25,495	258,721	45,455	45,925	1,528	16,401	821	1,196
81	4,443	51,937	25,560	318,428	66,459	45,944	1,833	17,526	730	1,062
82	4,343	83,891	19,057	265,706	70,861	73,963	1,725	15,401	933	861
83	4,404	120,058	26,692	388,650	77,841	48,892	3,497	34,406	961	1,259
84	3,990	113,764	29,414	428,272	74,089	63,928	2,745	29,156	725	762
85	3,181	97,381	26,345	402,814	80,393	64,521	3,067	38,237	653	586
86	2,816	93,291	22,124	372,349	66,078	67,579	2,090	40,132	540	478
87	2,968	94,100	20,030	336,997	66,935	105,192	2,222	50,047	484	511

10. 林產物 輸出入



	輸 出		輸 入	
	計	合 版	計	木 材
70	110,130 千 \$	102,396	126,725 千 \$	125,451
71	150,581	138,724	162,139	160,995
72	197,027	175,236	132,629	131,223
73	352,041	286,439	285,410	283,590
74	270,272	188,888	315,572	312,572
75	293,666	228,754	271,253	269,190
76	459,914	347,589	417,997	415,298
77	549,218	389,000	540,039	533,375
78	656,864	411,954	670,750	660,795
79	737,588	447,928	1,047,386	1,036,526
80	629,036	352,199	912,086	899,155
81	630,972	391,645	706,205	686,169
82	400,701	210,126	697,545	673,541
83	353,413	109,857	629,263	666,266
84	300,428	66,579	705,211	667,229
85	263,564	39,807	615,708	580,459
86	332,813	57,103	624,252	596,570
87	460,934	56,017	843,755	809,800

正 誤 表

페이지	행	誤	正
33	圖表	農家販買價格指數	農家販賣價格指數
137	上 3	資 特	財 特
169	下 1	農畜產流通局	農產物流通局
202	下 10	87年	78年

1988年度 農業動向에 關한 年次報告書

1988年 9月 日 印刷

1988年 9月 日 發行

編纂：企劃管理室長

發行：農林水產部

印刷：京準文化印刷株式會社

737-2101~6

〈非賣品〉